

立 野 遺 跡

— 近畿自動車道紀勢線事業に伴う発掘調査報告書 —

2013 年 3 月

公益財団法人 和歌山県文化財センター

序

近畿自動車道紀勢線の建設に伴い、本州最南端に近い西牟婁郡すさみ町立野遺跡で、今から約 2300 年前の弥生時代前期の流路が見つかりました。流路には多くの木材が折り重なり、それらの間からは、木製品・石器・土器が多量に出土しました。

木製品は、容器や農具・工具など多種多様で、製品や製作過程のものがあり、流路の傍で木製品を製作してことが明らかになりました。石器には木製品を加工する磨製石斧や削器などもあり、これらの製作を行っていたことも分かっています。土器は県下最古段階の弥生土器と縄文土器の系譜にある突帯文土器であることから、農耕社会成立期の木工を考える上で貴重な遺跡であると言えます。それとともに、木製品のなかには弥生時代前期に限れば全国的にも珍しいものや、県下で唯一のものが多くあり、また、木製品は生活のあらゆる分野で使われていたので、当時の生活を復元する一級資料であると言って過言ではないでしょう。

ここに、発掘調査の成果をまとめ、報告書を刊行いたします。本書が郷土の歴史を知る上で一資料となれば幸いかと存じます。

最後となりましたが、調査及び報告書作成にあたりご指導・ご協力をいただきました関係各位の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、今後とも当文化財センターへの一層のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成 25 年 3 月 25 日

公益財団法人 和歌山県文化財センター

理事長 森 郁 夫

例 言

1. 本書は、和歌山県西牟婁郡すさみ町周参見に所在する立野遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、近畿自動車道紀勢線事業に伴うもので、平成 22 年度に発掘調査を実施し、平成 24 年度に報告書作成に伴う遺物整理業務を実施した。
3. 発掘調査及び遺物整理業務は、国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所の委託を受け、和歌山県教育委員会の指導のもとに、公益財団法人和歌山県文化財センターが実施した。
4. 発掘調査・整理業務の調査組織は下記の通りである。





事務局長	田中洋次（平成 22 年度） 渋谷高秀（平成 24 年度・管理課長兼務）
事務局次長	山本高照（平成 22 年度・管理課長兼務）
埋蔵文化財課長	村田 弘（平成 22・24 年度）
発掘調査業務担当	川崎雅史、寺西朗平
遺物整理業務担当	川崎雅史、丹野拓

5. 本書の執筆は第Ⅰ章から第Ⅴ章のうち第Ⅳ章 - 第 3 節 - 1. 木製品と第Ⅴ章 - 3. 木製品を丹野が、それ以外は川崎がおこなった。また、付章は能城修一、佐々木 由香、村上由美子、小林和貴が執筆し、それらを川崎が編集した。
6. 遺構写真は調査担当者が、遺物写真は川崎・丹野が撮影した。
7. 木製品の保存処理については（株）吉田生物研究所に委託した。また、樹種同定については能城修一（森林総合研究所）・佐々木由香（早稲田大学文学学術院）、木取り観察については村上由美子（京都大学総合博物館）の協力を得た。
8. 発掘調査及び遺物整理業務に際し、下記の方々や団体からからご協力を得た。記して感謝を表します。

上原真人、上峯篤史、扇崎 由、川崎志乃、河内一浩、工楽善通、此松昌彦、設楽博己、庄田慎矢、管栄太郎、田崎博之、立岡和人、出原恵三、寺前直人、中沢道彦、長友朋子、仲原知之、中村貞史、中村 豊、樋上 昇、久田正弘、福田さよ子、前田敬彦、豆谷和之、三好好一、森岡秀人、山田昌久、若林邦彦、出土木器研究会、関西縄文文化研究会

9. 発掘調査及び遺物整理業務で作成した実測図・写真・台帳などの記録資料は、公益財団法人和歌山県文化財センターが、出土遺物は和歌山県教育委員会が保管している。

凡 例

1. 調査ならびに本書で使用した座標値は、直角平面座標系（世界測地系）第Ⅵ系のもので、値m単位で使用している。図面に使用している北方位は座標北で、標高は東京湾標準潮位(T.P.+)の数値である。
2. 土色は、農林水産省農林水産技術会事務局監修「新版標準土色帖」に準じ、土質は調査担当者の任意の判断でおこなっている。
3. 調査区名・遺構番号は、基本的に発掘調査時のものを踏襲する。遺構番号は調査区ごとに1からの通し番号である。
4. 遺物図面の縮尺は原則として1/4であるが、金属製品については1/2であるが、大きい資料に関しては、1/6、1/8の縮尺で掲載している。また、遺物写真については任意の大きさである。
5. 木製品の実測図に貼付したスクリーントーンは、①樹皮、②腐食部分、③炭化部分、④漆などの塗布をあらわす。
①  ②  ③  ④ 
6. 調査で使用了調査コードは、10 - 41・02（2010年度-すさみ町・遺跡番号）で、記録資料はこのコードを用いて管理している。

本文目次

巻頭写真

序・例言・凡例

第Ⅰ章 環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第Ⅱ章 調査の経過と経緯	4
第1節 発掘調査	4
第2節 出土遺物整理業務	5
1. 応急整理	5
2. 出土遺物等整理業務	5
3. 出土遺物保存処理	6
4. 木製品樹種同定	6
第3節 普及活動	6
1. 現地説明会	6
2. 現地見学	7
3. 遺物展示	7
4. 成果報告会	7
5. シンポジウム	7

第Ⅲ章 調査の方法	8
第1節 記録作業	8
1. 基準点・水準点測量	8
2. 実測・写真撮影	8
3. 航空写真	8
第2節 地区割り	9
第Ⅳ章 調査の成果	10
第1節 基本層序	10
第2節 遺構	10
1. 調査区1	10
2. 調査区2	12
3. 調査区3	12
4. 調査区4・5	16
第3節 遺物	22
1. 土器	22
2. 石器	39
3. 金属製品	51
4. 木製品	52
第Ⅴ章 まとめ	84
1. 土器	84
2. 石器	88
3. 木製品	89
4. 集落	90
5. 最後に	90
土器一覧表	92
石器一覧表	102
木製品一覧表	108
木製品片・木片の樹種一覧表	111
自然木サンプル一覧表	113
付 章 立野遺跡出土木材の樹種同定	114
1. はじめに	114
2. 試料と方法	114
3. 結果	114
4. 考察	118
報告書抄録	126

挿図目次

図1	周辺の遺跡	1	図37	出土遺物・金属製品	51
図2	調査区	4	図38	遺構302木製品出土位置	53・54
図3	地区割り	9	図39	遺構302出土木製品1(斧柄・楔状木製品) …	55
図4	基本層序	11	図40	遺構302出土木製品2(平鍬1)	56
図5	遺構全体図	13・14	図41	遺構302出土木製品3(平鍬2)	58
図6	調査区1・2の遺構	15	図42	遺構302出土木製品4(平鍬3)	59
図7	遺構302木材出土状況	17・18	図43	遺構302出土木製品5(平鍬4)	60
図8	遺構302・313断面土層図	19	図44	遺構302出土木製品6(広鍬)	61
図9	調査区4・5の遺構	20	図45	遺構302出土木製品7(泥除)	62
図10	調査区5の遺構	21	図46	遺構302出土木製品8(刈払具ほか)	63
図11	出土遺物・土器1(調査区1・2)	22	図47	遺構302出土木製品9(杵)	64
図12	遺構302、3層地区別土器分布図	23	図48	遺構302出土木製品10(布送具)	64
図13	出土遺物・土器2(調査区3-1・3-3) …	24	図49	遺構302出土木製品11(弓)	65
図14	出土遺物・土器3(調査区3-1・3-3) …	25	図50	遺構302出土木製品12(堅杓子)	66
図15	出土遺物・土器4(調査区3-1・3-3) …	26	図51	遺構302出土木製品13(横杓子・匙) …	66
図16	瀬戸遺跡出土土器	27	図52	遺構302出土木製品14(舟形容器1)	67
図17	突帯文土器の分類	27	図53	遺構302出土木製品15(舟形容器2)	68
図18	出土遺物・土器5(調査区3-1・3-3) …	28	図54	遺構302出土木製品16(鉢形容器)	69
図19	出土遺物・土器6(調査区3-1・3-3) …	29	図55	遺構302出土木製品17(浅鉢形容器)	70
図20	出土遺物・土器7(調査区3-1・3-3) …	30	図56	遺構302出土木製品18(皿形容器1)	72
図21	出土遺物・土器8(調査区3-1・3-3) …	31	図57	遺構302出土木製品19(皿形容器2)	73
図22	出土遺物・土器9(調査区3-1・3-3) …	33	図58	遺構302出土木製品20(建築部材1)	74
図23	出土遺物・土器10(調査区3-1・3-3) …	34	図59	遺構302出土木製品21(建築部材2)	75
図24	出土遺物・土器11(調査区3-1・3-3) …	35	図60	遺構302出土木製品22(建築部材3)	76
図25	出土遺物・土器12(調査区3-1・3-3) …	37	図61	遺構302出土木製品23(その他製品)	77
図26	出土遺物・土器13(調査区3-2・4・5) …	38	図62	遺構302出土木製品24(丸太材・割材・半裁材) …	78
図27	出土遺物・石器1(調査区1・2・3-2) …	40	図63	遺構302出土木製品25(板材)	79
図28	出土遺物・石器2(調査区3-1・3-3) …	41	図64	遺構302出土木製品26(その他部材)	80
図29	出土遺物・石器3(調査区3-1・3-3) …	43	図65	遺構302出土木製品27(第2層出土遺物) …	80
図30	出土遺物・石器4(調査区3-1・3-3) …	44	図66	遺構313出土木製品1	81
図31	出土遺物・石器5(調査区3-1・3-3) …	45	図67	遺構313出土木製品2	82
図32	出土遺物・石器6(調査区3-1・3-3) …	46	図68	調査区5-1第4層出土木製品	83
図33	出土遺物・石器7(調査区3-1・3-3) …	47	図69	堅田遺跡の土器編年	84
図34	出土遺物・石器8(調査区3-1・3-3) …	48	図70	堅田1期の土坑資料	85
図35	出土遺物・石器9(調査区3-1・3-3) …	49	図71	片山遺跡突帯文土器	86
図36	出土遺物・石器10(調査区3-1・3-3) …	50	図72	弥生文化の伝播と交流	87

図版目次

- 巻頭図版1 1. 遺構302 木材出土状況(北から)
2. 遺構302 木材出土状況(北から)
- 巻頭図版2 1. 遺構302 弓(660)出土状況
2. 遺構302 匙(671)・容器(709・711)出土状況
- 図版1 1. 遺跡遠景(南西上空から)
2. 遺跡近景(北上空から)
3. 遺跡近景(北西上空から)
- 図版2 1. 調査区1(上空から)
2. 調査区1(南から)
3. 調査区1(北から)
- 図版3 1. 調査区2(上空から)
2. 調査区2(北から)
3. 調査区2 遺構216~219(西から)
- 図版4 1. 調査区2、調査区3-1・2(上空から)
2. 調査区3-1(上空から)
3. 調査区3-2(上空から)
- 図版5 1. 調査区3-1・2(南から)
2. 調査区3-1・2(北から)
3. 調査区3-3(上空から)
- 図版6 1. 調査区3-3遺構302木材出土状況(北から)
2. 調査区3-1・3流路302断面(北から)
- 図版7 1. 調査区4上面遺構(北東上空から)
2. 調査区4-1上面遺構(上空から)
3. 調査区4-2上面遺構(上空から)
- 図版8 1. 調査区4-3(上空から)
2. 調査区4上面遺構(西から)
3. 調査区4上面遺構(東から)
- 図版9 1. 調査区4-1下面遺構(南から)
2. 調査区4-1下面遺構(東から)
3. 調査区4-2下面遺構(東から)
- 図版10 1. 調査区5(上空から)
2. 調査区5(西から)
3. 調査区5(東から)
- 図版11 1. 調査区1 遺構102・103・105~107(北から)
2. 調査区1 遺構102・106断面(南から)
3. 調査区2 遺構201断面(南から)
4. 調査区2 南壁断面(北から)
5. 調査区3-3 遺構313(北から)
6. 調査区3-3 遺構314(北から)
7. 調査区4-1 遺構410・411(西から)
8. 調査区5-1 遺構410・510(北から)
- 図版12 1. 調査区4-2 遺構412・413(南から)
2. 調査区5-2 遺構412・512(南から)
3. 調査区4-2 遺構405~407(南から)
4. 調査区4-2 遺構407断面(西から)
5. 遺構302木材出土状況(東から)
6. 遺構302木材出土状況(南から)
7. 遺構302土器(35)出土状況
8. 硫黄302土器(72・94)出土状況
- 図版13 1. 遺構302土器(215)出土状況
2. 遺構302石棒(579)出土状況
3. 遺構302斧柄(604)・板材出土状況
4. 遺構302斧柄(605)出土状況
5. 遺構302斧柄(606)・容器未成品(710)出土状況
6. 遺構302斧柄(607)・泥除(649)出土状況
7. 遺構302楔状木製品(609)・平鋏(613)出土状況
8. 遺構302平鋏(611)出土状況
- 図版14 1. 遺構302平鋏(615)出土状況
2. 遺構302平鋏(614)出土状況
3. 遺構302平鋏(616・617)出土状況
4. 遺構302平鋏(623)・サルノコシカケ出土状況
5. 遺構302平鋏(632)出土状況
6. 遺構302平鋏(625)・容器(713)出土状況
7. 遺構302広鋏(641)出土状況
8. 遺構302広鋏(646)出土状況
- 図版15 1. 遺構302泥除(650)出土状況
2. 遺構302刈払具(653)出土状況
3. 遺構302弓(661)出土状況
4. 遺構302弓(666)出土状況
5. 遺構302堅杓子(668)出土状況
6. 遺構302舟形容器(679)出土状況
7. 遺構302舟形容器(687)出土状況
8. 遺構302舟形容器(689)出土状況
- 図版16 1. 遺構302舟形容器(699)出土状況
2. 遺構302容器(707)出土状況
3. 遺構302容器(705)・広鋏原材(645)出土状況
4. 遺構302梯子(721)出土状況
5. 遺構302琴状木製品(750)出土状況
6. 遺構313匙(781)出土状況
7. 遺構313容器(784)出土状況
8. 遺構313容器(786)出土状況
- 図版17~23 出土遺物・土器
- 図版24~27 出土遺物・石器
- 図版28 出土遺物・石器・金属製品
- 図版29~40 出土遺物・木製品

表 目 次

表1	遺構 302 土器出土点数	23	表4	堅田遺跡の土器組成	85
表2	石器の石材	39	表5	石器組成の比較	88
表3	石器組成表	39			

写真目次

写真1	枯木灘	1	写真10	成果報告会	7
写真2	稲積島	2	写真11	足場による写真撮影	8
写真3	上ミ山古墳	2	写真12	ラジコンヘリによる航空写真撮影 ・測量	8
写真4	中山城跡本丸	2	写真13	遺跡出土の石器原石	39
写真5	神田城跡遠景	3	写真14	頁岩の自然礫	40
写真6	発掘調査風景	5	写真15	刃部が片減りする石斧（391）と 現在の縦斧	42
写真7	応急整理（遺物洗浄）	5	写真16	粃殻痕のある土器（35）	90
写真8	出土遺物等整理業務 （レイアウト作業）	6			
写真9	現地説明会	6			

付章 図・表目次

図1～図5	立野遺跡出土木材の顕微鏡写真	120～124
表1	立野遺跡から出土した木製品類と自然木の樹種	125

第Ⅰ章 環 境

第1節 地理的環境

すさみ町は和歌山県南部の西牟婁郡に属し、西と北は白浜町に、東は東牟婁郡串本町・古座川町に接し、南は太平洋に面している。町の範囲は東西 19.25km、南北 15.5kmで、面積は 174.71km²を有する。海岸線は岩礁と入江が続き、その景勝は熊野枯木灘海岸県立自然公園に指定されている。冬場には荒波が押し寄せ、すさみの地名の由来も、荒（すさ）ぶ海が転じたものであるとする説がある。町域の北部には善司ノ森山、重善岳などの山並みが連なり、獅子目峠を分水嶺として、周参見川が山間部を縫うように南西流し、佐本川が東流して古座川町で古座川に合流する。気候は温暖で、海岸部には国指定天然記念物である「稲積島暖地性植物群落」と「江須崎暖地性植物群落」があり、亜熱帯植物も生育している。



写真1 枯木灘

交通は J R 紀勢線が海岸部を走り、周参見・見老津・江住の各駅があり、線路と沿うように国

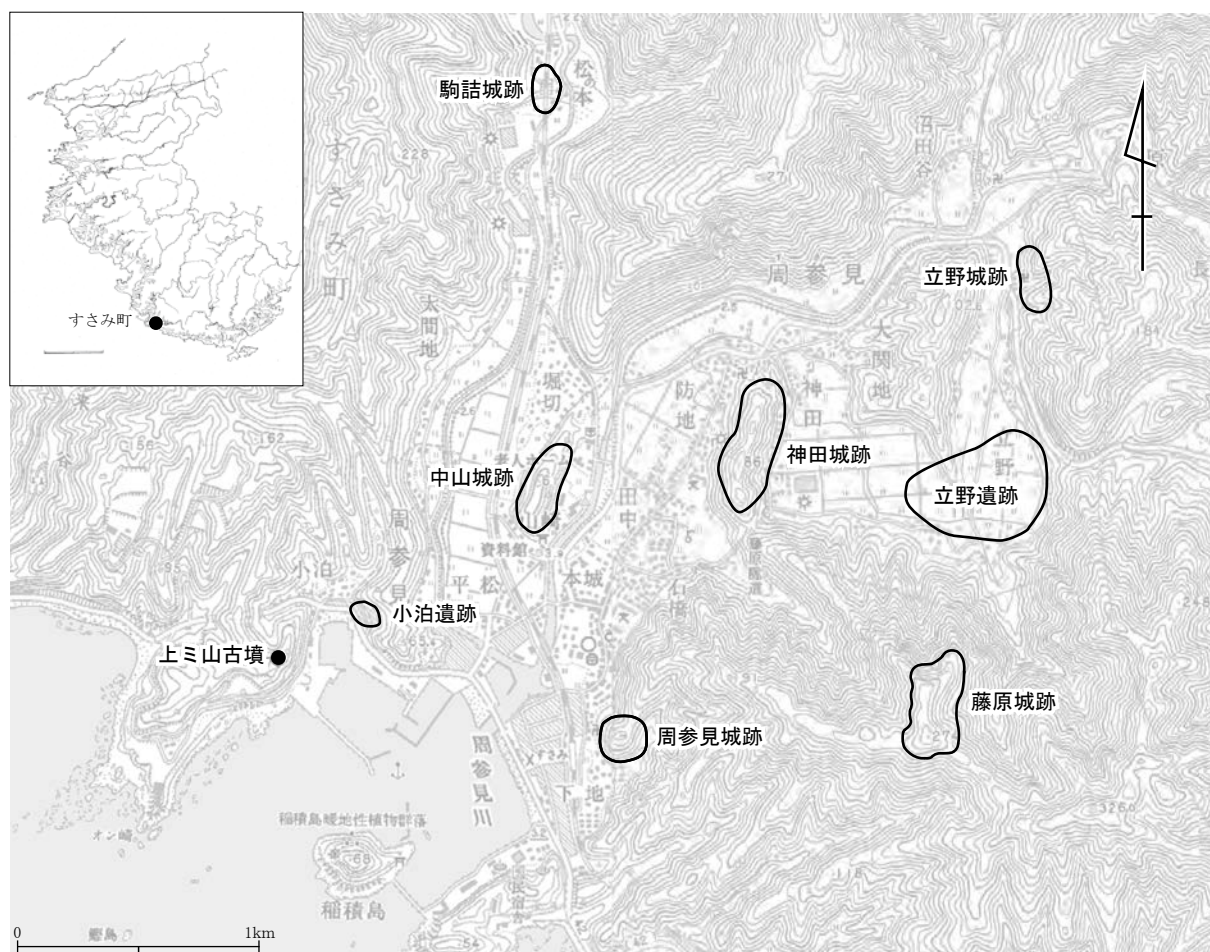


図1 周辺の遺跡

道 42 号が伸びる。また、主要地方道として
県道 38 号すさみ古座線が周参見川・佐本川
に沿うように走る。

平地が少なく町域の 90%以上が山林で占
められ、杉・桧などの林業が伝統的に行われ
てきたが、昭和 40 年代まであった多くの製
材所も国内木材の価格が低迷するなか、閉鎖
されたものも多く林業は停滞している。沿岸
部では漁業・観光業が基幹産業となっており、
独特の漁法と鮮度の良さを売りにした「ケン
ケン鰯」や町内にある試験場で誕生したイノ



写真 2 稲積島

シシとブタの交配種「イノブタ」などにより町おこしが行われている。人口は平成 25 年 1 月末
現在 4,705 人で、年々減少し過疎化が深刻な問題となっている。

立野遺跡が所在する周参見は、すさみ町の中核部で周参見湾に注ぐ周参見川と太間川の下流域
に位置する。湾の入口に浮かぶ稲積島（写真 2）は防波堤の役目を果たし、天然の良港をつくっ
ている。遺跡は、海岸から約 2.5 k m遡った低地部に展開する。ここは、古い時期の周参見川が
穿入蛇行した後形成された平野にあたる。周辺には比較的まとまった平野部が広がり水田と
なっており、比較的標高が高い山際が宅地として利用されている。なお、水田は昭和 30 年代に
圃場整備が行われており、整然と配置されている。

第 2 節 歴史的環境（図 1）

すさみ町の原始・古代の遺跡数は少ない。縄文・弥生時代では縄文土器片が周参見駅の東側で
発見され、里野遺跡で石斧が出土しているが遺跡の詳細は不明である。このほか、立野遺跡で叩
石が、周参見湾の奥まったところに位置する小泊遺跡で弥生土器が見つかっており、両遺跡は古
墳時代以降も続いている。

古墳時代の遺跡としては、上ミ山古墳（写真 3）、立野遺跡、小泊遺跡がある。上ミ山古墳は
昭和 45 年に周参見湾を臨む丘頂（標高 81 m）で宅地造成中に発見された直径約 40 m、高さ 4



写真 3 上ミ山古墳石室



写真 4 中山城跡本丸

mの円墳で、紀南地方では数少ない古墳の一つである。内部主体は横穴式石室2基と箱式石棺1基が存在したが、造成の折に墳頂部に築かれた横穴式石室以外は削平され、詳細は不明である。残存した横穴式石室は南に開口する片袖式で、羨道部は破壊されていたものの、玄室は未盗掘の状況であった。規模は長さ2.3m、幅2.1mで、扁平な割石を小口積みして構築している。床面は板石により石障を設け、3つに区画されていた。遺物は須恵器や武器・工具・玉



写真5 神田城跡遠景

類が出土しており、遺物から6世紀後半に築造されたと考えられる。また、石室の形態が九州系に属するもので、玉類には埋木製や琥珀製のものがあるなど、石室・遺物ともに当地方にあっては特異である。

立野遺跡からは須恵器壺などが発見されており、小泊遺跡からは、須恵器や製塩土器など出土し、入り江で塩づくりをおこなっていたと考えられる。

古代の遺跡は明らかになっていないが、律令制下では牟婁郡に属し、「和名抄」にある牟婁郡5郷のうち、「三前郷（みさきのごう）」に属していたと考えられる。

鎌倉時代前期には、荘園として「周参見荘」の名が文書に表れ、鎌倉時代後期には那智山領であったことが窺える。戦国時代には周参見氏が日置川下流域を掌握する安宅氏とともに熊野水軍の一翼を担った。周参見氏は周参見川下流域に本拠をおき、神田城（写真5）・周参見城・中山城（写真4）・藤原城などの山城を築いている。これらの城は保存状態が良く、土塁や堀切などが構築され、防御性の高いものである。狭い地域内に多くの城が存在する状況は、同じ水軍領主である安宅の城塞群と似通っている。

周参見港は入口を塞ぐように浮かぶ稲積島によって荒波が遮られ、古くから海上交通の風待港・避難港として重要視されていた。また、世界文化遺産にも指定されている大辺路仏坂を下った古道は周参見の町中を通り海岸線を南下しており、周参見と古座を結ぶ「古座街道」も交差していることから、周参見は海路・陸路の要衝の地となっていた。このため、近世には紀州徳川家の口熊野代官所がおかれ、東は太田川（那智勝浦町）から西は瀬戸鉛山（白浜町）に至る157カ村、石高19,373石の地域を管轄する地方政治の中心として栄えた。

参考文献

『和歌山県史 考古資料』 和歌山県 1983年

『角川地名大辞典 30 和歌山県』 角川書店 1985年

第Ⅱ章 調査の経緯と経過

第1節 発掘調査（図2）

近畿自動車道紀勢線事業に伴う田辺－すさみ間の建設工事により立野遺跡が開発されることになった。遺跡は昭和51年に水田の深掘り中、須恵器・叩石などが発見されて弥生時代から古墳時代の散布地として周知されていたが、発掘調査されたこともなく遺跡の内容は明らかになっていなかった。

自動車道は盛土工法で、立野遺跡が展開する水田部を北西－南東方向に横切るもので、開発予定地範囲を対象に県文化遺産課が平成21年度にトレンチによる試掘確認調査を実施した。調査は各トレンチの距離が30m程度となるように19本配置しておこなった。その結果、開発予定地の北西部は比較的安定した面が存在し、ピットなどの遺構が検出され、遺跡の縁辺部に該当すると判断された。また、西の山際には、旧河道が存在することも推察された。これらの成果をもとに、県文化遺産課と国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所との間で協議がなされ、遺構が確認できた開発予定地北西部と隣接する町道部分の8,810㎡（発掘予定面積7,931㎡）について本調査をする運びとなった。

調査区は道路や水路で画されることや、排土置場を確保するため5つの調査区に分かれ、調査区3、4、5は更に小地区に分割される。

調査は、調査区1、調査区3－1・2から開始し、まず、町道建設の為早期に明け渡しが必要



図2 調査区

な調査区1を終了し、第1回目の航空写真撮影をおこなった。引き続き、調査区2の調査を始めるとともに、調査区3-1・2の調査を同時並行し、両地区の調査終了後に第2回目の航空写真撮影とともに航空測量をおこなった。調査区3-1では、豊富な土器・木製品・石器を含む弥生時代の流路が検出され、それが調査対象地外に続いていることが予想できたことから調査範囲を拡張し調査区3-3として追加調査されることになった。その後、調査区4の調査を実施し、第3回目の航空写真撮影とともに航空測量をおこなった。終了後に反転して調査区5と、追加した調査区3-3の調査をおこない第4回航空写真撮影とともに航空測量をおこなった。



写真6 発掘調査風景

調査期間は平成22年6月から平成23年3月で、このうち現地調査は8月から3月にかけて実施している。最終的な発掘面積は8,526㎡である。

第2節 出土遺物整理作業

1. 応急整理（写真7）

調査方法の判断資料として遺物および遺構の時期決定をおこない、調査を円滑に進めることや現地公開・説明会において公開する目的をもって、発掘調査と並行して、調査現場の監督員詰所にて遺物洗浄等の応急整理を実施した。また、このほかに調査報告書作成までの収納・管理を目的として、内容確認を伴わない登録作業および遺物注記作業の一部を実施している。



写真7 応急整理（遺物洗浄）

洗浄作業は、土器類・石器類・木器類以外に樹種同定を目的に取り上げた木材サンプルについてもおこなった。

登録作業は、土器類・石器類・木器類に分け、土器類・石器類は各調査区で1番から通し番号を与え、土器類には取り上げた袋毎に1-001（調査区1-001）、石器類には、個別に石（stone）のSを冠して2S-002（調査区2・石-002）などのように登録番号を与えた。木器類は、調査区に係らず登録した順番に木（wood）のWを冠して、W-001（木-001）のように番号を与えている。なお、木製品の登録作業は応急整理では完結していない。

注記作業は、土器類を対象に、ほぼ全点を対象に調査コード・10-40・02と登録作業で与えた1-001などの数字を記入した。

2. 出土遺物等整理業務（写真8）

報告書作成に伴う出土遺物整理業務は、土器類コンテナ60箱、石器類コンテナ44箱（約2500点）、木器・木製品約400点、金属製品3点ほか木材サンプルを対象におこなった。

遺物の登録・注記・接合・補強・復元・実測等の一連の作業をおこなうとともに、木製品・木材サンプルについては再洗浄も実施した。また、遺構実測図の調整をおこない、遺物実測図とともにトレース作業を実施し、これらをレイアウトして図面原稿を作成した。

現場で撮影した遺構写真については、収納・登録等の作業をおこなった。また、報告書掲載の遺物写真を撮影し、主要な遺構写真とともにレイアウトをおこない写真図版を作成した。



写真8 出土遺物等整理業務（レイアウト作業）

また、遺物観察表を作成するとともに、一連の作業を踏まえ原稿執筆をおこなった。

業務は平成24年6月から実施し、平成25年3月に本書を刊行するに至った。

3. 出土遺物保存処理

木製品・金属製品は、ほぼ原形を保って出土しても、そのまま乾燥させると形が崩れ、場合によっては粉末状になる。木製品は水漬することで、一時的な保存は可能であるが、水替えなどが必要で長期保存には適さず、展示するのも困難である。このことから、出土した木製品と金属製品のうち重要度が高く、また処理の緊急性を要する184点と、鉄斧1点について保存処理をおこなった。保存処理は、(株)吉田生物研究所に委託して高級アルコール含浸法により実施した。なお、保存処理をおこなわなかった木製品については、バキュームシーラーによって真空パックをおこなっている。

4. 木製品樹種同定

樹種同定は、木材から採取した組織サンプルを生物顕微鏡で観察し、木の種類を特定する方法である。立野遺跡の遺構302第3層から出土した多量の木製品や未成品、自然木は、時期も弥生時代前期中段階とほぼ限定できることから資料価値が高く、当時の遺跡周辺の植生や木製品の樹種選択を明らかにすることができる。また、結果からは、木製品の材料が遺跡の近くで生育した木であるのか、遺跡から離れた場所から運んできたものかを判断することも可能である。このことから、樹種同定の分野では、国内で第一人者である森林総合研究所の能城先生に依頼して、木製品445点と木材サンプル239点の樹種同定を実施している。詳細は付章を参照されたい。

第3節 普及活動

1. 現地説明会（写真9）

普及活動の一環として、発掘調査で得られた数々の成果を地元をはじめ多くの方々に広く知ってもらうため、現地説明会を平成23年2月5日に開催した。当日は調査区3-3の遺構302で見つかった多くの木材を現地で見学してもらうと



写真9 現地説明会

もに、遺物の展示コーナーを設け、今から約 2300 年前の土器・石器・木製品を公開した。町内放送や新聞等で広報したこともあり、参加者は地元区民のほか、近隣市町村、遠くは奈良県や大阪府から約 160 名の見学者が訪れた。

2. 現地見学

すさみ町ではもちろんの事、紀南地方でも数少ない発掘調査で、多くの成果もあったことから、調査の期間中、学校あるいは教育関係機関からの現地見学が多くあった。小学生の現地見学では、実際に出土した土器や石器を手にしてもらったが、祖先が残した遺物に初めて触れて感激していた。

平成 22 年

10 月 4 日 すさみ町文化財審議委員会、公民館長、教育長、教育指導主事 計 13 名

10 月 28 日 平成 22 年度初任者研修 西牟婁郡中学校新任教諭ほか 計 10 名

11 月 5 日 周参見小学校 6 年生 引率教諭 計 39 名

平成 23 年

2 月 17 日 西牟婁郡指導主事会 計 4 名

2 月 21 日 見老津小学校 5・6 年生 引率教諭 計 12 名

2 月 22 日 周参見小学校 5 年生 江住小学校 5・6 年 引率教諭 計 44 名

3. 遺物展示

平成 22 年 11 月 20・21 日の両日に開催された地元立野区恒例の「コスモス祭り」において遺物展示の依頼があり、土器・石器を展示ケース 3 個に分けて遺跡説明のパネルとともに祭り会場に展示した。

4. 成果報告会（写真 10）

平成 24 年 2 月 25 日に田辺市民総合センターに於いて、成果報告会「近畿自動車道南伸に伴う発掘調査の成果」を実施した。上富田町塗屋城跡・田辺市八丁田圃・目座遺跡、稲成Ⅱ遺跡の調査成果とともに、立野遺跡の調査成果を発表した。近隣市町村から 50 名の参加があった。



写真 10 成果報告会

5. シンポジウム

平成 25 年 2 月 23 日に和歌山市岩橋にある紀の国文化センターに於いて、「農耕社会成立期の木工－立野遺跡を考える－」のタイトルで立野遺跡の木製品について考えるシンポジウムを開催した。木製品の研究者である京都大学の上原真人教授に基調講演をお願いし、その後「土器」「木製品」「石器」の分野別で発表をおこない、討論会では発表者で立野遺跡や木製品の位置づけについて討議した。約 20 数名の参加があった会場からも意見・質問があり、遺跡の重要性が再認識された会であった。

第Ⅲ章 調査方法

第1節 記録作業

1. 基準点・水準点測量

基準点は世界測地系を座標値とする3級基準点と4級基準点を設置した。3級基準点は国土地理院設置の電子基準点「すさみ1」「すさみ2」を既知点として、GPS観測において公共測量作業に準じて実施している。3級基準点は調査区の周囲3箇所に、4級基準点は新設した3級基準点を既知点として、調査区に隣接する箇所に5箇所設置した。

3級水準点の標高の基準は、直近の一等水準点「9201」の最新の成果（TP.表示）を既知点として今回新設した3級基準点までの路線において観測をおこなった。4級水準点の標高の基準は、既設3級基準点の成果（TP.表示）を既知点として、新設した4級基準点までの路線において観測をおこなった。

以上の測量作業は、専門業者（株式会社ウエスコ）に委託しておこなった。

2. 実測・写真撮影（写真11）

検出した遺構や遺物の出土状況、遺構などの土層を実測・図化し、写真撮影をおこなっている。

平面実測図は調査区1を調査員が測量図化（ $S = 1/20$ ）し、調査区2～5を航空写真測量で図化（ $S = 1/50$ ）している。このほか遺構配置図（ $S = 1/100$ ）、調査区壁面土層図（ $S = 1/20$ ）、各遺構平面・断面図、遺物出土状態（ $S = 1/10 \cdot 1/20$ ）などがあり、主に方眼紙（A2）に作成している。

写真は4×5版モノクロ・リバーサル、6×7版モノクロ・リバーサル、35mmリバーサル、デジタルカメラを用いて調査員が撮影した。全景写真は撮影用足場を組んで撮影したのをはじめ、次項に記した航空写真撮影をおこなった。



写真11 足場による写真撮影

3. 航空写真（写真12）

航空写真は専門会社（株式会社ウエスコ）に委託し、発掘調査により検出した遺構をラジコンヘリにより撮影をおこなった。調査区を分割して調査を行ったことから撮影は計4回行い、各撮影では垂直全体写真、垂直部分写真、周辺部を含めた斜め写真を撮っている。



写真12 ラジコンヘリによる航空写真撮影・測量

成果品はデジタルモザイクによるパネル写真、カラーリバーサル（6×6判）、密着写真等で納入されている。

第2節 地区割り（図3）

調査地の地区割りは国土座標第Ⅵ系（世界測地系）を使用し、立野遺跡および周辺の遺跡範囲をほぼ網羅する北東（ $X = -270.0\text{km}$ 、 $Y = -45.0\text{km}$ ）に基点を設け、その点からX軸を西に2.5km、Y軸を南に2.5kmの範囲に大区画・小区画を設けて区割りをおこなっている。

大区画は基点をA1地点と定めて、X軸を西方向へ100mごとにB、C、D・・・、Y軸を南方向に2、3、4・・・という軸を設定した1辺100m四方の区画で、北東隅の地区名を用いてA1、C3などと呼称する。次に、この大区画の北東隅をa1地点として、そこから4mずつX軸を西方向へb～y、南方向へ2～25とそれぞれの方向に25分割し、一辺4mの正方形区画を小区画とする。小区画は北東隅の地区名からa1区～y25区と呼称する。地区名は大区画－小区画（A1－a1区など）で表す。調査区は大区画でD12、E11・12、F11・12に相当する。

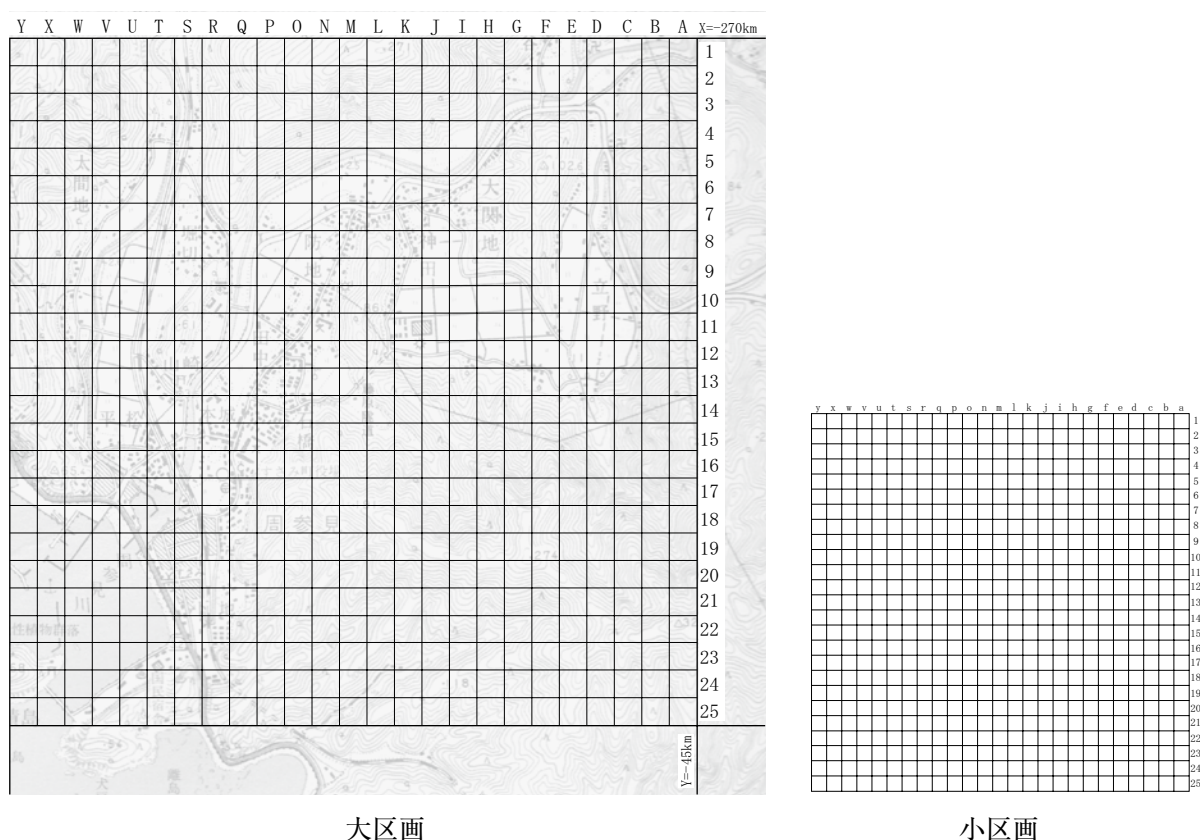


図3 地区割り

第Ⅳ章 調査の成果

第1節 基本層序（図4）

調査では、基本的な土層として第1～8層に区分している。第1層は現在の耕作土・表土で、第2層が現在の水田床土とともに旧耕作土である。第2層は灰黄褐色シルトを基調とし、箇所によっては厚く堆積し、2～3層に分層が可能である。機械掘削時に採集した施釉陶器（332）などから江戸時代から近・現代にかけての水田耕作土であると想定できる。第3層は調査区全体に広がる層位で、10YR3/1 黒褐色を基調とし、部分的に分層可能である。色調により第2・4層とは明確に分けることが可能で、メルクマールとなりうる層である。調査では第3層までを機械掘削しているが、採集した瀬戸美濃系陶器（331）などから中世後半頃に帰属すると考えられる。第4層は灰黄色シルトを基調とし、包含層として人力掘削した層位で、瓦器（330）などが出土することから中世前半頃の層位とすることができる。第5層は部分的に存在しないが、黒褐色シルトを基調とし、出土遺物から古墳時代後半頃の層位であると考えられる。また、第5層が存在しない範囲では、第4層にも古墳時代の遺物が多く含まれている。第6層は主に古墳時代前期から弥生時代中期の遺物を含んでいるが、地山面が下がる東方では第6層は分層が可能で、上層（第6－1層）には主に弥生時代末から古墳時代初頭頃の遺物が含まれている。第3層以下第6層までが水平堆積をしていることから水田に伴う耕作土層であると考えられる。第7層は西方でのみ確認している層位で、水田層であるか明らかでないが、上位の層と同様に水平堆積をしており、弥生時代前期の遺物を含んでいる。第8層は地山（無遺物層）で、基本的にオリブ灰（細砂混りの）シルトとなるが、地山が高く箇所では礫層となっている。地山は下流となる南に向かっては緩やかに下り、東に向かって大きく落ち込んでいる。また、調査区1・2と調査区3の間を走る現在の町道付近が高く、西に向かって下っている。これらのことから、平野部の東と西の山際に谷（自然流路）が存在していたことが窺え、東側は旧周参見川の本流が流れてことが想定できる。

遺構検出は第4層下面で行ったのをはじめ、調査区4－1では第6層下面と第7層下面で、調査区4－2では第6－1層下面でおこなっている。

第2節 遺構

1. 調査区1（図6、図版2・11）

町道建設に関わる調査区で、長さ50mで幅が5mと狭いため、検出した遺構の全体像は明らかにできなかった。地山面は高く、基本的に第4層下で地山となり、弥生時代から古代にかけての遺構が、ほぼ同一面で存在し、各期の溝状遺構・土坑・落ち込みなどが重なって検出できた。

遺構101（図6） 調査区の中央付近で検出した浅い落ち込みで、東西は調査区外に伸びている。検出した規模は南北18m、東西5mで、深さは20cmを測る。遺物は弥生時代前期の土器（1・2）が出土している。

遺構102（図6、図版11） 調査区の北側で検出した土坑で、遺構106と重複し、それより新しい。形状は楕円形を呈し、長さ3.0m、幅1.4m、深さ35cmを測る。土坑内には自然木が横たわっ

な状態で存在する。遺物は弥生時代後期末頃の土器（4・5）が出土している。

遺構 103（図6、図版11） 調査区の北端付近で検出した南北方向に延びる溝状遺構で、遺構106を切り込んでいる。幅1.5～2.5 m、深さ50cmで、断面は舟底状を呈する。土層観察からは流れ堆積は認められない。遺物は奈良時代の須恵器（8～11）などが出土している。

遺構 104 調査区の南端で検出した落ち込みで、調査区2に跨っている。東西が調査区域外となり全容は不明であるが、南北幅約10 m、深さ30cmを測る。遺物は弥生時代中期の土器（3）が出土している。

2. 調査区2（図6、図版3）

調査区1の南に繋がる調査区である。調査区の北から西にかけては、第4層下面で安定した面が存在し、南側は一段低くなり、それが調査区4・5の面に繋がり、第5・6・7層が形成されている。検出した遺構は、第4層下面で土坑やピット・杭列を、第7層下面で溝状遺構を検出している。

遺構 201（図6、図版11） 第4層下面で検出した土坑で、北東側は調査区域外に延びる。平面形状は楕円形を呈すると考えられ、長さ1.2 m以上、幅1.0 m、深さ10cmを測る。遺物は古墳時代後期の須恵器（16・17）などが出土している。

遺構 203・204（図版3） 遺構204は遺構104と同一の遺構で、そこから分岐するように遺構203が南に延びている。遺構203は幅2.0～2.5 m、深さは30cmを測り、調査区4の遺構404・調査区5の遺構504に繋がる溝状遺構であるが、南に向かって削平が強く底付近が確認できる程度で残存状況は悪い。遺物は遺構203・204とも弥生土器（14・15）が出土している。

遺構 219（図6、図版3） 幅5 cm程度の板状の杭を、北東－南西方向に密集するように打ち込んだもので、長さ7 m延びて南西側が調査区外に続いている。水田の区画に関わる杭列であると考えられ、第5層に帰属する遺構であると考えられる。

遺構 216～218（図版3） 第7層下面で検出した溝状遺構で、幅20～50cm、深さ約5cmを測り、長さは遺構216で11 m以上、遺構217で約7 m、遺構218で約4.5 mである。遺物は土器細片が出土している。検出面からも、遺構の時期は弥生時代前期の可能性はある。

3. 調査区3（図版4・5）

町道より東側の調査区で、当初は道路挟んで南側が調査区3－1、北側を調査区3－2として調査を開始した。その後、調査区3－1の西側で弥生時代前期の遺物を多く含む流路が発見されたことから、流路が延びる範囲を想定して調査区3－3を設定して調査をおこなった。

遺構は調査区3－1・2で弥生時代前期の自然流路、弥生時代から古代にかけての自然流路と堰状遺構、ピットなどを検出した。調査区3－2では遺構は検出できなかった。

遺構 302（図7・8、図版12～16） 調査区3－1・3で検出したもので、平野部西側の山裾に沿って南流する弥生時代前期の自然流路である。地山面が低い北側では基本層位第7層下で、地山面が高くなる南側では、基本層位第3層下で検出している。調査区の南では、流れを西方に変えている。規模は幅が約15 m、深さ1.2～1.5 mで、調査区内で約40 mを確認した。底は平坦で、流れが変わる付近で深くなっている。層位は大きく3層に分かれ、2層は地山と同一のシルトの

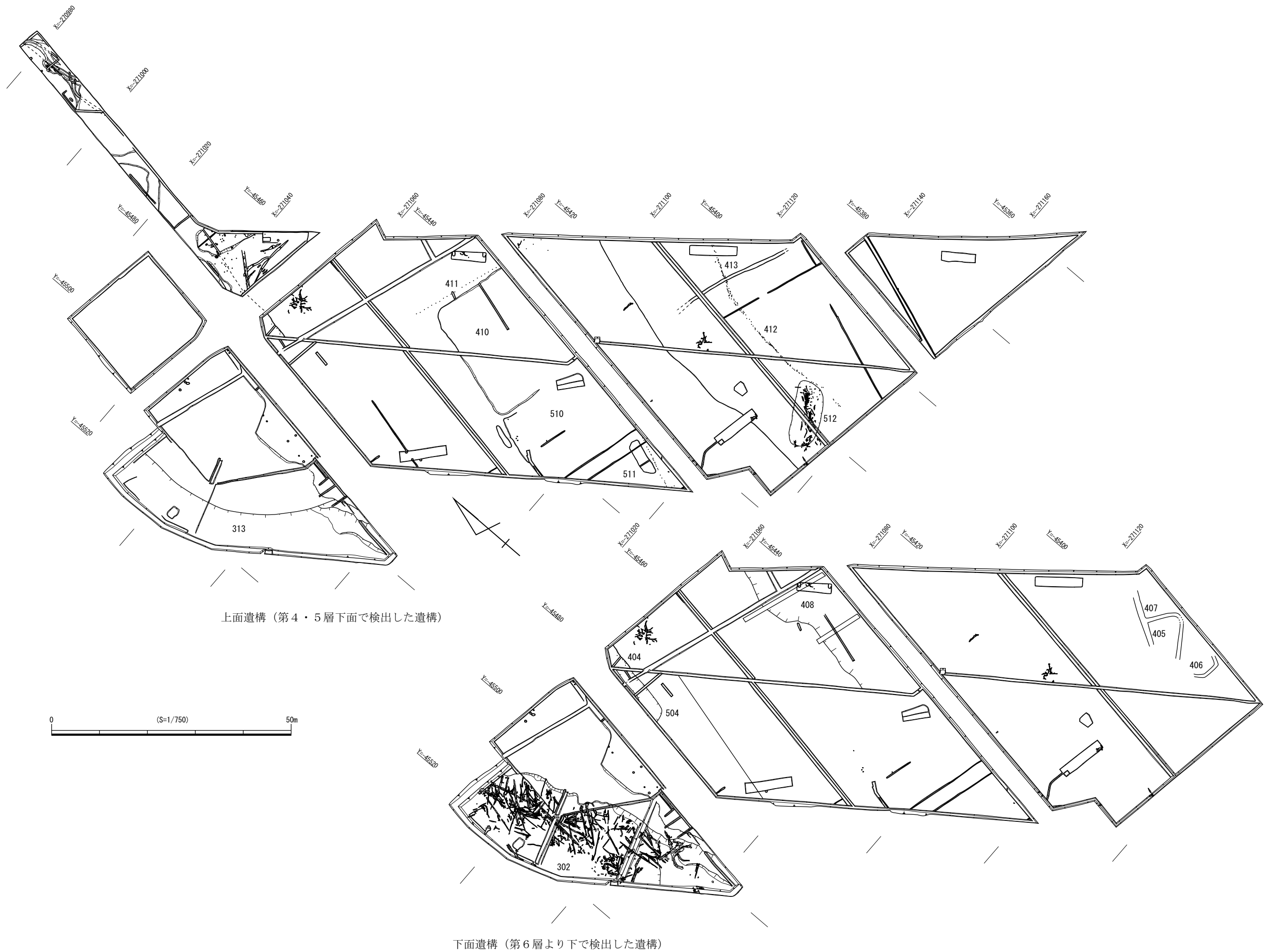


図5 遺構全体図

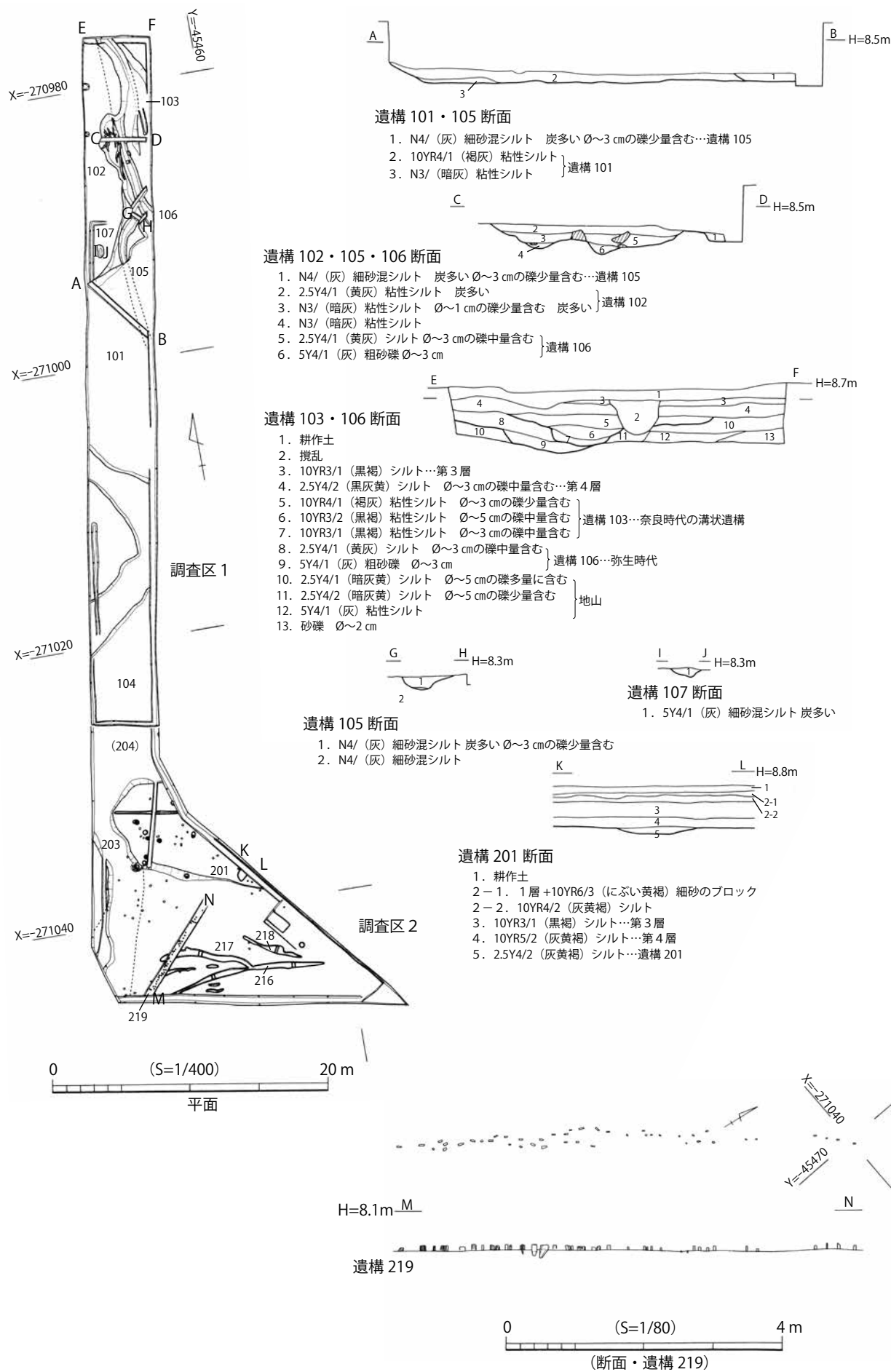


図 6 調査区 1・2 の遺構

ブロックを含む層で、一気に埋まった層であると考えられ、これが遺構 313 で削平される部分以外には広く確認することができ、3 層は木屑・葉・木の実・木材等を含む層位である。3 層には細砂・中砂も含まれるが、明確な流れ堆積を示すものでない。1 層は弥生時代前期新段階と中段階の遺物を含み、2 層は中段階の遺物がほとんどで、わずかに新段階の遺物が混入し、3 層は中段階の遺物を含む層位となり、3 層を中心に弥生土器・突帯文土器・石器・木製品が多量に出土する。また、3 層からは、大量の自然木が横たわった状態で出土しており、これらは直線的に伸びた広葉樹の中径木が大勢を占めており、ほとんどが樹皮を剥いだ状態となっていた。大きくは流れに沿うものと、流れに直交するものがあり、基本的に前者の方が下位に位置している。流れに直交するものでは、川岸から倒れた状態のものがあり、根が残るものが認められる。ただ、そのような材でも樹皮がなく、縁辺部を剥ぎ取ったものもある。現場付近に木材が集積された状況で、流路に明確な流れが認められないこと、また、平成 24 年度に行われた流路下流部の調査では、木材がほとんど確認されていないことから、川を堰き止めて貯木施設を構築していた可能性もあるが、調査区内では確認できなかった。このほか、流路内で、堅果類や核果の殻が大量に集中する箇所を確認している。

遺構 313 (図 8、図版 11) 遺構 302 の西側に重複する自然流路で、幅 8 ～ 10 m 以上、深さ 0.7 ～ 1.0 m で、調査区内で約 60 m 確認している。遺物は弥生土器や古墳時代から古代にかけての土師器・須恵器が出土する。地山直上で古墳時代のほぼ完形の須恵器が多く出土し、また、弥生時代中期の所産と考えられる木製品が破損せずに出土する状況から、流路が弥生時代中期から古代にかけて、重複して繰り返し流れていたことが窺える。最終的に古代の流れによって大きく挟まれるものの、部分部分に各期の堆積が残っていたと考えることができる。ただ、調査ではこれらを分層して掘り下げることができなかった。

遺構 314 (図版 11) 遺構 313 が埋没段階で、流れに沿うように杭を打ち込んだ遺構である。杭列は直径が 5 ～ 10 cm 程度の丸太杭を、真っ直ぐあるいは、やや西側に傾くように打ち込んでいる。南側は調査区域外に伸び、長さ 6 m を確認している。水量を調節する堰あるいは護岸と考えられるが、明確な時期は確定できない。

4. 調査区 4・5 (図版 8 ～ 10)

排土置き場を確保するため調査区 4・5 は別々に調査をおこなっているが一連であり、遺構の繋がりから同時に記述する。全面で第 4 層下面において遺構検出をおこなっているが、調査区 4 - 1 では第 6 層下面、第 7 層下面、調査区 4 - 2 では第 6 - 1 層でも遺構検出をおこなっている。

第 4 層下面では、水田区画、杭列、畦畔状遺構、落ち込みなどを検出し、第 6 - 1 層下面でも水田状の遺構を第 6 層下面で弥生時代中期の自然流路、第 7 層下面で弥生時代以前と考えられる自然流路を検出している。

遺構 410・510 (図 9、図版 11) 第 4 層下面において検出した水田区画である。このうち、遺構 410 は調査区 4 - 1・5 - 1 に跨るように、遺構 510 はその南に並ぶように位置する。周囲より 10 cm 程度深くなっており、両区画間には畦畔と考えられる幅約 50 cm の高まりが認められる。規模は遺構 410 で南北 23 m、東西 18 m 以上で、遺構 510 は南北 14 m 以上を測る。遺物は瓦器や土師器片などとともに、木製品の有頭棒 (797) や曲物 (799) が出土している。検出面や出土

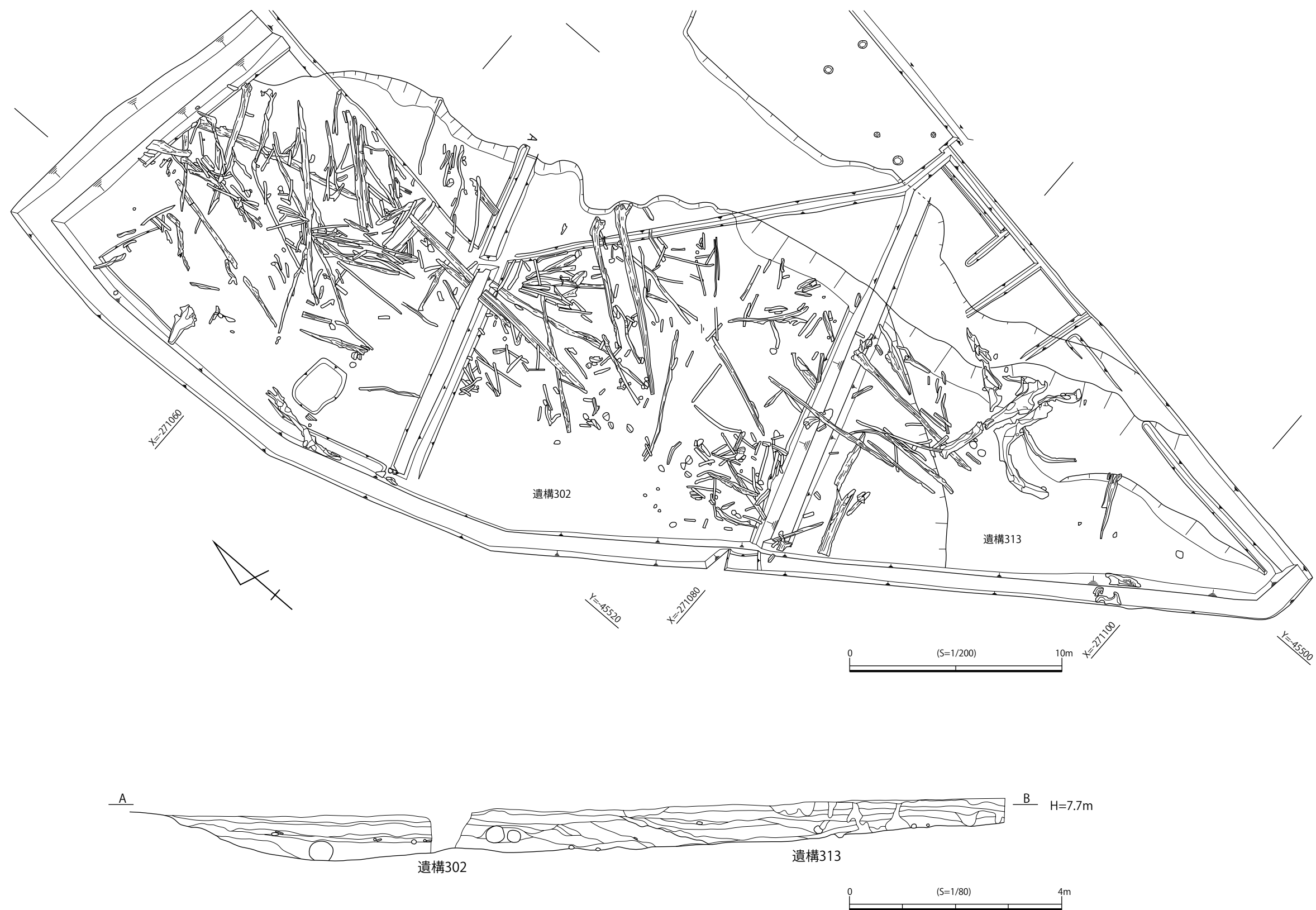
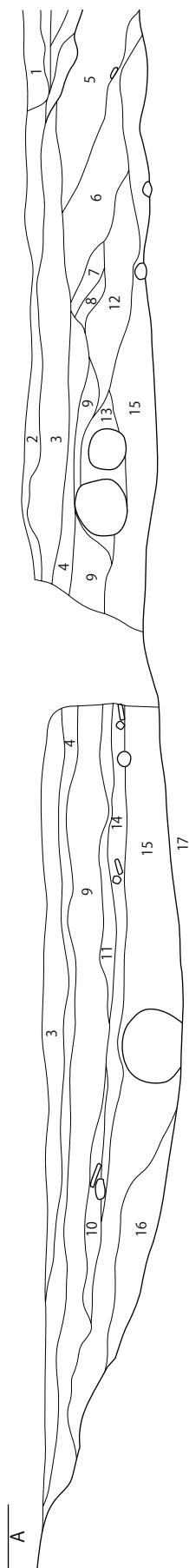


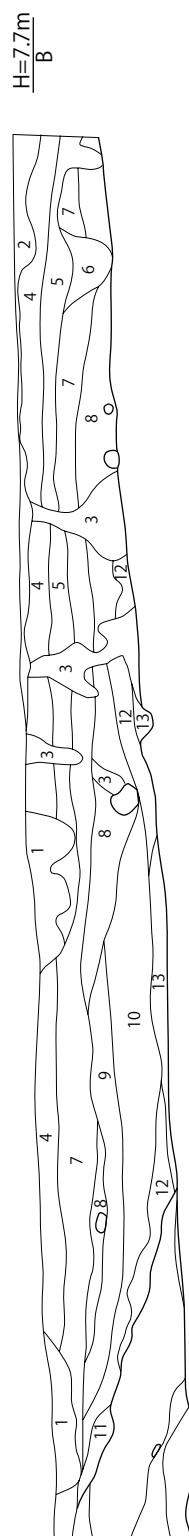
図7 遺構 302 木材出土状況

H=7.7m



遺構 302

1. 攪乱
 2. 7.5YR6/1 (褐灰) 粘性シルト
 3. 7.5YR4/2 (灰褐) 細砂 混シルト
 4. 7.5YR4/1 (褐灰) 細砂 混シルト
 5. 10YR5/1 (褐灰) 細砂 混シルト
 6. 2.5Y6/1 (灰) シルト混 細砂
 7. 7.5YR4/1 (褐灰) 粘性シルト
 8. 7.5YR6/1 (褐灰) 粘性シルト + 7.5YR4/1 (褐灰) 粘性シルト 細砂混
 9. 7.5YR4/1 (褐灰) 粘性シルト + 5Y6/1 (灰) シルト 細砂混
- 1層 {
10. N2/ (黒) 細砂シルト 有機物 (木屑)・木 多く含む
 11. 10YR3/1 (黒褐)
 12. 7.5YR3/1 (黒褐)
 13. 5YR4/1 (褐灰) 粘性シルト 有機物 (木屑) 含む
 14. 10YR4/1 (褐灰) 粘性シルト 有機物多い
 15. 10YR3/1 (黒褐) 細砂混シルト 有機物 (木屑)・木 非常に多い
 16. 10YR4/2 (灰黄褐) 砂礫混 粘性シルト 礫 (φ~1cm)
 17. 砂礫 (φ~20cm大)
- 3層



遺構 313

1. 攪乱
2. 5YR3/1 (黒褐) 粘性シルト
3. N8/ (灰白) 細砂 + 7.5YR6/1 (褐灰) 粘性シルト 噴砂か
4. 7.5YR6/1 (褐灰) 粘性シルト
5. 7.5YR5/1 (褐灰) 粘性シルト
6. 7.5YR4/1 (褐灰) 粘性シルト
7. 5YR3/1 (黒褐) 粘性シルト
8. 7.5YR3/1 (黒褐) 粘性シルト 有機物 (木屑) 含む
9. 10YR4/1 (褐灰) 粘性シルト 細砂混 有機物 (木屑) 少し含む
10. 7.5YR3/1 (黒褐) 細砂混シルト N8/ (灰白) 細砂のブロック 流れ堆積
11. 7.5YR4/1 (褐灰) 細砂混 粘性シルト
12. 7.5YR3/1 (黒褐) 粘性シルト N8/ (灰白) 細砂ラミナ状に入る
13. 10YR3/1 (黒褐) 細砂混シルト 有機物 (木屑) 多く含む=遺構302 15層

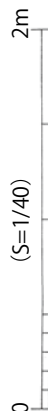
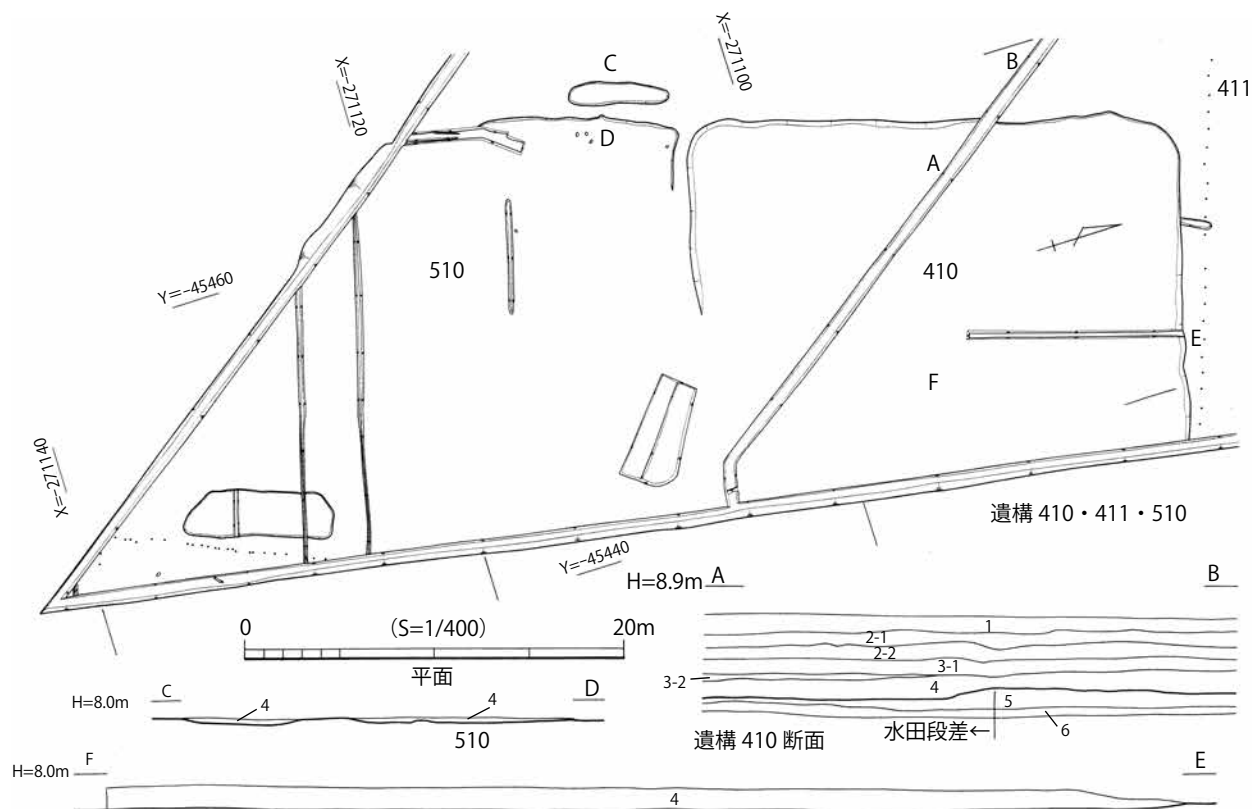


図 8 遺構 302・313 断面土層図



遺構 410 断面

1. 10YR4/2 (灰黄褐) シルト混細砂…現耕作土
- 2-1. 1層+10YR6/3 (にぶい黄褐) 細砂 } 第2層
- 2-2. 10YR4/2 (灰黄褐) シルト
- 3-1. 10YR3/1 (黒褐) シルト } 第3層
- 3-2. 10YR3/2 (黒褐) シルト

4. 10YR5/2 (灰黄褐) シルト 第4層
5. 2.5Y5/2 (黒灰黄) 粘性シルト 第6層
6. 10YR4/1 (褐灰) 粘性シルト 第7層

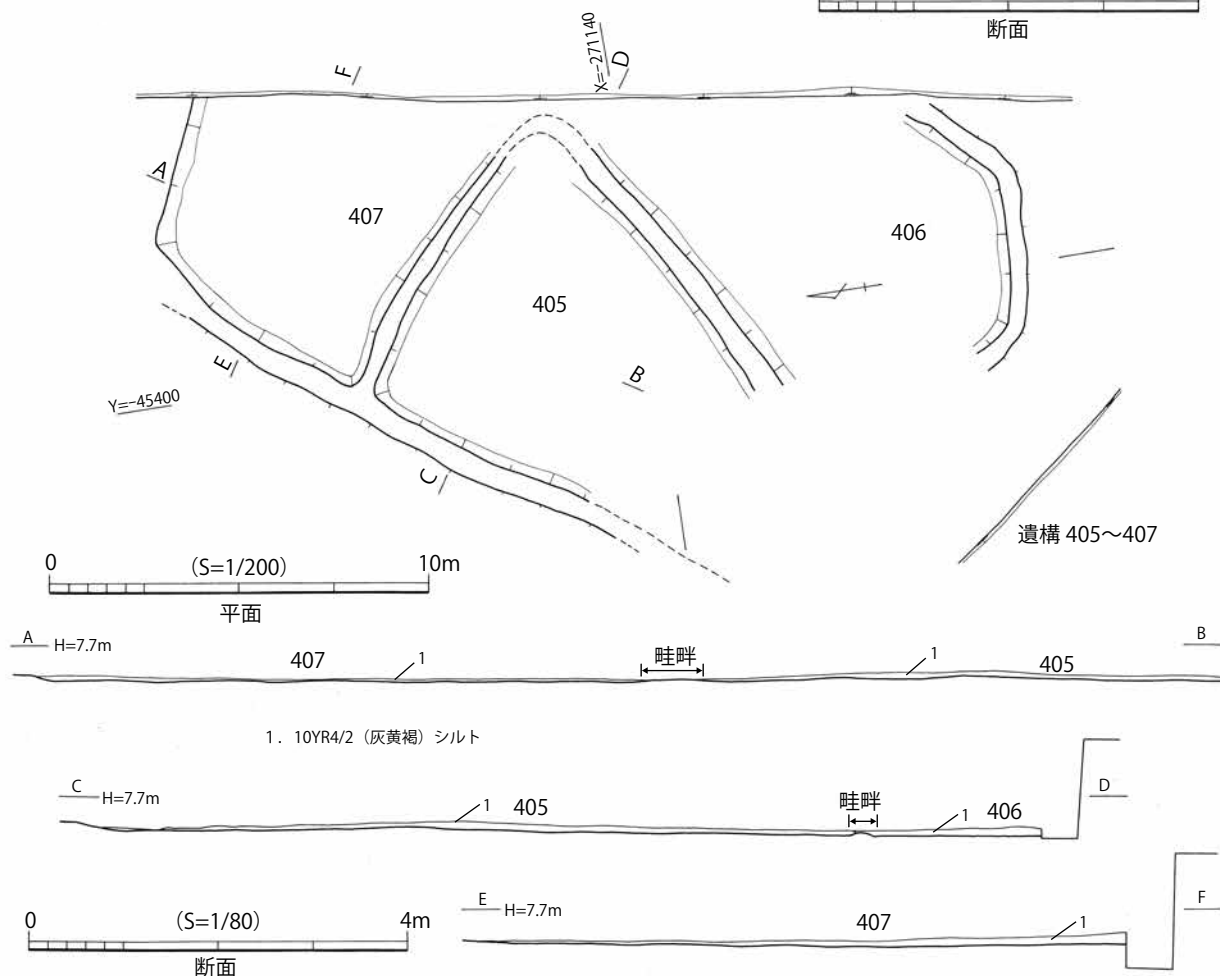


図9 調査区4・5の遺構

遺物から判断して、中世前半頃の遺構であると考えられる。

遺構 411 (図 9) 第 4 層下面において検出した杭列で、遺構 410 の北側に沿うように東西に一列に並んでいる。平面では柱列として検出したが、断面精査の結果、直径 10cm 程度の杭を打ち込んだもので杭の周囲が変色したものであった。査区 4-1 から 4-2 にかけて検出でき、杭の間隔は約 0.7 ~ 1.9 m で、延長 30 m 確認している。

遺構 412・413 (図版 12)

遺構 412 は調査区 4-2 から 5-2 にかけて検出したもので、遺構 412 は幅約 50 ~ 70cm の間に板状の杭を乱雑に打ち込んだもので、南北方向に長さ約 50 m にわたって検出した。遺構 413 は遺構 412 に直交する東西方向に延びる畦畔状の遺構で、幅 0.7 m で長約 25 m 確認している。遺構 413 は遺構 410・510 間の畦畔の延長線上であることから、周辺には整然と区画された水田が並んでいた可能性がある。

遺構 405・406・407 (図 9、図版 12) 調査区 4-2 で検出した水田区画である。わずかな高まりで区切られた 3 つの区画からなる。各区画は不整形で、規模は一辺が 7 m 前後を測り、区画内には踏込状の窪みが周囲より多く認められる。畦畔と考えられる高まりは、幅 50cm 前後を測る。これらの時期は、出土遺物などから弥生時代後期末頃から古墳時代初頭であると考えられる。また、周囲の土層の堆積が水平であることから、畦畔は検出できないものの広く水田が展開していた可能性がある。

遺構 512 (図 10、図版 12) 調査区 5-2 で検出した落ち込みで、平面形状は楕円形を呈する。規模は長さ 13.5 m、幅 6.0 m で、深さは 40cm を測る。長さ 1 ~ 2 m 程度の板材や木枝が多く出土しており、東側には杭が多く打ち込まれているが、遺構の性格は不明である。遺物は埋土から須恵器 (355) や土師器などが出土している。また、落ち込み内や周辺からは桃種が多く見つかった。遺物から判断してから古代の遺構と考えられる。

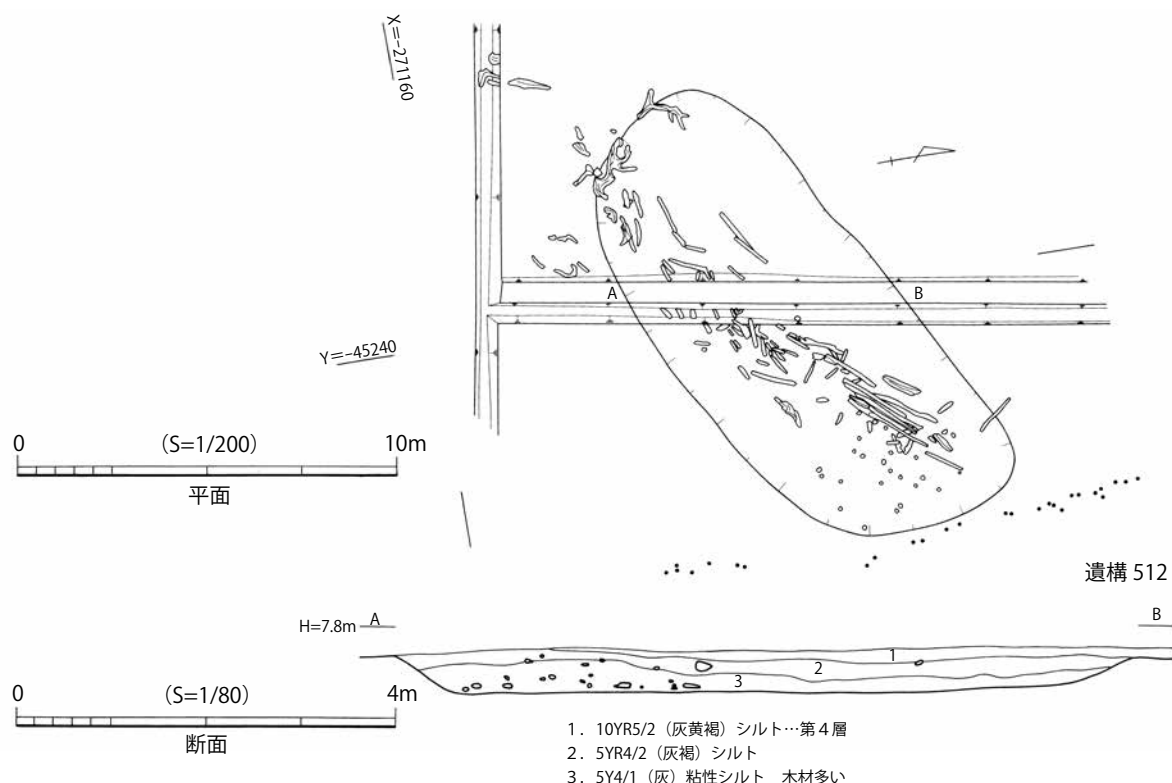


図 10 調査区 5 の遺構

第3節 遺物

遺構などから出土した遺物には、土器、石器、金属製品、木製品がある。

1. 土器

土器には、弥生土器・突帯文土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・青磁・国産陶磁器があり、弥生時代前期以降近世にかけての各期の土器が出土している。遺物収納コンテナ（28ℓ入り）に60箱分あり、その大半が弥生時代前期の流路である遺構302から出土したものである。

A) 調査区1（図11、図版17）

遺構分を含めた破片総数は251点で、弥生時代から古代の土器が多く、中世の遺物は出土していない。

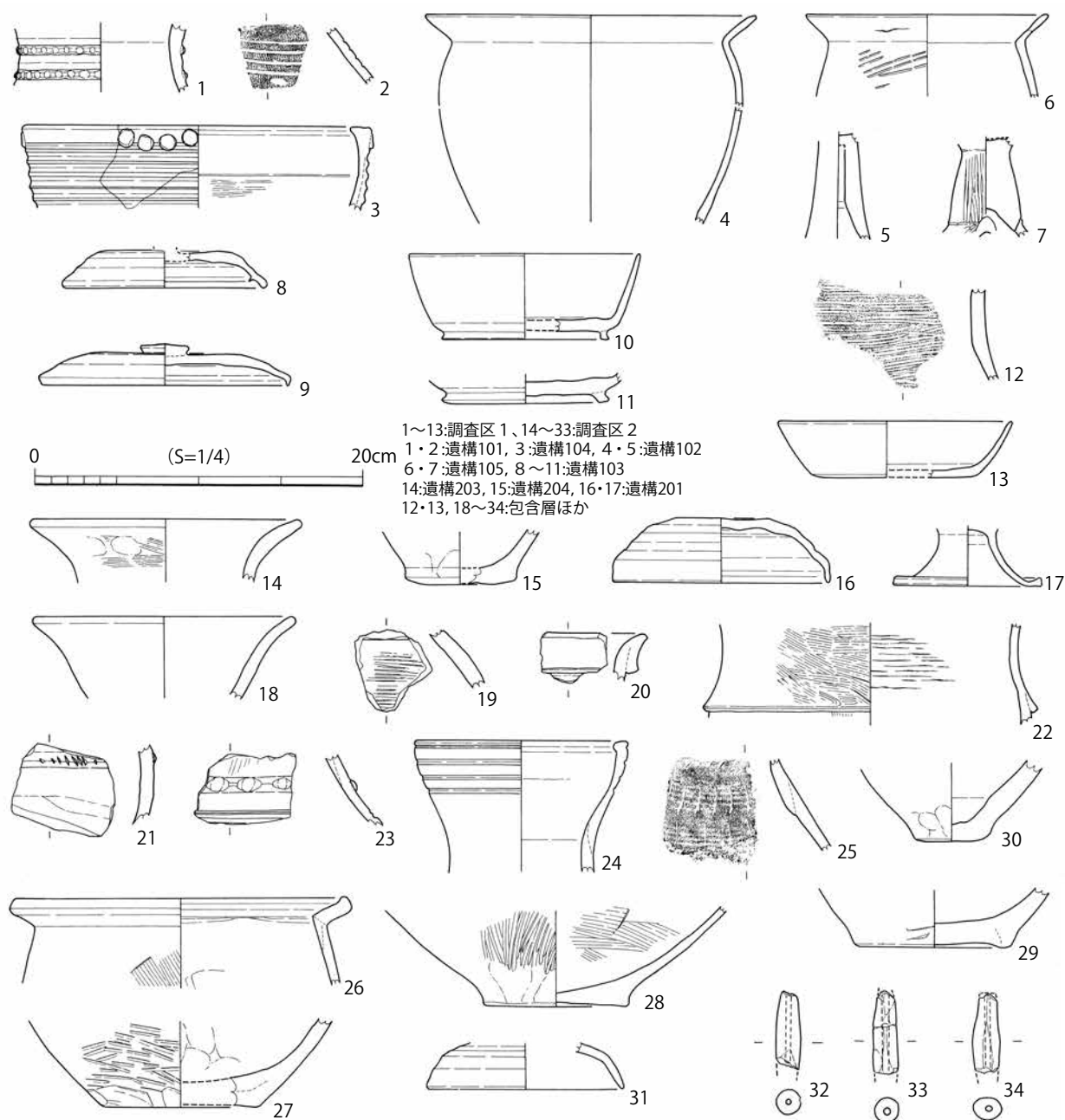


図11 出土遺物・土器1（調査区1・2）

遺構 101 から弥生時代前期新段階の壺（1・2）、遺構 104 から弥生時代中期の壺（3）、遺構 102 から弥生時代後期末頃の甕（4）・高杯（5）、遺構 105 から弥生時代後期末頃の甕（6）・高杯（7）、遺構 103 から飛鳥時代から奈良時代の須恵器杯（8～11）が出土している。このほか、包含層等から東海地方からの搬入品と考えられる条痕文系土器壺（12）や須恵器杯（13）、製塩土器などがある。

B) 調査区 2（図 11、図版 17）

調査区全体で破片数 1155 点の出土があり、弥生時代から古代の土器が出土し、調査区 1 同様に中世の土器は出土していない。遺跡内では面積に対しての土器量が調査区 3－1・3－3を除けば多い調査区で、また、比較的高い位置にあることから住居などは確認していないが居住域か居住域の直近に位置すると理解することができる。弥生時代前期の土器では 19 のように頸体部の境に段を有し、中段階に帰属するものや、それらに併行する突帯文土器の出土がやや目立っている。また、時期は確定できないが管状土錘が約 7 点出土しており、集落の生業を窺う資料である。

遺構 203 から弥生土器壺（14）、遺構 204 から弥生土器（15）、遺構 201 から古墳時代後期の須恵器杯（16）・高杯（17）が出土している。また包含層等からは弥生時代前期の壺（18・19・27～29）、突帯文土器（20～22・30）、伊勢地方からの搬入品と考えられる甕式遠賀川壺（23）、弥生時代中期の壺（24・25）・甕（26）、古墳時代後期の須恵器杯（31）、土錘（32～34）などが出土している。

C) 調査区 3－1・3－3（図 13～25、図版 17～23）

表 1 遺構 302 土器出土点数

	弥生土器	突帯文土器	条痕文土器	総数
遺構 302 全体	1011 10.01%	9044 89.58%	41 0.41%	10096
遺構 302 3 層	675 9.34%	6517 90.14%	38 0.53%	7230

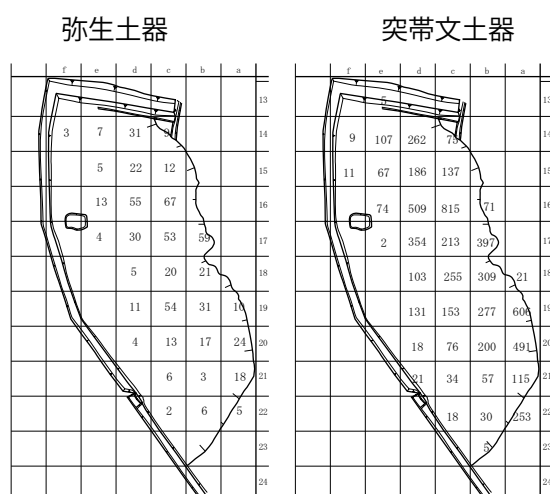


図 12 遺構 302、3 層地区別土器分布図
※第 3 層出土で地区が限定できないものがあり、表 1 と総点数は合致しない

遺構 302、3 層出土土器（35～239） 前期の弥生土器と突帯文土器、条痕文（系）土器などが出土している。土器種は、破片であっても調整・文様・表面に残るススの状態や胎土などから判別が可能である。破片数は表 1 に示したように、極端に突帯文土器の比率が高く、弥生土器 1 に対して突帯文土器 9 となる。弥生土器は壺に限られ、前期土器の器種組成である甕・鉢・高杯はない。突帯文土器には深鉢、鉢、壺があり、深鉢が圧倒的に多いが、壺の割合も他の遺跡より高い。

図 12 は、弥生土器と突帯文土器の地区別出土数を表したものである。弥生土器・突帯文土器とも傾向に大きな違いはなく、c16 区を中心に東側の落ち際に多く出土している。このことから、土器類は上流部からでなく、Y 軸 14～22 付近から流入した割合が高いと言え、直近からであることは土器に磨滅が見られないことから裏付けることができる。

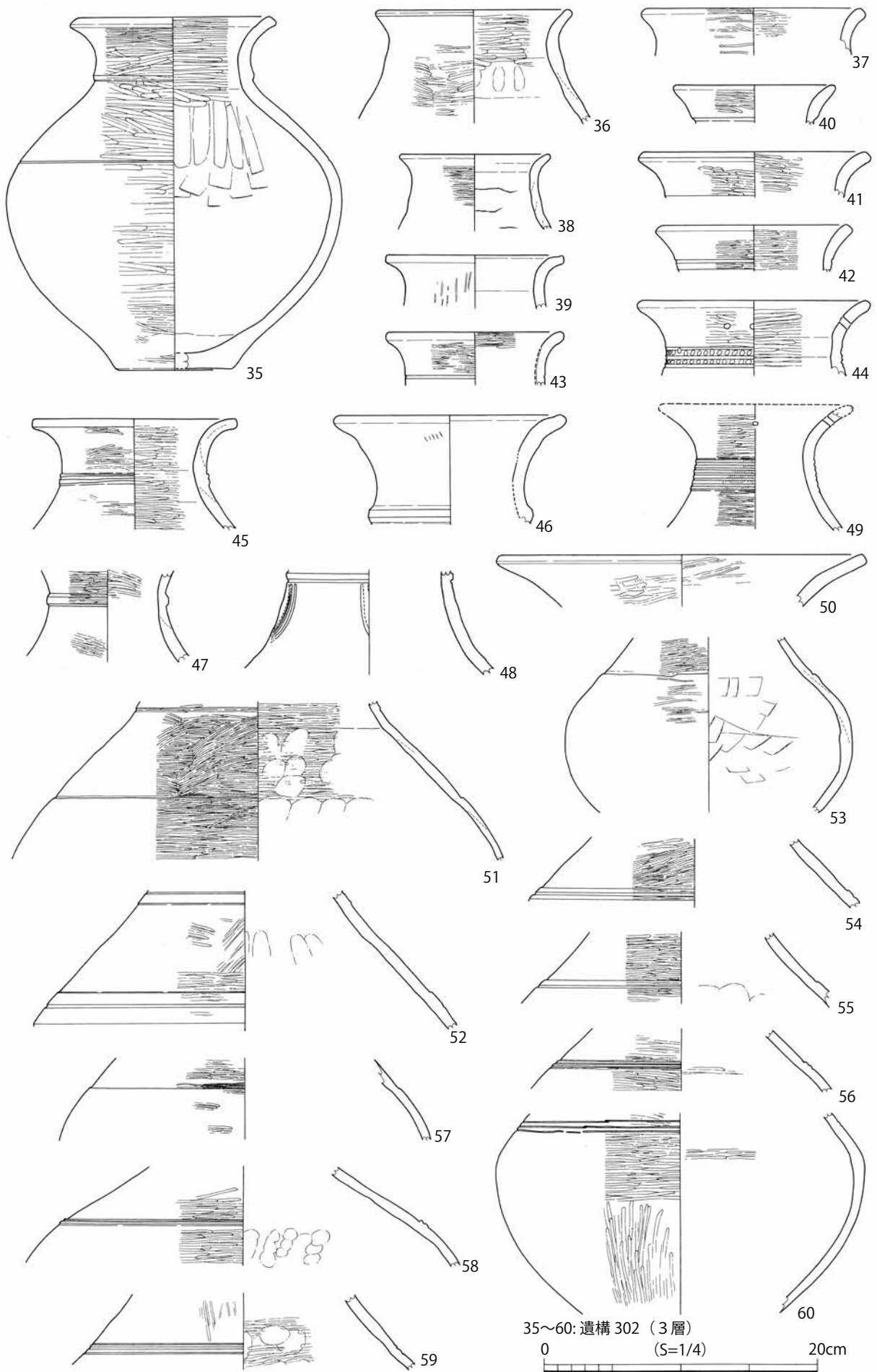


図 13 出土遺物・土器 2 (調査区 3-1・3-3)

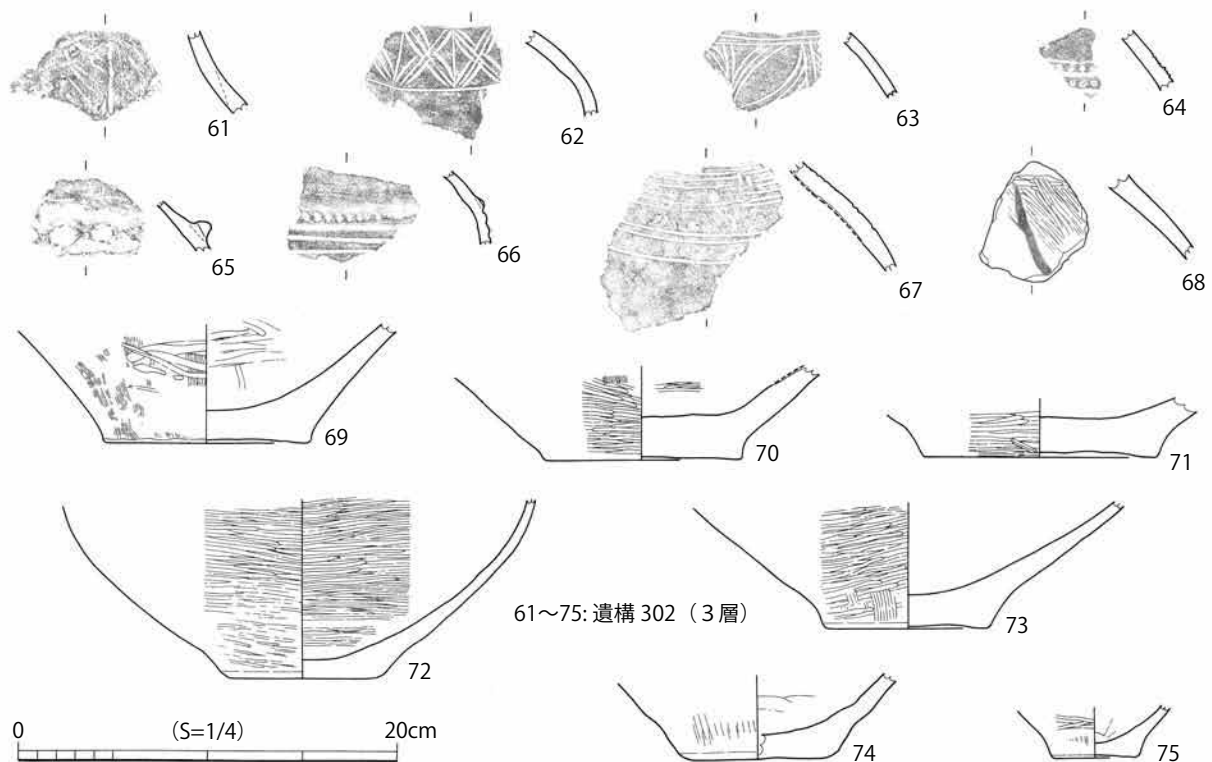


図 14 出土遺物・土器 3（調査区 3-1・3-3）

弥生土器壺（35～75）には口径が 40cm を越すような大型のものがなく、多数の中型品と少数の小型品で占められる。口縁部から底部まで全体を窺う資料は 35 の 1 点のみである。口頸部境は、36～39 が区画文様がなく、35・40 が段、41～43 が沈線、44 が沈線間刺突、45～49、51・52 が削出突帯で、このうち 45・48・52 は突帯上に少条の沈線を、49 は多条の沈線を巡らす。

頸体部境は、51～57・64 が削出の段で、段下に 52・54・55・56 は沈線を、64 は沈線間刺突を有する。58 は頸体部境が削出突帯で、突帯上に沈線を有する。35・59・60 は境を沈線で区画する。

器表全体を丁寧にヘラミガキ調整するものが多く、調整後に黒色物を塗布するものが大勢を占めており、52・68 は塗布した上に朱を施している。

頸部の文様は 48 が縦方向の区画文様、61 は羽状の文様を施す。体部の文様では 62 が有軸の木葉文、63 が無軸の木葉文を施す。このほか、65 は肩部に押圧キザミをもつ突帯、66 は肩部のキザミ目突帯下に沈線、67 は不規則に施した多条の沈線の一部に刺突文が施されている。

在地で作られた土器は、胎土に摩耗が著しい砂岩や頁岩砂粒を含み、黄色あるいは白色に発色するものが多く、角閃石や結晶片岩、金雲母あるいは長石を多く含み色調も褐色が強い土器は搬入品と考えられる。57・72 は胎土に角閃石を含み生駒西麓からの搬入品と考えられる。長石を多量に含み、色調も茶褐色である 46・48 も、地域は明らかでないものの搬入品と考えられる。このほか、65・66 は文様構成などから伊勢地方からの搬入品あるいは影響を受けた土器の可能性が考えられる。

突帯文土器深鉢（76～239）は基本的に外反する口縁部の端部下に扁平で垂れ下がる突帯を付す、所謂「瀬戸タイプ」が多数を占める。瀬戸タイプは、白浜町瀬戸遺跡で弥生時代前期の壺と共伴して出土した突帯文土器（図 16）を指標としており、和歌山県南部地域を中心に分布して

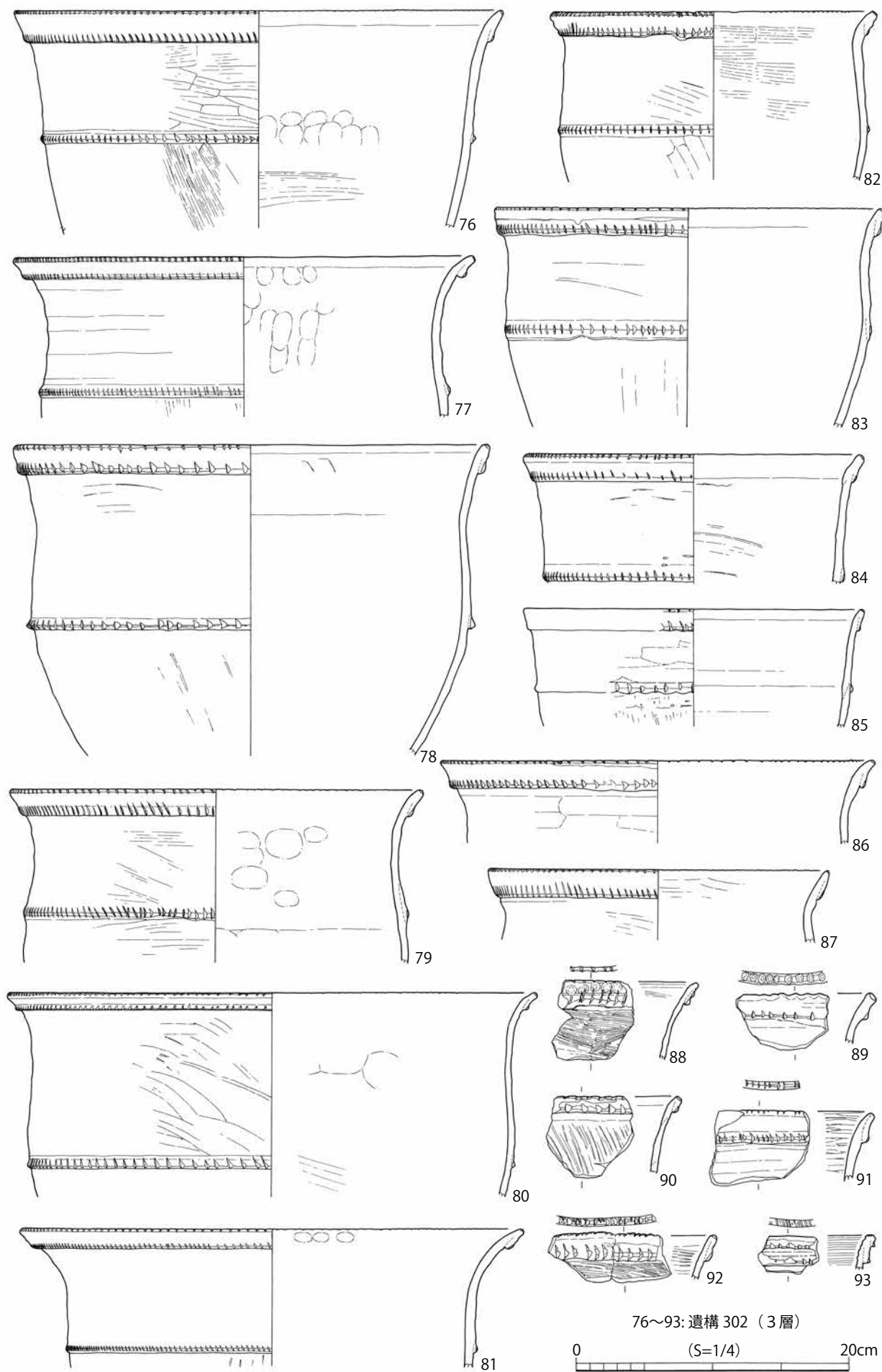


図 15 出土遺物・土器 4 (調査区 3-1・3-3)

いる。

立野遺跡の突帯文土器は、胴部に突帯を付さない1条突帯のものと、胴部突帯を有する2条突帯のタイプがあるが、圧倒的に2条突帯が多く、1条突帯は小型品に限られる。キザミの形態・施文位置などはバラエティに富んでおり、それに突帯の形状を踏まえ分類することは容易ではないことから、本報告では、突帯の位置や形状に係らず瀬戸タイプ以外のものも含め口縁端部・突帯上のキザミの有無からA～D類の4つに分けている。

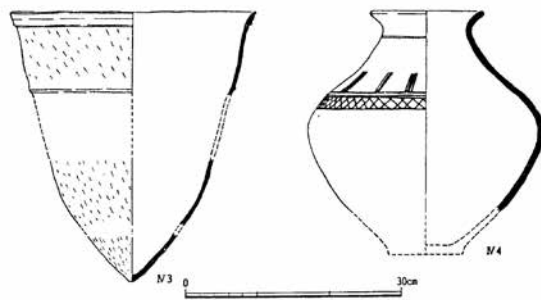


図 16 瀬戸遺跡出土土器

磨滅が少ないこともあって、ほとんどの深鉢は、口縁部外面までススの付着が確認でき、底部付近のみにススが付着する同時期の弥生土器甕とは付着状況が異なることから、使用方法の違いを想定することができる。

76～126は口縁端部と突帯上にキザミを有するもので、これをA類とする。A類のように口縁端部・突帯上にキザミをもつタイプは、畿内周辺部では滋賀里Ⅳ式には盛行するものの、それ以後長原期にかけては少ない。ただ、弥生土器と併行する時期には瀬戸内地方で散見でき、とりわけ兵庫県大開遺跡などで顕著である。県下では、瀬戸タイプの突帯文土器が主を占める御坊市堅田遺跡やみなべ町徳蔵地区遺跡で多くの資料がある。A類の胴部突帯は、確認できるものすべてにキザミを有し、口縁部・胴部突帯のキザミもV字や小D字など比較的細かいものが多い。これらのうち、93は口縁部突帯が2条付されており、胴部に2条の突帯を付すタイプと同様にイレギュラーであるが、堅田遺跡や徳蔵地区遺跡、由良町衣奈遺跡などでも確認されている。95・96・101・106は突帯が扁平でなく三角形に近く、100・109は突帯位置が端部から離れた位置に付され、108も口縁端部付近の接合で生じた段が突帯状になっているなど瀬戸タイプの範疇ではない。また、97・101などは胎土に長石を多く含み、突帯の形状も瀬戸タイプとは異なることから搬入品の可能性が考えられる。また、96は突帯の下にヘラ描の線刻が施され、広島県を中心に分布する中山B式土器に類似する。口縁部突帯が瀬戸タイプの属性ではないことからやはり搬入品の可能性がある。同様に線刻を施す突帯文土器は147など数点出土している。このほか、100は頸部下で屈曲しており。瀬戸タイプには見られない属性をもつ。89は口縁端部のキザミが棒状のもので押圧されており、88・92は突帯上のキザミ原体が先割れの櫛状工具、117・121は突帯上のキザミが縦方向の線刻状となっている。

127～140は口縁突帯上にキザミを施すもので、これをB類とする。B類はA類に比べ点数が少ないが、胴部突帯が確認できるものに関しては、キザミを有する。キザミは小V字・小D字状など細かく刻むものが多い。突帯の形状は扁平なものは少なく、断面が三角形、または丸みを帯びるものが多い、典型的な瀬戸タイプは127のみで、これについても口縁端部のキザミが

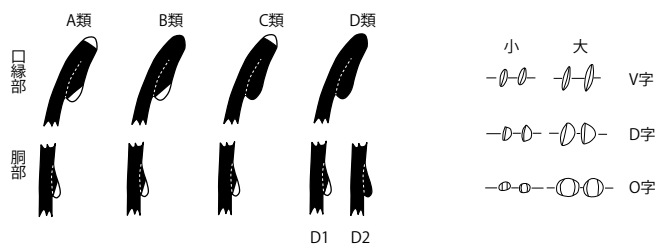


図 17 突帯文土器の分類

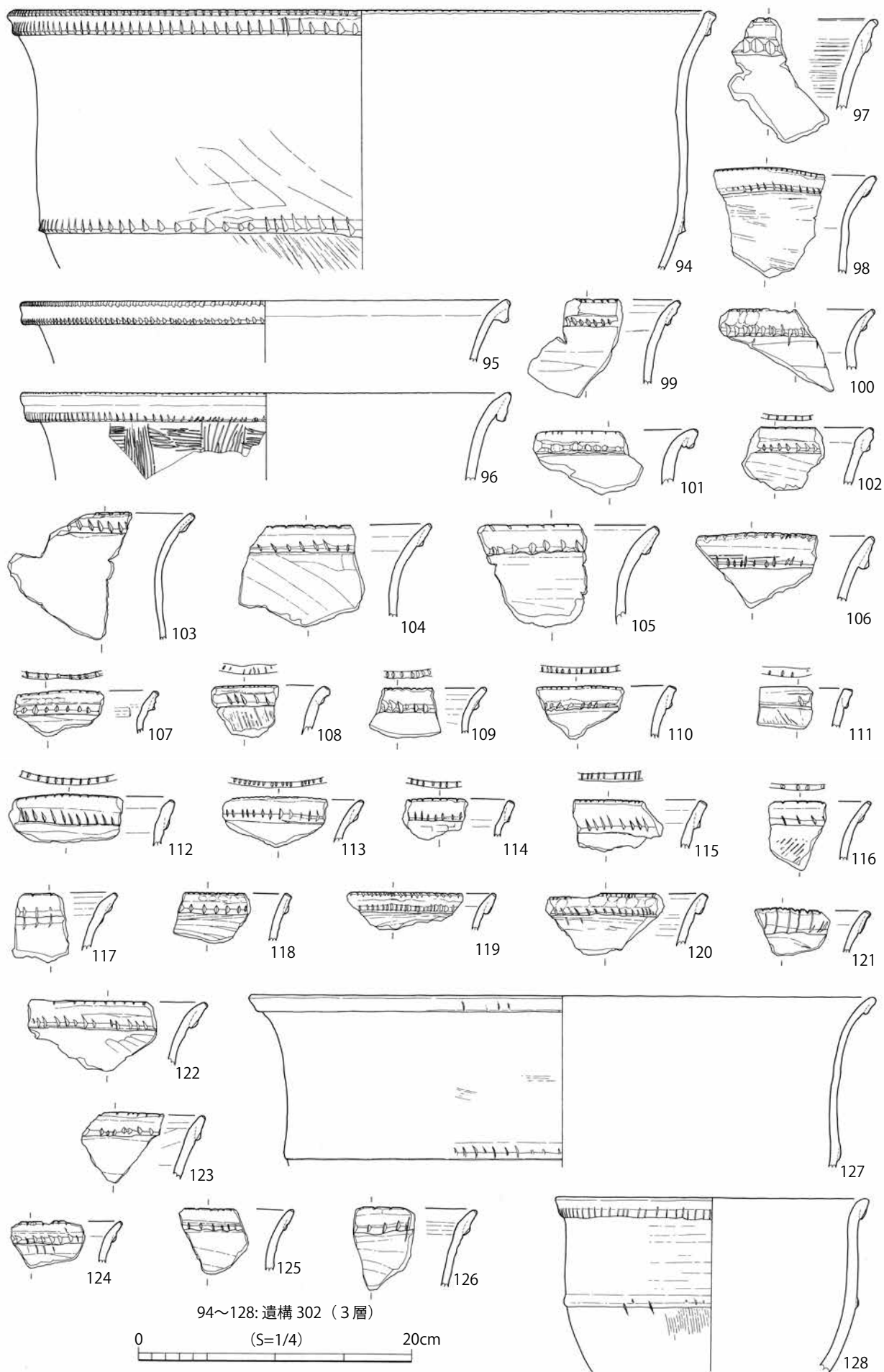
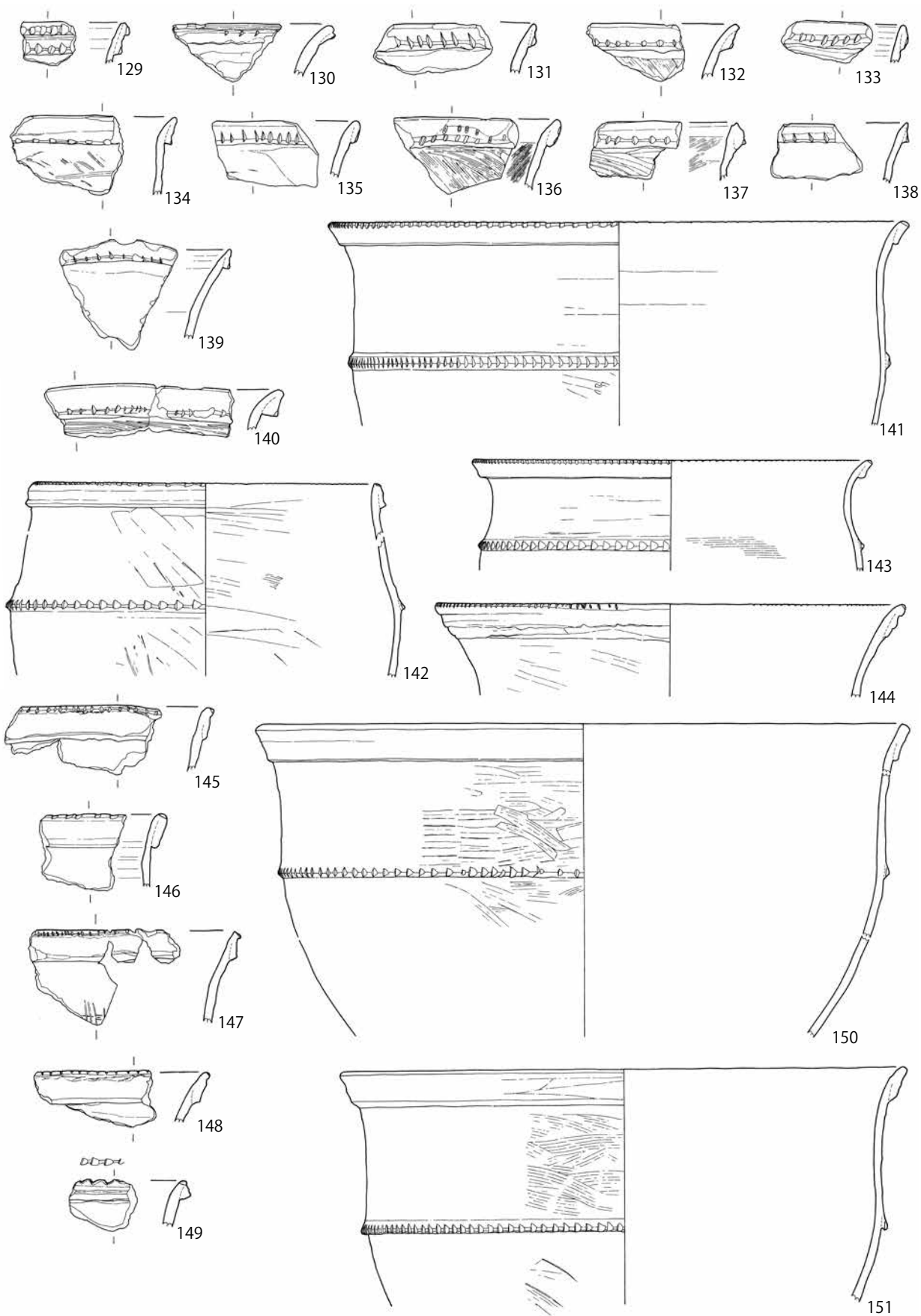


図 18 出土遺物・土器 5 (調査区 3-1・3-3)



129~151: 遺構 302 (3層)

(S=1/4)

20cm

0

図 19 出土遺物・土器 6 (調査区 3-1・3-3)

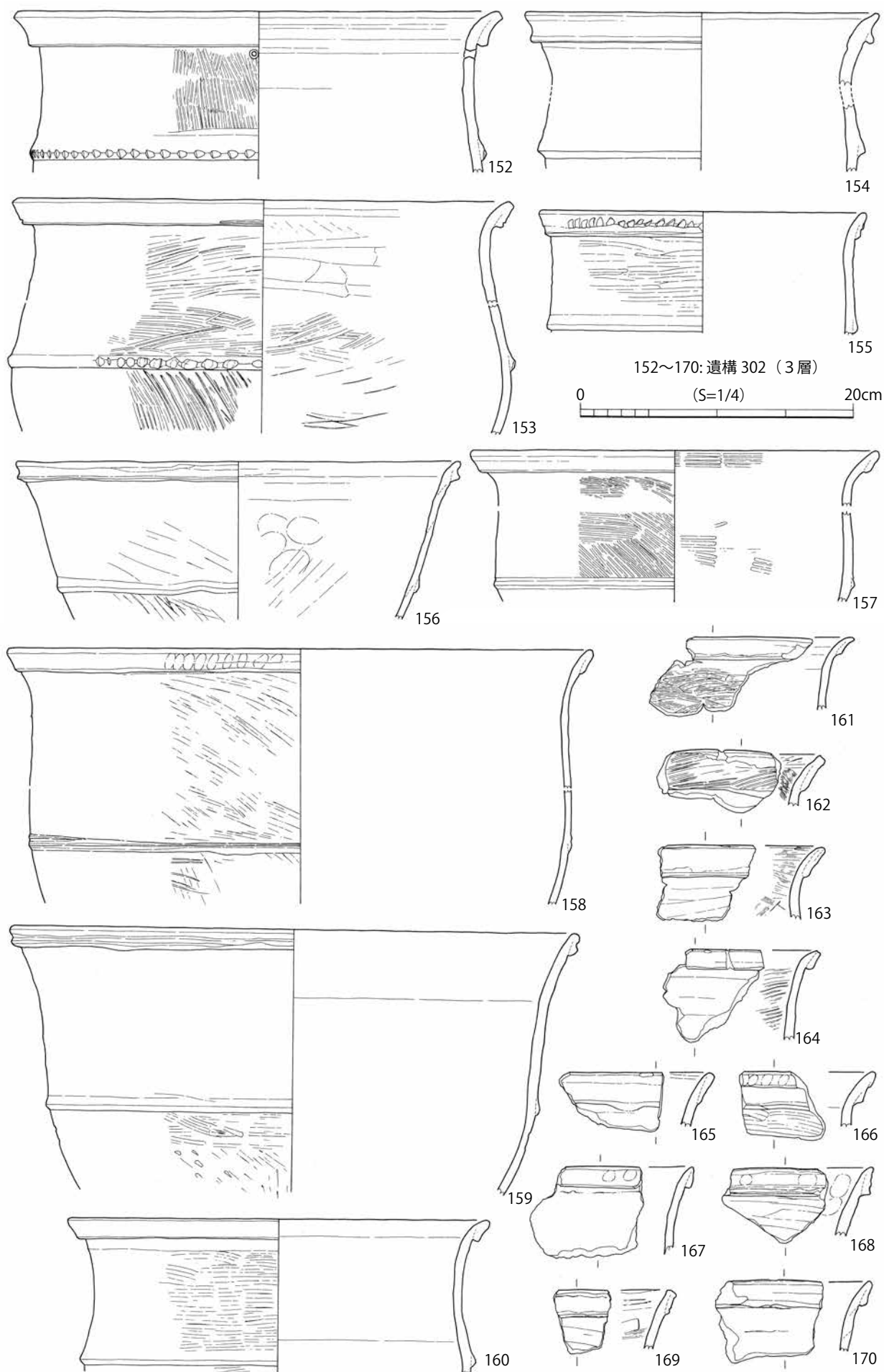


図 20 出土遺物・土器 7 (調査区 3-1・3-3)

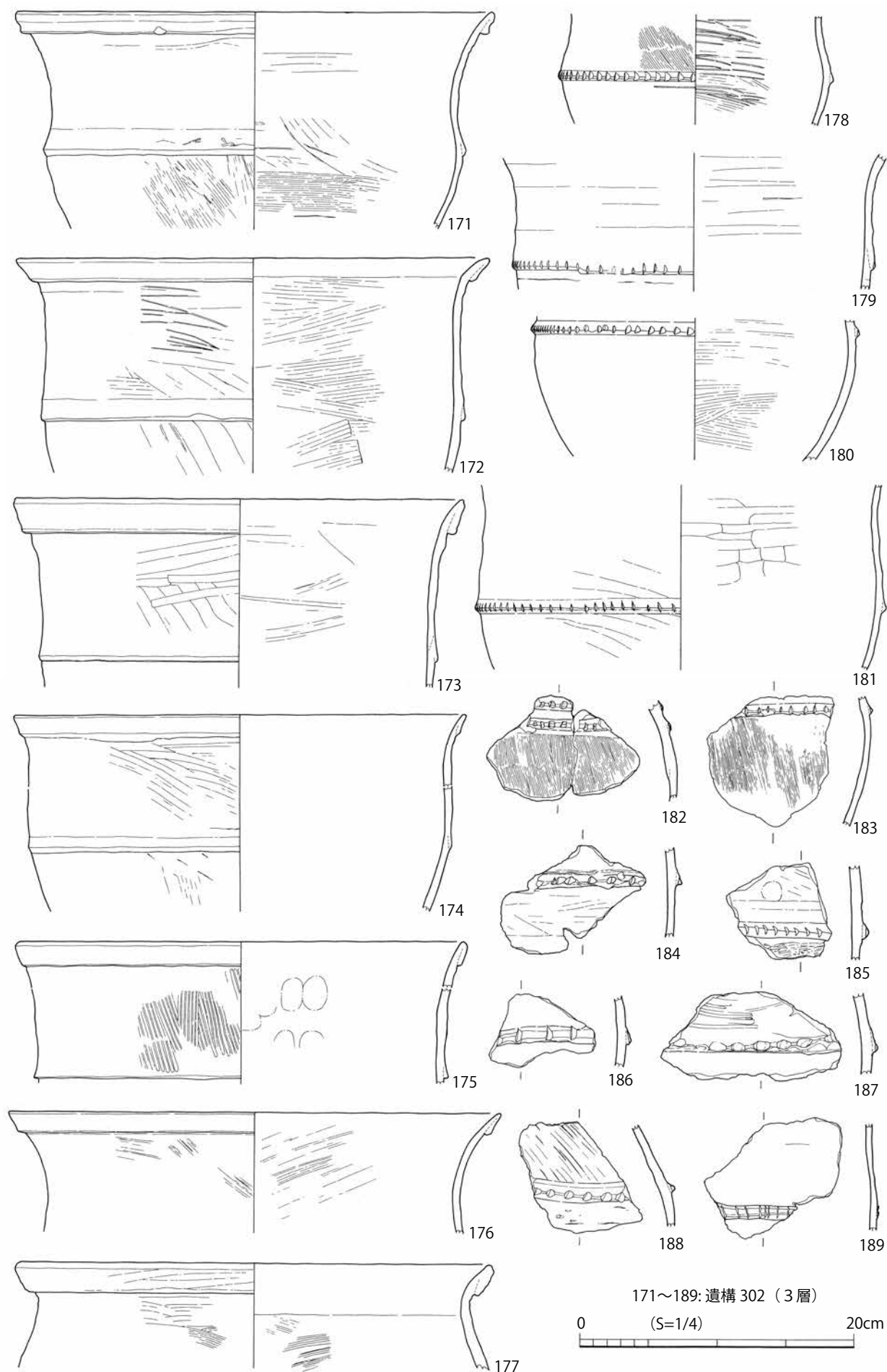


図 21 出土遺物・土器 8 (調査区 3-1・3-3)

磨滅している可能性がある。胎土に結晶片岩を含む 133 は搬入品で、長石などを多く含み褐色が強い 132・134・136～140 は搬入品の可能性が高い。B 類のように口縁突帯上のみを刻むのは、畿内周辺部の突帯文土器では通有であるが、立野遺跡の瀬戸タイプでは B 類が逆に希少である。これらのうち 129 は 93 と同様に口縁部の突帯が 2 条有するものである。また、136 はキザミが棒状の原体で押圧するように施される。

141～149 は口縁部の突帯上を刻まず、口縁端部のみにキザミを施すもので、これを C 類とする。B 類と同様に A 類に比べ点数は少ないが、胴部突帯が確認できるものに関しては、キザミを有する。また、胴部突帯のキザミも D 字が目立つ。口縁部突帯の断面が三角形を呈する 149 以外は基本的に突帯が扁平を呈する。形態では 142・143 は胴膨らみである。C 類のように口縁端部のみを刻む突帯文土器は、畿内周辺部ではほとんど見られず、A 類が存在する瀬戸内ですら明確でなく、瀬戸タイプの大きな特徴の一つに数えることができる。また、併行する時期の遠賀川系の甕が、口縁端部にキザミを施す例が多いことから、その意匠を瀬戸タイプで採用している可能性もある。

150～177 は口縁部の突帯にキザミを有しないもので、これを D 類とする。A 類同様に点数は多いが、胴部突帯が確認できるものについては、キザミを有する D 1 類（150～153）とキザミを有さない D 2 類（154～160）に分けることができる。D 1 類の胴部のキザミは D 字あるいは O 字で施される。155 は口縁部の突帯上にキザミ状の圧痕が認められるが、D 類に含めている。A～C 類に比べ、器壁が厚く、口縁部の突帯も幅広で厚いものが多く、突帯下部をナデ調整するタイプも見られる。また、152 は突帯下に焼成後に円穴を穿つ。粗いハケ（先割れの板状工具？）による条痕も数点確認できる。156・159・168・171・176 は胎土に長石を多く含み、突帯の形状も瀬戸タイプと微妙に異なることから搬入品の可能性がある。154・177 は弥生土器の胎土に類似し、形態からも瀬戸タイプではない。154 は器壁が極端に厚く、口縁部の突帯位置も端部より下がった位置に付される。また、177 は頸部が内傾し、ススも目立って付着しないことから大型壺の可能性も考えられる。D 類は大阪湾沿岸地域でも一定の出土量があるが、それに比べ立野遺跡では割合が高い。

178～196 は胴部突帯の破片である。182 は突帯が 2 条連続しており、キザミは 189 と同様に先割れのヘラ状工具で施される。このうち 182 は胎土に長石等を多く含み、色調からも搬入品と考えられる。196 はキザミをもたない扁平な帯状の突帯で、他に類例がない。

197～201 は 1 条突帯の深鉢で、小型品である。外面全体にススが付着することからも、2 条突帯の深鉢のように煮炊きに使われたことが窺える。口縁部が直立あるいは内湾するものがあり、突帯の形状からも瀬戸タイプを抽出することができない。

202～204 は口縁端部下に突帯がない縄文土器系の深鉢で、このうち 202 は頸部付近に突帯を巡らす。胎土に長石を含み搬入品と考えられる。203・204 は突帯が無い以外は胎土なども瀬戸タイプの突帯文土器と違いはなく、ススの付着も口縁部外面まで認められる。同様な器形は堅田遺跡でも認められる。

205・206 は突帯を有しないが、胎土からも縄文土器系の浅鉢であると考えられ碗形を呈する。立野遺跡で確認できるのは 2 点のみで、深鉢同様に外面全体にススが付着する。

207～220 は突帯文土器の壺である。一定量出土しているものの搬入品も多く、瀬戸タイプの

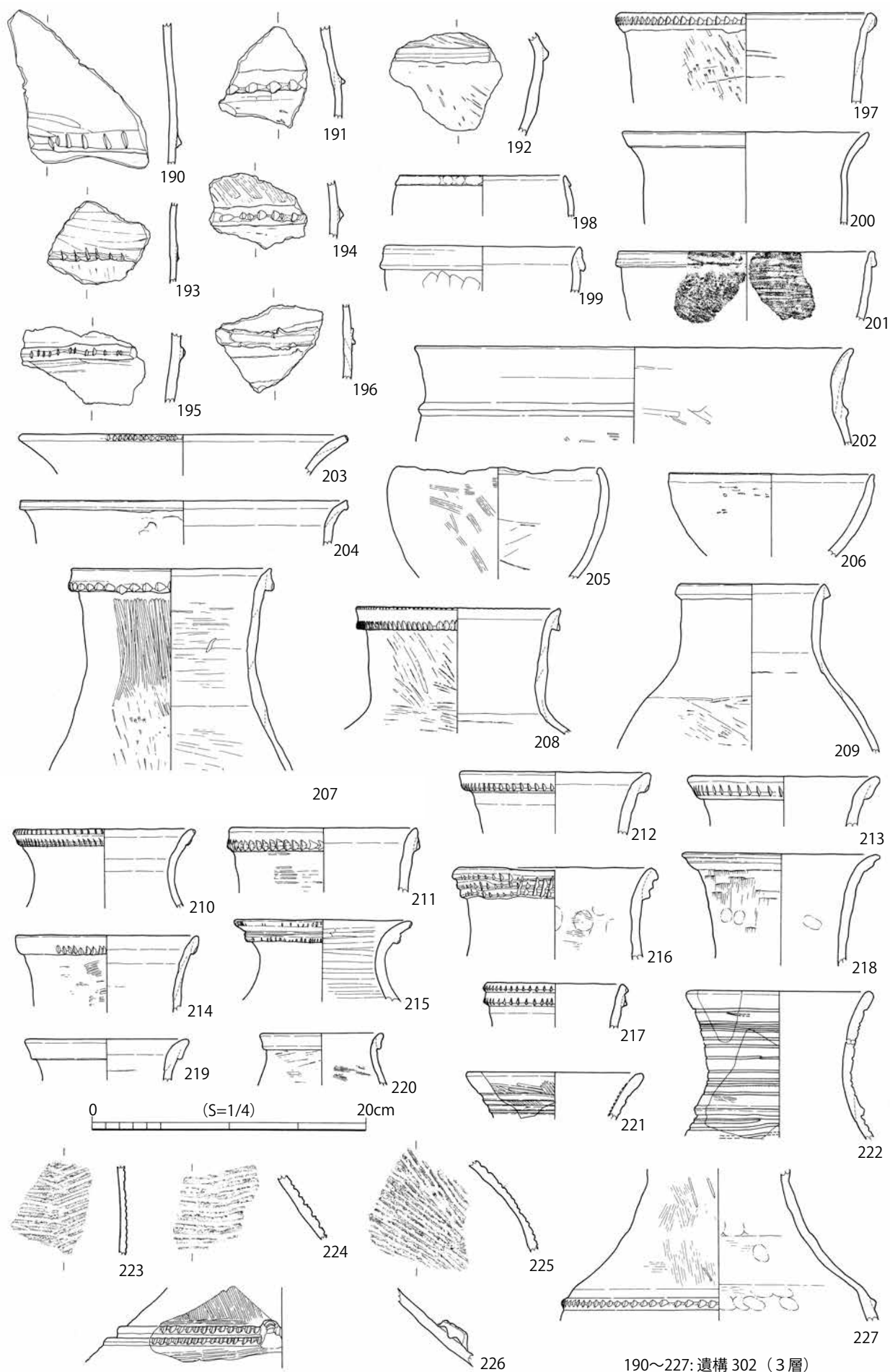
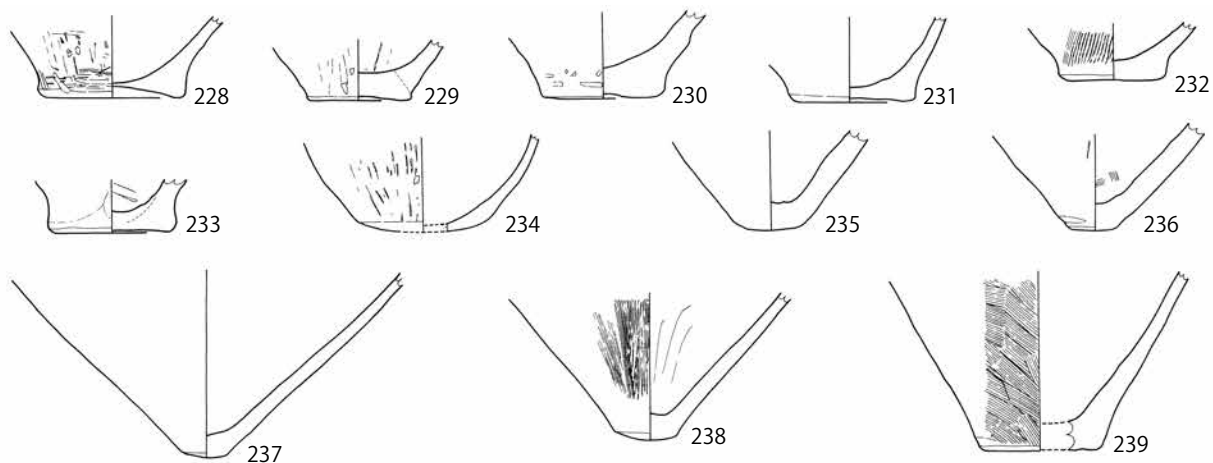


図 22 出土遺物・土器 9 (調査区 3-1・3-3)



228~239: 遺構 302 (3層)
240~262: 遺構 302 (1・2層)

0 (S=1/4) 20cm

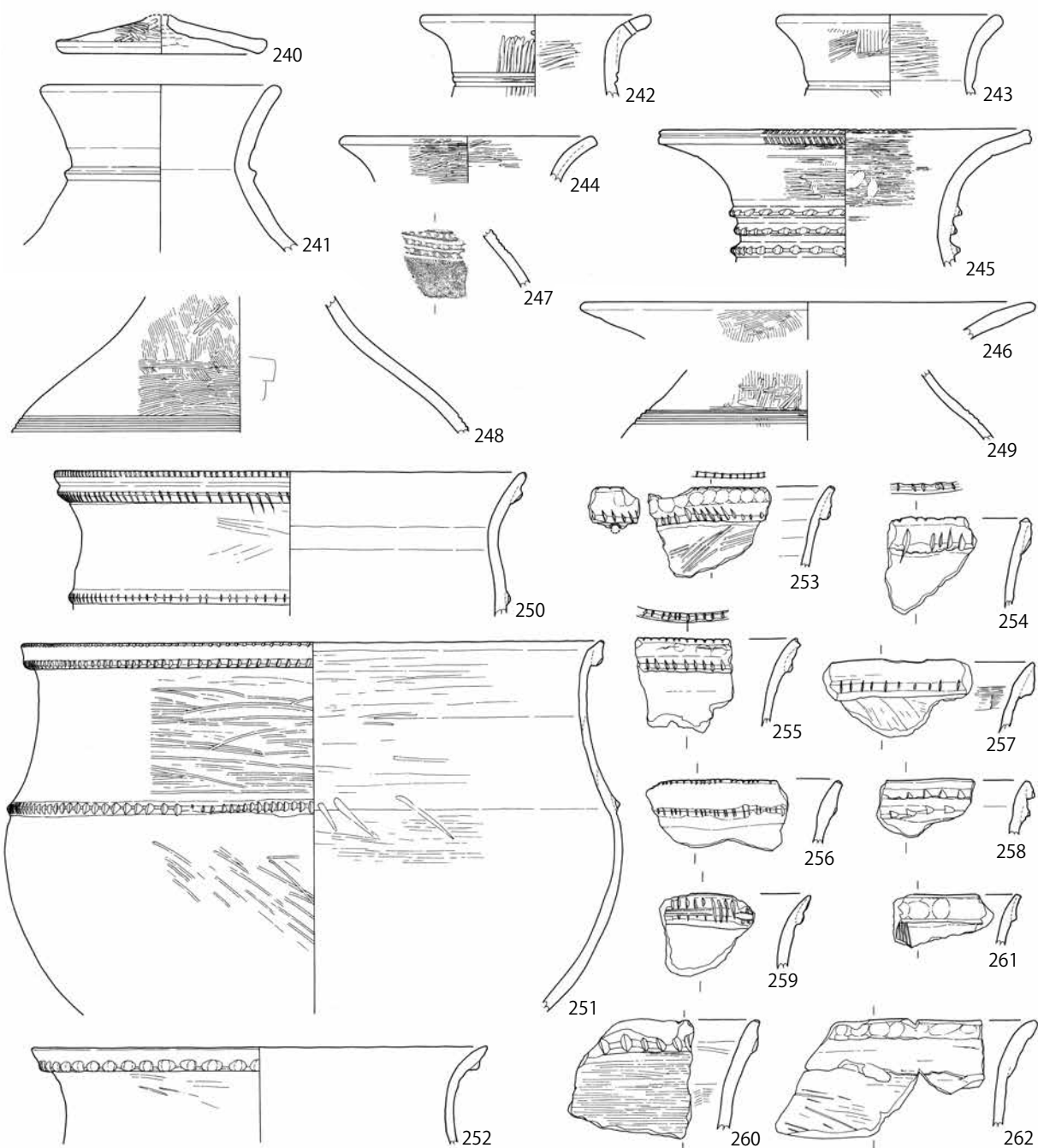


図 23 出土遺物・土器 10 (調査区 3-1・3-3)

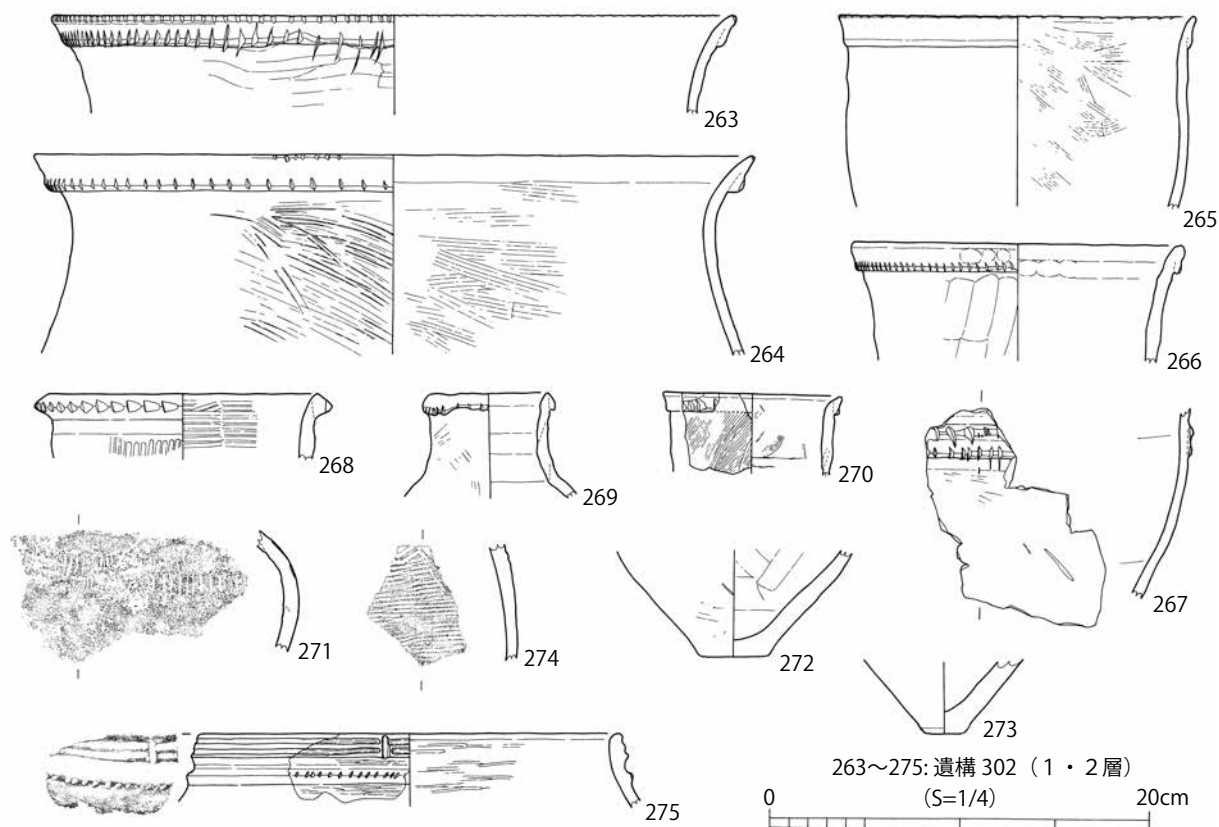


図 24 出土遺物・土器 11 (調査区 3-1・3-3)

壺を抽出することは難しい。突帯上のみを刻む 207・211～214・216・217、突帯上と口縁端部を刻む 208・210・215、キザミをもたない 209・218～220 がある。深鉢の分類に従えば A・B・D 類があり、C 類が存在しないことになる。217 は口縁部に 2 条の突帯を、216 は口縁部の幅広突帯を 3 段に区画する。209・211～213・218 は長石や結晶片岩を含み紀伊北部か阿波地域、216 は長石や角閃石を含み生駒西麓からの搬入品である。また、208・219 も長石を多く含み、色調からも搬入品と考えられ、壺の約 2/3 が搬入品となる。

221～227 は東海地方の土器あるいは東海地方の影響を受けた土器で、221・222・226・227 は条痕文土器系の変容壺の可能性がある。また、223～225 は条痕文土器で、223 は甕、224・225 は壺で、二又工具による条痕が施される。

228～239 は突帯文土器の底部で、平底 (228～233・239)、丸底 (234)、尖底 (235～238) がある。239 は底部が厚く、外面の調整がハケであることから弥生土器・甕の可能性も考えられるが、口縁部や体部の破片が確認できず、またハケ調整される突帯文土器も存在することから、ここに分類している。228 は長石・結晶片岩、234 は長石や金雲母、239 は長石等を多く含み搬入品である。

遺構 302、1・2 層ほか出土土器 (240～277) 弥生土器・突帯文土器とも 3 層と内容に違いが少なく中段階の遺物が主であると考えられる。ただ、明らかに新段階に位置づけられる壺 (245・246) のほか、3 層にはなかった壺蓋 (240) など出土している。

240 は円盤状の形状で天井部中央に円穴を穿っている。調整が丁寧で、黒色物を塗布することからも中段階に比定できる。壺の口縁部に円穴を穿つものがあり、それに対応した壺蓋が一定量あっても良いはずであるが、立野遺跡からの出土は 1 点のみである。また壺口縁部 242～244 は

口縁部が発達しておらず、247 は沈線間刺突、248・249 は頸体部の境が明確であることから中段階の所産と考えられる。

突帯文土器もほとんどが前期中段階に帰属するものと考えられ、確実に新段階に下る資料は見出せない。典型的な瀬戸タイプは少なく 250・251・256・257・259・260 は胎土などから搬入品と考えられる。253 は突帯下に焼成後、円穴を穿つ。また 261 は、突帯下にヘラ先で線刻を描く。1 条突帯の深鉢 265 は、口縁端部に扁平な突帯を付し、キザミも口縁端部のみに施す C 類であることから、瀬戸タイプの 1 条突帯とすべき資料である。266 は胎土に片岩粒を含み搬入品であるが、外面にススが付着しないことから壺の可能性もある。

271 は突帯文土器壺の体部で、胴部中位に 2 列の爪形文を施す。胎土から搬入品と考えられる。274・275 は東日本からの搬入品で、274 は条痕文土器深鉢、275 は浮線文系土器の壺である。

276 は前期弥生土器壺で、遺構 302 が埋没した後、遺構 313 が流れるまでに堆積した層位から出土している。口縁端部にキザミがあり、頸部の突帯は上方を強くヨコナデすることで成形されている。277 は遺構 302 から出土したが混入遺物と判断した弥生土器である。二股工具により直線文や波状文が描かれており、東海地方からの搬入品で中期の所産である。

遺構 313 出土土器 (278～312) 278～291 は南側のやや深くなった箇所から出土したもので、弥生時代後期の壺 (278)・高杯 (279・280)、弥生時代後期末頃の高杯 (281・282)、古墳時代前期の土師器高杯 (283～285)・鉢 (286)、古墳時代後期の須恵器杯 (287～291) がある。

292～312 は分層して掘り下げたものの、各期の遺物が混在した状況であり、底に張り付いた状態で原位置を保つと考えられる須恵器杯などもあるが、ほとんどが古代の流れによってかき回された状態で出土している。弥生時代前期の壺 (292)、弥生時代後期の壺 (293・294)・高杯 (295)、弥生時代後期末の高杯 (296・297)、古墳時代前期の土師器高杯 (298)、古墳時代後期の須恵器杯 (299～303)・土師器甕 (304)、古代の須恵器杯 (308)・壺 (309・310)、土師器甕 (304～306・312)・鍋 (311) などがある。

原位置を離れた土器 (313～316) 包含層や側溝などから出土した遺物として、条痕文土器 (313)、浮線文系の土器 (314)、須恵器杯 (315・316) がある。313 は水神平式の壺で東海地方からの搬入品である。

D) 調査区 3 - 2 出土土器 (図 26、図版 23)

遺構から出土した遺物はなく、すべて堆積土からの出土である。弥生土器甕 (317・318)、須恵器杯 (319・320)・はそう (321) がある。

E) 調査区 4 出土土器 (図 26、図版 23)

遺物の総点数は 1035 点で、東に向かって希少になっている。調査区 4 - 1 で 2 / 3 以上出土しており、突帯文土器・弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器が多い。322～332 は調査区 4 - 1、333～337 は調査区 4 - 2、338～340 は調査区 4 - 3 から出土した。遺構からの出土した遺物はなく、すべて堆積土から出土している。第 7 層からは突帯文土器深鉢 (322～324) が、第 6 層からは弥生土器壺 (326)・甕 (333・340)・脚台 (338)・高杯 (327・334・339)・壺蓋 (335) が、第 4 層からは古代の須恵器杯 (328)・壺 (329)・古墳時代の高杯 (336)、土錘 (337) が出土している。

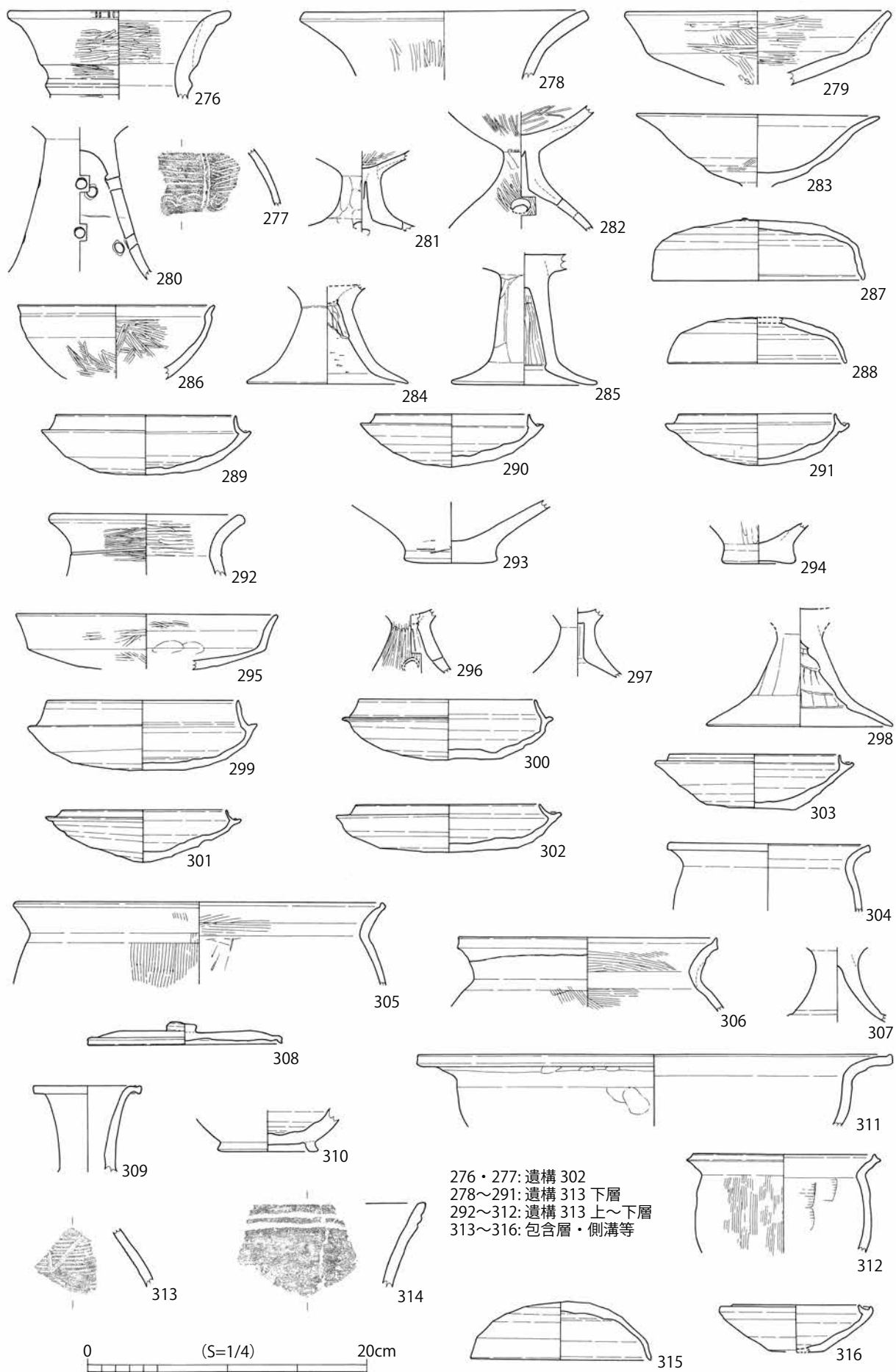


図 25 出土遺物・土器 12 (調査区 3-1・3-3)

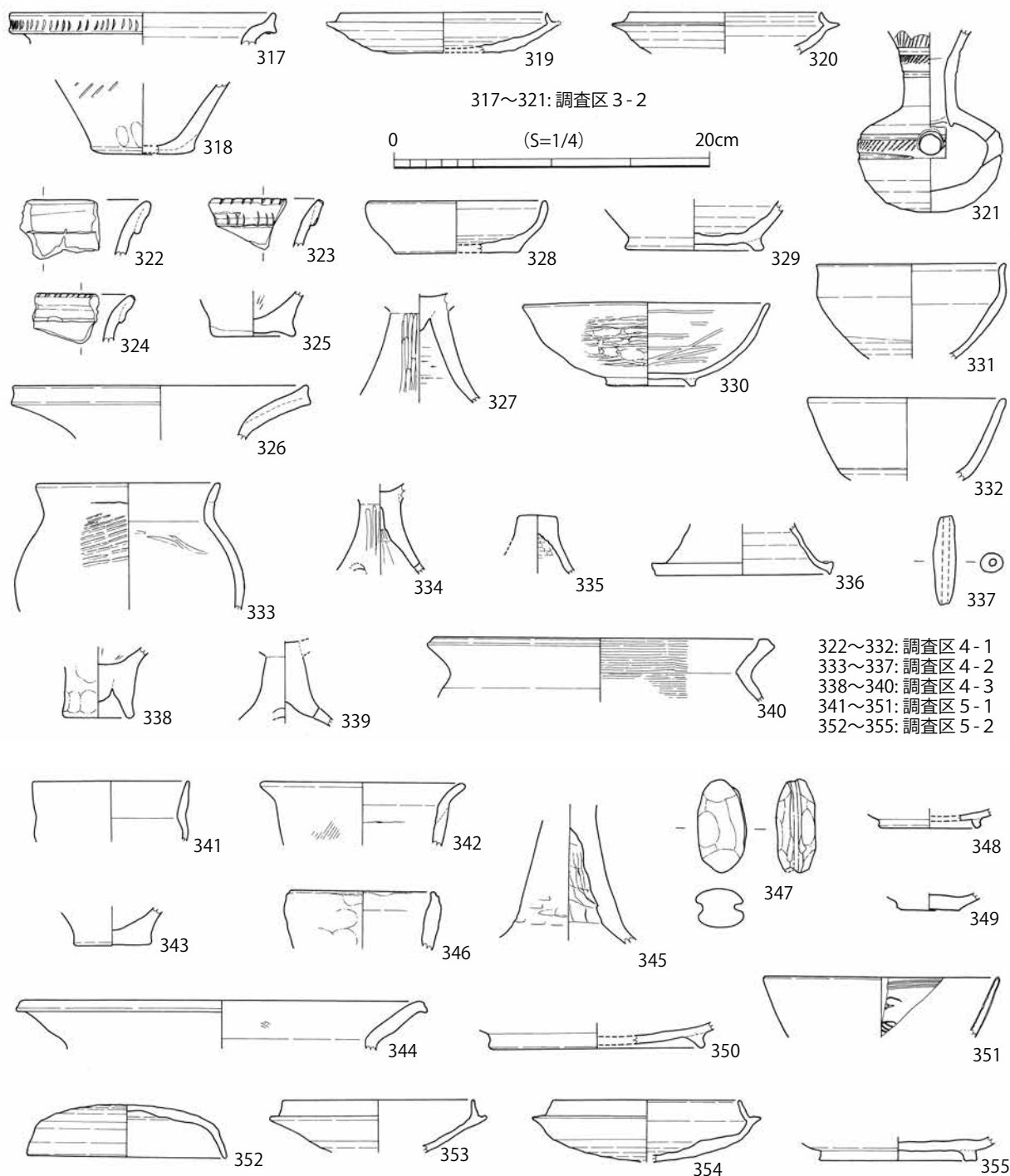


図 26 出土遺物・土器 13 (調査区 3-2・4・5)

F) 調査区 5 出土土器 (図 26、図版 23)

遺物の総点数は 1702 点で、西端の遺構 504 付近で多く出土しており、4 区同様突帯文土器・弥生土器、古墳時代に土師器・須恵器が多い。341～351 は調査区 5-1、352～355 は調査区 5-2 から出土した。遺構 512 から出土した遺物は古代の須恵器杯 (355) があり、第 5・6 層から弥生土器壺 (343)、古墳時代の土師器鉢 (341・342)・高杯 (345) が、第 5 層から古墳時代の須恵器杯 (352)、第 4 層から古墳時代の須恵器杯 (353・354)、古代の土師器甕 (344)・盤 (350)・製塩土器 (346)・土錘 (347)、瓦器碗 (348)、山茶碗皿 (349) が出土している。また、機械掘削時に第 3 層から青磁碗 (351) が出土している。

2. 石器 (図 27 ~ 36、図版 24 ~ 28)

遺構内や包含層中などから出土した、定形的な石器、剥片、原石などを含めた石器関連資は、総点数で 2219 点あり、このうち、使用を目的としたあるいは使用した石器類は 730 点となる。石材は、石棒を除くすべての器種で頁岩（スレート・粘板岩）が使用されている。打製石器の石材には頁岩とサヌカイトがあるが、肉眼観察では約 95% が頁岩で残りがサヌカイトとなる。畿内およびその周辺部の弥生遺跡、ほぼ同時期である堅田遺跡などでは、打製石器にはサヌカイト、磨製石器には結晶片岩や凝灰岩などを多用しているのに比べ石材選定に大きな違いを見出すことができる。サヌカイトに関しては表面がササクレだったように見える特徴から香川金山産の可能性が高く、明確に二上山産と言える資料はない。頁岩は地元で産するもので、原石は河原や海岸で調達でき、実際、出土した原石にも、磨滅が著しい円礫や、やや角がある礫がある（写真 13）。色調は黒色を呈するものが多いが、灰色や白色のものも一定量存在し、材質もキメの細かいものから、やや粗く砂岩に近いものまで様々で、石材の選定には大きな拘りがなかったように思われる。



写真 13 遺跡出土の石器原石

石鏃（356・369 ~ 373・584・592）すべて打製で、サヌカイト製と頁岩製があり、総点数で 9 点と同時期の弥生遺跡に比べ極端に少なく、ほとんどが破損した状態である。また、石鏃と同様に他の遺跡では一定量の出土がある石錐に関しては皆無である。石鏃のうち、356 は大型で、尖頭器に分類すべきかもしれない。基部が明らかな資料で凹基式が 2 点、平基式が 1 点、凸基式が 1 点である。確実に弥生時代前期中段階に帰属する資料は 370 ~ 372 を含め 4 点のみで、凸基式の 592 は中期以降の所産であろう。弥生時代前期の石鏃で、サヌカイト製は 3 点で金山産に限られ、少ない資料からの傾向ではあるが、サヌカイトの占める割合が高いと言える。これは、頁岩に比べサヌカイトの方が劈開性に優れ、細かい加工に適していたからであると考えられ、頁岩製のものについては比較的調整があまい。

表 2 石器の石材（肉眼観察による分類）

	サヌカイト	頁岩	砂岩	結晶片岩	合計
調査区 1		5			
調査区 2	5	59	1		
調査区 4	3	91	4		
調査区 5	7	76	9		
調査区 3	78	1693	165	23	
合計	93	1924	179	23	2219
占有率	4.19%	86.71%	8.07%	1.04%	100%
遺構 302	68	1450	138	20	
3 層	62	963	115	14	1154
占有率	5.37%	83.45%	9.97%	1.21%	100%

表 3 石器組成表

	石鏃	磨製石包丁	磨製石斧	打製石斧	楔形(両極)石器	削器刃器	敲石類	台石	砥石	石錐	石棒	小計	石核	原石	不明	剥片	合計
調査区 1	1													1		3	5
調査区 2	0	0	2	3	8	6	1	0	0	0	0		0	0	0	45	65
調査区 4	1	0	1	2	5	16	3	0	2	0	0		0	0	0	68	98
調査区 5	1	1	0	0	7	10	7	0	2	0	0		0	0	2	62	92
調査区 3	6	3	29	40	120	281	128	18	2	1	23		6	10	6	1286	1959
合計	9	4	32	45	140	313	139	18	6	1	23	730	6	11	8	1464	2219
占有率	1.23%	0.55%	4.38%	6.16%	19.18%	42.88%	19.04%	2.47%	0.82%	0.14%	3.15%	100%					
遺構 302	5	1	28	36	103	249	107	14	0	1	20		6	9	3	1094	1676
3 層	4	0	20	19	76	163	94	14	0	0	14	404	6	9	1	734	1154
占有率	0.99%	0.00%	4.95%	4.70%	18.81%	40.35%	23.27%	3.47%	0.00%	0.00%	3.47%	100%					

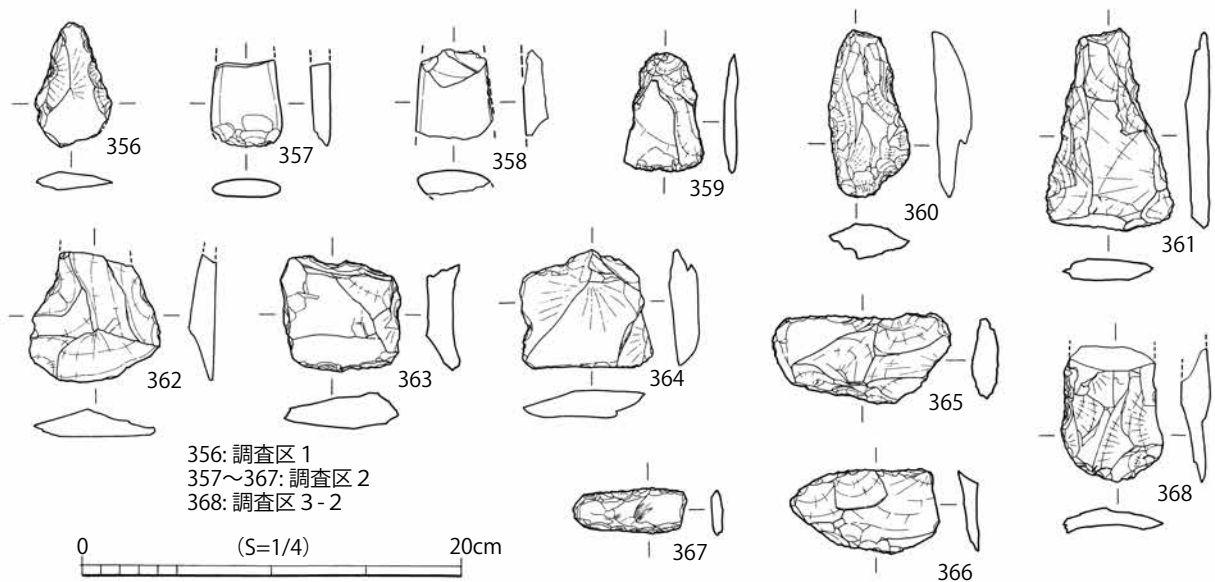


図 27 出土遺物・石器 1（調査区 1・2・3-2）

371 は先端部が菱形を呈すると考えられ、特異な形態の石鏃である。

磨製石包丁（374～376・595） 総数で 4 点出土している。すべて頁岩製で、直線刃半月形の形態をしているが、出土層位から 374 のみが確実に弥生時代前期とすることができ、他のものについては時期が限定できない。374・375・595 は扁平な円礫を研磨して成形するが、376 は薄く割った剥片を研磨して成形する。595 は紐孔が 1 つで、対になる位置に穿孔途中のキズが残り、貫通した孔も径 2mm 程度で紐を通せる大きさではないことから、未成品の可能性がある。また、刃部は一文字ではなく、S 字状に湾曲する。374 は表裏の両側に敲打痕があり、刃部が鋸歯状を呈している。刃毀れしたものを再利用している可能性も考えられる。このほか削器・刃器に分類しているなかの横長で扁平な一群（472～475）や半分に折損していると考えられる 484～486 などが打製の石包丁である可能性がある。

磨製石斧（357・358・377～397・585） 磨製石斧、磨製石斧の未成品・破損品と判断したものも含め調査区 2 で 2 点、調査区 3 で 29 点、調査区 4 で 1 点出土しており、すべて頁岩製である。棒状で刃部の幅が狭い鑿状石斧と刃部の幅が広い扁平石斧があり、すべて加工用石斧に分類でき、用途によりある程度の使い分けが行われていたと考えられる。形態的には縄文時代にある石斧の系譜であり、稲作とともに朝鮮半島からもたらされる大陸系磨製石器の太型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・扁平片刃石斧は出土していない。なお、伐採斧用の木製柄（605～608）は出土しており、装着孔から 605 はやや扁平であるものの、606・608 は太型蛤刃石斧の柄であると想定でき、元来あったことは確実である。ただ、伐採斧に関しては、強度的に頁岩でなく、もっと硬く粘りのある石材であったと推測できる。

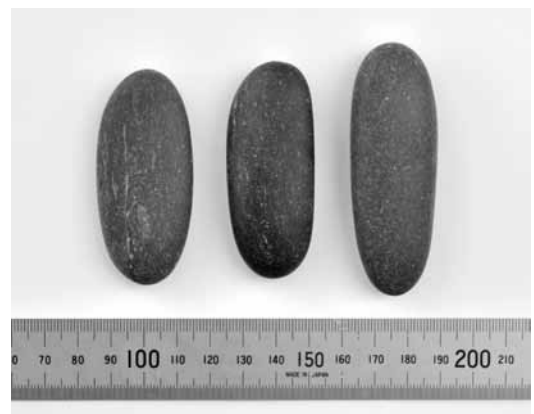


写真 14 頁岩の自然礫

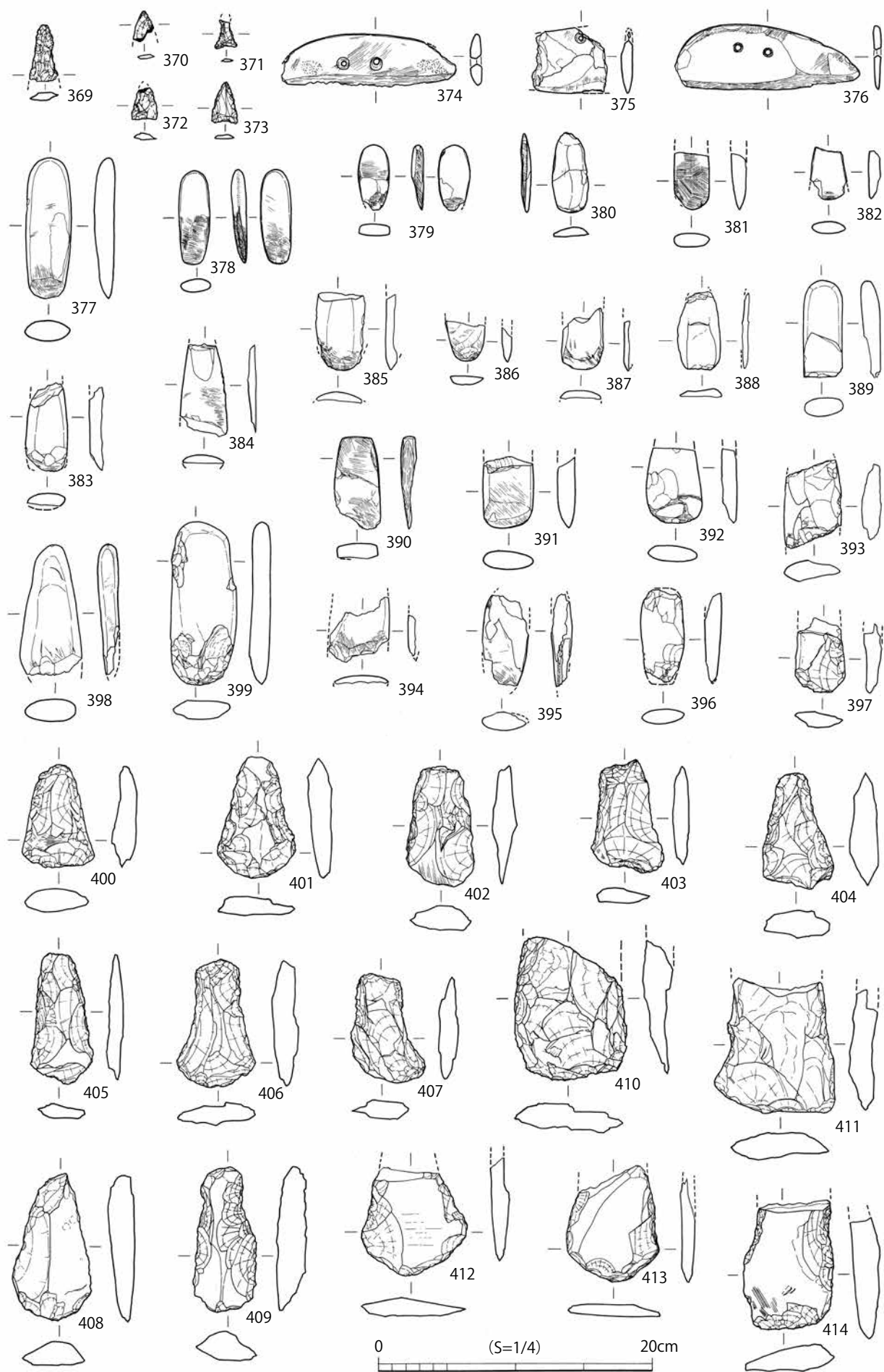
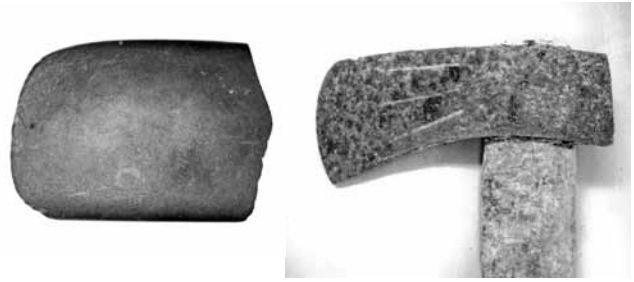


図 28 出土遺物・石器（調査区 3-1・3-3）

磨製石斧の原石は海浜部で採取できる円礫（写真 14）で、当初から石斧のサイズに見合う原石を選択したと考えられる。刃部が厚い 377・381 などのように原石の片端を研磨するのみで成形したものがある一方で、刃部が薄い 379・382・392 などでは片端を



直接打法で割欠き刃部のみ研磨するか、380 写真 15 刃部が片減りする石斧（391）と現在の縦斧のように両極打法で縦に半裁して裁断面を研磨している。

鑿状石斧としては、377～389・395・396 があり、389 は未成品の可能性もある。381・385 は両面から研ぎ出した両刃に近い刃部であるが、他は片刃を基本としている。378～380 などは側面を研磨して面取りしている。破損状況は 381 が横方向に折損する以外は、先端からの衝撃により剥離するように割れており、使用方法の違いがあった可能性がある。小型の片刃であることから基本的には鑿としての機能が考えられ、舟形容器などに残る削痕などからも容器の内側を刮り抜くなどの作業に用いたと想定できる。そのなかにあってやや大振りの 377 は 604 のような斧柄に装着されて手斧状に使用された可能性も考えられる。

扁平石斧としては 390～394・398・399 があり、399 は未成品と考えられる。390 は側面・基部側を研磨して面取りしており、形態的には弥生時代の扁平片刃石斧に近い。基本的に片刃で、破損状況も先端からの衝撃により剥離するように割れているものが多く、鑿状あるいは手斧状に使用していたと考えられる。ただ、391・392 は基本的には片刃であるが横方向から衝撃により折損し、しかも刃部が片減りしている状況から、刃部を縦方向にして柄に装着し、木製品製作時の部材の小割に使用した可能性が考えられ、かなり使用された現在の斧の使用痕（写真 15）からも窺うことができる。

打製石斧（360～362・368・397・400～428・586）撥状の形態をした石器で、10cm以下のものから最大で 27cmのものまで大きさは様々で、用途も一様でないと考えられる。石材はすべて頁岩である。遺構 302 に限っても 36 点の出土があり、他のものについても多くが弥生時代前期に帰属すると考えられ、極端に多い傾向がある。両極打法などで円礫を適度の厚さに割った後、直接打法で成形しており、側辺に階段状剥離が顕著に残るものが多い。自然面を残すものも多いが、基本的に両面加工を施している。刃部は 401・415・416 のように外湾するものや、410・411・417 のように横一文字のもの、406・407 のように斜になったものがある。415～417 のような大型品は本来言われるように土堀具（鋤）として使用されたと考えられる。415 は全体的に磨滅（使用）痕が顕著であるが、柄の装着痕は明確でない。416・417 は未使用品で、このうち 417 は薄い作りであり、実際土堀に耐える強度があるか疑問も残る。一部磨製の 400 を含め 401～404 などの小型品には、刃部とする方に衝撃による欠けが生じ、基部側に磨滅（使用）痕が認められことから、本来とは逆方向に使用して木を割る楔として利用したと想定することもできる。破損状況は、磨製石斧同様に先端部からの衝撃により中ほどで剥離する 410・413・418・421・422 などや、平面方向からの衝撃により中央付近で折損する 414・419・425・426 などがあり、同じサイズでも使用方法に違いがあった可能性がある。

楔形（両極）石器（363～365・429～466・587・586）台形あるいは長方形を呈する石材の

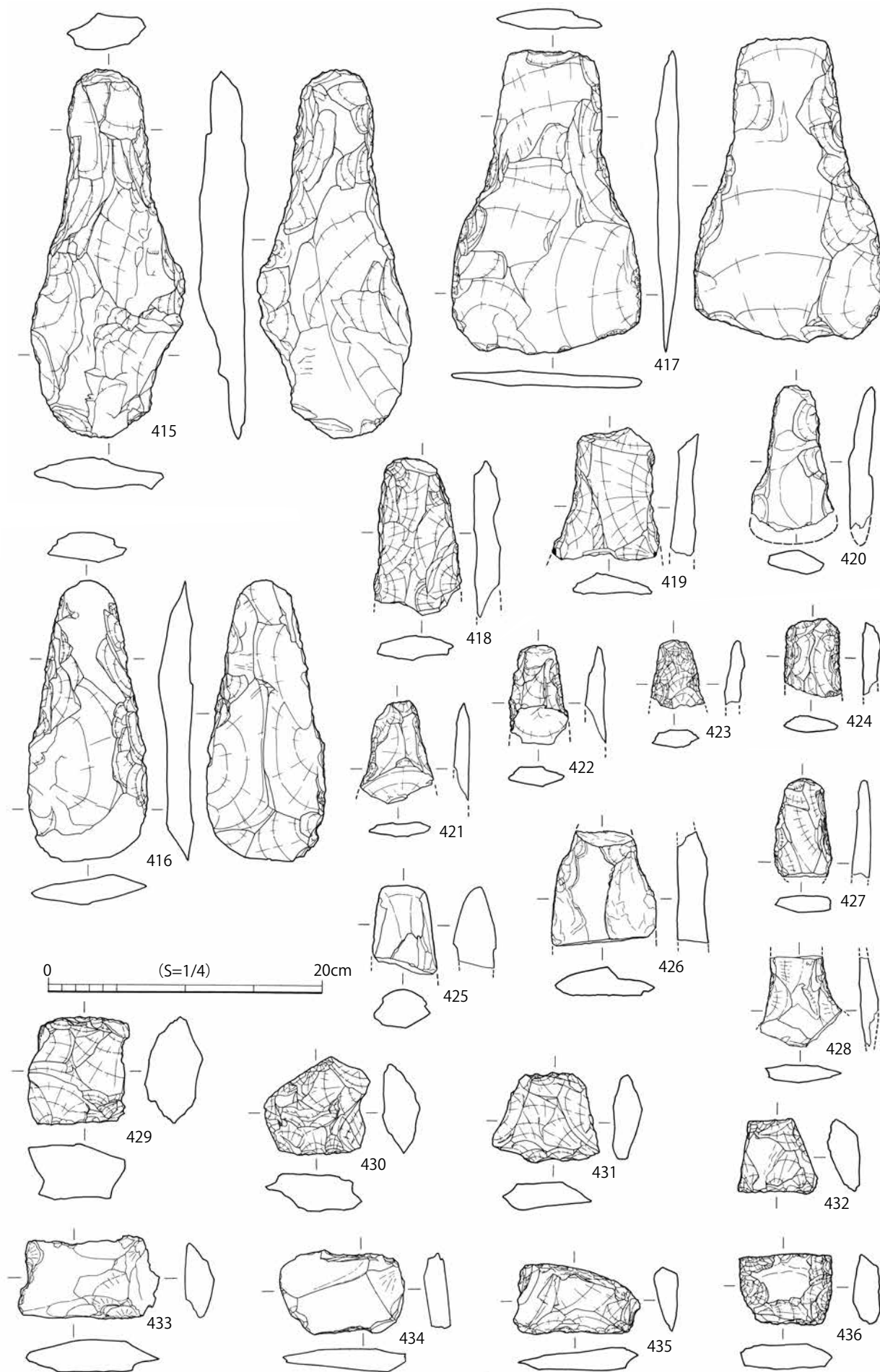


図 29 出土遺物・石器 3 (調査区 3-1・3-3)



図 30 出土遺物・石器 4 (調査区 3-1・3-3)

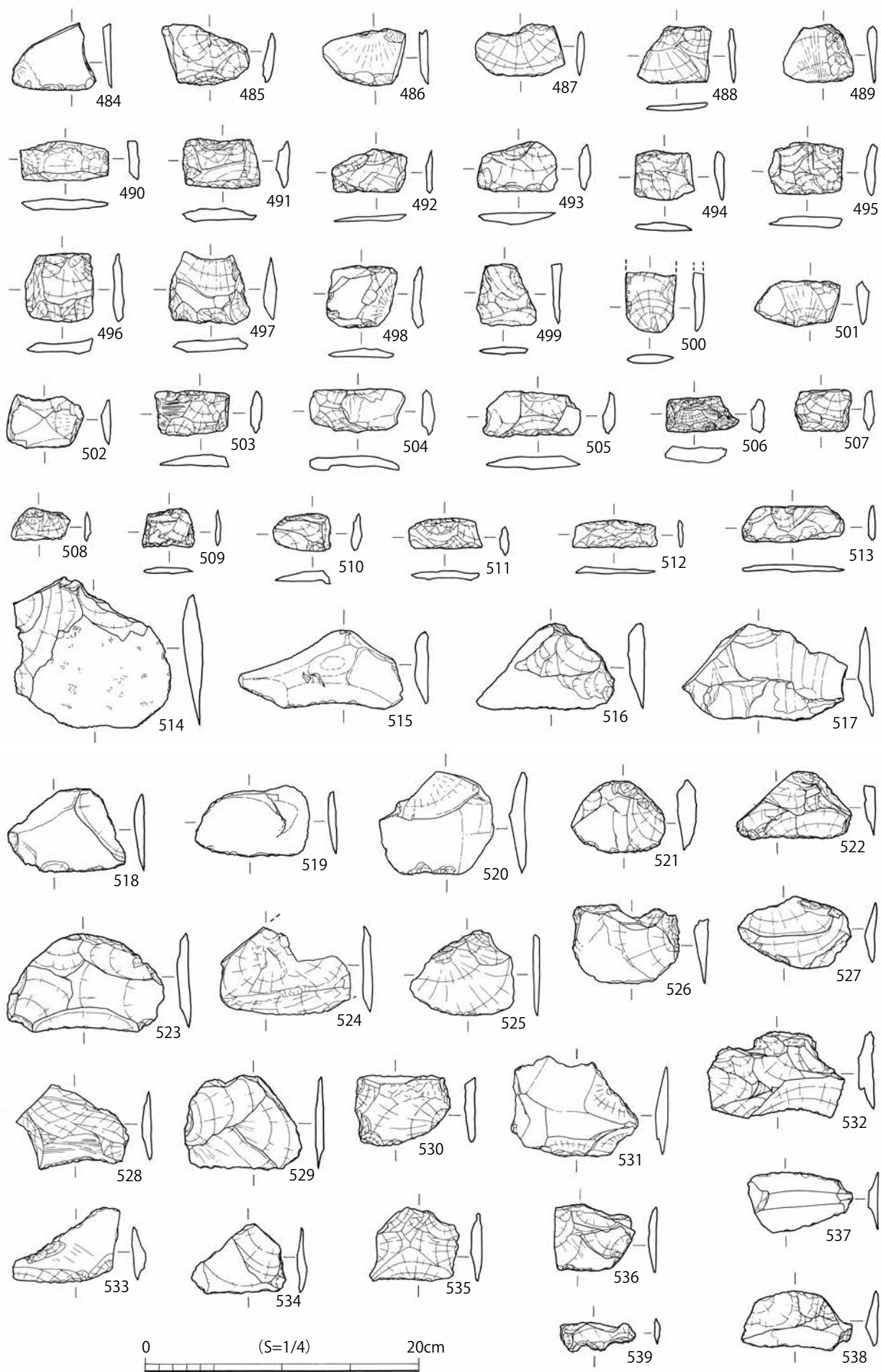


図 31 出土遺物・石器 5 (調査区 3-1・3-3)

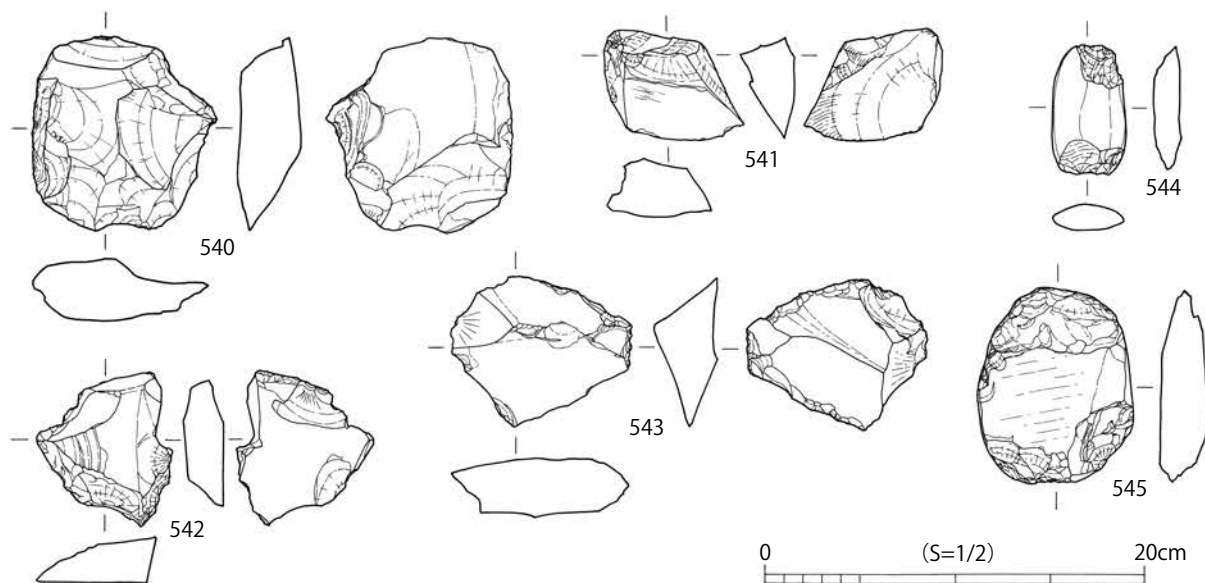


図 32 出土遺物・石器 6（調査区 3-1・3-3）

相対する辺に両極打撃による階段状剥離や潰れ痕を残す石器で、石材はすべて頁岩である。遺跡全体で 140 点、遺構 302 で 103 点と石器に占める割合が高く、遺跡内での石器・木製品製作を物語る。剥離が長方形の長辺に形成されるものが多く、他に 4 辺に剥離痕を残すもの、一辺ないし二辺に裁断面をもつものがある。大きさは 5～9 cm で、比較的同じサイズが揃っている。石材を両極打法で割っていく過程で出た残渣や石器素材になる一方で、そのものが楔や削器などの石器として使用され、用途も一様でなかったと考えられる。また、打製石斧の破片も、楔形石器に分類したなかに含まれている可能性もある。大型の 429 は断面が紡錘形を呈し、相対する 2 辺に潰れ痕が認められる。他辺は裁断面となっており、石核の可能性もある。

削器・刃器（359・366・367・467～456・588～590・597・598） 鋭利になった辺を刃部として利用した石器で、両極打法で分割する過程で出る剥片を利用したものについては、楔形石器との分別は難しい。石材は少量のサヌカイトが認められる。遺跡全体では 300 点を越し、全石器に占める割合が極端に高く楔形石器とともに木製品の製作に係る石器と位置付けることができる。長方形・台形状を呈する定形なもの、不整形な大型のものがあり、木製品表面の調整など様々な用途が考えられる。長方形で四周に調整痕をのこすものは一定量あり、同じサイズのものが多いことから、形状を意識して製作されたことが窺え、楔形石器の一部を石器素材した場合、それから得られる石器の可能性もある。511～513 などは細く丁寧に成形がなされ、小刀としての利用が考えられる。514～536 は形が整わず、514～521 は円礫を割ってできた剥片をそのまま利用し自然面を多く残し、他のものについても不整形の剥片をそのまま利用している。

石匙（537～539） 表 3 では削器・刃器にカウントしているが、長軸方向の片側に小さな摘みを作り出したもので、刃部は長辺に形成されており、いわゆる縦型石匙である。3 点のみ確認しており、石材はともに頁岩で、538 は自然面が残る。539 は異形であるが摘みが付されていることから石匙に分類した。

石核（540～543・545） すべて頁岩を原材としている。540～543 は直接打法で、不定型な剥

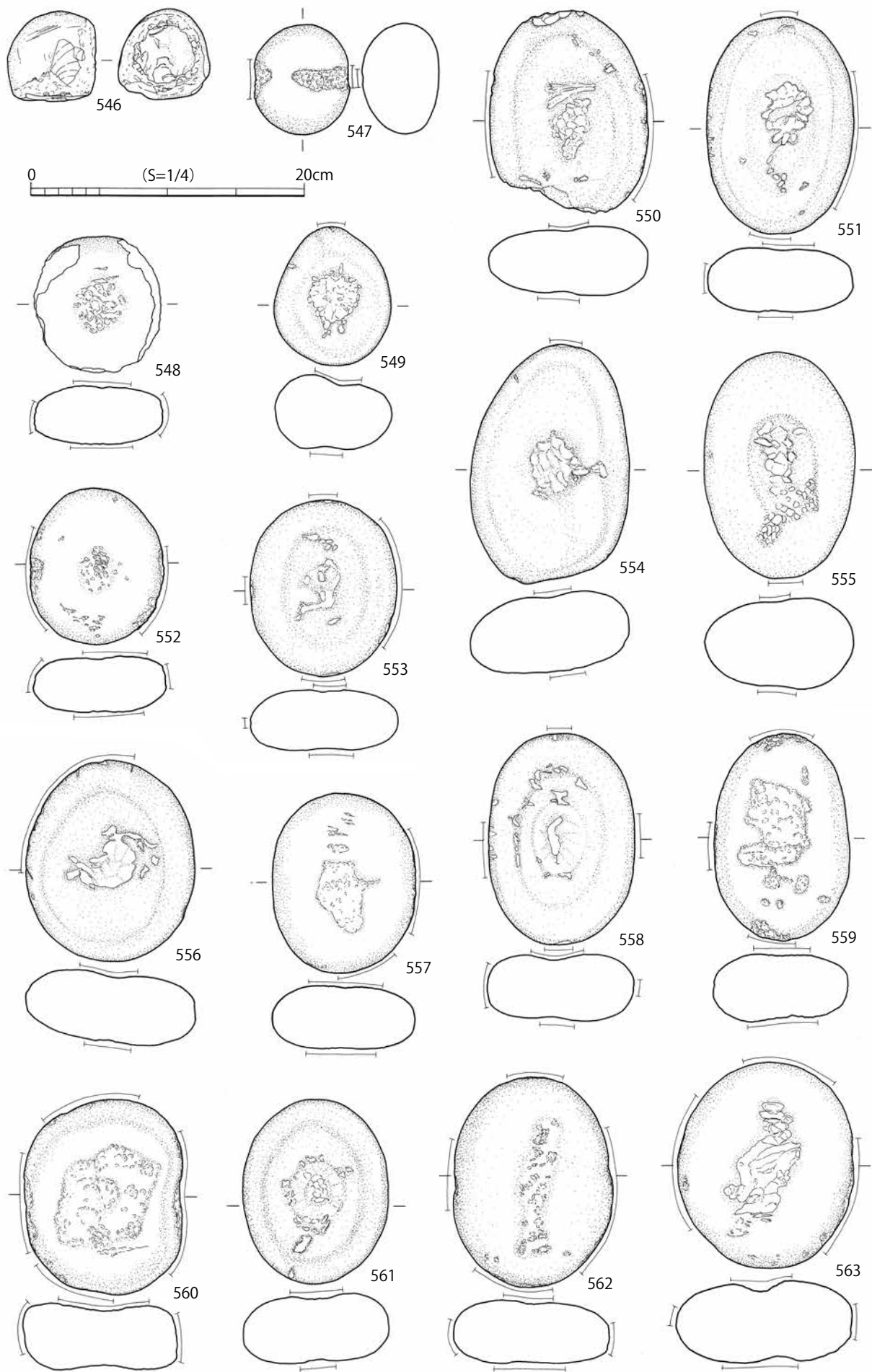


図 33 出土遺物・石器 7 (調査区 3-1・3-3)

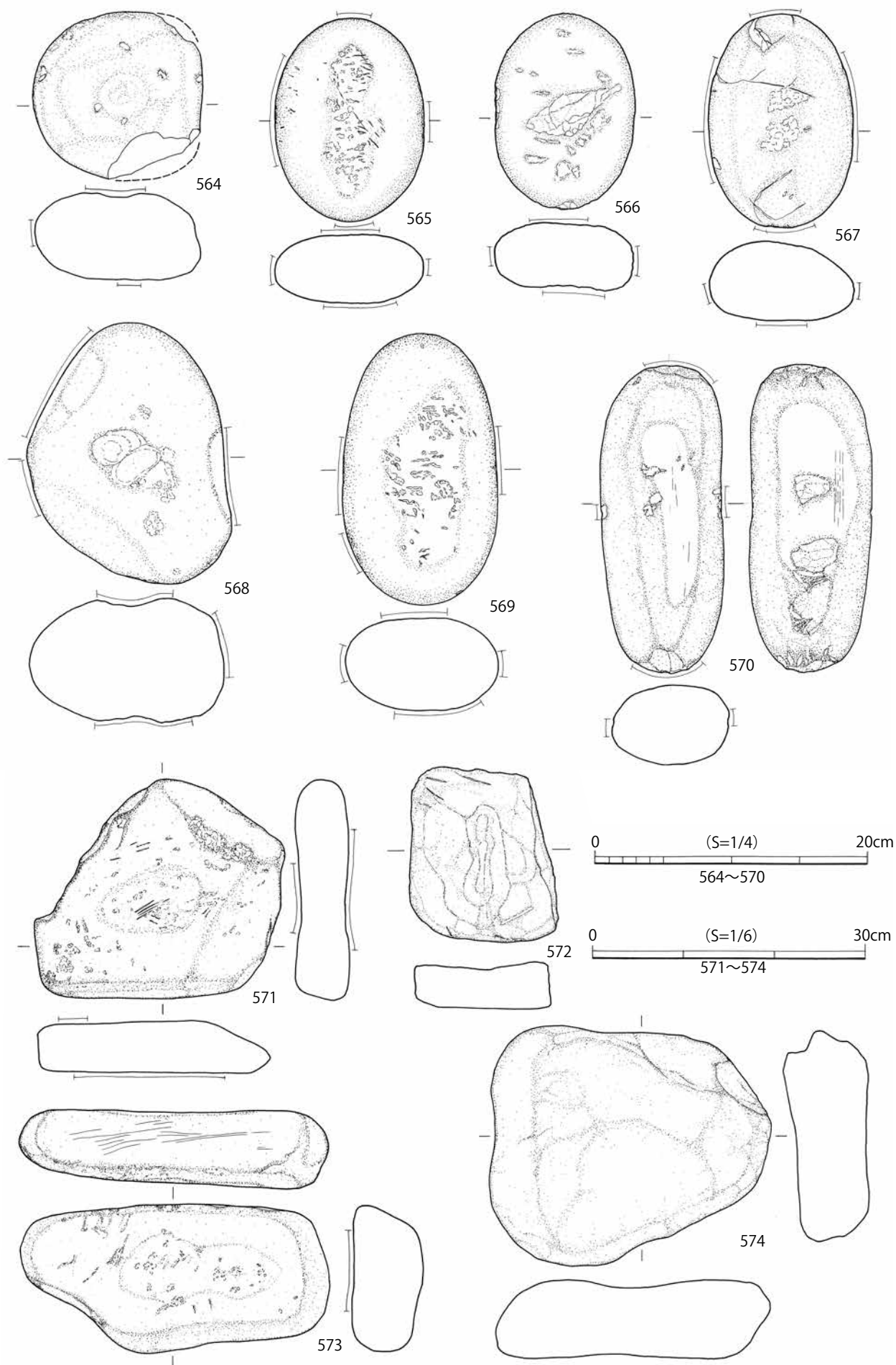


図 34 出土遺物・石器 8 (調査区 3-1・3-3)

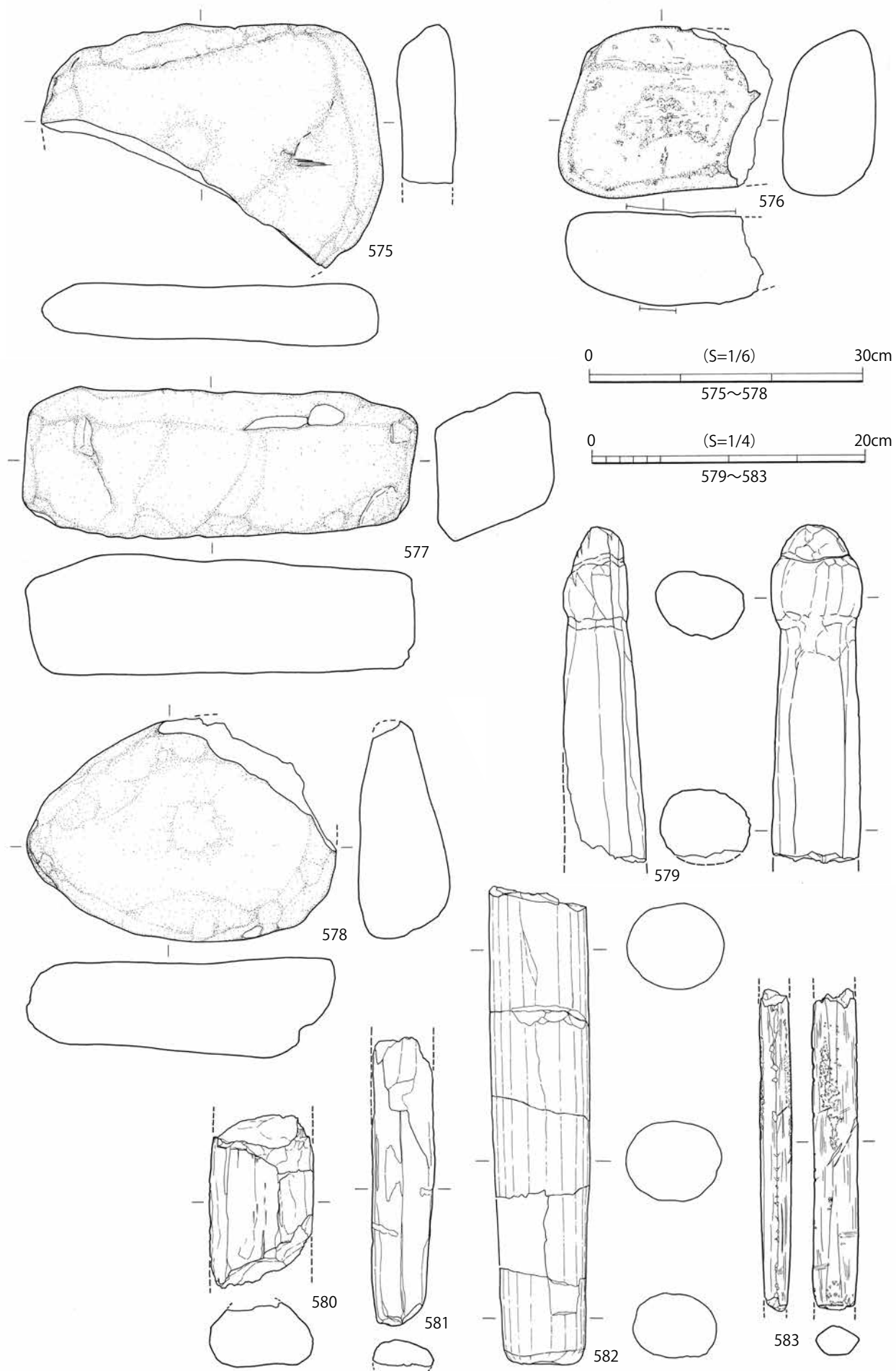


図 35 出土遺物・石器 9 (調査区 3-1・3-3)

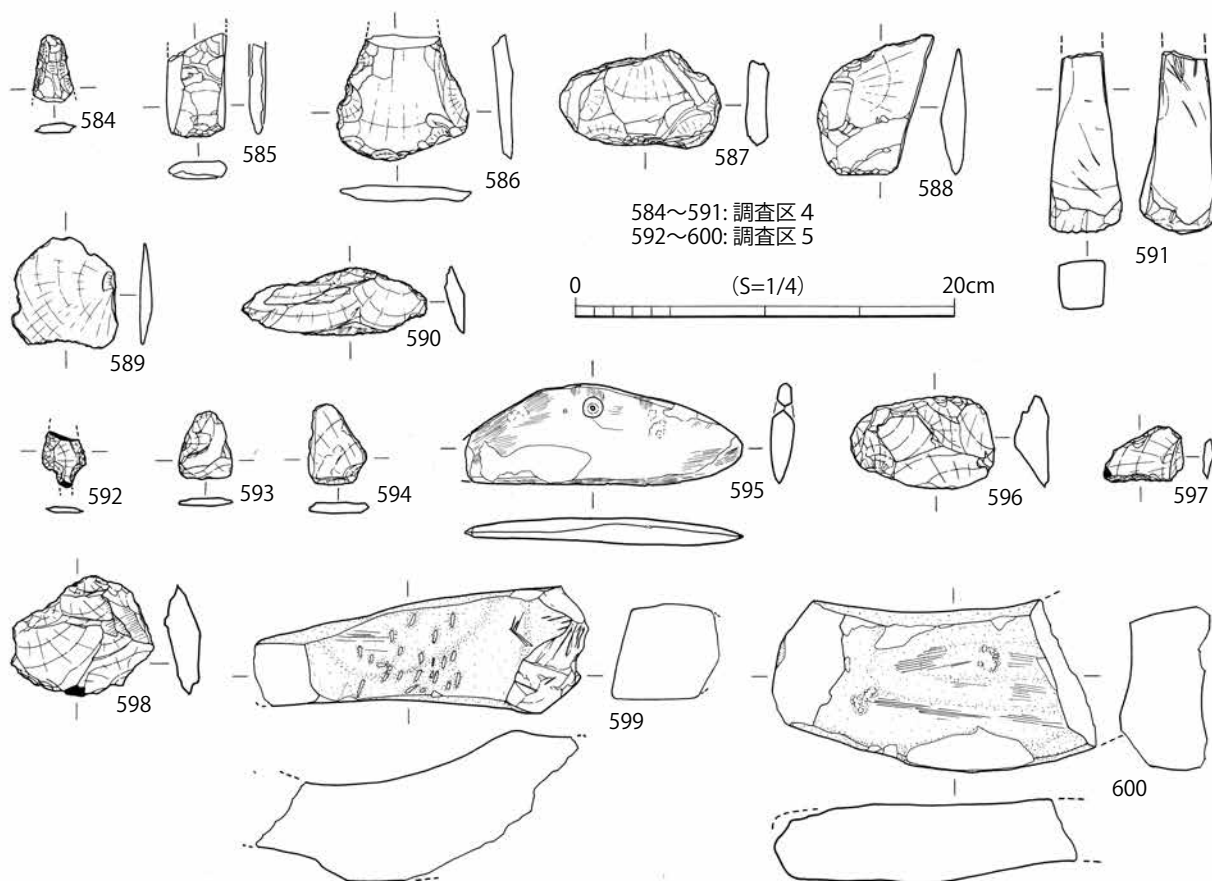


図 36 出土遺物・石器 10 (調査区 4・5)

片を剥離しているが、得られる剥片素材は小さく、どのような石器を目的としていたか不明である。545 は両極打法で縦に分割し、更に小さく剥離をおこなっている。

敲石類 (546・548～570) 礫の平面および側面に敲打による凹みやあばた状の潰れ痕を留めるものである。大きさは様々で、形態はほとんどが楕円形で扁平を呈する。石材は少量の頁岩製がある以外は、すべて砂岩である。遺跡全体では 139 点、遺構 302 だけでも 100 点以上の出土があり、突出して多い楔形石器や削器・刃器を除けば高い割合を占める。546 は、円形を呈し頁岩製である。潰れ痕が顕著に認められ、石器製作のハンマーとして利用された可能性がある。また、大型の 570 には敲打痕以外に磨面が認められる。

平面部は、中央部にのみ敲打が集中して円形に凹むもの、中央付近に強い敲打で、深い線状の打裂痕をのこすもの、面の広い範囲に緩やかな敲打を示す細かい点状の痕跡を残すものがある。遺構 302 からは堅果類の殻が集中して出土した箇所があることなどからも、中央部のみ円く凹むものについては、調理具として堅果類の殻割をするのに用いられたと考えられる。また、楔形石器が多く出土し石器製作をおこなっていることが明らかなことから、線状の打裂痕があるものについては、両極打法による石器製作ハンマーとしての利用が考えられる。これ以外にも木材を割る際の楔のハンマーとしての利用も想定することができる。

石錘 (547) 1 点のみ出土している。有溝石錘に分類でき、砂岩の円礫の短軸に浅い溝をもつもので、溝は全周していない。出土層位から弥生時代前期に帰属すると考えられ、漁網用の錘と評価すれば、生業の一端を窺う資料である。

台石 (571～578) 敲打痕や磨面をもつ石器で、片手では持ち上げられない大型品である。遺跡全体で18点あり、そのうち14点が遺構302から出土している。すべて砂岩製で、扁平な板状の石が多い。中央部が大きく凹む572などは調理具として、他のものについても石器製作工具として、敲石とセットとして用いられたと考えられる。また、577などのように方柱状で磨面をもつ台石に関しては、磨製石斧の研磨にも用いられたと想定できる。

砥石 (591・599・600) 磨面をもつ台石を除外して、遺跡全体で6点で、確実に弥生時代前期とする資料はない。図示したものは形状からも鉄器に使用されたと考えられる。

石棒類 (579～583) すべて結晶片岩製で、小さな破片を含め23点の出土があるが、破碎された状態であり、個体数とすれば5・6点であると考えられる。579・582は灰色から銀色を呈する片岩で、徳島での製作が指摘されているものである。580・582には被熱痕が認められる。579はやや扁平で、頭部は丁寧に作り出されており、先端に向かって段を成してすぼまっている。581・582は基部側破片であるが、581は縦方向に分断されており、582は輪切りするようにほぼ等間隔に分断され、散らばった状態で出土している。583は丁寧に研磨され両側が稜をなしており、石剣に分類できる。両端が欠損し、両端の裁断面付近には細い線刻が巡らしていたと考えられる。表裏面には細かい敲打痕が顕著に認められ、刃部にも敲打によると考えられる凹みが認められる。石棒類は、縄文時代の祭祀に用いられたものであり、近畿では縄文から弥生時代への移行期の集落から大型粗製の石棒が出土する。立野遺跡でも縄文時代的な祭祀が継続していたと推測でき、祭祀に際しては、火を伴う儀式をおこない、最終的には破碎されたと考えられる。

3. 金属製品 (図37、図版28 601～603)

601・602は銅環で、603は無肩袋状鉄斧である。601は調査区3-3で第3層直下の地山直上で、602・603はともに調査区5-1で第4層直下の第6層上面で出土した。古墳時代の遺物であると考えられ、銅環などは古墳の副葬品として出土することが多いことから、付近に古墳が存在した可能性もある。

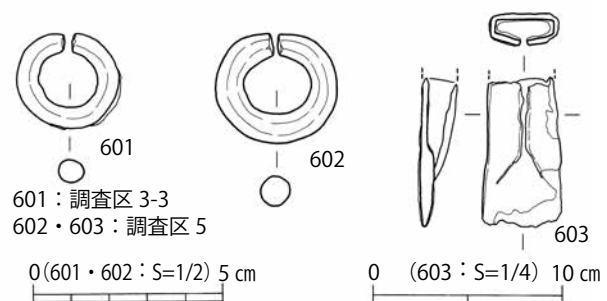


図37 出土遺物・金属製品

4. 木製品

木製品は、遺構 302 の第 3 層から製品・未成品・原材が多量に出土した。共伴する土器等から、弥生時代前期中段階の流路内の一括資料として評価できる。このほか、弥生時代中期から古代までの流路堆積を含む遺構 313 と、中世の水田耕作層とみられる 5 区第 4 層からも木製品が出土している。

木製品・木片・自然木サンプルは仮に付けた登録番号で 876 点分出土している。保存処理を行った木製品・原材は 184 点（w001 ～ w184）あり、木製品や原材とみられる破片等を加えて 196 点の遺物（604 ～ 799）を実測した。その他製品破片や木片等を一括した袋を多量に持ちかえって洗浄・精査し（w201 ～ w661）、有用と判断した資料について専門家の協力を得て樹種同定と木取り方向の確認を行った（WKY184 ～ 499）。また、遺構 302 内に倒れていた自然木の輪切りサンプルを作成し、樹種と径を記録した（WKY505 ～ 708）。

これらの木製品の分類は『木器集成図録 近畿原始編』奈良国立文化財研究所編に基本的に準じるが、類例のないものについては仮の名称を付した。特徴的な製品が多いため加工痕・木目を出来る限り表現し、期間の許す範囲内で残存状態の良好な面を展開・図化した。

A) 遺構 302 第 3 層出土木製品（図 39 ～ 64、図版 29 ～ 39）

遺構 302 の第 3 層出土木製品・原材は、弥生時代前期中段階の一括資料であり、172 点図化した。木製品は遺構 302 東側の落ち際に多く、土器と同様の出土傾向を示している（図 38）。自然木は同様の傾向を示し流れに平行したものと、岸から流路内に直交して倒れたとみられる根付きのものが確認されている。

3 層出土木製品は、工具・農具・狩猟具・食事具・容器・建築部材・木材等に区分できる。その内訳は、工具 6 点（斧膝柄・斧直柄・楔状木製品）、農具 53 点（平鋤・広鋤・泥除・刈払具・堅杵）、狩猟具 9 点（弓・矢）、食事具 7 点（匙・堅杓子）、容器 46 点（舟形・鉢・浅鉢状・皿状）、建築部材 22 点（梯子・柱材・垂木ほか）、その他 6 点（琴状木製品・俎状木製品ほか）、木材 23 点（丸太材・半裁材・割材・板材）である。

工具は膝柄横斧の柄（斧膝柄）・直柄縦斧の柄（斧直柄）・楔状木製品がある。

604 は斧膝柄。サカキの分枝部を用い、全長 40.2cm。斧台は装着部を欠失するが、前面の段差部分が若干残存する。斧台装着部付近の横幅は 3.2cm で、加工用の斧の柄と考えられる。

605 ～ 608 は斧直柄。モチノキ・カシのみかん割り削り出し材を用いており、頭部はやや歪んだ形状を呈している。装着孔の規模・形状から、伐採斧の柄と考えられる。完形品はなく、個々に残存状態の良好な面を図化した。605・606 は装着孔のくびれ部の握り側が前後に三角形状に突出する。607 は装着孔のくびれ部の握り側が後ろだけ三角形状に突出しており、その端部に刻みをいれる。装着孔から頭部先端に向かって、材の形状に左右されたような変形した多角形状に広がる。2 片が別個体の可能性もあるが、並んで出土している。608 は頭部の破片である。

609 は楔状木製品。長さ 35cm、直径 8 cm の丸太材を半裁し、表面側を斜めに削り落す。使用痕は認められない。

農具は平鋤・広鋤・泥除のほか、刈払具・堅杵などが確認できる。

平鋤はイスノキの板目材を用いて製作しており、標準的な形のは弥生時代中期以降に各地でみられる曲柄平鋤と形状が類似する点が注目される。

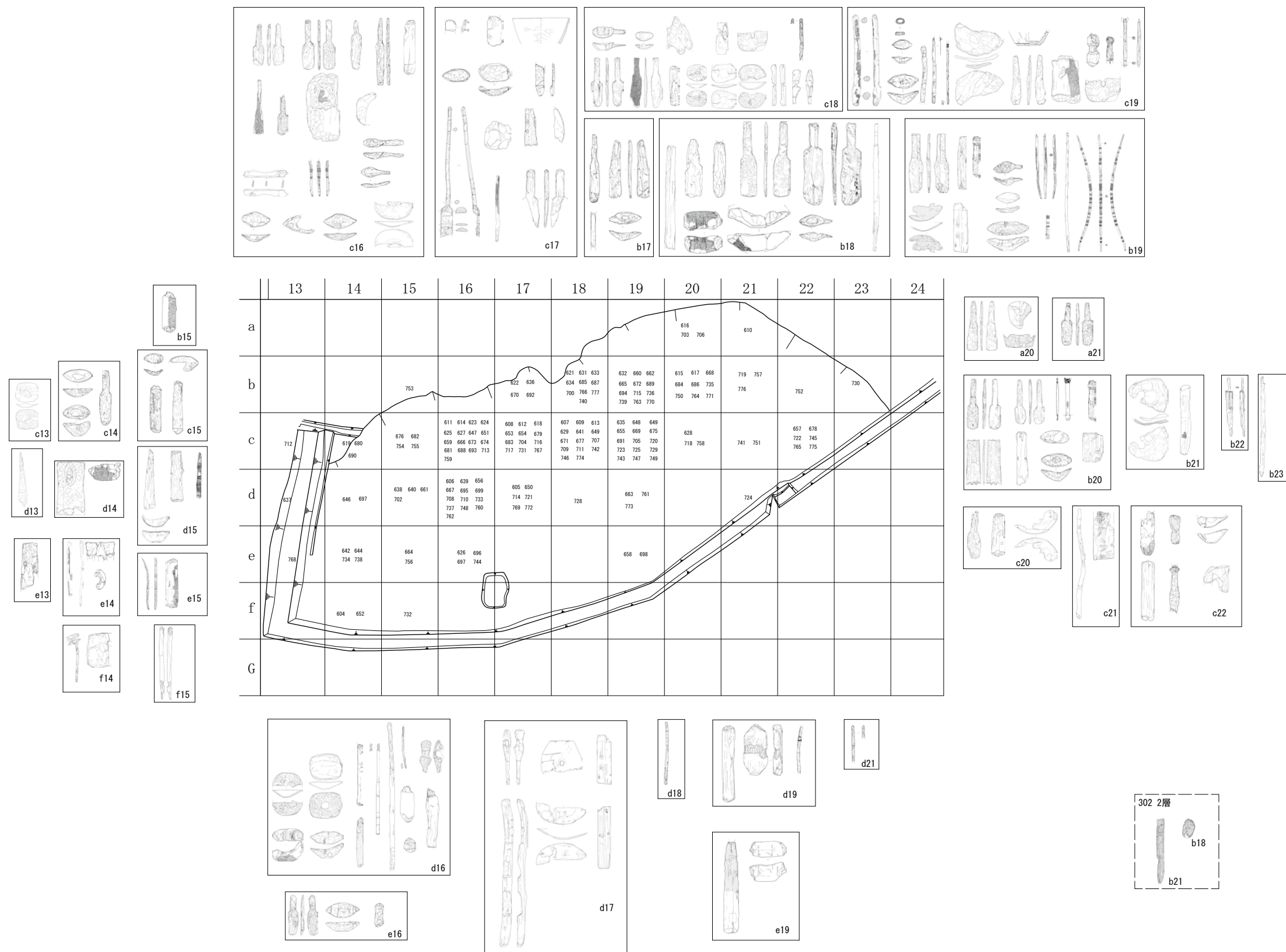


図 38 遺構 302 木製品出土位置

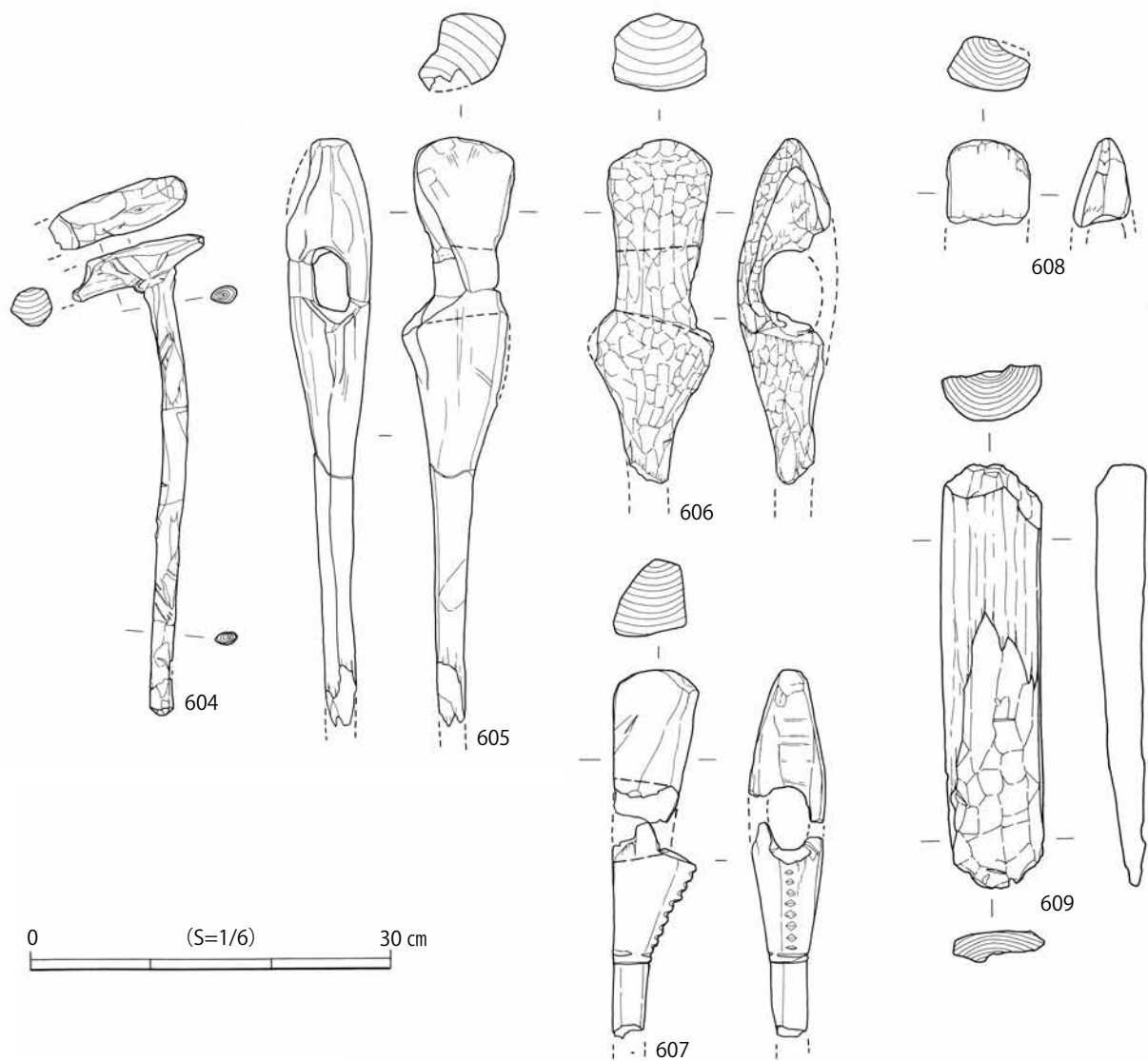


図 39 遺構 302 出土木製品 1 (斧柄・楔状木製品)

610～640は平鋏。組み合う柄は出土していないが、標準的な形状のものは柄に緊縛するために軸部表面を平坦にするほか、軸頭を作りだしており、641～647の直柄広鋏身よりも幅が狭いことから、曲柄狭鋏の身と推定される。身の幅や装着部の形状、大きさにはバリエーションがあり、これらすべてが曲柄狭鋏の身といえるかは不明であり、本書では総称して平鋏と呼んでおく。径20～40cm程のイスノキの板目材を用いており、現状では黒色を呈している。原材から製品まで、各工程の資料が揃っており、610～633が製品、634～638が未成品、639・640が原材にあたる。木表側に丸み残り、木裏側は平坦に割られている。

610～618は立野遺跡で多数を占める標準的な平鋏である。全長約45cm、軸部長18～23cm、刃部幅約4～5cm、厚さ2～3cm程度のもが多い。軸部・刃部は柄の装着面側が平坦で、後面が若干丸みを帯びる。軸頭は明瞭なものやや曖昧なものがあるが、すべての製品で確認できる。610は全長34.5cmの小型品である。両面を加工して平坦に仕上げしており、軸頭は左右から挟りを入れる。611～613は刃部が欠損し、611は軸頭が明瞭、612・613は軸頭がやや不明瞭である。614は軸頭が明瞭で、装着面は平坦、丁寧に形状が整えられている。615は軸のやや刃部寄りに挟り状の段差があり、緊縛固定の痕とも考えられる。616は肩が狭く先端が開く羽子板状の製品。

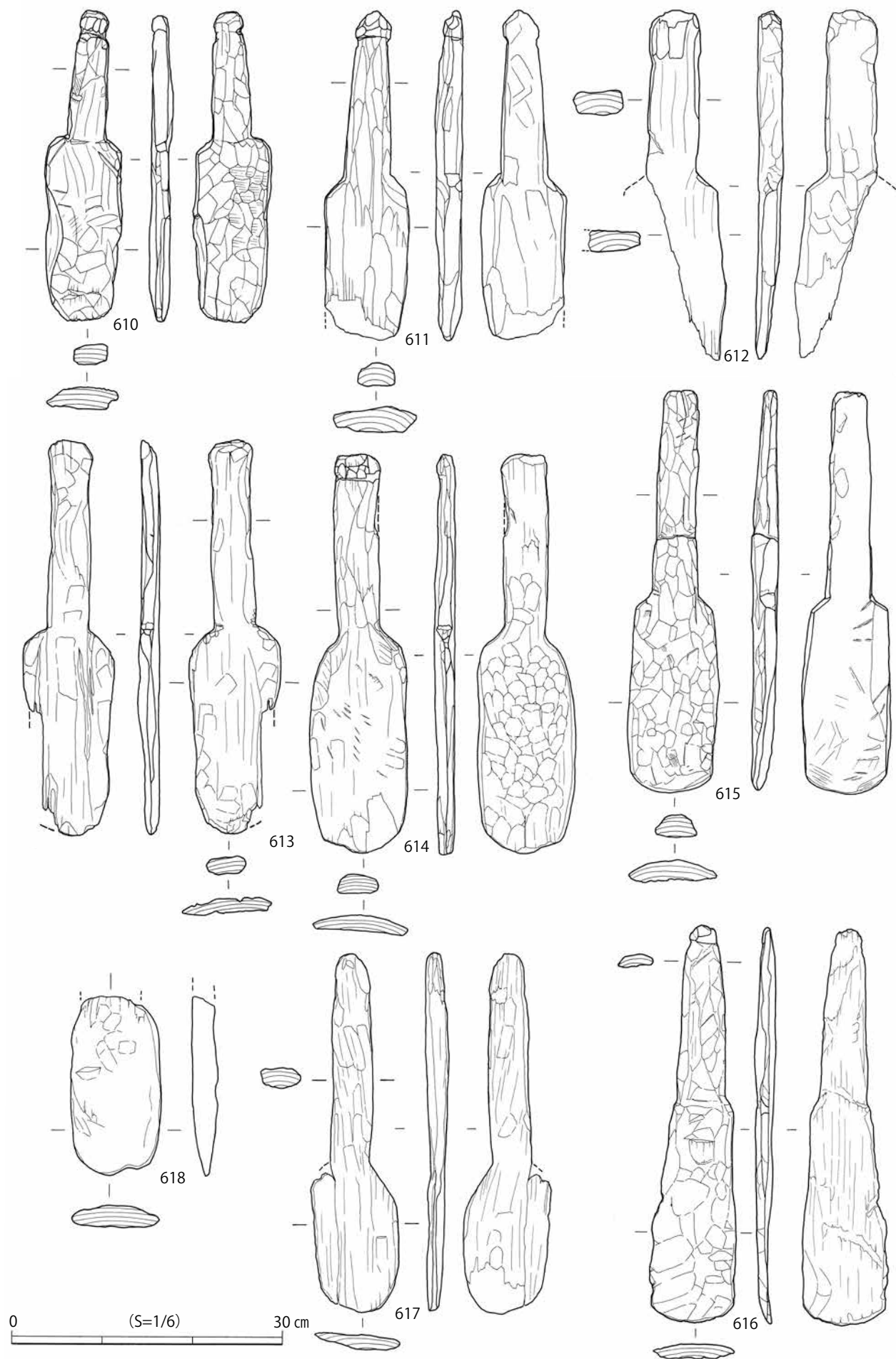


図 40 遺構 302 出土木製品 2 (平鋤 1)

柄は広く、軸頭は小さい。617・618は刃部が短く、摩耗が著しい。618は柄を欠失する。

619～624は刃部が細長く、狭楯としての特徴が強い。身はやや厚みがあり、先端はやや薄く尖る傾向をもつ。軸部は装着面をもつが、軸頭はもたない。619は全長36.1cm、軸部長14.0cm、幅4.4cm、刃部長22.1cm、刃部幅7.8cm、厚さ1.2～2.5cm。624は全長60.5cm、軸部長23.2cm、幅4.0cm、刃部長37.3cm、刃部幅6.1cm、厚さ2.0～2.3cm。

625は細長い柄をもった羽子板形を呈する。軸頭は確認できない。樹皮が残存しており、未成品とも考えられる。

626～628は刃部と軸部が共に曲り、軸頭付近が斜めに切り落とされている。一見不良品に見えるが、丁寧に加工されており、3点の形状が共通する。軸に柄を装着して使用するのとは難しく、手で直接持って小型のスコップとして使用する方が適している。曲柄平楯ではなく、鋤の可能性を考えておく必要があるだろう。626は軸頭付近が斜めに切り落とされている。627・628は軸頭付近が曲り、軸部装着面が平坦になっていない。

629・630は製品製作時の残材と推定される。629は樹皮で、強度がない。630は刃部の中央が皿状に窪む破片で、非常に薄く、強度がない。

631～634は全長50～56cmの大型品。軸部は幅広く、軸頭は判然としない。刃部はやや細長い傾向がみられる。633は全長55.9cm、軸部長15.9cm、幅6.0cm、刃部長50.0cm、幅13.0cm、厚さ2～4cm。634は肩部を削り出した段階の未成品であり不整形である。軸の装着面側は平坦に作られている。

635～637は粗割り段階の未成品と推定している。軸部と刃部に分かれておらず、一方が幅広い板材状を呈する。635は両面を調整するほか、軸頭状になった部分が削り出されている。身が細長いタイプの未成品と認識しているが、既に製品である可能性もある。636は身が細長いタイプの小型品の材、637は大型品の材と考えられる。

638～640は平楯の原材。長さ51～60cm、幅10cm前後、厚さ2～5cmの板目取りの辺材で、木裏（後面）には分枝部や節が残り、木表は粗割り状態である。直径20cm前後のイスノキから切り出しており、中型品の原材に相当する。

広楯は柾目材の製品と、板目材の製品・未成品・原材がある。柄を差し込む孔と舟形突起の破片も含め直柄平楯の身と考えられるが、先述の平楯（曲柄平楯の身）と区別するため広楯と呼称する。

641～644はイチイガシの柾目材を用いた広楯破片である。木目は放射状組織に直行する方向で図化した。身は厚さ6～8mmと非常に薄い。641は柄孔の脇に泥除装着用の穿孔を有する。長さ34.5cm、復元幅19.5cm。642は柄孔付近でくびれ、泥除装着用の穿孔と小突起を有する。643は泥除け装着用の穿孔と小突起を有する。644は舟形突起片。

645～647はイチイガシの板目材を用いた広楯とその未成品。身は厚さ約2cmとやや厚い。645は柄孔の周りにやや丸みのある舟形突起をもち、柄孔の横とやや上方側面近くに泥除装着用の穿孔を有する。646は柄孔をあける前の未成品。長さ40cm、幅21cm、厚さ2cmで、両面を細かく面取り調整している。647は長さ60cm、幅29cm、最大厚約10cmの粗割り段階の原材で、舟形突起を作るために削り残した部分の上面に樹皮が残存する。

648はアカガシの板目材で、広楯の材である可能性が高い。長さ42cm、幅25cm、最大厚10.5cmで、

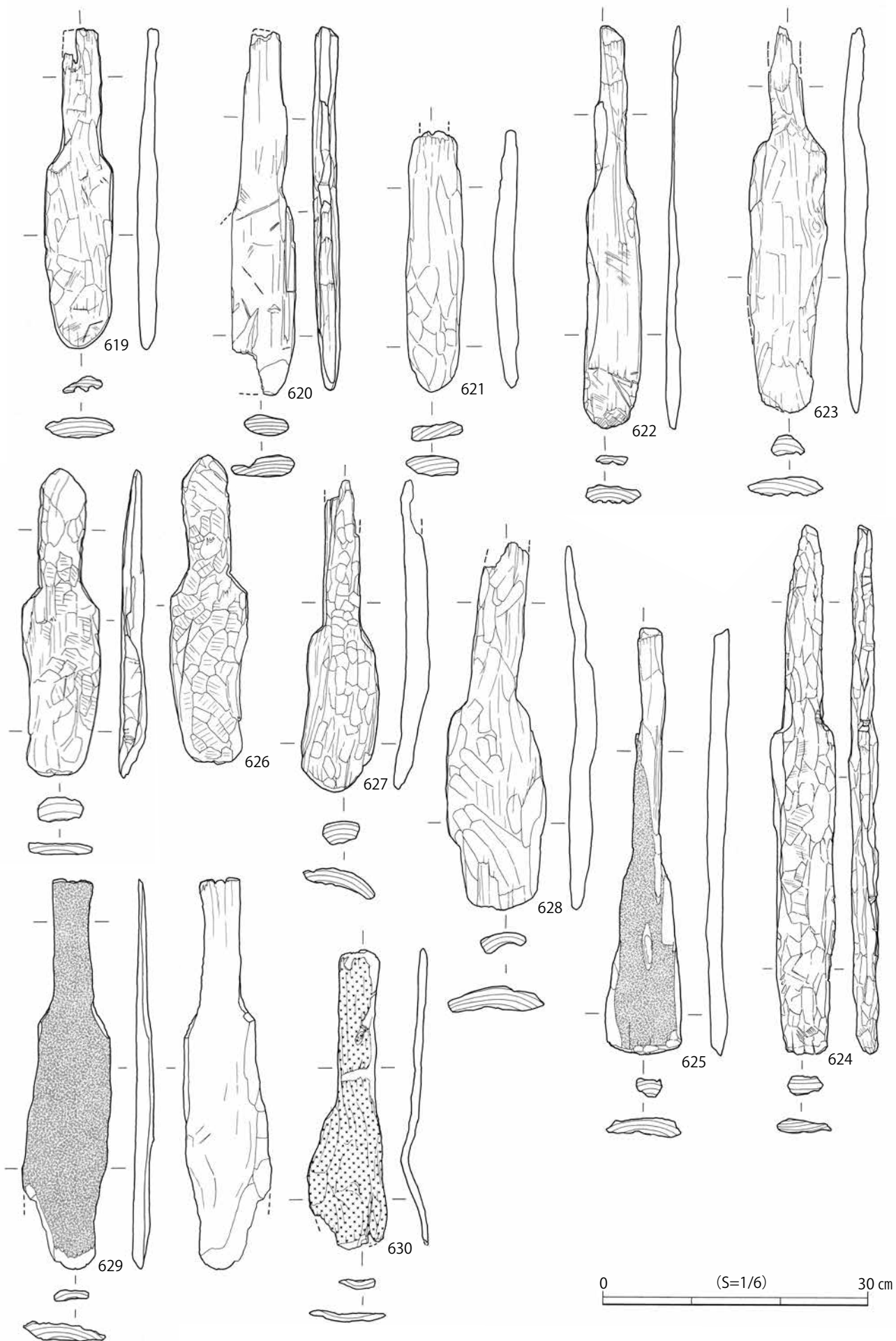


図 41 遺構 302 出土木製品 3 (平鋤 2)

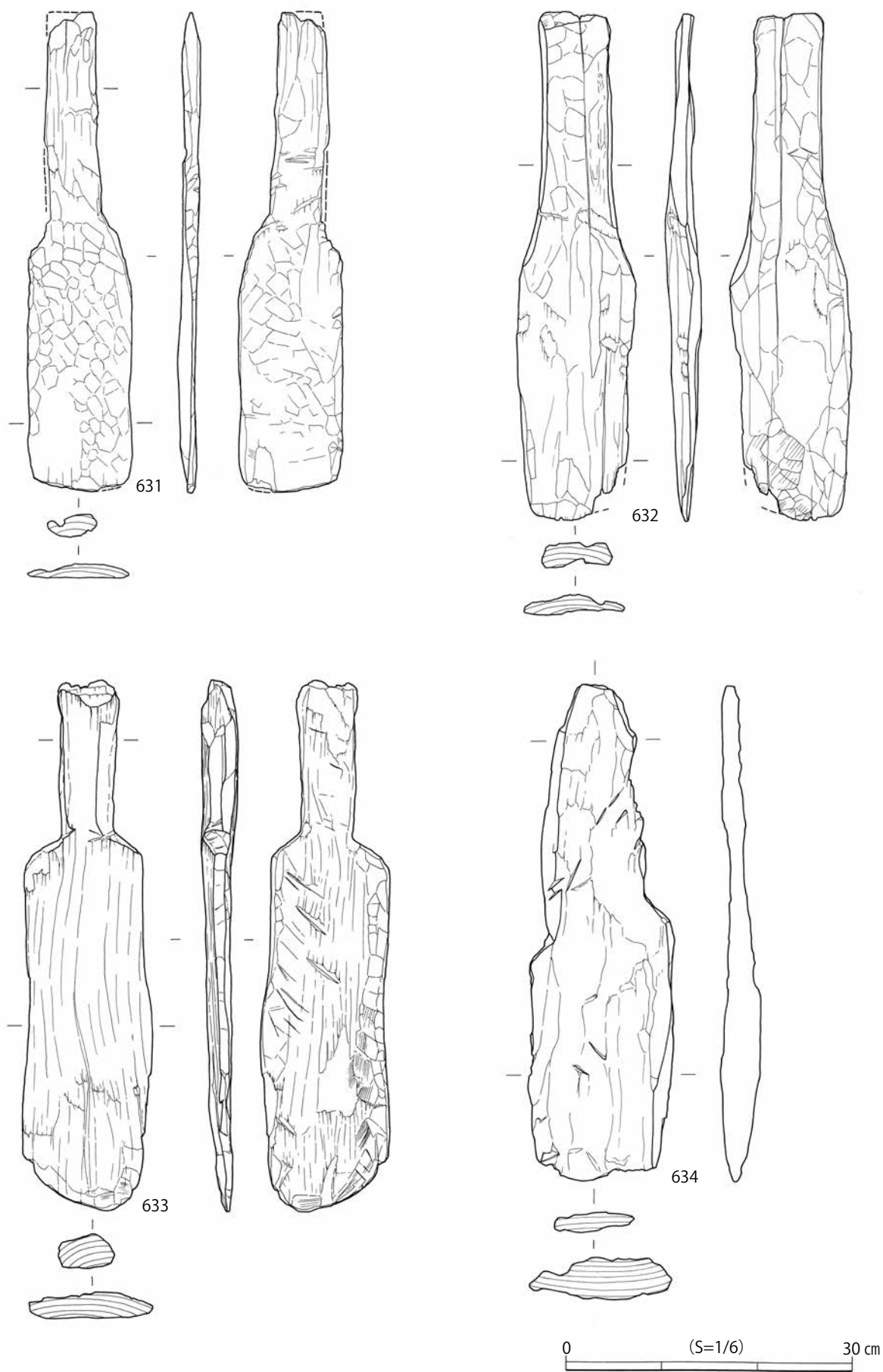


図 42 遺構 302 出土木製品 4 (平鋤 3)

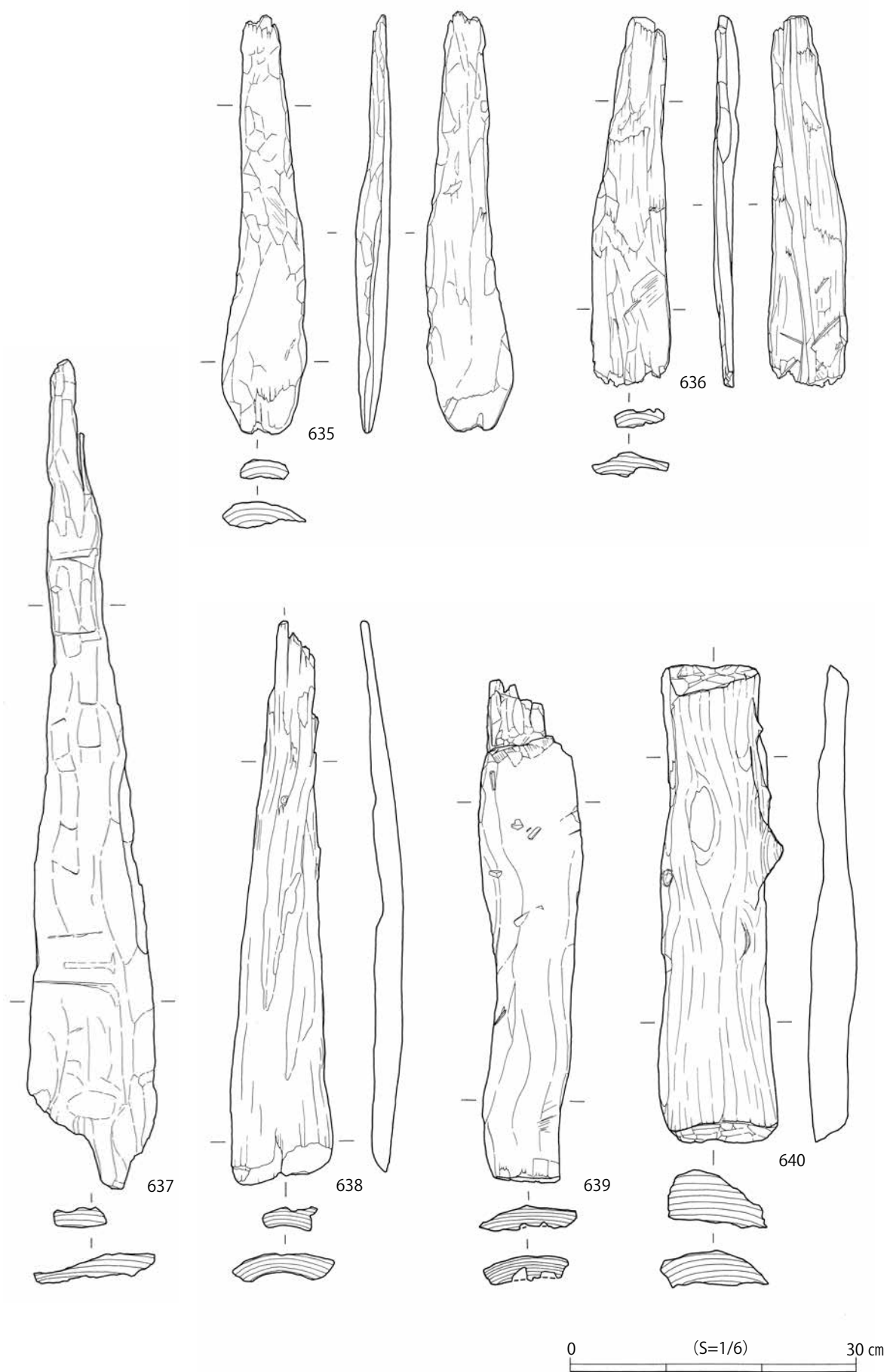


図 43 遺構 302 出土木製品 5 (平鋤 4)

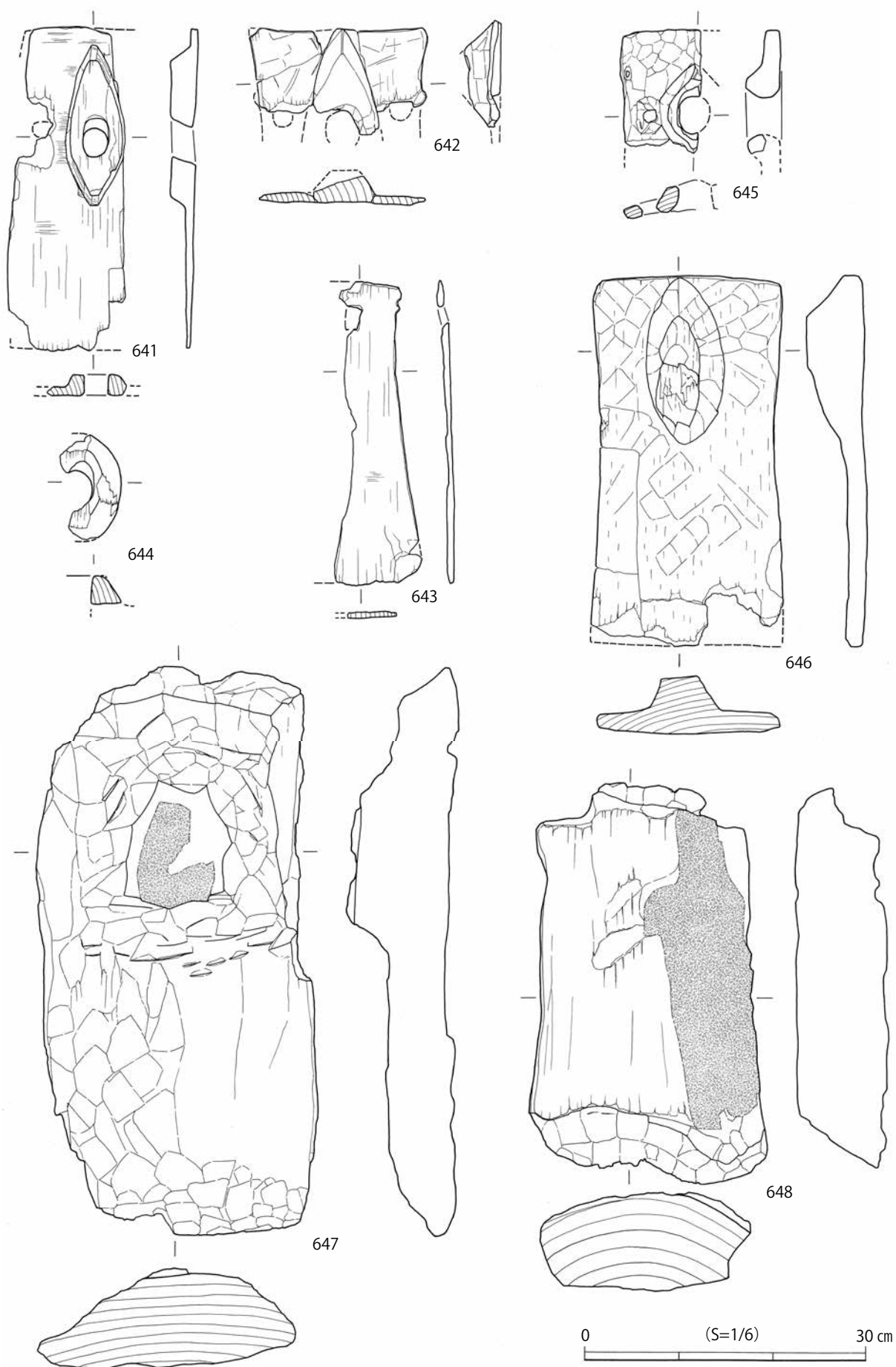


図 44 遺構 302 出土木製品 6 (広鋤)

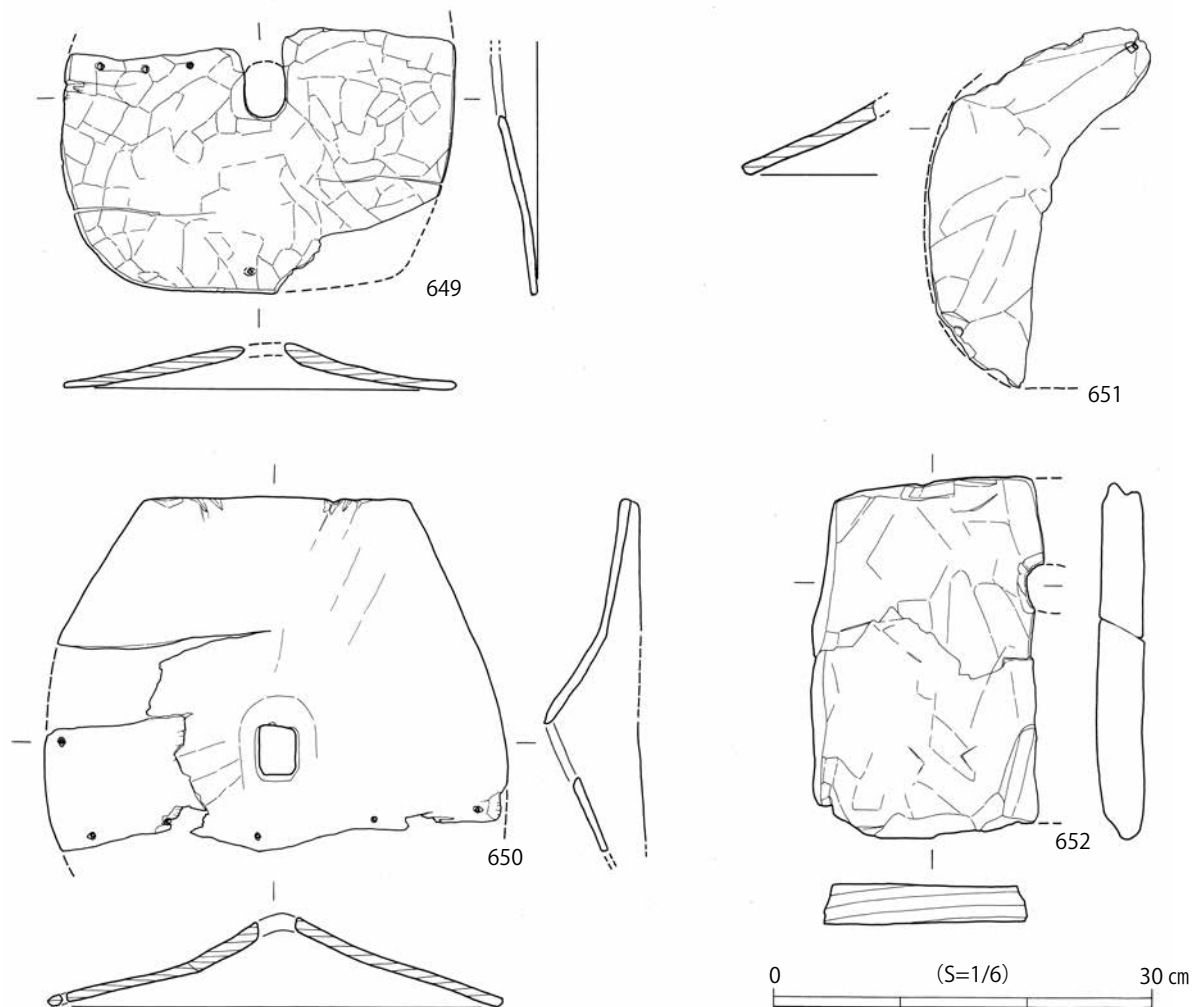


図 45 遺構 302 出土木製品 7 (泥除)

上面に樹皮が残存する。

泥除はクスノキの板目材を用いており、樹種・木取り・形状・製作工程が皿状容器と類似している。未成品や破片では区分し難い資料もあり、原材の段階では区別がつかない。

649～651は泥除。649は若干縦長楕円形の平面形・柄孔を有するとみられる泥除。やや小型で、低く、横幅32.5cm、残存高3.8cm。左上部に補修孔を3か所あけている。柄孔の下部にも独立した小孔が1つあり、鋏に泥除を装着するためのものと考えられる。650は上端のみが直線的な不整円形。断面形は周辺から中央のやや上に向かって膨らむ笠形になり、柄孔は最高点よりも少し下に穿つ。平面形は横幅38.5cm、高さ約8cmの縦長不整楕円形を呈し、柄孔も縦長の形状となる。上端面の左右に装着時の圧痕を残す。欠失した部分に沿って、計6か所の補修孔があいている。651は650と類似する泥除と推定される製品の破片。補修孔とみられる孔が1か所確認できる。

652は長さ28.5cm、残存幅約18cm、厚さ3.8cmの板材。クスノキ製で上方に穿孔する板目材であるため、泥除の材である可能性がある。

刈払具は、アカガシ亜属の半割削り出し材の使用が確認できる。

653・654は刈払具。653は残存長116.5cm、柄は長さ81cm、一辺2.5～3.0cmの断面隅丸方形である。身は幅10cm弱で、中央部が薄くなり、両側縁が刃部をなす。654は653より幅が狭い身の破片。

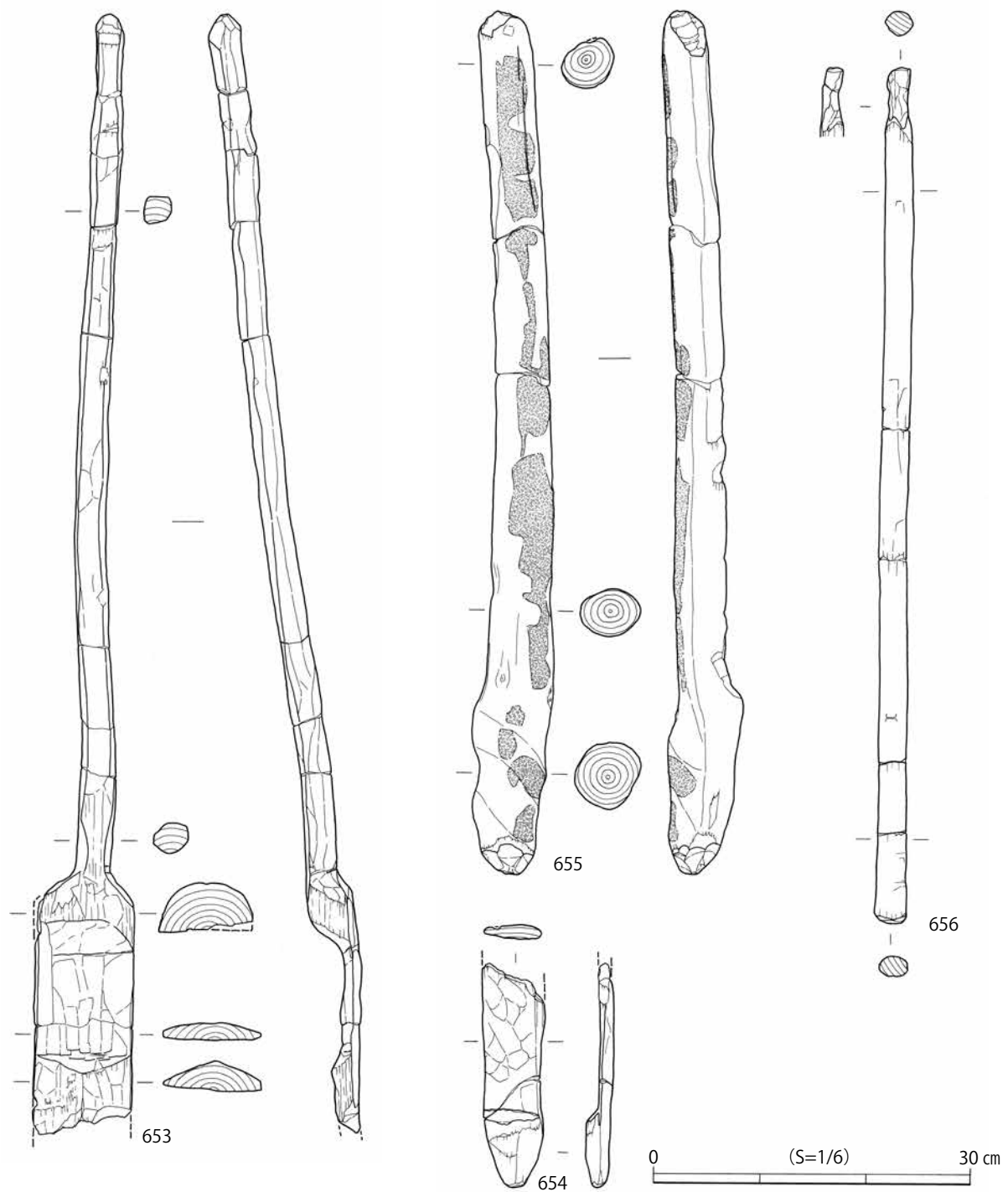


図 46 遺構 302 出土木製品 8 (刈払具ほか)

655 は一方が大きく、若干曲る棒状材。形状から刈払具の原材の可能性も考えられるが、ユズリハ属の芯持丸太材である点が 653・654 とは異なっている。

656 はクワの棒状材。一端には抉りがあり、他方の端部は丸みをもっている。長さ 81cm、断面 1.0～1.4cm の楕円形をしており、農具の柄の可能性を考えている。

豎杵は、ツバキ属の芯持ち丸木を用いて作られている。

657・658 は豎杵。残存率は 50% 以下である。657 は節帯があり、比較的面取りの跡が残っている。

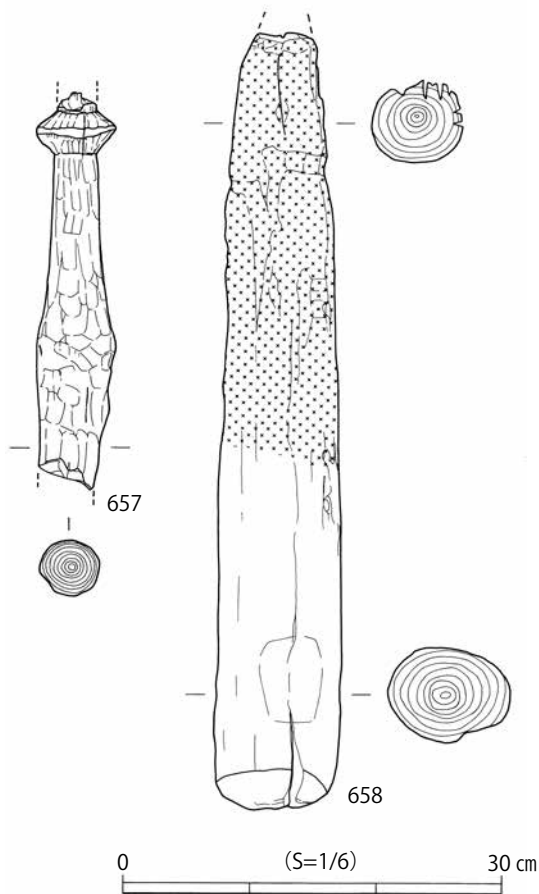


図 47 遺構 302 出土木製品 9（杵）

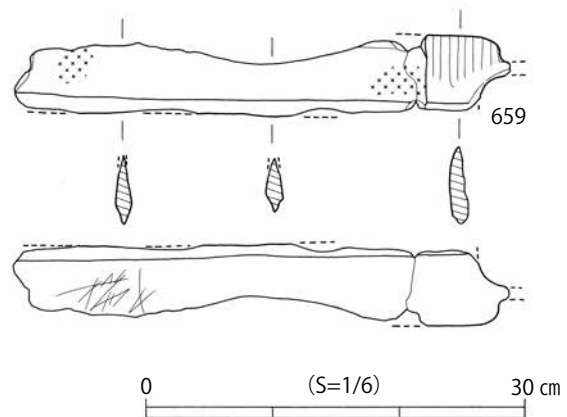


図 48 遺構 302 出土木製品 10（布送具）

杵の先端に近い部分での直径は4.5cm。658は節帯がないものと推定され、残存長61cm、杵部最大径は現状で9.6cm×7.5cmの楕円形となる。

紡織具は、布送具（あるいは経送具）がある。

659は布送具。残存長約40cm、幅約6cm、厚さ約1.3cmのサカキ製柾目材で、側面の一端が三角形の突状をなす。残存する一端には線刻があり、線刻の端が曲り流水紋状のものを意識していた可能性もある。線刻のある面からない面へ小さな段差がついている。

製品の一端は棒状の突起があるが折損しており、他方の端部は全体が欠失している。また、本体の片面には直線的な傷が多数残されている。

狩猟具（あるいは武器）は、弓がある。イヌガヤの芯持ち丸木ないし削り出し材を用いている。マキ属の弓状の棒も出土しているが、加工痕がなく、自然木の可能性も高い。

660～667は弓。660～665は補強のため針葉樹樹皮の紐を巻き付け、黒色の漆で固着する。660は完形品で、長さ125cm。直径は2.6cmである。一端はやや尖り気味に作り弦輪をかけやすくし、別の一端は凸形状の弓弭部分を作り出す。現状で外反する面の中央に棒樋とみられる沈線があるが、弦を張った状態では棒樋のある面が内湾面になる湾弓であった可能性も考えられる。形状は上下対象ではなく、上長下短となっているものと考えられる。661・662は弓の一部で、端部が尖る形状を呈し、断面は楕円形で、棒樋は確認できない。663は弓の中央付近の破片。664・665は弓の一部で、端部は切り込みを設け、棒樋とみられる沈線が確認できる。666・667は製作途上品ないし丸木弓。端部は切り込みを設ける。666は樹皮が広範囲に残存している。

食事具は、横杓子・匙と豎柄杓の柄とみられる製品がある。

671～674は横杓子あるいは匙。クスノキの割材ないし芯持ち材を横木取りしている。671は大きな楕円形の身部の口縁から一段低い位置に、水平に柄を取り付ける横杓子。表面は面取り後、ほぼ平滑に仕上げられている。長さ29cm、幅10cm、深さ7.5cmである。672は横杓子ないし舟形容器の未成品であるが、一端が柄のように伸びる形状をしている。粗割り後、内削りをせず水に浸していたものとみられ、腐食が進んでいる。673はスプーン状の匙。匙部と柄部が水平に続

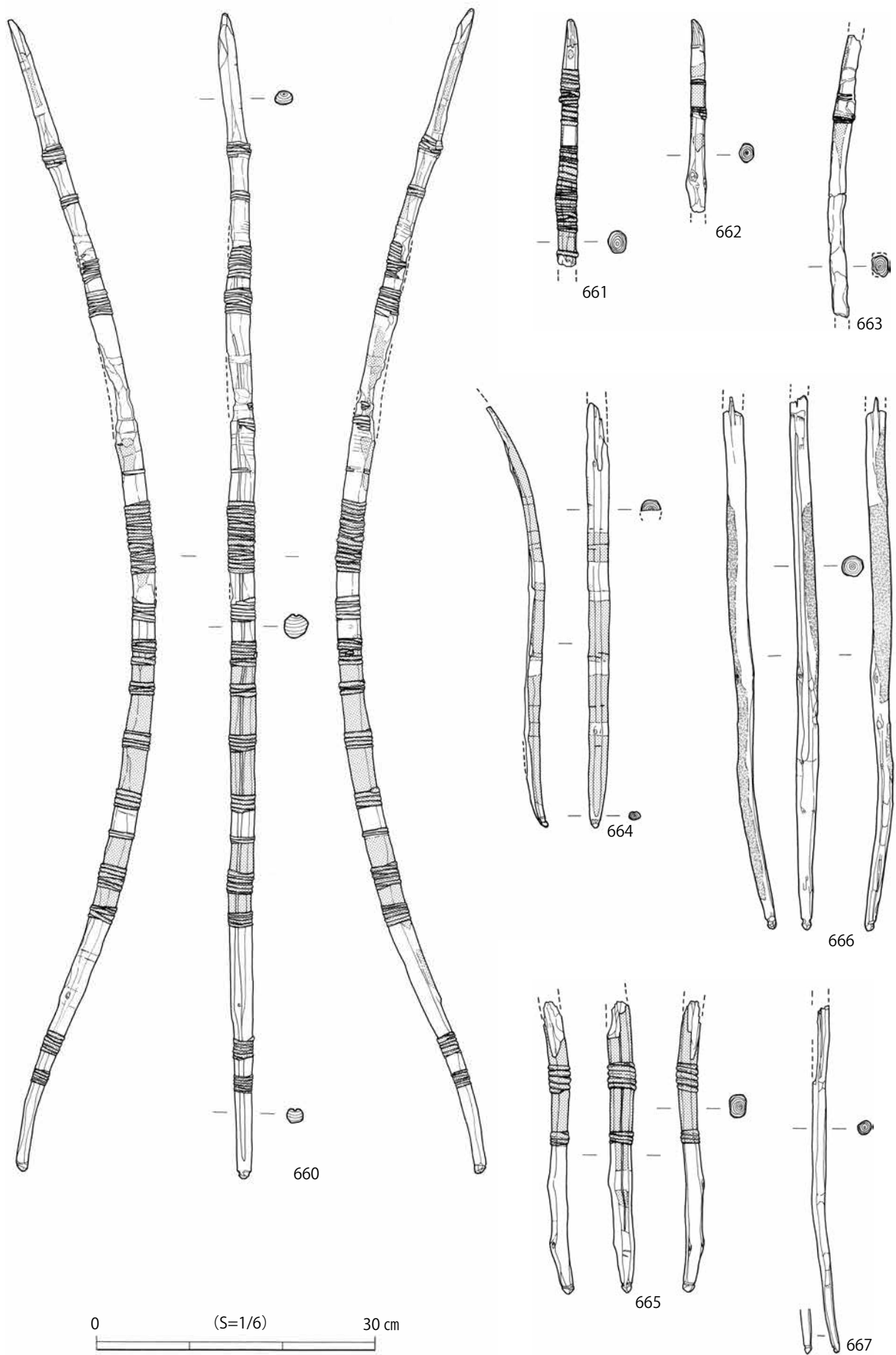


図 49 遺構 302 出土木製品 11 (弓)

き、表面は面取りが残されている。674はレンゲ状の匙の未成品。内削りが行われる前段階のものと考えられる。

668～670は豎柄杓の柄と推定される製品破片。マキ属の板目材ないし芯無削り出し材を用いる。668は柄の長さが25cmで、断面形はかなり薄い楕円形を呈する。柄頭は両端が上方に伸びる形で、左右斜め上から線刻を施す。図化面は背面と推定される面で、樹皮が残存している。柄杓部は付け根で割れている。669

は668と同タイプの柄とみられ、柄頭の両端部と柄杓部が割れている。柄は668より厚みのある楕円形で、両面の中央と下部に刻み目状の線刻が確認できる。670は柄の破片。668・669と形状が類似するマキ属の板目材であり、豎柄杓の柄の可能性が考えられる。

容器は舟形、鉢形、浅鉢形、皿形の容器と考えられる製品・未成品がある。すべてクスノキ製である。

容器は、舟形・鉢形・高台付き鉢形のほか、浅鉢形・皿形の製品・未成品・原材がある。

675～701は舟形容器。直径10～12cmのクスノキの芯持ち材あるいは芯を外した半裁材を横木取りした材を用いている。原材はやや褶曲した丸太材で、樹皮が残存する。原材の上面を平坦にし、側面を成形しておおよその形状をつくり、その後、上面を削り抜き、最後に薄く平滑に仕上げて製品を作る。製品は木取り方向に左右された楕円形であるが、わずかながら一端が尖り、

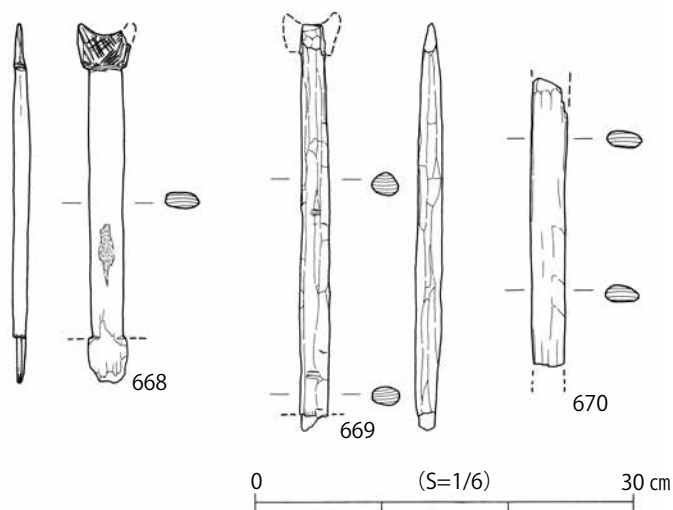


図 50 遺構 302 出土木製品 12 (豎杓子)

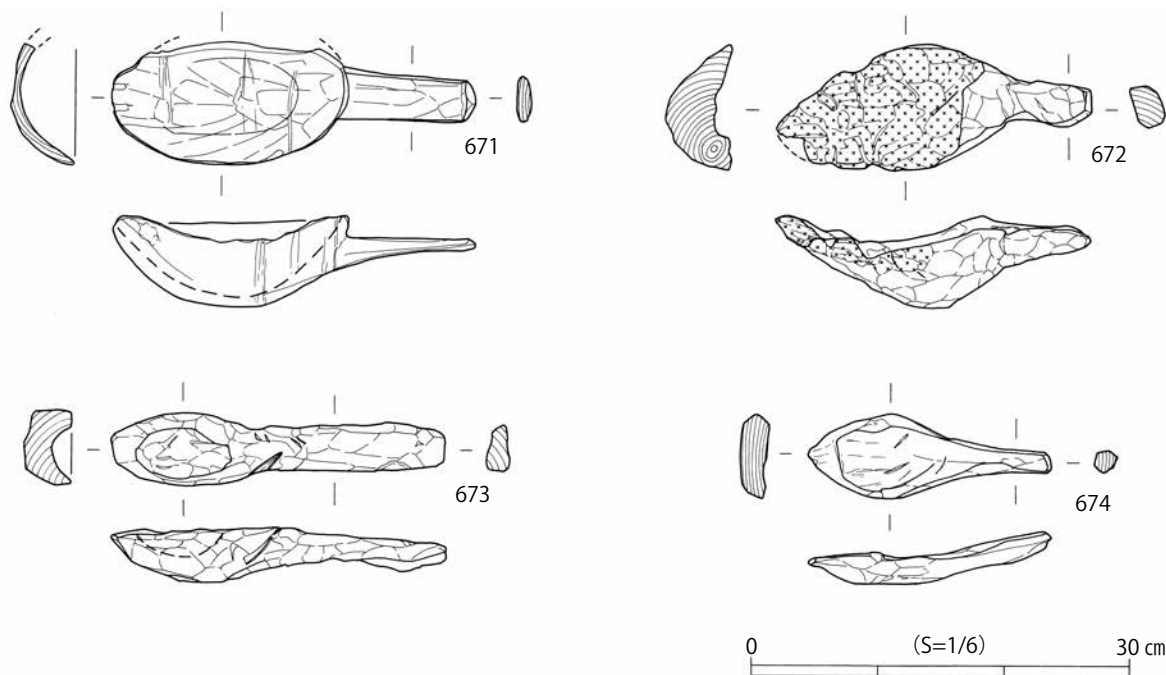


図 51 遺構 302 出土木製品 13 (横杓子・匙)

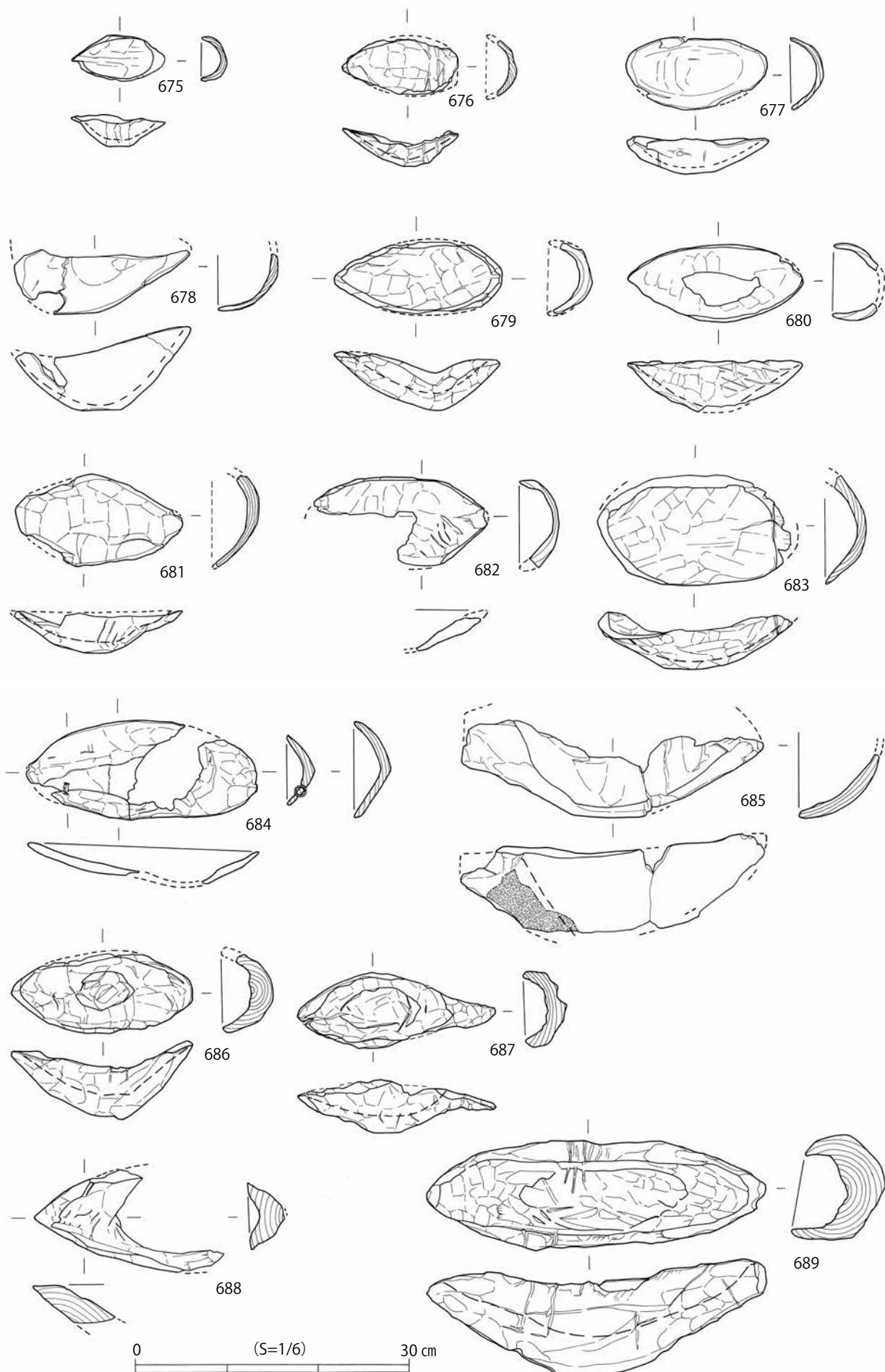


图 52 遺構 302 出土木製品 14 (舟形容器 1)

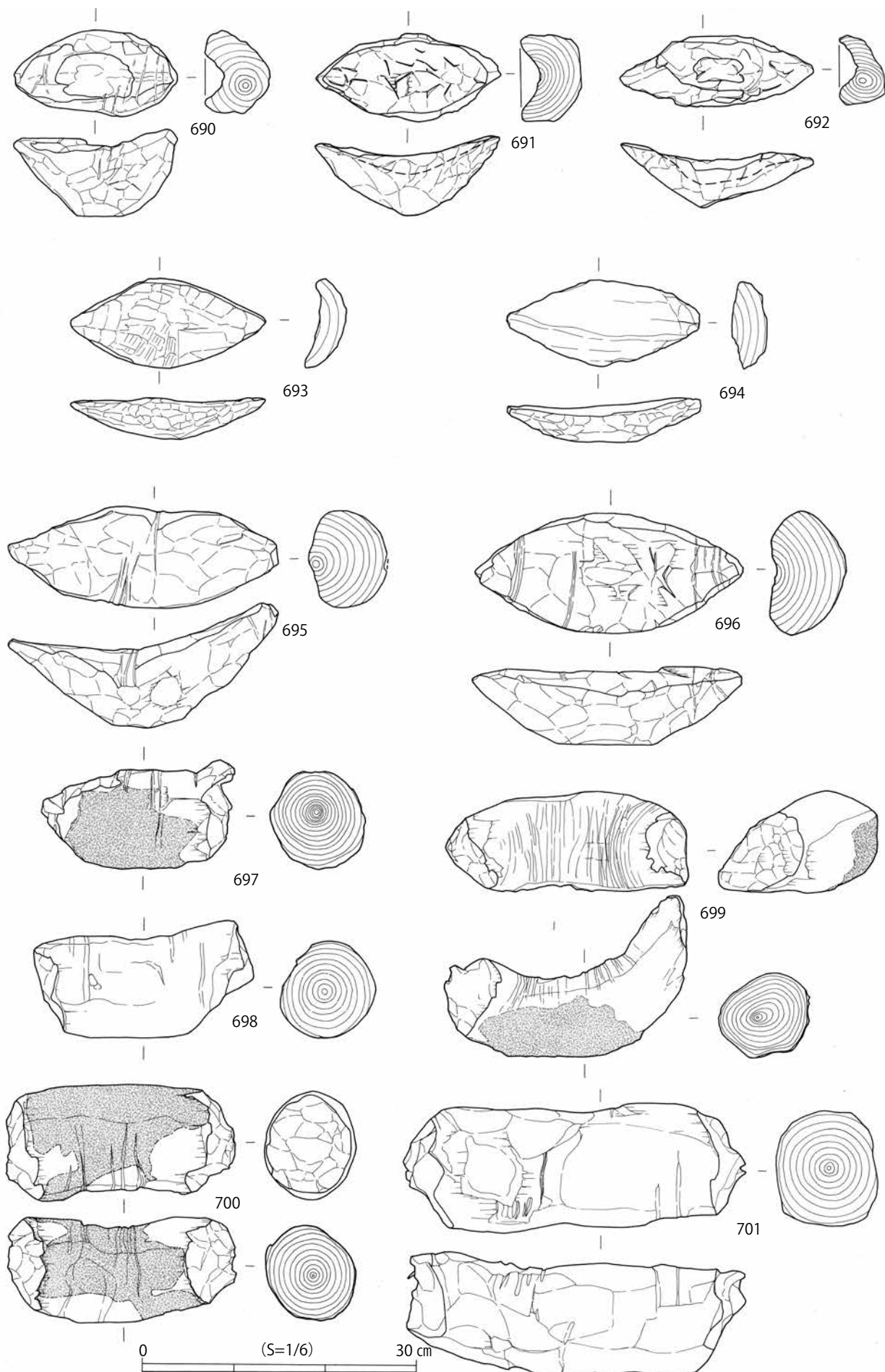


図 53 遺構 302 出土木製品 15 (舟形容器 2)

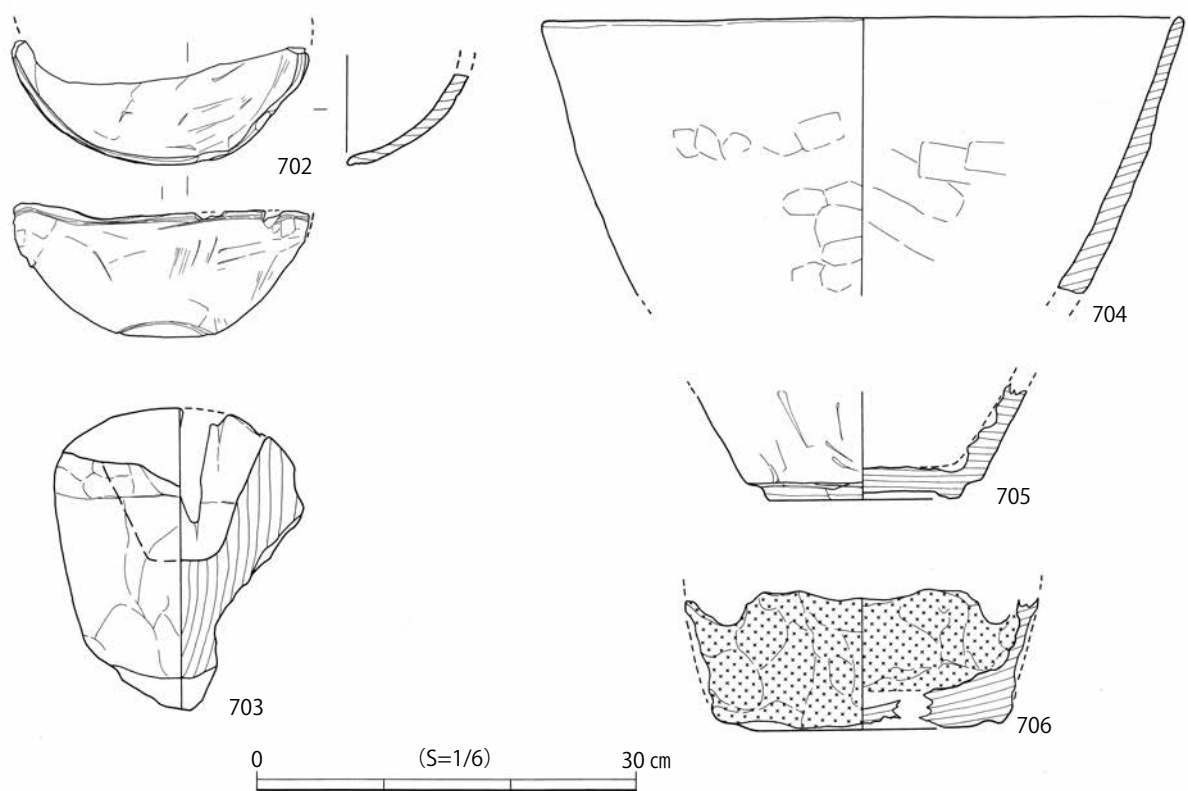


図 54 遺構 302 出土木製品 16 (鉢形容器)

もう一端が丸みを帯びた舟形を呈している。舟形の祭祀具あるいは、液体を掬い注ぐあるいは飲むための機能的な形状とも考えることができる。図は上面と横断面のほか、残存状態の良好な側面・縦断面を図化したため、舟形の先端部は一定方向には向けていない。

675～685は製品で、加工痕が若干残るが、薄手で平滑に作られている。675～677は小型の製品。675は長さ10.4cm、幅5.2cm、高さ3.5cm。677は薄手で、平滑に仕上げられている。678～684は標準的な製品で、長さ20cm、幅10cm、高さ5cm、厚さ1cm前後の大きさである。加工痕が若干残るが、薄手で平滑に作られている。684は丁寧に仕上げられた製品であるが、割れた破片を樹皮製の紐で結んで補修しており注目される。685は大型の製品。長さ30cmを越え、外面には樹皮が残存する。

686～696は舟形容器の未成品。686～689は内面が削り抜かれているが、厚手で加工痕が顕著に残る。687は匙の可能性も考えられる。689は大型品である。690～692は上面の削り抜きが少ない。693～696は上面が平坦で削り抜かれていない。693・694は中型品、695・696は大型品である。

697～701は舟形容器の原材。697・698・700は中型品の原材、699・701は大型品の原材と考えられる。樹皮ないし樹皮の剥離痕が残り、若干屈曲した丸太材である。

702は鉢と原材。半球形ないし、舟形を呈する容器の破片である。口縁部と底部に沈線をもち、薄手で精良に仕上げられる。703は鉢状の製品を作ることが可能な原材である。

704～706は高台付き鉢とその原材。704は口縁部片、705は高台の付いた底部片である。同一個体の可能性も考えられ、口径50cm、高台径15cmの製品と復原される。706は瘤状部の破片で、

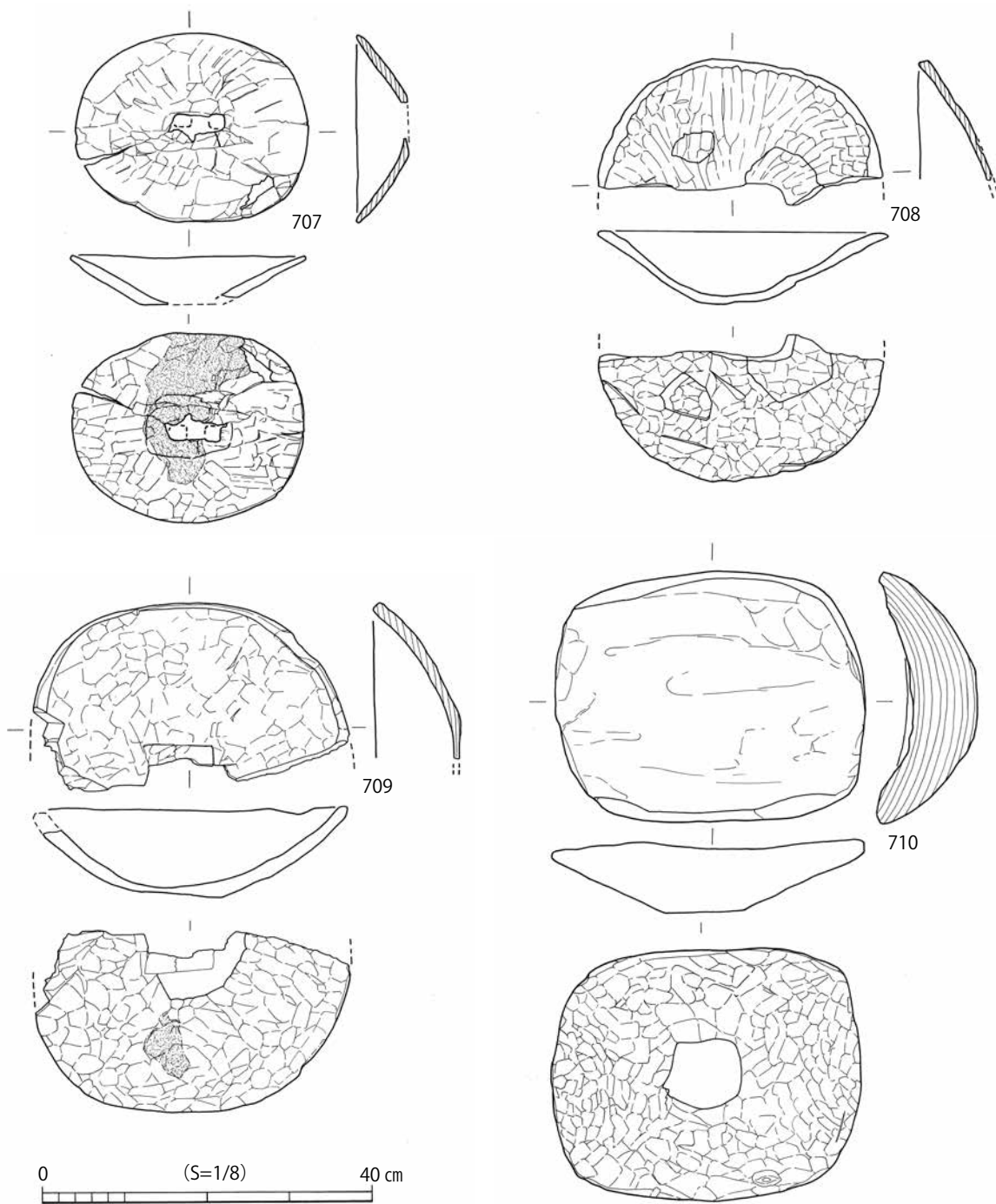


図 55 遺構 302 出土木製品 17 (浅鉢形容器)

底部に相当する部分が厚く、高台付き鉢の原材の可能性が考えられる。

707～710は有孔浅鉢と推定される製品。長軸が20cm台とやや小ぶりで、楕円形の浅鉢状を呈する。内外面の加工痕は顕著で、厚さは1cm程度である。707は長軸28cm、短軸23cm、高さ6.2cmの裁頭楕円錐形をしており、発掘調査時には底部に孔が2つ開いていたという。708・709は底部が破損しており、孔を有していたか不明である。707・709は底部の一部が炭化し、708はやや黒色味を帯びている。710は707～709の原材。長軸38cm、単軸31cm、高さ12cm。上面は板

目材の辺材を樹木から剥ぎ取ったかのような形状をしており、内窪みの断面U字形を呈する。

711～720は大皿（皿形容器）。711はやや小型で浅く、薄手で平滑に仕上げている。長軸方向が35cmである。712～718は標準的な製品で、長軸方向が35～50cm。712は長軸47cm、短軸43cm、高さ7.4cm、厚さ1cm前後。別に出土した2片が接合している。713は口縁部がやや厚いが、平滑に仕上げられている。714は長軸方向の両端に加工痕が残り、中央部に節が多数みられる。715は腐食・摩耗が進む。716～718は破片資料。719・720は皿状容器の原材料と考えられ、クスノキから厚さ3cm程度の楕円形の板目材を取っている。

建築部材等の部材は、梯子・柱のほか、各種棒状の部材がある。残存部の特徴から構造部材・有頭棒、棒としているが、仮の名称である。

721は梯子。長さ177cm、幅11cmで、片面に3段のステップを設けている。下から40cm、46cm、40cm、52cmとなり、段差が大きい。下端背面の設置面には黒色処理が施され、上端背面には突起が付く。722は直径14cmの柱材とみられ、端部は黒色処理が施される。723は有頭棒。724～739はマキ属の棒状材で、垂木等の建築部材が大半を占めると推定される。725は断面径がやや楕円形を呈し、728は長さが146cmであり、農具の柄の可能性も考えられる。730は上端に受け部を作り、下端は杭状に尖る。731・734・736には樹皮が残存している。735は有頭棒。740は両端が細くなる棒状製品。長さ230cm。741は中央部が緩く彎曲する棒状製品。残存長198cm。

その他は、用途不明の製品が多数あり、木錘状・琴状・組状などの特徴的な製品も含まれている。

742はイスノキ製の有頭棒。平鋏の柄よりも細く、平坦面がない。743～745は木錘状の木製品。743・744はマキ属製、745はクスノキ製。木錘の可能性はあるほか、棒状製品のひとつとも考えられる。746はクワ属の割材の棒状木製品。断面は隅丸三角形に近く、端部の面がやや拡張する。長さは不明であるが、同一個体の両端と推定される。付近からは659等が出土している。747はサカキ製の棒状木製品。一端は割れた有頭棒状をしており、もう一端は樹皮を巻きつけ漆を塗っている。7点の破片となり、長さは41cm以上。径1.3cmで真っすぐな棒状を呈しており、矢の可能性も考えられる。750は琴状の木製品。長さ40cm、幅13cm、厚さ1.5cmのスギの板目材を使用し、狭端面に1か所、広端面に2か所の突起を有する。表面は粗く、孔はなく、琴の未成品の可能性が考えられる。751は組状の木製品。長さ43cm、幅19cm、厚さ1.4cmのクスノキ製の板目材を使用し、若干の褶曲や凹凸がある。両端部中央に孔を有し、一部が炭化する。表面に製品製作と無関係と思われる多数の擦痕がある。752はヒノキ製の棒状製品。6cm×3cmの長方形の棒状部から一転が柄のように伸びている。割れと腐食により本来の長さは不明であるが、建築部材の可能性が考えられる。

木材は、丸太材・半裁材・割材・板材・有孔板材と区分できる。各種製品の原材料については、ここでは扱わない。

753～756はマキ属の丸太材で表面には樹皮が残されている。長さは24～44cm、直径は6～10cmである。一端は全体が面取りされているが、他端は中央が繋がった状態で折り取った割れ口を残している。757はアカガシ亜属のみかん割削り出し材。取上げ時には表面に樹皮が付着していた。758～762は半裁材。758はマキ属の半裁材で、753～756の丸太材から609の楔状木製品を製作する途中の段階の原材料とも考えられる。759はヒサカキの半裁材。長さ65cm、直径13cm。

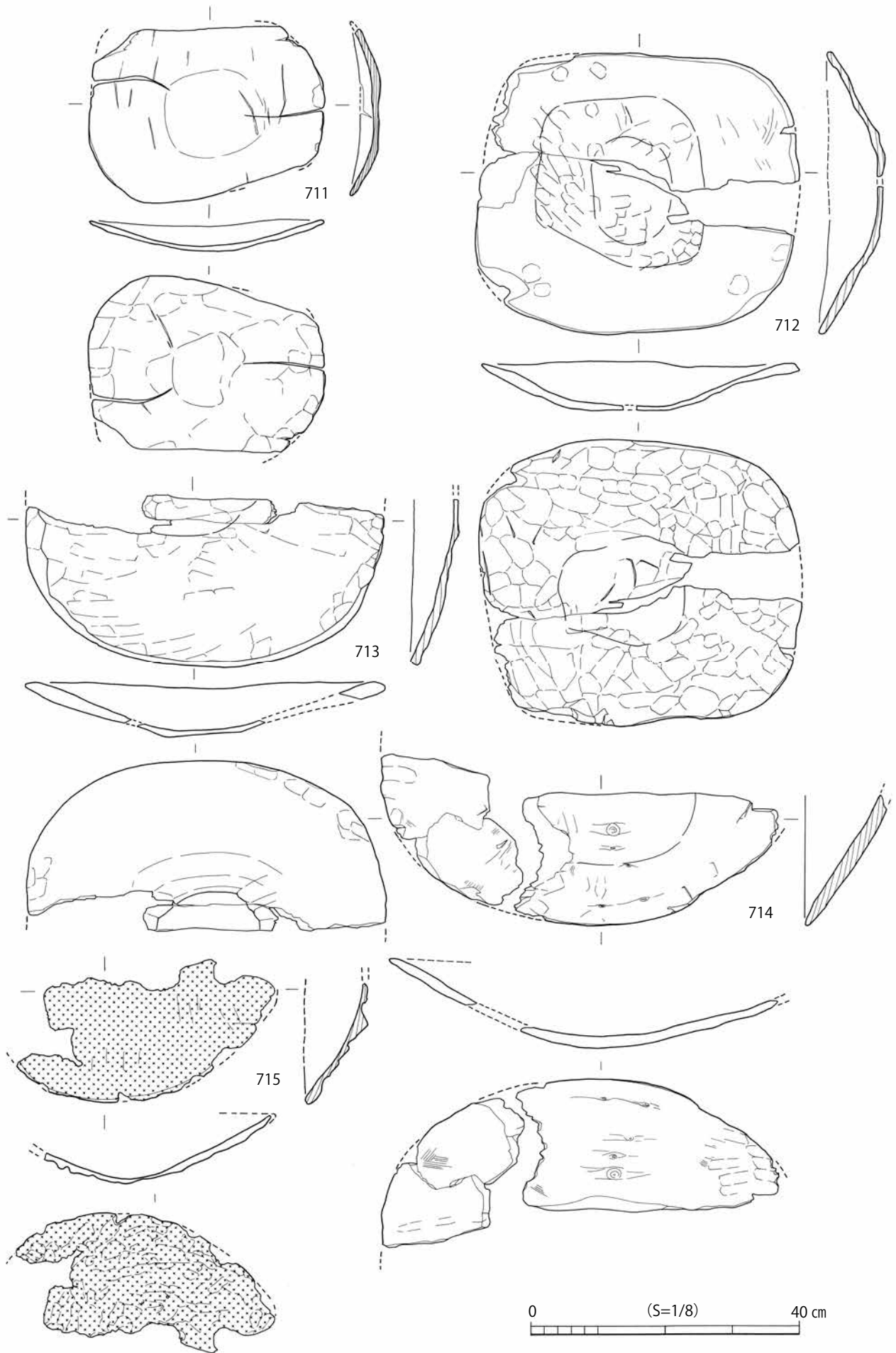


图 56 遺構 302 出土木製品 18 (皿形容器 1)

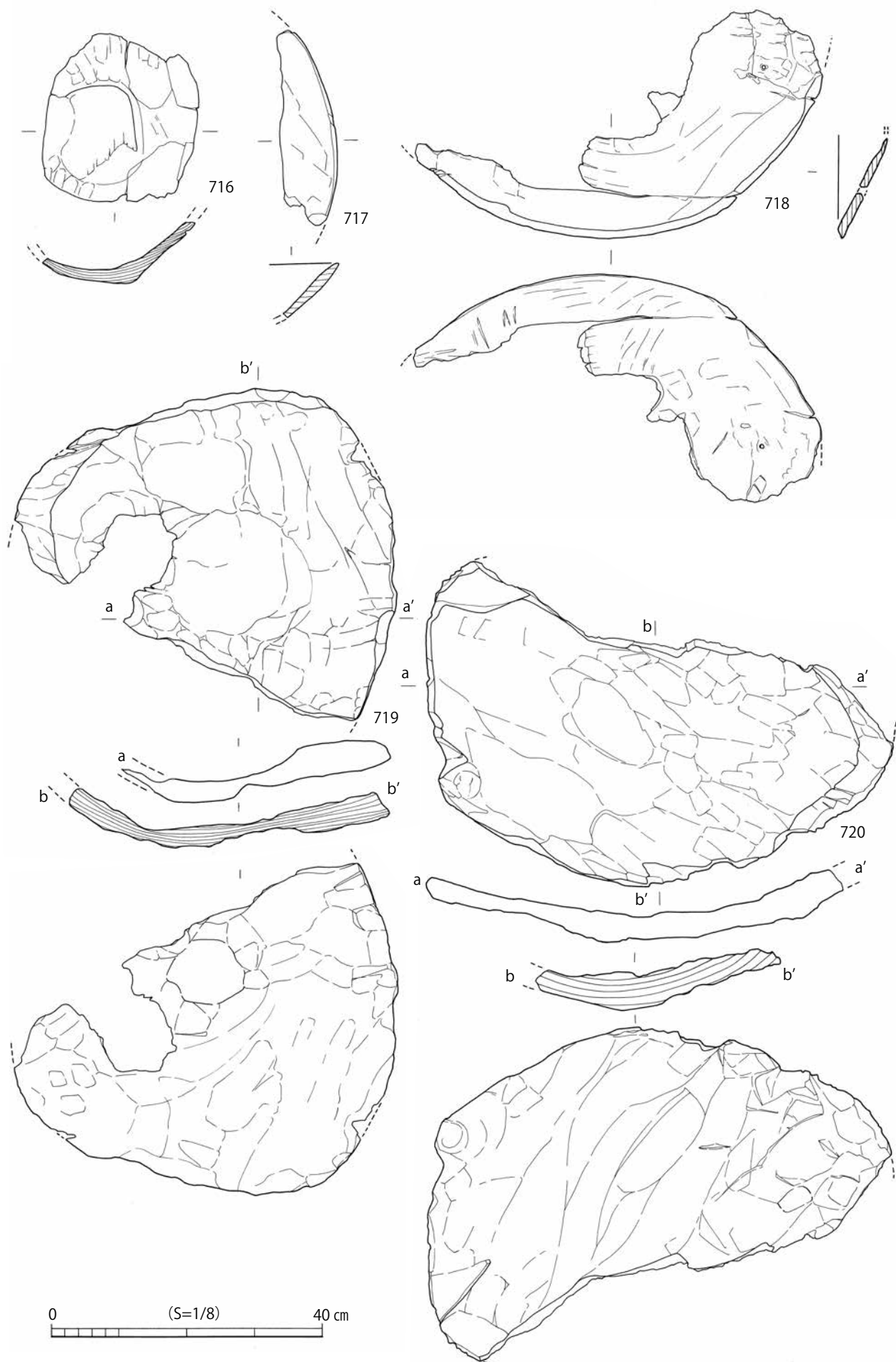


図 57 遺構 302 出土木製品 19 (皿形容器 2)



図 58 遺構 302 出土木製品 20 (建築部材 1)

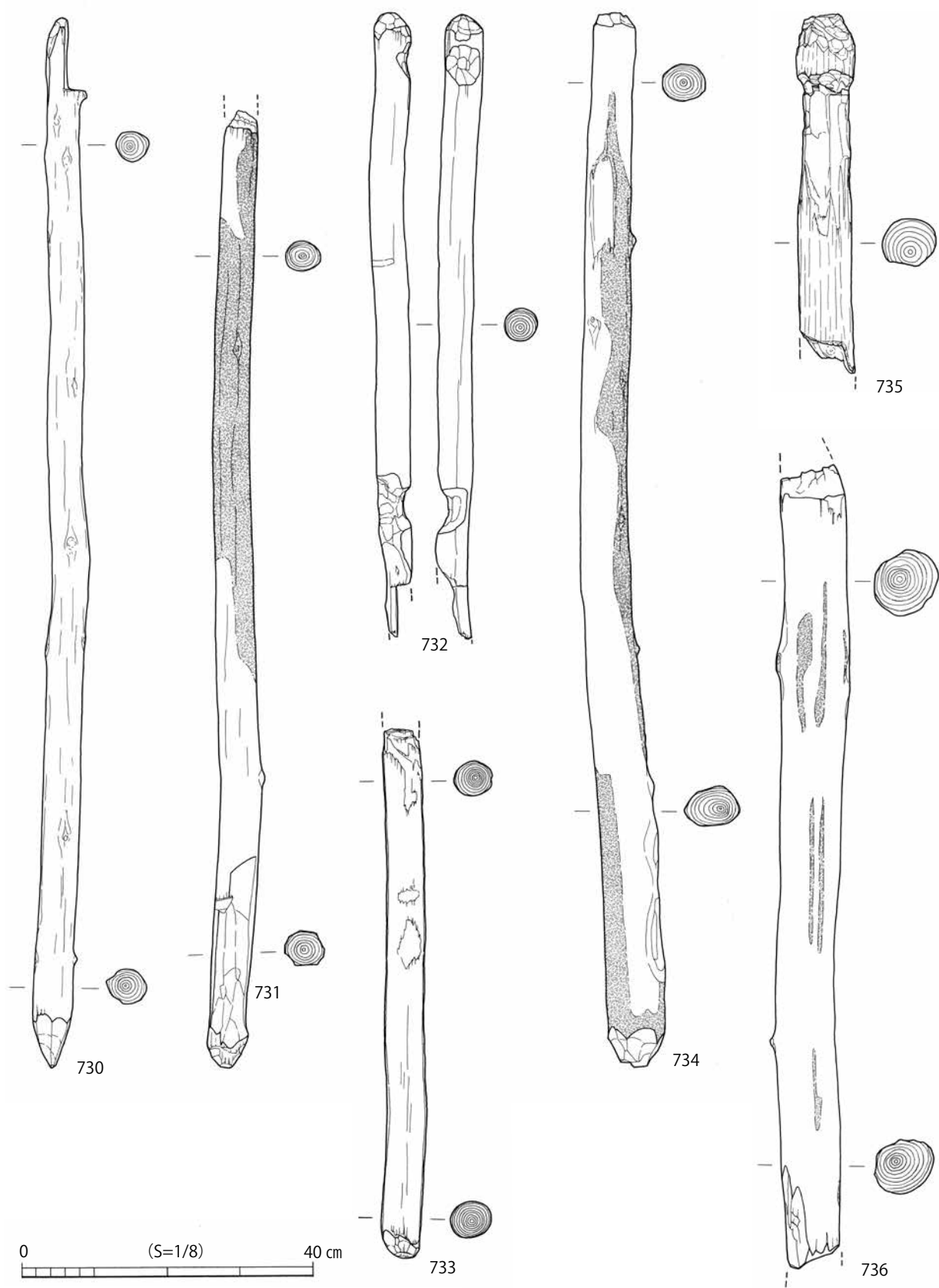


図 59 遺構 302 出土木製品 21 (建築部材 2)

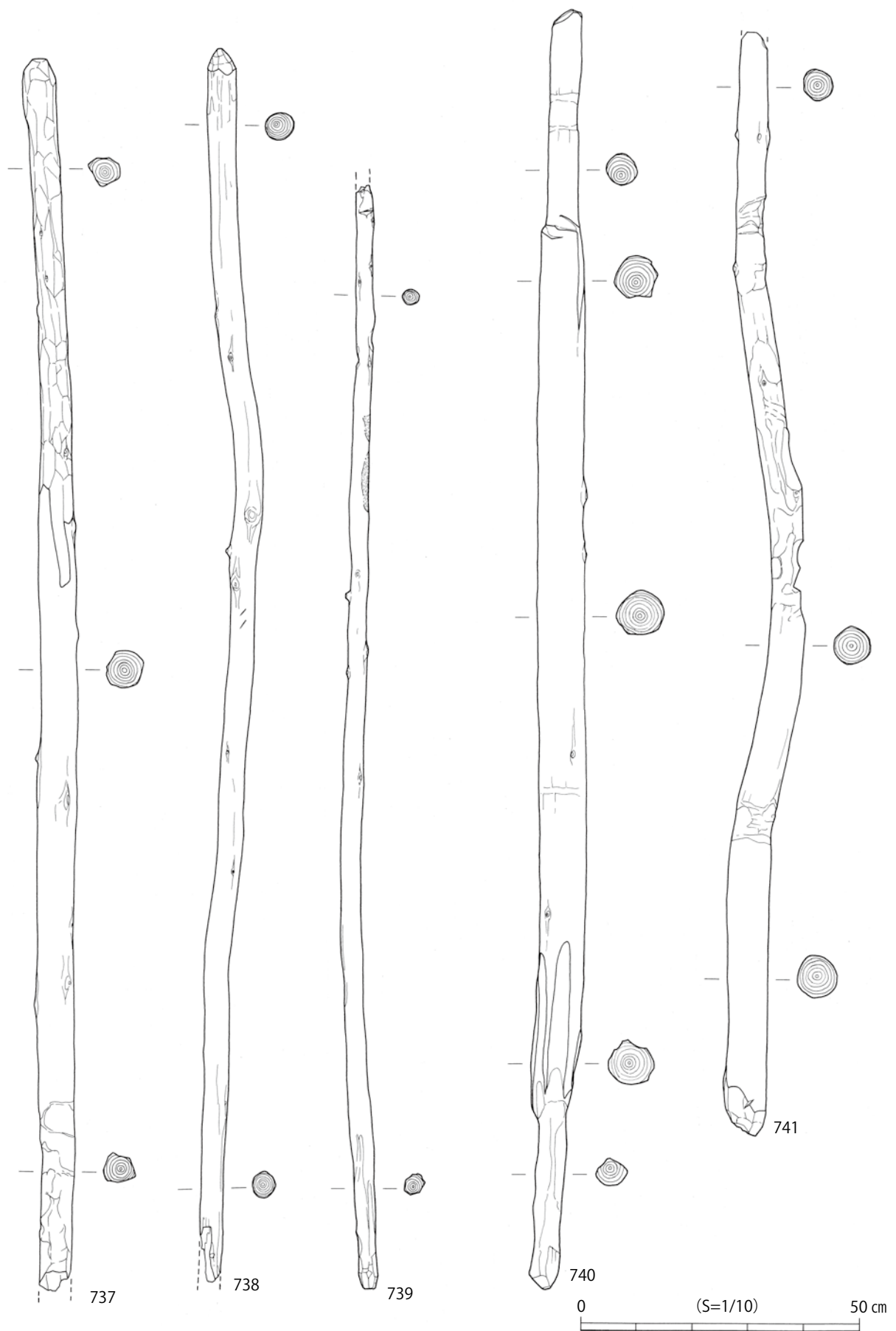


図 60 遺構 302 出土木製品 22 (建築部材 3)

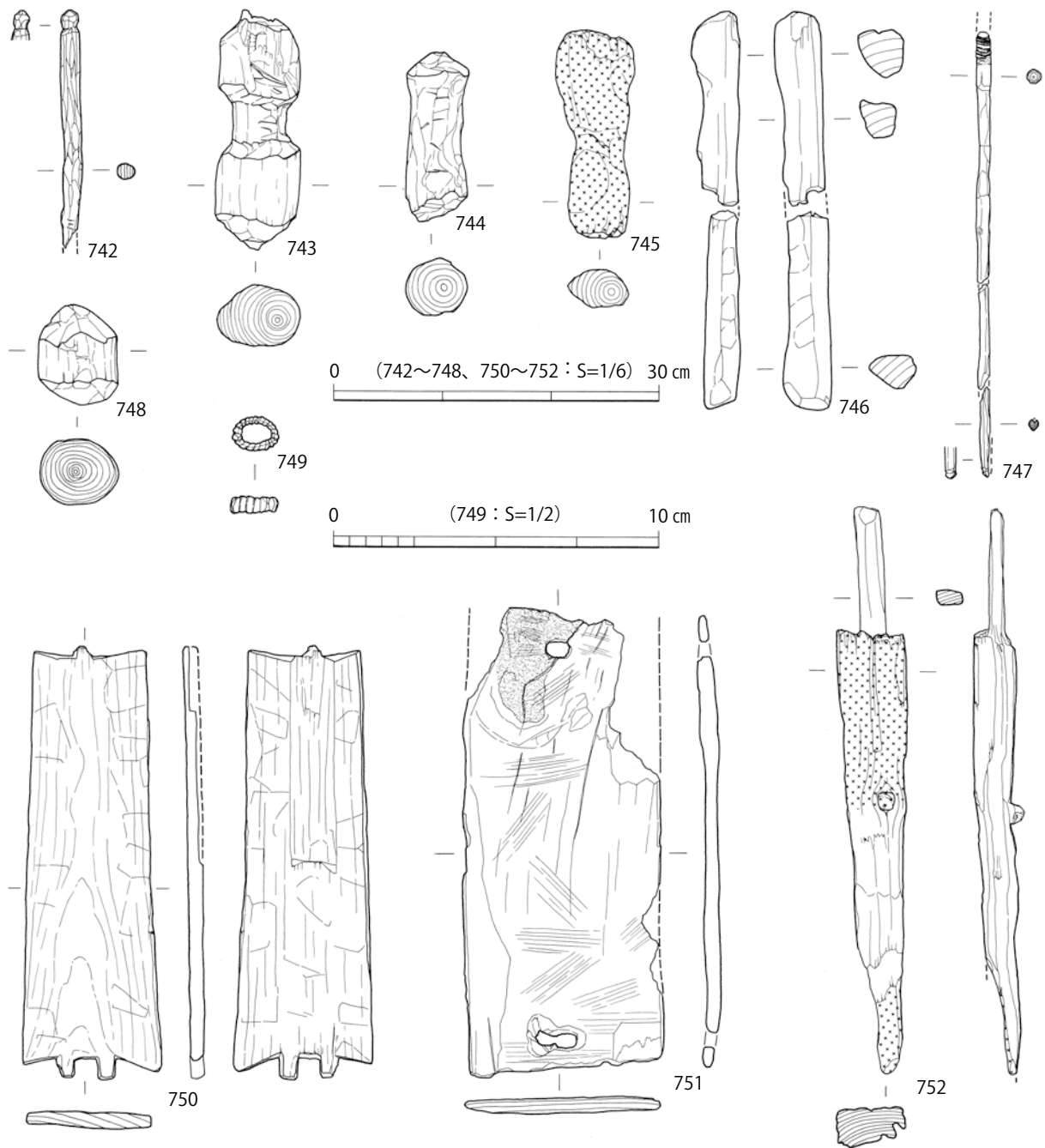


図 61 遺構 302 出土木製品 23 (その他製品)

760 はサカキの半裁材あるいは割材。長さ 89cm、直径 12cm。761 はタイミンチバナの半裁材。長さ 68cm、直径 10cm。762 はアカガシ亜属の半裁材。長さ 33cm、直径 12cm。

763 ～ 772 は板材。763 以外はスギ製で、このうち 767 ～ 772 は有孔板材である。

763 はムクロジの柂目材。柂目で全面が炭化している。長さ 43cm、幅 11cm、厚さ 1.8cm である。764 ～ 766 はスギの板目材。規格は様々であるが、板目取りで共通している。764 は長さ 26cm、幅 18cm、厚さ 3.7cm。礎板の可能性が考えられる。765 は長さ 54cm、幅 11cm、厚さ 2.0cm。一端に円形の抉れがあり、有孔板材であった可能性もある。766 は、長さ 124cm、幅 11cm、厚さ 2.0cm。

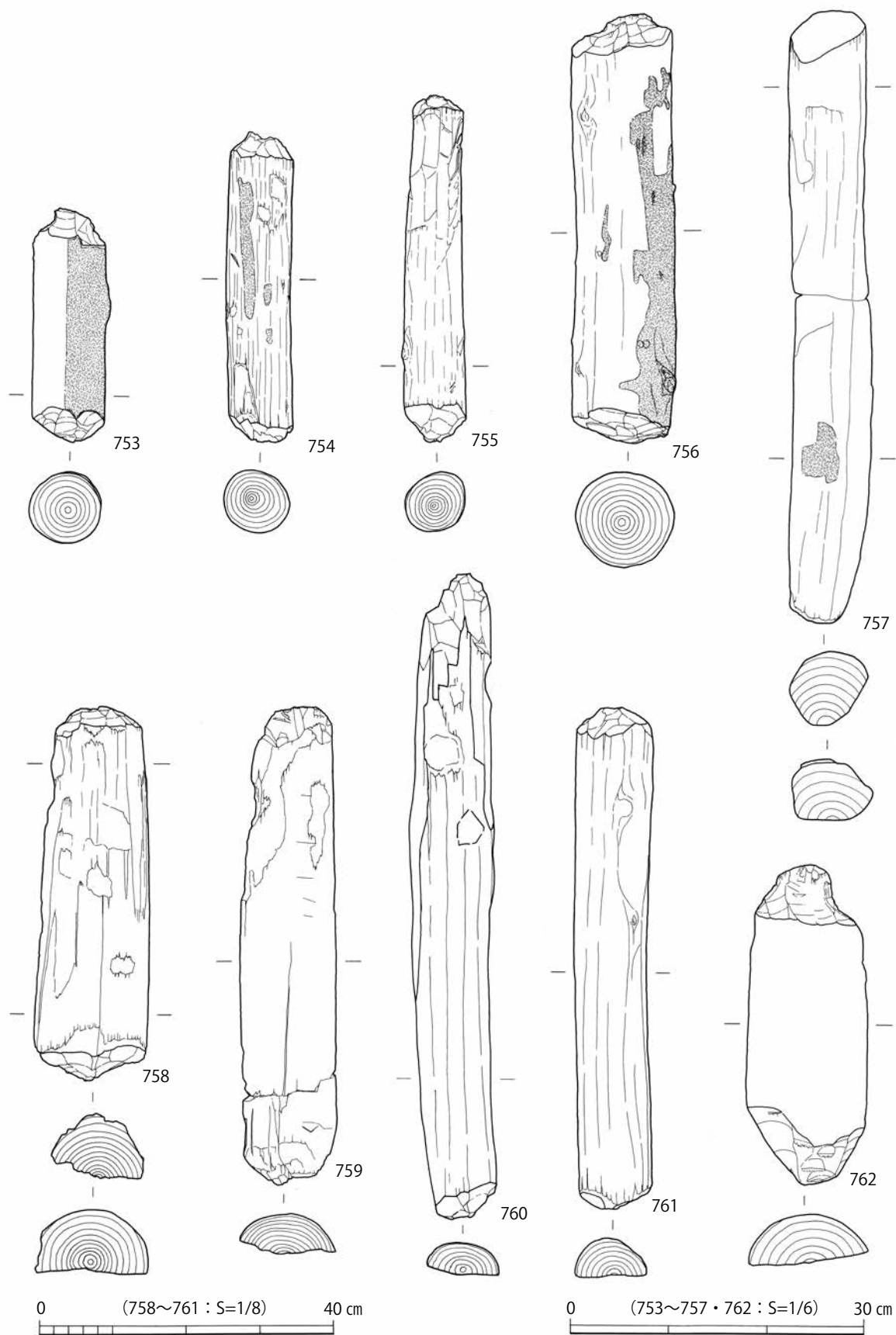


図 62 遺構 302 出土木製品 24 (丸太材・割材・半裁材)

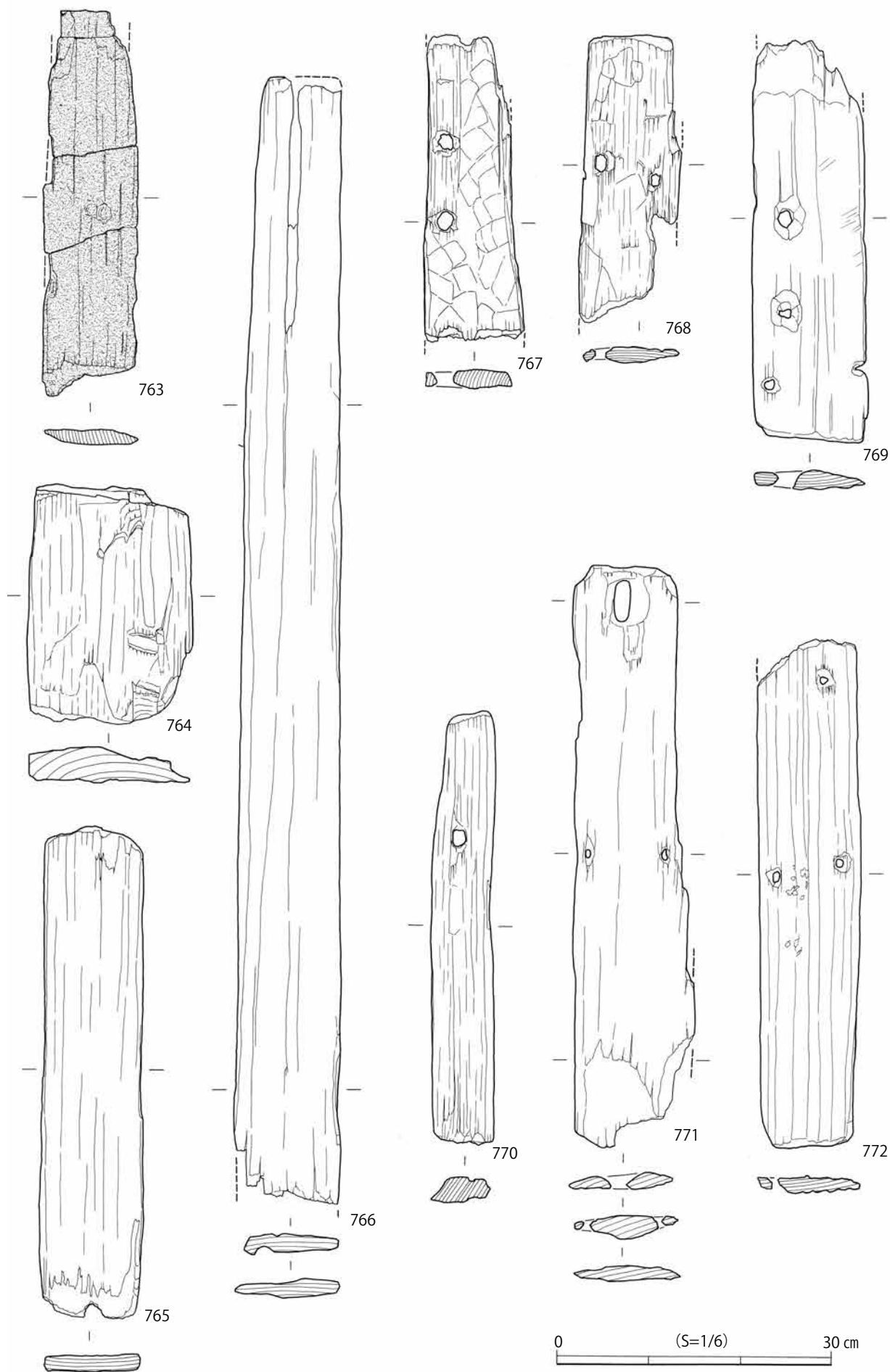


図 63 遺構 302 出土木製品 25 (板材)

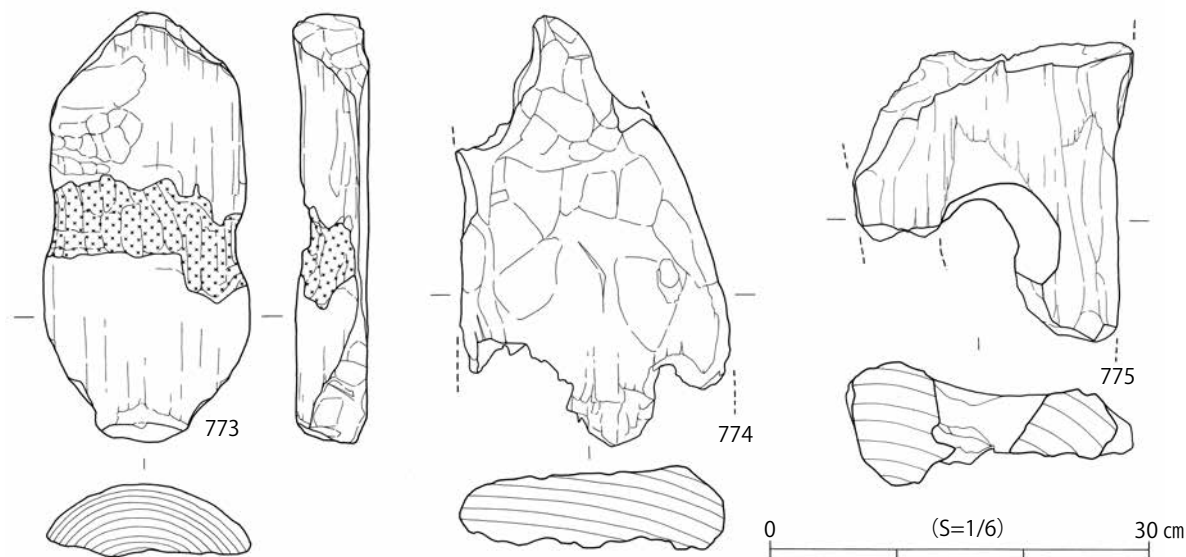


図 64 遺構 302 出土木製品 26 (その他部材)

767～772は有孔板材。柃目・追い柃目・板目のものがある。767は柃目取りの板材で縦方向に2孔を有する。表面を面取りし、厚みを一定にしている。770は追い柃目で1孔を有する。板材と割材の中間的な形状をしている。768・769・771・772は板目取りの板材である。本来の長さは60cm以上とみられ、2・3孔が確認でき、2孔一対となっているものが多い。楔痕は確認できないが、割りとったような粗い状態をしており、板の厚みは一定ではない。

773～775はその他の木材。773はクスノキの板目取りの辺材。原材が残材か不明である。材の中央のみが窪み、腐食している。774はクスノキの板目取りの板材。面取りをして平坦にしており、幅約20cm、厚さ約5cm。775はスダジイの瘤付近の割材。不自然な形状をおり、これを原材とする製品も確認されていない。

また、実測対象外としたスギ・マキ・クスノキの製品・材と推定される破片のほか、ツブラジイ・スダジイ・アカガシ等の自然木が多量に出土している。堅果類としては、イチイガシ・ツブラジイ・オニグルミのほか、クリやトチが確認されている(川崎・此松 2011) また、サルノコシカケが3点出土している。

B) 遺構 302 第2層、第1層出土木製品 (図 65、図版 39)

遺構 302 の第2層は土器からみると、弥生時代前期中段階の遺物がほとんどで新段階の遺物がわずかに混入する層、第1層は弥生時代前期新段階と中段階の遺物含む層である。

776・777は遺構 302 の第2層から出土した。

776はヒノキの板目取りの板材。長さ155cm以上、幅8cm、厚さ1cm。第3層のスギ板よりも

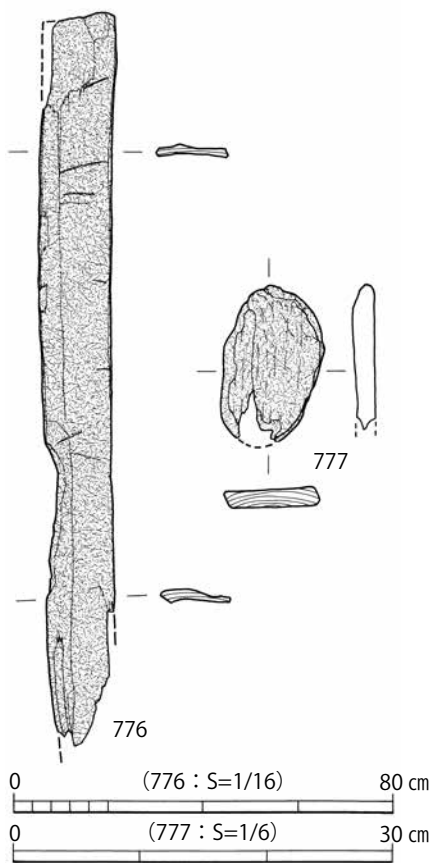


図 65 遺構 302 出土木製品 27

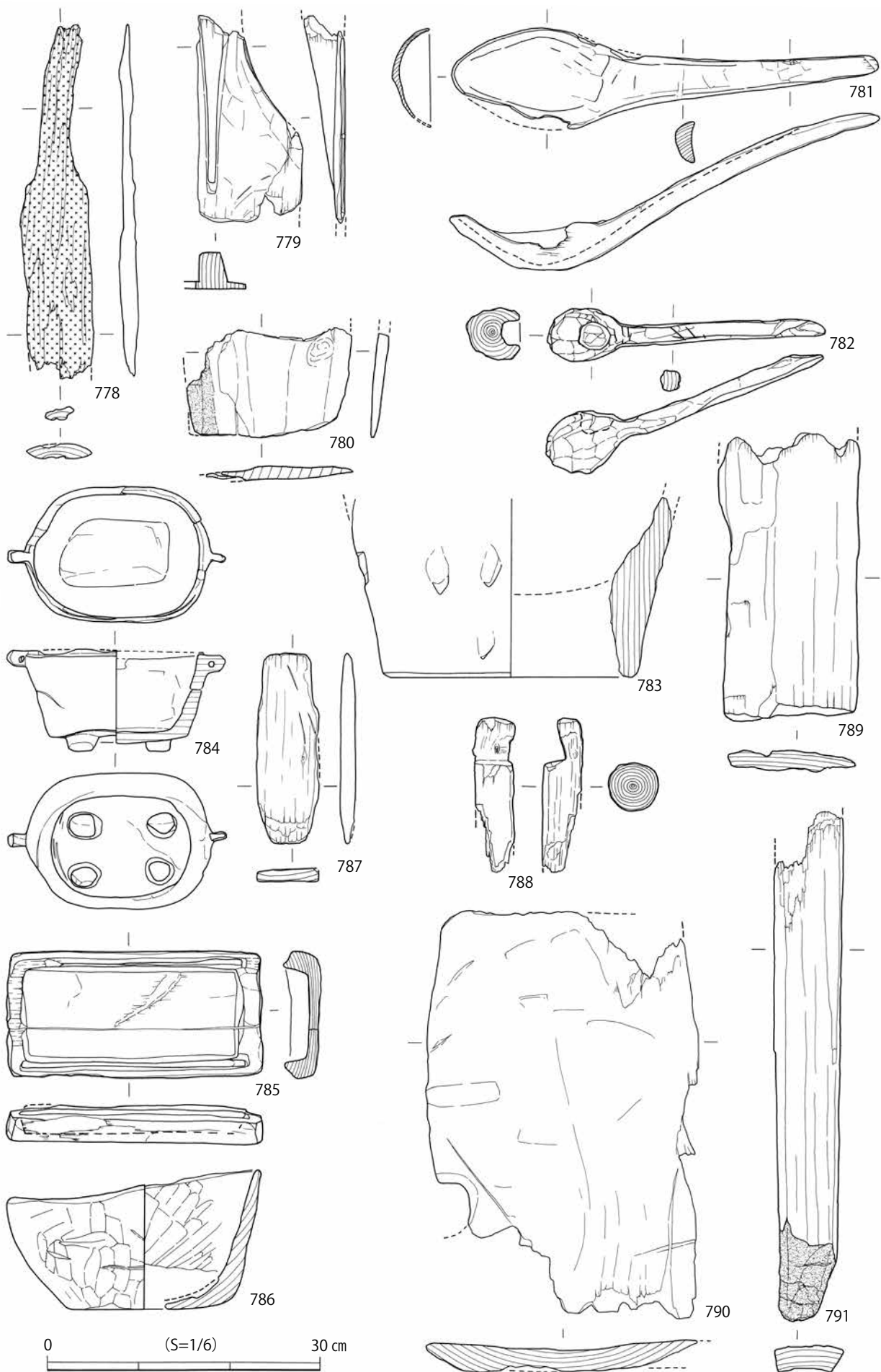


図 66 遺構 313 出土木製品 1

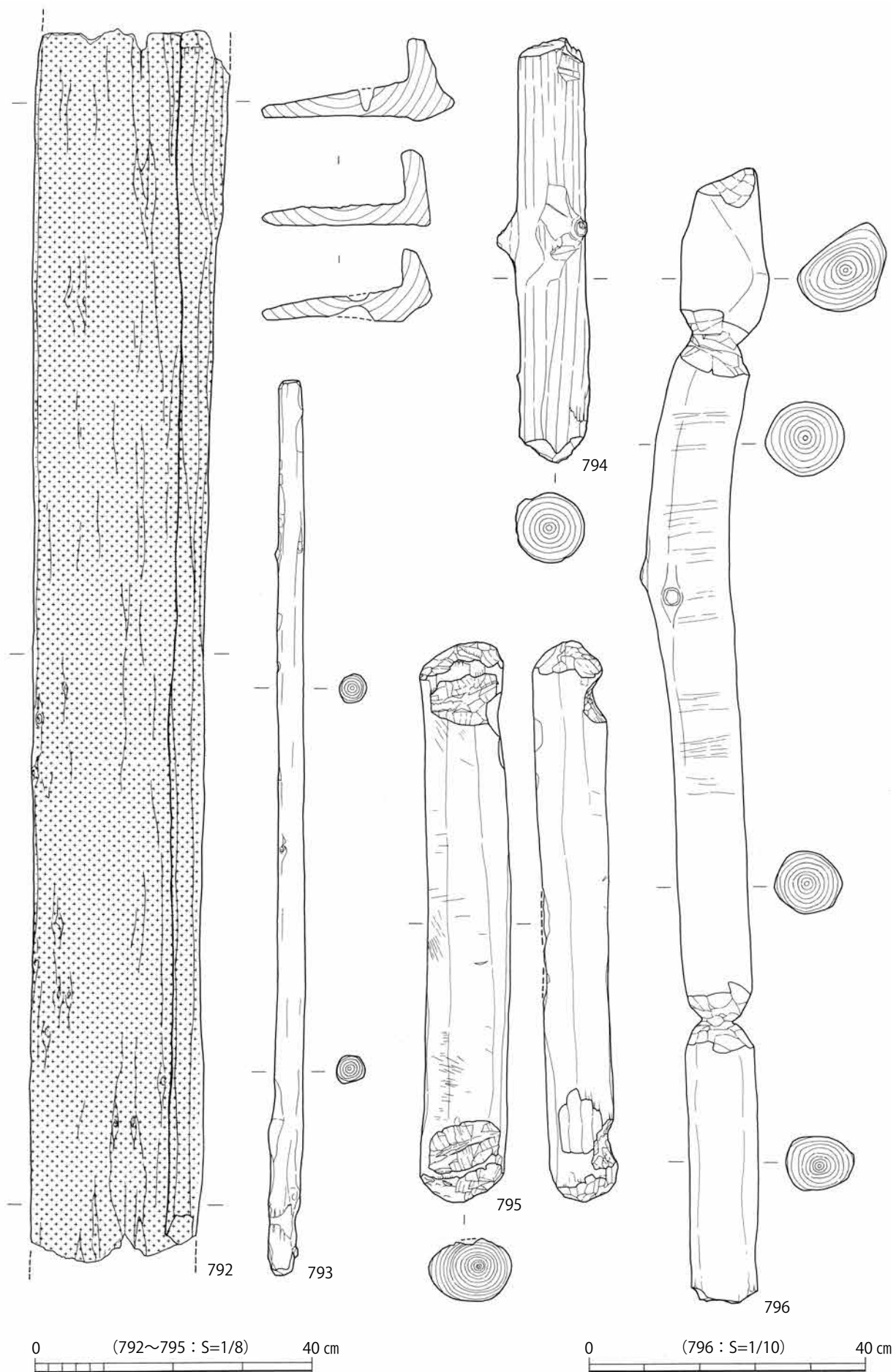


図 67 遺構 313 出土木製品 2

規格化された製品と推測される。全面が炭化している。

777 はスギの楕円形板状製品。12cm×8cm×1.8cm。周囲を面取りしている。用途は不明で、全面炭化している。

このほか、マキ属・クスノキの燃えさしも出土しており、第2層出土木製品の特徴と考えられる。舟形容器片も出土しているが、本来第3層に帰属するものとも考えられる。第1層からはスギ板材、クワ半裁材などが出土している。

C) 遺構 313 出土木製品 (図 66・67、図版 39・40)

遺構 313 は遺構 302 の上層にある自然流路で、弥生時代中期から古代にかけての遺物が出土している。弥生時代から古代までの多数の木製品が混在して出土している。

778 はイスノキ製平鋏で、腐食が著しい。遺構 313 が遺構 302 の3層を削り込み、遺物が混入したものと考えられる。779・780 は直柄広鋏。イチイガシの柾目・追柾目材を用いる。779 は柄を差し込む突起が下に伸び、側面は大きく弧を描いて挟れる。780 は刃先の破片である。781 は匙。クスノキの割材横木取りで、長さ49cmの大型製品を作り出している。表面は平滑で、身と柄が一体的に作られている。782 は瓢箪を模した匙か、匙の未成品。クワ属の芯持ち削り出し材を用い、柄の先端に球形部が取り付け、上面に円孔を有する。783 は小型臼と考えられる破片。クスノキの芯持ち丸木材を用いている。784 は四脚合子の身。クワ属の横木取り材を用いた精製品で、長さ24cm、幅15cm、高さ11cm。平面楕円形の両端に紐孔突起をもち、口縁部の内側を高くする。785 は方形盤。スギの板目材を用い、28cm×14cm×4cmの粗製品を作る。底は平坦で、長辺の口縁部内側を高くする。786 は深鉢形容器。クスノキの横木取りで、口縁部径29cm、高さ15cm。容器の中から広葉樹樹皮の板状材が出土しているが、別材か不明。787 はスギ製の板。長さ21cm、幅7cm。788 は建築部材の頭部とみられる破片。マキ属の芯持ち丸木を用いる。頭部の半面を削り落す。789 はスギの板目材。790 はクスノキの板目材。図の左辺に挟りと楔痕がみられる。板材を取った後の縁辺部の残材とも考えられる。791 は一端が炭化した棒。ヒノキ製の板目材である。792 は木樋。313の肩部に埋まった状態で出土した。クスノキの板目材を用いており、長さ179cm、幅28cm、高さ12cm。内面は流水により痩せ、腐食したような状態を呈する。793 はマキ属の棒状材。長さ128cm、直径4cmの芯持ち丸木である。794 はマキ属の丸太材。長さ62cm、直径10cmの芯持ち丸木。795 はイヌガヤの棒状材。長さ81cm、直径9～12cm。断面楕円形の広い面の両端に近くに、挟りを入れる。工具痕は明瞭である。796 はヤマビワの裁断途中品。長さ206cm、直径10～16cmで、3か所に工具痕が明瞭に残る。

A 2層から779・781・789・790、B 2層から787、B 3層から785・786・793、上層から145、中層から780、下層から783、底から795が出土している。

D) 調査区 5 第4層出土木製品 (図 68、図版 40)

調査区 5 の第4層から797～799が出土している。

797 は建築部材とも考えられる有頭棒で、アワブキの芯持ち丸木材を用いる。直径4cmで、加工痕は明瞭。798 はスギの板目材を用いた柄。799 はヒノキ製の円盤。曲げ物の底板と考えられる。

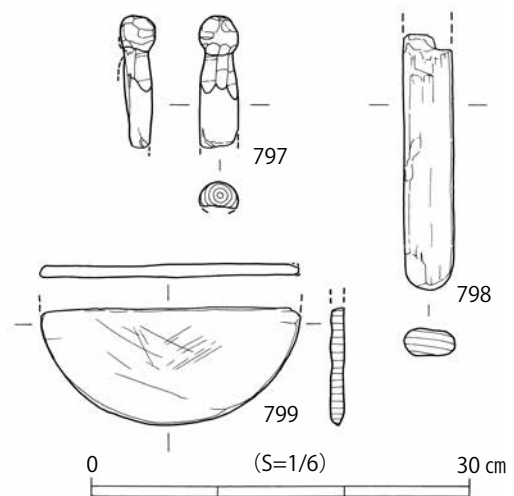


図 68 調査区 5 - 1 第4層出土木製品

第V章 まとめ

調査では、水田区画・杭列・自然流路などの遺構が検出され、遺物では弥生時代前期から中世にかけての各期の土器類などが出土し、調査区付近で長期にわたって集落が営まれていたことが明らかになった。集落の居住域は、堅穴建物などが検出されていないことから明らかでないが、調査区1・2付近から調査区4・5と調査区3の間の町道に沿う付近が周辺では最も高く、遺物もその周辺に集中していることを根拠にすれば、町道に沿う調査区付近で、堅穴住居などはすでに削平されたと考えることができる。また、調査区4・5付近では、弥生時代以降連綿と水田が営まれていたことが窺える。

調査区4-2の下面で検出した水田区画は、弥生時代後期末から古墳時代初頭頃のものである。当該期の和歌山県での水田検出例は少なく、その一端を窺う資料となるとともに、最南端の水田遺構の位置づけもできる。中世の水田は、方形で整然と区画されていたことが窺える。現在の水田は、昭和30年代に区画されたものでものであるが、中世の段階で、それと軸方向をほぼ同じくする水田が整然と並んでいたことになる。

調査において最も大きな成果は、弥生時代前期の自然流路である遺構302の3層から木材などとともに土器・木製品・石器などが多量に出土したことである。土器は県下最古段階の弥生土器と縄文土器の系譜にある突帯文土器であり、木製品は、容器や農具・工具など多種多様で、製品や製作過程のものがあ、流路の傍で木製品を製作していたことが明らかになった。石器には木製品を加工する磨製石斧や削器などもあり、これらの製作を行っていたことも判明した

ここでは、土器・石器・木製品・集落にわけて周辺遺跡の成果を踏まえ考察を加えたい。

1. 土器

弥生土器の時期 遺構302の3層は、上部を地山崩壊に伴うと考えられる2層に覆われることから、流路出土の遺物としては一括性が高い。

弥生土器では46・49・50は口縁部が発達し、49に関しては幅広の削出突帯上に多条の沈線を施し区画文様が帯状文様化するなど、やや新しい様相を呈する。また、66・67についても新しい特徴をもつものの、他の資料については口縁部が短く、また口・頸・体の境が比較的明瞭で区画文様をもつなど前期中段階の特徴を有していると言える。

県下で最古段階の弥生土器は堅田遺跡や徳蔵地区遺跡などで出土している。堅田遺跡は弥生時代前期に遡る青銅器の鋳型が出土した環濠集落として著名であるが、成立当初の集落は環濠をもたず、松菊里式住居などで構成される。古手の土器はこの時期の住居や土坑、あるいは環濠への混入遺物として出土している。堅田遺跡の土器を編年したのが図69であるが、堅田1期とした時期は壺の口縁部が短く、口・頸・体の境が明瞭で段あるいはI種削出突帯あるいは

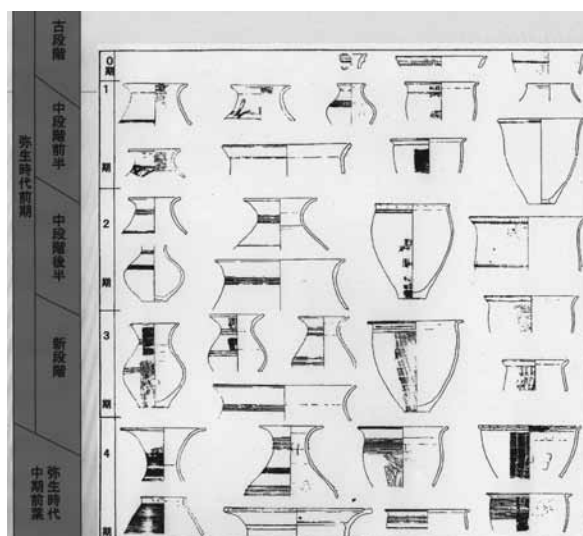


図69 堅田遺跡の土器編年

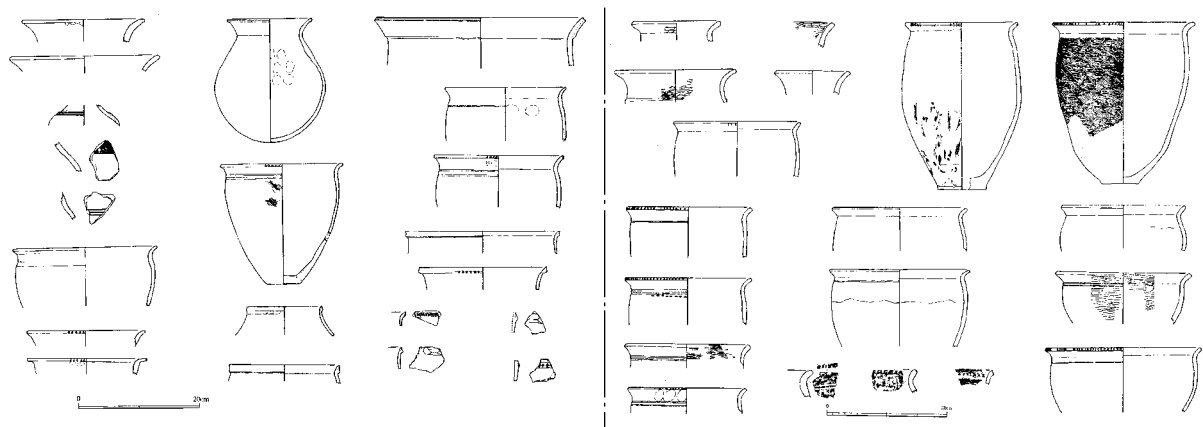


図 70 堅田Ⅰ期の土坑資料（左：堅田遺跡・右：徳蔵地区遺跡）

Ⅱ種削出突帯（突帯上に少条の沈線を引く）・沈線などで区画する。甕は頸部に段を有するものや無文のものがあ、沈線は2条までで、沈線間刺突もこの時期に存在する。堅田Ⅰ期は主たる時期が前期中段階前半で、それに削出突帯が伴わない土坑一括資料もあることから古段階の終わり頃を含めている。堅田Ⅱ期の壺は、堅田Ⅰ期同様に口・頸・体部の境を沈線やⅡ種削出突帯で区画するが、段による区画がなくなる。口縁部はⅠ期に比べやや長くなる。沈線での区画はおおむね2・3条で、削出突帯上の沈線もおおむね3条までである。甕はⅠ期と大きな違いは無いが、段を持つタイプが無くなり、沈線の数も少条が多い。堅田Ⅱ期は中段階後半で、Ⅱ期までは壺の区画文様があり、口・頸・体部の境が明瞭あるいは比較的明瞭な時期とする。また。堅田Ⅲ期では壺の区画文様が帯状文様化し、口縁部も長く伸びるようになり、甕も同様に口縁部が発達し、頸部の沈線も多条化する。

今一度、立野遺跡の弥生土器をみると、35・40など口頸部境が段の壺はあるものの、35は頸体部境が沈線で区画されており、口縁部もやや長くなっている。頸体部の境は、段で区画する53・57、あるいは木葉文などの文様を施す壺は古い様相をもつ一方で、49・50などの存在から立野遺跡の弥生土器は、堅田遺跡の最古段階のものよりはやや下り、堅田Ⅰ期後半から堅田Ⅲ期の初め頃、言い換えれば前期中段階の中ほどから新段階の初め頃の時期幅があり、主たる時期が中段階後半であると考えることができる。

土器の組成 前期弥生土器の器種構成は壺・甕・鉢・高杯のほか甕蓋・壺蓋などがある。立野遺跡では、壺以外の器種がなく、煮炊きには突帯文土器・深鉢を使用している。堅田遺跡や徳蔵地区遺跡でも、突帯文土器は使用しているものの、弥生土器の甕や鉢は使っており、ほぼ同時期でありながら立野遺跡では弥生土器甕を使わない、弥生文化を受け入れるにあたっては突帯文土器に拘り器種の峻別をおこなっていることが窺える。

表1にもあるように、立野遺跡の弥生土器と突帯文土器の比率は1：9である。あくまでも破片点数であり、実際の個体数を示すものでないが、貯蔵を目的とする壺の数より、煮炊きに

使う深鉢の数が多い。表4は堅田遺跡の環濠から出土した土器の集計で、点数の把握はすべて接合を終えた時点で、口縁部の1/8残存するものを1点として数えている。

表4 堅田遺跡の土器組成

	壺	甕 (深鉢)		鉢	高杯	甕蓋	壺蓋	合計
			遠賀川					
総数	617	545	(260)	69	6	24	19	1280
占有率	48.2%	42.6%	(47.7%)	5.4%	0.5%	1.9%	1.5%	100.0%

環濠出土遺物の時期は環濠掘削以前の堅田1期から堅田4期までで、古段階末頃から中期初頭までの時期幅をもつ。甕の中には遠賀川式の甕以外に突帯文土器深鉢や堅田遺跡で多く見られる紀伊型甕や逆L字状口縁甕など突帯文土器の系譜にある土器も含んでいるが、壺と甕では、壺の方が多い結果が出ている。立野遺跡のように破片点数を数えたものでないことから同じテーブルで比較できないが、集計方法で生じる多少の誤差を差し引いても、両遺跡では組成に大きな違いが存在することになる。ちなみに堅田遺跡の甕では、弥生土器甕より突帯文土器深鉢や突帯文土器の系譜にある甕の方が多く、青銅器の生産をいち早く行い、木製品や石器などは畿内的な様相呈する集落であっても縄文色が一掃されることはない。瀬戸遺跡でも前期の弥生土器甕が報告されていないことから、和歌山県では南にいくほど弥生時代前期に突帯文土器を使う割合が高く、紀南地域に限定すれば弥生時代前期に弥生土器甕を使わない地域であった可能性がある。

突帯文土器 瀬戸タイプの突帯文土器は、堅田遺跡が所在する日高川流域から和歌山県の南端部にかけて分布する。図70にもあるように堅田遺跡では、堅田1期に比定した住居・土坑一括資料には瀬戸タイプはなく、土坑資料では堅田2期以降の弥生土器に伴って出土している。また、徳蔵地区遺跡でも堅田1期に併行すると考えられるB区土坑9・44・50・51の資料に瀬戸タイプは見出せず、Ⅱ区10-③区旧河川第8層で堅田1期に併行する少量の弥生土器と、Ⅲ区13-①区旧河川1で、堅田2期に併行する弥生土器と出土している。瀬戸遺跡では、堅田1期に併行する弥生土器と瀬戸タイプが共伴しており、瀬戸タイプが中段階前半段階に存在することは確実であるが、時期差のある遺物が混在する旧河川資料はさておき堅田遺跡や徳蔵地区遺跡の土坑資料を積極的に評価すれば、瀬戸タイプは前期中段階前半に多くなく、盛行するのは前期中段階後半であることが導き出される。とすれば、立野遺跡の弥生土器と突帯文土器の共伴関係も素直に理解することが可能であろう。

弥生土器と併行する時期の突帯文土器で、口縁部が外反し突帯が垂下するのは長原式の属性ではなく、播磨や阿波など東部瀬戸内に多くみられる。また、報文においてA類・D類とした資料も同じ地域に多く分布している。瀬戸タイプは、口縁部が外反し、A類・D類が多いことでは東部瀬戸内地域の特徴をもつことになる。瀬戸タイプの大きな特徴はC類が一定量あることで、また、ほとんどが口縁端部に接して突帯を付すこと、尖底があることも特徴としてあげることができる。瀬戸タイプが口縁部に接して突帯を付すのは、粘土接合痕を生かした口縁部段をもつ初期の弥生土器壺、口縁部が外反し口縁端部にのみキザミをもつのは弥生土器甕の意匠と理解すると、瀬戸タイプの成立が紀南地域で弥生土器の情報を得て以降であると想像することもできる。

堅田遺跡の甕（煮炊き具）は多種多様で、弥生土器甕、瀬戸タイプ以外にも弥生土器甕と突帯文土器の折衷や搬入品の甕など10種余りを見出すことができる。前期中段階から新段階にかけて紀伊型甕（祖形）をはじめとして突帯文土器が突帯を退化させていくこともわかっており、サイズも小型化し一条突帯で弥生甕と同程度の大きさになる。瀬戸タイプも突帯が低く、また上下をナデることで口縁部が肥厚する程度の資料を堅田遺跡でも見出すことができ

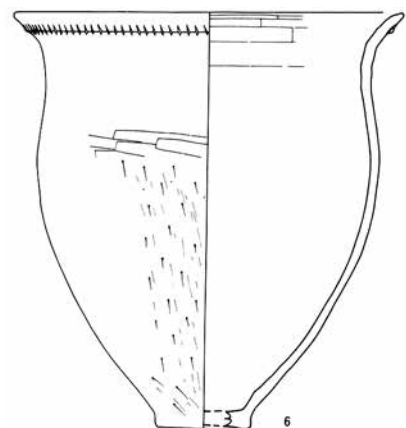


図71 片山遺跡突帯文土器

る。図 71 のような片山遺跡出土資料が新段階に位置づけられる瀬戸タイプであると考えられ、立野遺跡でも、1 層から出土している 256 などは新しい特徴をもっていると言う事ができる。ところで、県下では前期の段階で多種存在した煮炊き具（甕）が中期前葉になると、紀伊型甕のみになる現象がおこり、弥生土器甕や他の突帯文土器の系譜にある甕は無くなる。同時に紀伊型甕が近畿各地にまで各地に運ばれるようになるが、それとともに瀬戸タイプをはじめとする他の突帯文土器は消滅したと考えることができる。

土器からみる弥生文化の伝播と交流 弥生時代前期の遺跡は、稲作に適した沖積平野周辺に展開するようになる。紀ノ川流域では中流域の橋本市、さらには奈良県まで遡って前期の遺跡が存在するが、和歌山県の中部・南部では海岸近くの沖積平野に集中し、河川の中流域・上流域には遺跡は存在しない。縄文時代中・後期の遺跡は河川の中流域に比較的多く展開するが、縄文時代晩期末頃から弥生時代にかけては一転して海岸近くに集中するようになる。また、この時期におおよそ稲作に適さない半島部や島嶼部、海浜部にも多くの遺跡が営まれる。半島部や島嶼部の遺跡については、漁労を生業にする集落以外にも交易に関わる集落と捉えることができ、実際この時期の遺跡には多くの搬入品が見られ、海を介して活発に交流が行われていたと捉えることができる。



図 72 弥生文化の伝播と交流

和歌山県最古段階の弥生土器は、和歌山中部の由良町衣奈遺跡・堅田遺跡・徳蔵地区遺跡、南部の瀬戸遺跡・立野遺跡で出土するのみで、県下最大規模の沖積平野をもつ紀ノ川平野やその周辺部、いわゆる紀北地域からは出土していない。このことから、初現期の弥生土器あるいは弥生文化は、紀北地域を経由せず入ってきた、言い換えれば紀伊水道を渡って四国から和歌山県中・南部地域に入ってきたと考えることができる。紀伊水道の入口である徳島県蒲生田岬と和歌山県日ノ御崎の間は距離が短く、間には伊島も存在し、比較的容易に船で移動できたと想定でき、日ノ御崎の近くには衣奈遺跡や堅田遺跡が立地する。各遺跡では結晶片岩を含む土器が多く出土するが、その中には徳島から運ばれたものも存在すると考えられ、平成 24 年度に行われた片山遺跡の調査でも徳島産と考えられる突帯文土器が出土している。立野遺跡や徳蔵地区遺跡では生駒西麓産の突帯文土器も出土しているが、瀬戸タイプが東部瀬戸内の特徴をもち合わせていることから、河内潟周辺部より強い繋がりが窺え、和歌山県南部の弥生文化の成立には東部瀬戸内、四国地方の影響が多分にあったと考えることができる。

遺構 302 から出土した土器には、角閃石や結晶片岩を含む土器以外にも胎土から明らかに搬入品と考えられる土器が多くあり、東海地方をはじめ東日本からの搬入品も存在する。日ノ御崎以南の前期遺跡で東日本の土器が出土することは多く、伊勢の垂式遠賀川、三河の条痕文土器のほか浮線文土器などがあり、海路により運ばれたことが窺える。遺構 302 の 2 層で出土した浮線文系土器の 275 などは、特徴から北陸地方からの搬入品と評価されており、遺構 302 出土ではないが 314 についても、やはり浮線文系で美濃地方の可能性も指摘されている。これら東日本の土器を含め中部瀬戸内の中山 B 式に類似する突帯文土器・生駒西麓産の土器など、広範な地域と交流

していたことが窺える。

2. 石器

石材 立野遺跡の石器の特徴は、石材として地元産の頁岩を多用していることがあげられる。頁岩は周辺で容易に採取できる石材で、加工も比較的簡単であるが、強度的には砕けやすい・剥離しやすい性質であって、出土した磨製石斧や打製石斧に多くの破損品がある。畿内やその周辺部では、打製石器にはサヌカイト、磨製石斧や石包丁には結晶片岩や凝灰岩などを利用するが、立野遺跡では、それらのほとんどに頁岩を利用している。搬入土器が多くあることから、決して閉鎖的な集落ではなく、結晶片岩の石棒も出土していることから産地と交流ルートを持たなかった訳ではない。日置川上流域に所在する縄文時代前期末から晩期まで続く田辺市嶋野遺跡でも、石器のほとんどが頁岩であり、和歌山県南部地域では縄文時代以降、強いてサヌカイトなど他所の石材を利用しなかったと考えられる。この状況は、弥生時代中期に至っても続き、日置川下流に位置する白浜町大古Ⅱ遺跡でも、サヌカイトなど他産地の石材の割合が少なく、頁岩製の石器の他、砂岩製の石斧や石包丁などもある。やはり和歌山県南部の新宮市八反田遺跡でも頁岩の割合が高く、砂岩製の石鏃も作られており、地元で調達できる石材を奔放に使っていることが窺える。堅田遺跡や徳蔵地区遺跡では、打製石斧などに頁岩製の資料があるものの、石鏃などはサヌカイト、石包丁には結晶片岩を用いており、和歌山県北中部と南部とでは石材選定に大きな違いがある。このことは、弥生時代前期において、弥生土器甕を使用せず突帯文土器を使用する範囲と重なるものである。

サヌカイトの点数は少ないが、肉眼観察ではほとんどが金山産である。やはり肉眼観察の結果であるが、堅田遺跡でもサヌカイトの約75%が金山産で、少ない資料ながら徳蔵地区遺跡の弥生前期の住居でも約67%が金山産である。大阪湾沿岸では、弥生時代前期の一時期に限って金山産の割合が高くなることが報告されているが、それらに比しても極端に多い割合を占めている。土器の項でも触れたように古い段階の弥生土器と同じように蒲生田岬－日ノ御崎のルートで金山産のサヌカイトあるいは石棒などがもたらされたと考えるのが妥当であろう。

石器組成 表5でも明らかなように、他の弥生集落と比べ立野遺跡の石器組成で窺えることは、石鏃が極端に少なく石錐が出土していない、石包丁が少ない、石斧では伐採斧がなく加工斧が多量にある、打製石斧が多い、それに削器・刃器・楔形石器が極端に多いことなどがあげられ、表

表5 石器組成の比較

	石鏃	中型 尖頭器	大型 尖頭器	打製 石斧	磨製 石包丁	伐採 石斧	柱状 石斧	扁平石斧		石錐	石匙	削器・ 刃器	楔形(両 極)石器	石棒 石刀
								扁平	鑿状					
立野	5	0	0	36	1	0	0	28		0	3	247	103	20
堅田	85	4	2	4	11	24	9	3	2	29	0	40	11	12
野上中南	75	0	0	0	1	2	0	0	0	9	0	1	0	0
太田・黒田1	43	2	1	0	14	2	5	2	0	3	0	7	4	0
太田・黒田2	71	11	9	0	35	9	9	2	2	37	7	57	0	0
西飯降Ⅱ	44	6	5	18	14	0	2	0	0	15	0	18	18	0

立野遺跡 遺構302(すさみ町 弥生前期) 表3の遺構302全体の点数を計上 石棒は破片数で、実数は5点程度か
 堅田遺跡(御坊市 弥生前期) 御坊市教委・御坊市文化財調査会2002『堅田遺跡－弥生前期集落の調査－』 チャート製の石鏃1033点は除外している
 野上中南(海南市 弥生時代中期前葉)(財)和歌山県文化財センター2005b『野上中南遺跡－半島振興道路奥佐々阪井線道路改良工事に伴う発掘調査報告書－』
 太田・黒田1 市23～43次(和歌山市 弥生時代前期末～中期) 高橋方紀1999『太田・黒田遺跡の石器組成』『紀伊考古学研究会』2(紀伊考古学研究会)
 太田・黒田2 県1次(和歌山市 弥生前期末～中期)(財)和歌山県文化財センター2007『太田・黒田遺跡(県1次)』
 中飯降Ⅱ遺跡(かつらぎ町 弥生時代中期～後期)(公財)和歌山県文化財センター2012『中飯降遺跡・西飯降Ⅱ遺跡・加陀寺前経塚・大谷遺跡・重行遺跡
 －一般国道24号京奈和自動車道(紀北東道路)改築事業に伴う第2次～第7次発掘調査報告書－』

には表れていないが敲石類が多いのも特徴である。

弓は8点出土しているが、前期に帰属する石鏃は5点と弓より少ない状況で、この内容から端的に導き出されるのは、集落では狩猟をほとんどおこなっていない、また、弓は集落内での使用分だけでなく交易品として作られていた可能性が高いということである。また、石鏃は1点も出土していないが、木や皮の穿孔など石鏃以上に生活に密着したものであるのに出土しないことには疑問が残る。

太型蛤刃石斧の斧柄や、伐採斧の使用痕がある木製品の未成品などは出土しているが、伐採斧自体は出土していない。また、流路には大径木の材木はなく、大径木の半裁材・みかん割材も出土していない。このことから、立野遺跡では伐採斧を使う工程をおこなわず、大きな素材の調達是他所でおこない、それを運び込んで、貯木した中・小径からは得られた素材とともに木製品を製作していたことが窺える。また、加工斧の出土が多いのは、やはり木製品の製作をおこなっていたことに起因するもので、小型の鑿型石斧・扁平石斧等細かい加工に適したものが多い。

打製石斧は、大きいものに関しては本来言われているように畑作農耕などの土堀具として利用されたと考えられるが、小型の製品については、木工に係る道具であった可能性が考えられる。

削器・刃器・楔形石器が突出して多いのは木製品の製作に用いられたからで、また、楔形石器が多いのに関しては主に木製品製作に使用する削器などの製作をおこなっていた一面も考えられ、木材を割る際の楔のハンマーや石器を割るのハンマーとして敲石が使用されたと考えられる。

以上のように立野遺跡の石器組成は木材加工用の石器に偏重することからも一般的な弥生集落ではなく、木製品製作に特化した集落であり、その傍らに農耕をおこない、一部狩猟もおこなっていたと判断することができる。

3. 木製品

立野遺跡の木製品には、樹種・木取り・器種の上で他の遺跡にみられない特徴が確認される。

平鋏（曲柄狭鋏）にイスノキ製の板目取り、各種容器にクスノキの横木取りの材を使用した製作工程の分かる資料があり、直柄広鋏にも板目取りの製品・未成品がみられる。みかん割り材や柂目材の未成品がほとんどみられないことから、基本的に大径木や中径木の伐採を行わず、立ち木から直接辺材を剥ぎ取って製品を製作していた可能性が考えられる状況である。幅の狭い鋏や、楕円形・舟形の容器が多い理由は、立ち木の径に左右されたからであるとも考えられる。伐採斧が出土せず、地元で採取される頁岩製の楔形石器が多量に出土する状況も、これに対応するのであろう。

また、これらの木製品は土器や石器と器種分化していたものと考えられる。イスノキ製の平鋏は石鋏と共伴しており、木製品で硬い土を開墾する必要はなかったものと推定される。弥生時代中期以降に広くみられる形状の平鋏のほか、狭鋏としての特徴の強い身の細長い製品や大型品があり、一度開墾された後の畑を耕すものや、水田耕作、水田の畦塗りといった各種作業に適した形状の鋏を製作したものとも考えられる。

クスノキ製の容器についても、突帯文系の深鉢・甕形土器（鍋）、弥生土器壺と共伴している。木製品は、浅鉢や高杯に代わる容器として存在していたものと推定され、小型の舟形容器、大型の高台付き深鉢、有孔浅鉢、大皿に器種分化していたものと考えられる。なお、クスノキの横木

取りの製品には泥除もあり、有孔浅鉢や大皿についても単なる容器以外の用途も視野に入れておく必要があるだろう。

漆塗りの弓や刈払具、布送具といった貴重な資料が出土したほか、琴や矢とみられる製品も有用な検討材料となるだろう。

立野遺跡では、これらの平鉢・容器をはじめとする多様な木製品が一括資料として出土している。これらの木製品は、縄文時代と弥生時代の移行期における、西日本・東日本からの影響と紀伊半島南部の在地の様相が具体的に分かる貴重な資料といえる。

4. 集落

弥生時代以前の生活の痕跡がないことから、弥生文化の一部を受け入れた縄文人が恵まれた森林資源を求めて入植したことが窺える。弥生時代前期には、平野部の西端を流れる自然流路・遺構 302 の傍で居を構え、木製品の製作をおこなっていたことが明らかで、その場所も調査区 3 - 1 付近に限定できる。その証左としては、平成 24 年度に行われた下流部の調査で遺物が希薄なことを第一に、木製品や土器・石器類の特に集中する箇所が、遺構 302 の東肩寄りで調査区 3 - 1 直近の c 16・c 17 からその南の a 19・20 にかけてであること（図 12・38）、また、土器に磨滅が見られずススの付着が顕著なこと、食物残渣である堅果類や核果類の殻が大量に廃棄されていること、また、石棒の使った祭り（破碎行為）が水際で行われていたことなどを挙げることができる。

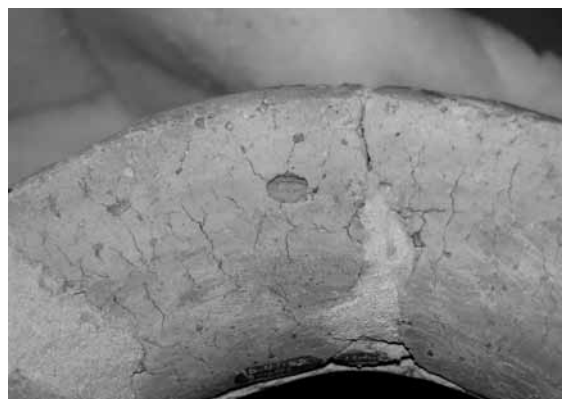


写真 16 粉殻痕のある土器 (35)

調査の成果は、弥生時代前期に木製品製作を専業する集団がいたことを物語るもので、社会的分業が早くから進んでいたと捉えることができ、立野遺跡の母村的性格の集落が存在したことも想定できる。また、主な生業は木製品製作であるが、鍬などの農具や収穫具である石包丁が出土していることや粉殻痕がある土器（写真 16）が出土していることから、水田耕作をおこなっていたことは明らかで、調査区 4 - 1 で確認している水平堆積する第 7 層の存在からも、弥生時代前期にはすでに当地で稲作が行われていたことが想定できる。

集落では、用途に即応した樹種選択を行い、適切な樹木を持続的に供給して幾種類もの木器を加工生産している。加工を容易にするため、自然流路に材木や素材を水漬し、加工具の製作にはじまり、素材確保から製作まで一連の作業をおこなっていたことが窺える。

遺構 302 の 2 層は、岸边（肩部分）の流路ベース土と類似することからも、流水による肩崩れないしは、岸边の樹木の伐開などが原因しての崩壊土壌と考えられる。木材資源確保・水田開発による古環境の急激な変化を起因として、自然流路が埋没し木製品の製作活動の中断あるいは終焉があり、その時期は前期新段階前半であると土器から推定することができる。

立野遺跡が位置する周参見が近・現代まで海路の要衝であったように、弥生時代前期においても東日本と西日本を結ぶ海上ルートの津（港）を背景に遺跡が立地すると解釈することもできる。

5. 最後に

土器・石器・木製品の内容は、縄文時代から弥生時代に移行する過渡期を示すものであるとともに、和歌山県南部地域と言う地域性を顕すものでもある。当地に於いて、どのように弥生文化を受け入れたかを示す好資料であるとともに、農具がどのように変化していったか、木製品の木取り、樹種選定は地域性なのか、あるいは時代を顕すものかなど、当該期の木工を考える上では重要な発見であると言える。

参考文献)

- 上原真人 1993 『木器集成図録 近畿原始編』奈良国立文化財研究所
- 勝浦康守 2000 「徳島の突帯文土器と遠賀川式土器－三谷遺跡・名東遺跡資料の検討」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行会
- 川崎雅史・此松昌彦 2013 「立野遺跡の植物遺体について」『財団法人和歌山県文化財センター年報 2010』公益財団法人和歌山県文化財センター 2011
- 川崎雅史 2008 「土器からみた弥生時代の始まり－突帯文土器の行方－」第11回紀伊考古学研究大会『時代の移行期を考える』資料 紀伊考古学研究会
- 川崎雅史 2007 「堅田・徳蔵地区遺跡－紀伊の弥生前期前半の土器様相－」『近畿の弥生土器は底を打ったか？－最古相を考える－』発表要旨集 近畿弥生の会
- 妹尾周三 2000 「中山B式土器について」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行
- 立岡和人 2007 「『瀬戸タイプ』試論」『関西の突帯文土器』発表要旨集 関西縄文文化研究会
- 仲原知之 2013 「立野遺跡の石器」公開シンポジウム『農耕社会成立期の木工－立野遺跡を考える－』資料集 (公財)和歌山県文化財センター
- 中村健二 2008 「近畿地方の様相」『古代文化』第60巻3号 (財)古代学協会
- 中村貞史 1984 「和歌山県下の縄文晩期」『縄文から弥生へ』帝塚山考古学研究所
- 中村 豊 2008 「東部瀬戸内・紀伊水道沿岸地域における凸帯文土器－徳島地域を中心に－」『古代文化』第60巻3号 (財)古代学協会
- 山田昌久 2003 『考古資料大観第8巻 弥生・古墳時代 木・繊維製品』小学館
- 2009 「讃良郡条里遺跡Ⅷ 一般国道1号バイパス(大阪北道路)第二京阪道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (財)大阪府文化財センター
- 1998 『水走遺跡第8次・鬼虎川遺跡第27次発掘調査報告書』(財)東大阪市文化財協会
- 1997 『水走遺跡第3次・鬼虎川遺跡第21次発掘調査報告書』(財)東大阪市文化財協会
- 1982 『長原遺跡発掘調査報告書Ⅱ』(財)大阪市文化財協会
- 2002 『堅田遺跡－弥生時代前期集落の調査－』御坊市教育委員会・御坊市文化財調査会
- 2005 『徳蔵地区遺跡－近畿自動車道松原那智勝浦線(御坊－南部)建設に伴う発掘調査報告書』(財)和歌山県文化財センター
- 1989 『弥生土器の様式と編年－近畿編Ⅰ－』木耳社
- 2001 『弥生土器の様式と編年－東海編－』木耳社
- 1982 「第5章 和歌山県瀬戸遺跡の第4・5次発掘調査」『京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和57年度』京都大学埋蔵文化財研究センター
- 1981 『尾ノ崎遺跡』御坊市遺跡調査会
- 1995 『中村地区遺跡発掘調査報告書』御坊市遺跡調査会
- 1978 『片山遺跡A地点発掘調査概報』南部町教育委員会・片山遺跡調査委員会
- 2013 公開シンポジウム『農耕社会成立期の木工－立野遺跡を考える－』資料集 公益財団法人和歌山県文化財センター

土器一覧表（1）

報告書番号	図・図版番号	種類器種	調査区地区	遺構層位	口径cm	高さcm	底径cm	残存率	色 調	形態・技法	備 考
1	図 11	弥生土器壺	1 E10・11	101	—	4.2以上	—	頸部20%	7.5YR8/3 浅黄橙	頸部 2 条の貼付突帯 突帯上押圧キザミ 布状のものを使用か？	反転復元 1 ～ 3mmの砂粒多量 弥生時代前期新段階
2	図 11 図版 17	弥生土器壺	1 E10	101	—	—	—	—	—	肩部ハケ地に沈線 4 条	1mm前後の長石等中量 金雲母あり 搬入品 弥生時代前期
3	図 11 図版 17	弥生土器細頸壺	1 E11	104	(21.0)	5.0以上	—	口縁部10%	外 5YR6/4 にぶい橙 内 7.5YR5/3 にぶい褐	口縁部内湾気味・端部上方に面・端部下凹形浮文・凹線 4 条以上	反転復元 1mmまでの砂粒少量 弥生時代中期
4	図 11	弥生土器甕	1 E11q21	102	(18.0)	12.7以上	—	20%	5YR7/4 にぶい橙	口縁部強く外傾 端部は尖り気味 体部の最大径は上位	反転復元 1mm前後の砂粒中量 弥生時代末
5	図 11	弥生土器高杯	1 E10q21・22	102	—	6.3以上	—	脚柱部100%	10YR8/4 浅黄橙	中空 細く裾部に向かって緩やかに広がる 全体的に磨減 調整不明	反転復元 1mm前後の砂粒少量 弥生時代末
6	図 11 図版 17	弥生土器甕	1 E11	105 楊灰粘土	(14.6)	5.0以上	—	口縁部15%	7.5YR7/4 にぶい橙	口縁部外傾・端部は丸い 体部外面斜め平行タタキ	反転復元 1 ～ 5mmの長石・赤色砂粒多い 弥生時代末
7	図 11 図版 17	弥生土器高杯	1 E10	105	—	6.1以上	—	脚柱部100%	10YR8/4 浅黄橙	中実 中位やや膨らむ 外面ヘラミガキ 円穴 3 箇所？	反転復元 1mm前後の長石・クサリ礫少量 弥生時代末
8	図 11	須恵器杯蓋	1 E11q20・21	103 淡灰粗砂礫	(12.2)	2.25以上	—	25%	N7.5/ 灰白	口縁部は肥厚 かえりは短い 天井日は平坦気味	反転復元 胎土緻密 外面自然釉 飛鳥時代
9	図 11 図版 17	須恵器杯蓋	1 E10q20	103 上面	(15.0)	2.5	—	35%	N5/ 灰	口縁部端下方に折り曲げ 平らな天井部中央に擬宝珠様のつまみ	反転復元 胎土密 奈良時代
10	図 11	須恵器杯身	1 E11q20・21	103 淡灰粗砂礫	(14.0)	5.2	(10.2)	15%	N4/ 灰	平坦な底部端に小さな高台・端部は下面で接する 口縁部は外傾し 端部は尖り気味	反転復元 胎土緻密 奈良時代
11	図 11 図版 17	須恵器杯身	1 E10q20	103 上面	—	1.4以上	(10.2)	底部45%	N6/ 灰	平坦な底部端に外傾する高台・端部は内側で接する	反転復元 長石の微砂粒多い 高台内スス付着 奈良時代
12	図 11 図版 17	条痕文土器壺	1 E10	—	—	—	—	—	10YR6/4 にぶい黄橙	外面細い二又工具による条痕	1mm前後の長石等多量 金雲母含む 搬入品 弥生時代中期
13	図 11	須恵器杯身	1 中央部	—	(14.0)	3.4	(8.0)	20%	2.5Y6/1 黄灰～ 2.5 Y 7/2 灰黄	底部は平坦 体部・口縁部は直線的に外傾	反転復元 胎土良 焼成不良・軟質 奈良時代
14	図 11 図版 17	弥生土器壺	2 E11s10	203	(16.4)	3.8以上	—	口縁部20%	10YR7/3 にぶい黄橙	口縁部外反・端部外方に面 外面ハケ・ユビオサエ	反転復元 1mm前後の長石・頁岩多量 搬入品 弥生時代前期
15	図 11	弥生土器壺	2 E11s8	204	—	3.2以上	(6.4)	底部15%	7.5YR7/4 にぶい橙～ 7.5YR6/2 灰褐	—	反転復元 1mm前後の砂粒少量 弥生時代中期
16	図 11 図版 17	須恵器杯蓋	2 E11q10	—	(13.0)	3.9	—	35%	N6/ 灰	天井部は丸みを呈し、口縁部は下方に向かう 端部は丸い	反転復元 1 ～ 3mmの長石少量 古墳時代後期
17	図 11 図版 17	須恵器高杯	3-3 F11q10	201	—	3.6以上	9.0	脚部90%	2.5YR7/4 浅黄	脚柱部ラップ状に開き、裾部横方向に開く 端部上方に拡張・外方に面	反転復元 胎土密 古墳時代
18	図 11	弥生土器壺	2 E11r8	—	(16.0)	5.0以上	—	口縁部10%	10YR8/3 浅黄橙	口縁部外反 端部丸い	反転復元 1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
19	図 11	弥生土器壺	2 E11s11	—	—	—	—	—	外 10YR7/3 浅黄橙 内 10YR5/1 褐灰	頸部部境段 外面ヘラミガキ	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期中段階
20	図 11	突帯文土器深鉢	2 E11s11	—	—	—	—	—	10YR8/2 灰白	口縁部強く外反 端部下垂する突帯 キザミなし	1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期
21	図 11	突帯文土器深鉢	2 E11r9	—	—	—	—	—	7.5YR4/2 灰褐	胴部突帯 断面低い三角形 突帯上V字キザミ	1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期
22	図 11 図版 17	突帯文土器深鉢	2 E11r9	オリーブ 灰粘土	—	—	—	—	外 10YR3/1 黒褐 内 7.5YR5/3 にぶい褐	胴部突帯 断面垂下る三角形 キザミなし 外面板状工具によるハケ状ナデ	1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期
23	図 11 図版 17	弥生土器壺	2 E11r9	—	—	—	—	頸部10%	5YR7/6 橙～ 7.5YR6/4 にぶい橙	頸部貼付突帯上押圧状キザミ 頸部部境不規則な沈線 3 条以上	1mmまでの長石多量 弥生時代前期 搬入品 垂式遠賀川？
24	図 11 図版 17	弥生土器壺	2 E11s10	—	(12.8)	8.0以上	—	口縁部15%	外 5YR7/4 にぶい橙～ 7.5YR8/3 浅黄橙 内 7.5YR8/4 浅黄橙	口縁部は内湾・端部は上方に面 外面凹線 4 条	反転復元 1 ～ 2mmの長石等多量 弥生時代中期
25	図 11 図版 17	弥生土器壺	2 E11r10	5・6 層	—	—	—	—	外 7.5YR7/4 にぶい橙 内 10YR6/2 灰黄褐	頸部下板目簾状文 3 条以上	1mm前後の砂粒中量 弥生時代中期
26	図 11	弥生土器甕	2 E11s10	—	(20.0)	5.1以上	—	口縁部25%	外 10YR7/3 にぶい黄橙 内 10YR6/2 灰黄褐	口縁部くの字に屈曲・端部上方へ拡張 体部外面ハケ	反転復元 1mm前後の長石等中量 弥生時代中期
27	図 11	弥生土器壺	2 E11s10	—	—	5.2以上	17.2	底部20%	外 10YR7/2 にぶい黄橙 内 10YR6/2 灰黄褐	外面平行タタキ	反転復元 胎土密 弥生時代中期
28	図 11	弥生土器壺	2 E11s10	5・6 層	—	5.8以上	8.4	底部100%	外 7.5YR6/4 にぶい橙・ 7.5YR3/1 黒褐 内 N3/ 暗灰	外面ヘラミガキ 内面ハケ	一部反転復元 1mm前後の頁岩等中量 弥生時代中期
29	図 11	弥生土器壺	2 E11r9	—	—	3.5以上	(9.8)	底部100%	10YR6/3 にぶい黄橙	器壁厚い 中央やや窪む	一部反転復元 1 ～ 2mmの頁岩多量 弥生時代前期
30	図 11	突帯文土器深鉢	2 E11r9	—	—	4.4以上	4.6	底部100%	外 7.5YR6/3 にぶい褐 内 2.5Y3/1 黒褐	底部は小さい 内外面ナデ	一部反転復元 1mm前後の長石・石英等多量 搬入品？ 弥生時代前期
31	図 11	須恵器杯蓋	2 E11q12	4 層	(12.0)	2.7以上	—	口縁部10%	N6/ 灰	口縁部外傾 端部丸い	反転復元 胎土密 古墳時代
32	図 11 図版 17	土鍾	2 E11r12	5・6 層	長 4.5 以上	径 1.6	孔径 0.3	80%	7.5YR7/3 にぶい橙	管状 中央やや膨らむ	1mmまでの砂粒少量
33	図 11	土鍾	2 E11s10	面精査	長 5.0 以上	径 1.5	孔径 0.4	80%	10YR7/3 にぶい黄橙	管状 中央やや膨らむ	1mmまでの砂粒少量
34	図 11 図版 17	土鍾	2 E11s10	面精査	長 4.8 以上	径 1.4	孔径 0.3	80%	7.5YR7/3 にぶい橙	管状 中央やや膨らむ	1mmまでの長石・赤色砂粒少量
35	図 13 図版 17	弥生土器壺	3-3 F11a19	302 3 層	15.0	25.7	8.4	65%	10YR6/2 灰黄褐 10YR3/1 黒褐	口頸部境段 頸部部境 1 条の沈線 外面ヘラミガキ 黒斑あり 黒色物塗布 口縁部内面に初殻痕	1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期中段階
36	図 13 図版 17	弥生土器壺	3-3 F11a20	302 3 層	(14.4)	7.9以上	—	口縁部20%	外 10YR6/2 灰黄褐 内 N3/ 暗灰	頸部長く口縁部は短く外傾 端部丸味を帯びる 内外面ヘラミガキ	反転復元 1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期中段階
37	図 13	弥生土器壺	3-3 F11c17	302 3 層	(16.4)	3.5以上	—	口縁部15%	外 10YR4/2 灰黄褐 内 10YR5/3 にぶい黄褐	口縁部外反 端部外方に面 内外面ヘラミガキ	反転復元 1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期中段階

土器一覧表（2）

報告書番号	図・図版番号	種類 器種	調査区 地区	遺構 層位	口径 cm	高さ cm	底径 cm	残存率	色 調	形態・技法	備 考
38	図 13 図版 17	弥生土器？ 壺	3-3 F11d18	302 3層	(11.0)	5.4 以上	—	口頸部 25%	外 7.5YR7/4 に近い 内 10YR7/3 に近い黄橙	頸部長く口縁部は短く外反 端部は丸い 外面ヨコ方向ヘラミガキ 内傾接合	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
39	図 13	弥生土器 壺	3-3 F11d14	302 3層	(13.0)	3.9 以上	—	口縁部 20%	10YR7/2 に近い黄橙	口縁部強く外反 端部外方に面 外面縦方向ヘラミガキ	反転復元 1 ～ 3mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期中段階
40	図 13	弥生土器 壺	3-1 F11c16	302 3層	(11.8)	2.9 以上	—	口縁部 15%	10YR4/2・10YR5/2 灰黄褐	口縁部短く外反 端部は丸い 口頸部境は段 外面横方向ヘラミガキ	反転復元 1mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期中段階
41	図 13	弥生土器 壺	3-3 F11a21	302 3層	(17.0)	3.3 以上	—	口縁部 30%	外 5 Y R 4/1 褐灰 内 10 Y R 8/2	口縁部短く外反 端部外方に面 口頸部境または沈線 内外面ヘラミガキ 外面黒色物塗布	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期中段階
42	図 13	弥生土器 壺	3-3 F11d16	302 3層	(14.4)	3.4 以上	—	口縁部 20%	外 10YR3/1 黒褐 内 10YR4/2 灰黄褐	口縁部短く外反 端部外方に面 口頸部境沈線 2 条以上 内外面ヘラミガキ 外面黒色物塗布	反転復元 1mm 前後の長石等多量 弥生時代前期中段階
43	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-1 F11c16	302 3層	(13.0)	3.9 以上	—	口縁部 15%	外 5YR3/1 黒褐 内 5YR5/3 に近い赤褐	口縁部短く外反 端部は丸い 口頸部境は 1 条の沈線 内外面ヘラミガキ 外面黒色物塗布	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期中段階
44	図 13	弥生土器 壺	3-3 F11c19	302 3層	(17.0)	5.5 以上	—	口縁部 10%	外 10YR3/1 黒褐 内 10YR4/2 灰黄褐	口縁部外反 端部丸い 紐穴二個 一口頸部境 3 条の沈線間に刺突文 外面ヘラミガキのち黒色物塗布 内面ヘラミガキ	反転復元 1mm 前後の長石等多量 弥生時代前期中段階
45	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-1 F11b17	302 3層	(15.6)	8.2 以上	—	口頸部 70%	外 10YR6/2 灰黄褐 内 10YR5/2 灰黄褐	口縁部は外反 端部は丸い 口頸部境は削出突帯 突帯上沈線 1 条 内外面ヘラミガキ	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期中段階
46	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-3 F11d15	2・3層	(17.0)	8.0 以上	—	口縁部 30%	10YR3/1 黒褐	口縁部強く外反 端部肥厚し丸い 頸部に貼付突帯	反転復元 1mm 前後の長石等多量 金雲母混 搬入品 弥生時代前期
47	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-1 F11c16	302 3層	—	6.7 以上	—	頸部 20%	外 10YR2/1 黒 内 7.5YR5/1 褐灰	口頸部の境削出突帯 口縁部内外面・体部外面ヘラミガキ 外面黒色物塗布	反転復元 1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期中段階
48	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-1 F11b17	302 3層	—	7.5 以上	—	頸部 10%	外 7.5YR4/2 灰褐 内 7.5YR3/1 黒褐	口頸部境沈線 2 条以上 沈線下ヘラ先による区画文様	反転復元 1mm 前後の長石等多量 金雲母混 46 と胎土同じ？ 搬入品 弥生時代前期
49	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-3 F11c21	302 3層	—	8.0 以上	—	頸部 70%	7.5YR4/2 灰褐	頸部から口縁部にかけて外反 頸部幅広の削出突帯上に 5 条の沈線 端部下に紐穴 外面全体ヘラミガキ	反転復元 1 ～ 2mm の長石・石英・角閃石多量 搬入品 弥生時代前期
50	図 13	弥生土器 壺	3-3 F11d15	302 3層	(27.0)	3.8 以上	—	口縁部 10%以下	外 10YR3/1 黒褐 内 10YR4/1 褐灰	口縁部長く強く外反 端部外方に面 外面ハケのちヘラミガキ	反転復元 1 ～ 2mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期
51	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-3 F11d16	302 3層	—	11.7 以上	—	体部 10%	外 10YR3/1 黒褐 内 10YR5/3 に近い黄褐	口頸部境削出突帯 頸部部境段内・外面丁寧なヘラミガキ	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒中量 弥生時代前期中段階
52	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-3 F11d15	302 3層	—	10.2 以上	—	頸部 10%	外 10YR3/1 黒褐 内 10YR6/2 灰黄褐	口頸部境削出突帯 突帯上沈線 頸部部境段 段下間隔を空けて沈線 2 条以上 外面ヘラミガキのち黒色物塗布	反転復元 1 ～ 3mm の砂粒多量 弥生時代前期中段階
53	図 13 図版 18	弥生土器 壺	3-3 F11c19	302 3層	—	12.9 以上	—	体部 10%	外 10YR5/2 灰黄褐 内 10YR4/1 褐灰	頸部部境段 外面ヘラミガキ 内面平板工具ナデ	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒中量 弥生時代前期中段階
54	図 13	弥生土器 壺	3-3 F11d14	302 3層	—	5.1 以上	—	頸部部境 10%以下	外 N3/ 暗灰 内 10YR6/2 灰黄褐	頸部部境段 段下沈線 2 条以上 外面ヘラミガキのち黒色物塗布	反転復元 1 ～ 2mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期中段階
55	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-3 F11d14	302 3層	—	5.6 以上	—	頸部部境 10%	外 7.5YR3/1 黒褐 内 10YR4/1 褐灰	頸部部境段 段下沈線 1 条 外面ヘラミガキのち黒色物塗布	反転復元 1mm 前後の砂粒少量 弥生時代前期中段階
56	図 13	弥生土器 壺	3-3 F11c18	302 3層	—	4.4 以上	—	頸部部境 20%	外 10YR4/1 褐灰 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	頸部部境削出突帯 突帯上沈線 1 条 外面ヘラミガキ 段をヘラミガキで際取 黒色物塗布	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期中段階
57	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-3 F11a21	302 3層	—	6.0 以上	—	頸部部境 10%以下	外 10YR3/1 黒褐 内 N2/ 黒	頸部部境段 外面ヘラミガキ 段はヘラミガキで調整	反転復元 1 ～ 3mm の長石・0.5mm 以下の金雲母等含む 搬入品 弥生時代前期中段階
58	図 13 図版 17	弥生土器 壺	3-1 F11c16	302 3層	—	7.2 以上	—	頸部～体部 10%以下	外 N2/ 黒 内 7.5YR4/2 灰褐	頸部部境削出突帯 突帯上沈線 1 条 外面ヘラミガキ・黒色物塗布	反転復元 1mm 前後の長石等多量に含む 弥生時代前期中段階
59	図 13	弥生土器 壺	3-3 F11e16	302 3層	—	10.2 以上	—	頸部境 10%	外 10YR7/2 に近い黄橙 内 IN4/ 灰	頸部部境沈線 3 条 内外面ヘラミガキ	反転復元 1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期
60	図 13 図版 18	弥生土器 壺	3-3 F11d16	302 3層	—	14.6 以上	—	体部 15%	外 10YR5/2 灰黄褐 内 10YR6/3 に近い黄橙	頸部部境細い沈線 3 条 外面ヘラミガキ	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
61	図 14 図版 18	弥生土器 壺	3-1 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 N3/ 暗灰	頸部羽状文？ 黒色物塗布	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期中葉
62	図 14 図版 18	弥生土器 壺	3-1 F11c19	302 3層	—	—	—	—	外 10YR5/2 灰黄褐 内 10YR6/3 に近い黄橙	頸部部境段下・有軸木葉文 外面ヘラミガキ	1 ～ 3mm の長石等中量 弥生時代前期中葉
63	図 14 図版 18	弥生土器 壺	3-3 F11c19	302 3層	—	—	—	—	外 10YR5/2 灰黄褐 内 10YR7/2 に近い黄橙	頸部部境段下沈線・無軸木葉文	1mm 前後の長石等多量 弥生時代前期中葉
64	図 14 図版 18	弥生土器 壺	3-3 F11a20	302 3層	—	—	—	—	外 10YR5/1 褐灰 内 10YR7/2 に近い黄橙	頸部部境 沈線間刺突文 内外面ヘラミガキ	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期中葉
65	図 14 図版 18	弥生土器 壺	3-3 F11a21	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 10YR4/2 灰黄褐 内 10YR7/2 に近い黄橙	体部肩の貼付突帯上に押圧文 黒色物塗布	1mm 前後の砂粒多量 甌式遠賀川？ 弥生時代前期
66	図 14 図版 18	弥生土器 壺	3-3 F11c20	302 3層	—	—	—	—	外 10YR3/1 黒褐 内 10YR2/1 黒	体部肩のキザミ目突帯下に幅広の沈線 黒色物塗布	1mm までの長石等多量 金雲母含む 搬入品 甌式遠賀川？ 弥生時代前期
67	図 14 図版 18	弥生土器 壺	3-3 F11d16	302 3層	—	5.6 以上	—	体部 10%以下	外 10YR4/2 灰黄褐 内 10YR7/2 に近い黄橙	体部上位多条沈線を刺突で区切る 外面ヘラミガキ	反転復元 1 ～ 3mm の砂粒多量 弥生時代前期
68	図 14 図版 18	弥生土器 壺	3-1 F11b17	302 3層	—	—	—	—	外 7.5YR3/1 黒褐 内 10YR7/2 に近い黄橙	体部内外面ヘラミガキのち黒色物塗布 朱彩	1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期
69	図 14	弥生土器 壺	3-3 F11c21・22	302 3層	—	6.3 以上	(11.0)	底部 50%	外 10YR2/1 黒 内 10YR6/2 灰黄褐	外面ハケ・ヘラミガキ 内面ナデ・ヘラミガキ	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
70	図 14 図版 18	弥生土器壺	3-3 F11d17	302 3層	—	4.8 以上	10.4	底部 80%	10YR6/2 灰黄褐 N2/ 黒	平底 外面ハケヘラミガキ・ハケ内面ヘラミガキ	一部反転復元 1 ～ 3mm の砂粒中量 弥生時代前期
71	図 14 図版 18	弥生土器 壺	3-3 F11d16	302 3層	—	3.5 以上	11.2	底部 100%	外 N3/ 暗灰 内 N4/ 灰	外面ヘラミガキのち黒色物塗布 内面ナデ	1 ～ 7mm の砂粒多量 弥生時代前期
72	図 14 図版 18	弥生土器 壺	3-3 F11c17	302 3層	—	9.5 以上	7.6	底部 100%	外 10YR3/1 黒褐 内 IN2/ 黒	内外面丁寧なヘラミガキ	一部反転復元 1 ～ 5mm の長石・角閃石等中量 搬入品 弥生時代前期

土器一覧表（3）

報告 番号	図・ 版 番号	種類 器種	調査区 地区	遺構 層位	口径 cm	高さ cm	底径 cm	残存率	色 調	形態・技法	備 考
73	図 14	弥生土器 壺	3-3 F11c19	302 3層	—	6.6 以上	8.5	底部 100%	外 10YR2/1 黒 内 10YR6/2 灰黄褐	外面ヘラミガキ 内面ナデ	一部反転復元 1～2mmの砂粒多 量 弥生時代前期
74	図 14	弥生土器壺	3-3 F11e16	302 地山直上	—	4.5 以上	10.4	底部 100%	外 10YR56/2 灰黄褐 10YR3/1 黒褐 内 10YR7/2 におい黄褐	外面ハケのちヘラミガキ 黒色物 塗布	反転復元 1～3mmの砂粒多量 弥生時代前期
75	図 14	弥生土器 壺	3-1 F11 c 16	302 3層	—	2.6 以上	4.2	底部 100%	外 N2/ 黒 内 10YR6/2 灰黄褐	外底部平坦 外面ヘラミガキ・ナ デ 内面板状工具ナデ 外面黒色 物塗布	一部反転復元 1mm前後の砂粒多 量 弥生時代前期
76	図 15	突帯文土器 深鉢	3-1・3 F11b18・ c18	302 3層	(35.8)	16.0 以上	—	10%	外 10YR4/1 褐灰 N2/ 黒内 10YR3/1 黒褐	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ 小 V・D 字キザミ 外面ス	反転復元 1～3mmの長石等中量 弥生時代前期
77	図 15	突帯文土器 深鉢	3-3 F11 d 18	302 3層	(34.0)	11.8 以上	—	口縁部 10%	外 N 2/ 黒 内 7.5 Y R 7/3 におい 橙	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ 小 V 字キザミ 外面ス	反転復元 1～3mmの砂粒多量 弥生時代前期
78	図 15 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11 d 16	302 3層	(35.0)	22.5 以上	—	10%	外 N2/ 黒 内 10YR5/3 におい黄褐	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ 小 V・大 D 字キザミ 外面ス	反転復元 1～2mmの砂粒中量 ス付着 弥生時代前期
79	図 15 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 3層	(30.4)	12.8 以上	—	口頸部 10%	外 10YR6/2 灰黄褐 N2/ 黒 内 10YR6/3 におい黄橙	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ 大 小 V 字キザミ 外面ス	反転復元 1～3mmの砂粒多量 弥生時代前期
80	図 15 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	(39.0)	15.0 以上	—	口縁部 10%	外 10YR3/1 黒褐 N2/ 黒内 10YR4/2 灰黄褐	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ 大 小 V 字キザミ 外面ス	反転復元 1～2mmの砂粒中量 弥生時代前期
81	図 15 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11 d 17	302 3層	(37.0)	10.2 以上	—	口縁部 25%	外 N 2/ 黒 N 3/ 暗灰 内 7.5YR7/3 におい 橙	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ 小 V 字キザミ 外面ス	反転復元 1～2mmの砂粒中量 弥生時代前期
82	図 15 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c15	302 3層	(24.0)	12.5 以上	—	10%	外 N3/ 暗灰 N2/ 黒 内 10YR2/1 黒	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ V 字キザミ 外面ス	反転復元 1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
83	図 15	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 3層	(28.5)	16.1 以上	—	口頸部 15%	10YR7/4 におい黄橙	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ V 字キザミ	反転復元 1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
84	図 15	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a22	302 3層	(25.0)	9.4 以上	—	10% 以下	外 10YR7/4 におい黄橙 N2/ 黒内 10YR7/3 におい黄橙	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ V 字キザミ 外面ス	反転復元 1～2mmの砂粒中量 弥生時代前期
85	図 15	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a21	302 3層	(25.0)	8.6	—	10% 以下	外 10YR4/1 褐灰 10YR7/3 におい黄 橙 内 N3/ 暗灰 7.5YR6/4 におい橙	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ V・ D 字キザミ 外面ス	反転復元 1～2mmの長石等中量 弥生時代前期
86	図 15	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c19	302 3層	(32.0)	6.0 以上	—	口縁部 10%	10YR4/1 褐灰 N2/ 黒	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ V・ D 字キザミ 外面ス	反転復元 1～3mmの砂粒中量 弥生時代前期
87	図 15	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a22	302 3層	(25.0)	5.2 以上	—	口縁部 10%	外 N2/ 黒 内 10YR7/3 におい黄橙	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ V 字キザミ 外面ス	反転復元 1～3mmの砂粒中量 弥生時代前期
88	図 15 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d15	302 3層	—	—	—	—	10YR7/3 におい黄橙	A 類 瀬戸タイプ? 突帯上櫛状 工具縦長 D 字・口縁端部 V 字キ ザミ 内外面条痕顕著	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前 期
89	図 15	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 N2/ 黒	A 類 瀬戸タイプ? 口縁端部 O 字 突帯上小 D 字キザミ 内外面ス	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前 期
90	図 15 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR6/3 におい黄橙	A 類 瀬戸タイプ? 口縁端部・ 突帯上 D 字キザミ 外面条痕顕著 外面ス	1～2mmの砂粒多量 弥生時代前 期
91	図 15	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 10YR7/1 灰白 内 10YR4/1 褐灰	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部 V 字・ 突帯上 D 字キザミ 外面ス	1mm前後の砂粒中量 弥生時代前 期
92	図 15	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR7/3 におい黄橙	A 類 瀬戸タイプ? 突帯上櫛状 工具縦長 D 字・口縁端部 D 字キ ザミ 内外面条痕顕著 外面ス	1mm前後の砂粒中量 弥生時代前 期
93	図 15 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR8/2 灰白	A 類 瀬戸タイプ? 口縁部 2 条 の突帯 突帯上小 D 字キザミ	1～3mmの砂粒多量 弥生時代前 期
94	図 18 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b17	302 3層	(52.0)	19.0 以上	—	10% 以下	外 10YR7/3 におい黄橙 内 10YR7/3 におい黄橙	2条突帯 A 類 瀬戸タイプ 口 縁部外反 突帯上・口縁端部小 D 字キザミ 外面ス	反転復元 1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
95	図 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	(36.0)	4.6 以上	—	口縁部 10%	外 10YR7/3 におい黄橙 N2/ 黒内 10YR7/3 におい黄橙	A 類 突帯断面三角 突帯上・口 縁端部小 D 字キザミ 外面ス	反転復元 1～5mm前後の砂粒多 量 弥生時代前期
96	図 18 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c20	302 3層	(36.0)	6.4 以上	—	口縁部 20%	外 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	A 類 突帯断面三角形 口縁端 部・突帯上細かい V 字キザミ・突 帯下直線状の線刻 外面ス付着	反転復元 1～2mmの砂粒多量 中山 B 式 弥生時代前期
97	図 18 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b18	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR2/1 黒	A 類 端部より下がった位置に ごく低い突帯 口縁端部 V 字・突 帯上 D 字キザミ	1mm前後の長石等多量 搬入品? 弥生時代前期
98	図 18 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b18	302 3層	—	—	—	—	外 N3/ 暗灰 10YR8/3 浅黄橙 内 10YR8/3 浅黄橙	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突 帯上小 V 字・D 字キザミ 外面 ス	1～5mmの砂粒多量 弥生時代前 期
99	図 18 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c19	302 3層底	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 内 10YR7/3 におい黄橙	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突 帯上小 V 字キザミ 外面ス	1mm前後の砂粒中量 弥生時代前 期
100	図 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 3層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 内 10YR7/3 におい黄橙	A 類 瀬戸タイプ? 口縁より下 がった位置に低い突帯 口縁端部・ 突帯上 D 字キザミ 頸部下で屈曲 外面ス	1～5mm前後の砂粒中量 弥生時 代前期
101	図 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c22	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR5/3 におい黄褐	A 類 端部下垂る断面三角形の 突帯 口縁端部小 V 字・突帯上 O 字キザミ	1～2mmの長石・クサリ礫多量 搬入品? 弥生時代前期
102	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b18	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 7.5YR6/4 におい橙	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突 帯上小 V 字キザミ 外面ス	1～5mmの砂粒多量 弥生時代前 期
103	図 18 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b18	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR7/2 におい橙	A 類 瀬戸タイプ 突帯上・口縁 端部縦長 D 字キザミ 外面ス	1mmの前後の砂粒中量 弥生時代 前期
104	図 18 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c18	302 3層	—	—	—	—	外 N3/ 暗灰 内 10YR5/2 灰黄褐	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部 D 字・突帯上 V 字キザミ 外面ス	1～2mmの砂粒多量 弥生時代前 期
105	図 18 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a22	302 3層	—	—	—	—	外 N3/ 暗灰 内 10YR8/2 灰白	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部 V 字・突帯上 D 字キザミ 外面ス	1～3mmの長石等多量 弥生時代 前期
106	図 18 図版 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b18	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR4/1 褐灰	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突 帯上 V 字キザミ 外面ス	1～2mmの砂粒多量 弥生時代前 期
107	図 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	A 類 瀬戸タイプ 突帯上・口縁 端部 D 字キザミ	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前 期

土器一覧表（４）

報告 番号	図・ 図版 番号	種類 器種	調査区 地区	遺構 層位	口径 cm	高さ cm	底径 cm	残存率	色 調	形態・技法	備 考
108	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 10YR4/2 灰黄褐 内 10YR7/2 にぶい黄橙	A 類 口縁端部付近の接合痕を突帯状に成形 突帯上・口縁端部 V 字キザミ 外面スス	1mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期
109	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	A 類 端部より下がった位置に低い突帯 突端部 V・D 字、突帯上 D 字キザミ	1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期
110	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11a19	302 3層	—	—	—	—	10YR6/2 灰黄褐	A 類 瀬戸タイプ 突帯上・口縁端部 V 字キザミ	1mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期
111	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c22	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR6/3 にぶい黄橙	A 類 108 と類似 口縁端部・突帯上 V 字キザミ	1mm の砂粒中量 弥生時代前期
112	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 10YR7/3 にぶい黄橙 内 10YR8/3 浅黄橙	A 類 瀬戸タイプ 突帯上・口縁端部 V 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mm の砂粒中量 弥生時代前期
113	図 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d14	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR4/2 灰黄褐	A 類 瀬戸タイプ 突帯上・口縁端部 V 字キザミ 外面スス	1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期
114	図 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 10YR7/1 灰白 内 10YR5/1 褐灰	A 類 瀬戸タイプ 突帯上・口縁端部 V 字キザミ	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
115	図 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	—	—	—	—	10YR5/1 褐灰	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部 V 字・突帯上縦長 D 字キザミ	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
116	図 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c18	302 3層	—	—	—	—	外 10YR3/1 黒褐 内 10YR3/1 黒褐	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突帯上 V 字キザミ	1mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期
117	図 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b18	302 3層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 内 10YR6/3 にぶい黄橙	A 類 瀬戸タイプ？ 口縁端部 V 字・突帯上線刻状キザミ 外面スス	1 ～ 2mm の砂粒中量 弥生時代前期
118	図 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c22	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 N 4/ 灰 2.5 Y 5/1 黄灰	A 類 瀬戸タイプ？ 口縁端部・突帯上 D 字キザミ 外面スス	1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期
119	図 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b17	302 3層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突帯上 D・V 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期
120	図 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR3/1 黒褐	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突帯上 V 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
121	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b18	302 3層	—	—	—	—	10YR4/1 褐灰 N3/ 暗灰	A 類 瀬戸タイプ？ 口縁端部 D 字・突帯上線刻状キザミ	1mm 前後の長石等多量 弥生時代前期
122	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c19	302 3層	—	—	—	—	外 10YR6/1 褐灰 内 10YR5/2 灰黄褐	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突帯上 D・V 字キザミ	1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期
123	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c18	302 3層	—	—	—	—	外 10YR2/1 黒 内 10YR6/2 灰黄褐	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突帯上 D・V 字キザミ 外面スス	1mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期
124	図 18	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c21	302 3層	—	—	—	—	外 10YR2/1 黒 内 10YR7/2 にぶい黄橙	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部 V 字・突帯上 D 字キザミ 外面スス	1mm 前後の砂粒少量 弥生時代前期
125	図 18	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	—	—	—	—	外 10YR8/2 灰白 内 10YR8/2 灰白	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突帯上 V 字キザミ	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
126	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR6/2 灰黄褐	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部・突帯上 V 字キザミ 外面スス	1mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期
127	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b18	302 3層	(46.0)	12.6 以上	—	10% 以下	10YR7/4 にぶい黄橙	2 条突帯 B 類 瀬戸タイプ 口縁突帯・体部突帯上 V 字キザミ	反転復元 1 ～ 3mm の砂粒多量 磨滅著しい 弥生時代前期
128	図 18 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 3層	(23.0)	12.8 以上	—	20%	外 10YR4/2 灰黄褐 内 10YR3/2 黒褐	2 条突帯 B 類 突帯断面丸みを帯びる 口縁・体部突帯上線状キザミ 体部下半ハケ	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒少量 弥生時代前期
129	図 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR8/2 灰白	B 類 口縁部 2 条の突帯 突帯上 D 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
130	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a22	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 10YR7/3 にぶい黄橙 内 10YR7/3 にぶい黄橙	B 類 端部下薄く粘土を貼付 突帯上 V 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
131	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 N3/ 暗灰	B 類 断面三角形の突帯 突帯上縦長 D 字キザミ 外面スス	1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期
132	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d14	302 3層	—	—	—	—	外 N3/ 暗灰 内 N3/ 暗灰 10YR3/2 黒褐	B 類 端部下垂下する断面三角形の突帯 突帯上 D 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mm の長石等多量 弥生時代前期
133	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b18	302 3層	—	—	—	—	外 5YR6/6 橙 内 7.5YR7/4 にぶい橙	B 類 端部下断面丸みを帯びる突帯 突帯上 D 字キザミ	1 ～ 3mm の砂粒多量 結晶片岩含む 搬入品 弥生時代前期
134	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR4/3 灰黄褐	B 類 瀬戸タイプ？ 突帯上小 O 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mm の長石等多量 弥生時代前期
135	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c22	302 3層	—	—	—	—	外 2.5Y7/2 灰黄 内 10YR7/3 にぶい黄橙	B 類 瀬戸タイプ 突帯上 V・D 字キザミ	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
136	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11e16	302 3層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 内 10YR4/2 灰黄褐	B 類 端部下断面丸みを帯びる突帯 突帯上押圧状キザミ 内外面ハケ状工具調整 外面スス	1mm 前後の長石・石英等多量 搬入品 弥生時代前期
137	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR4/2 灰黄褐	B 類 端部下断面三角形の突帯 突帯上 D 字キザミ 外面スス	1mm 前後の長石・石英等中量 搬入品 弥生時代前期
138	図 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d17	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR5/3 にぶい黄橙	B 類 端部下やや垂下する断面三角形の突帯 突帯上 V 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mm の長石等中量 搬入品？ 弥生時代前期
139	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d17	302 3層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 10YR3/1 黒褐 内 10YR4/1 褐灰	B 類 端部下やや垂下する断面三角形の突帯 突帯上 V 字キザミ 外面スス	1mm 前後の長石等多量 搬入品？ 弥生時代前期
140	図 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d15	302 3層	—	—	—	—	N 3/ 暗灰	B 類 端部下やや垂下する断面三角形の突帯 突帯上 D 字キザミ 外面スス 外面粗い条痕	1mm 前後の長石等多量 搬入品 弥生時代前期
141	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	(41.0)	14.3 以上	—	口縁部 10%	外内 10YR4/2 灰黄褐 N3/ 暗灰 内 10YR6/3 にぶい黄橙 10YR3/1 黒褐	2 条突帯 C 類 瀬戸タイプ D 字キザミ	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒中量 弥生時代前期
142	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	(18.6)	13.6 以上	—	10%	外 10 Y R 7/2 にぶい黄橙 N 3/ 暗灰 内 N 2/ 黒	2 条突帯 C 類 瀬戸タイプ？ 頸部から口縁部内傾 D 字キザミ	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期

土器一覧表（5）

報告書番号	図・図版番号	種類 器種	調査区 地区	遺構 層位	口径 cm	高さ cm	底径 cm	残存率	色 調	形態・技法	備 考
143	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 3層	(28.0)	7.6 以上	—	口頸部 15%	外 7.5YR8/3 淡黄橙 内 N2/ 黒	2条突帯 瀬戸タイプ D 字キザミ 外面スス	反転復元 1 ～ 3mmの砂粒多量 弥生時代前期
144	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 3層	(33.0)	6.6 以上	—	口縁部 15%	外 7.5YR7/4 にぶい橙 N2/ 黒 内 10YR7/3 にぶい黄橙	C 類 瀬戸タイプ 突帯幅広い V 字キザミ外面スス	反転復元 1 ～ 2mmの砂粒中量 弥生時代前期
145	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a22	302 3層	—	—	—	—	外 N3/ 暗灰 内 N4/ 灰	C 類 瀬戸タイプ V 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mmの長石等多量 弥生時代 前期
146	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c20	302 3層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 10YR3/1 黒褐 内 10YR3/1 黒褐	C 類 瀬戸タイプ D 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期
147	図 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR6/2 灰黄褐	C 類 瀬戸タイプ V 字キザミ 突帯下へら描文 外面スス	1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期
148	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 N4/ 灰	C 類 瀬戸タイプ V 字キザミ 外面スス	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
149	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	C 類 断面三角形の突帯 D 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期
150	図 19 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b16	302 3層	(46.0)	22.0 以上	—	10%	外 10YR7/2 にぶい黄橙 N2/ 黒 内 10YR3/1 黒褐 10YR4/2 灰黄褐	2条突帯 D 1 類 瀬戸タイプ D 字キザミ 外面スス	反転復元 1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期
151	図 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 3層	(40.0)	16.5 以上	—	20%	外 N2/ 黒 内 10YR5/3 にぶい黄褐	2条突帯 D 1 類 瀬戸タイプ D 字キザミ 外面スス	反転復元 1 ～ 2mmの砂粒少量 弥生時代前期
152	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11e14	302 3層	(36.0)	11.8 以上	—	口縁部 10%	外 N 3/ 暗灰 内 10 Y R 7/3 にぶい 黄橙	2条突帯 D1 類 瀬戸タイプ D 字キザミ 胴部上半板状工具による条痕 口縁突帯下凹穴 外面スス	反転復元 1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期
153	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d17	302 3層	(37.0)	17.1 以上	—	10% 以下	外 N 2/ 黒 N 3/ 暗灰 内 10 Y R 5/2 灰黄褐 10 Y R 3/1 黒褐	2条突帯 D1 類 瀬戸タイプ O 字キザミ 外面へら先による条痕 外面スス	反転復元 1 ～ 3mmの砂粒多量 弥生時代前期
154	図 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 3層	(26.0)	11.5 以上	—	10% 以下	外 N2/ 黒 10YR6/1 褐灰 内 10YR6/2 灰黄褐	2条突帯 D2 類 口縁端部より下がつた位置に突帯 器壁厚い	反転復元 1 ～ 3mmの砂粒多量 弥生時代
155	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 3層	(24.0)	8.9 以上	—	口縁部 15%	外 N2/ 黒 内 10YR5/3 にぶい黄褐	2条突帯 D2 類 瀬戸タイプ 口縁突帯外面浅い疑似キザミ 外面スス	反転復元 1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期
156	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 3層	(32.6)	11.6 以上	—	口頸部 15%	外 10YR4/2 灰黄褐 N2/ 黒 内 10YR4/2 灰黄褐	2条突帯 D2 類 断面三角形の突帯 外面スス付着	反転復元 1 ～ 3mmの長石等多量 搬入品 弥生時代前期
157	図 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 3層	(30.0)	11.0 以上	—	10% 以下	外 10YR7/3 にぶい黄橙 N2/ 黒 内 7.5YR7/4 にぶい橙	2条突帯 D2 類 瀬戸タイプ ハケ状の粗い条痕 外面スス	反転復元 1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期
158	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	(43.0)	18.7 以上	—	口縁部 20%	外 10YR5/2 灰黄褐 内 10YR4/2 灰黄褐	2条突帯 D2 類 瀬戸タイプ	反転復元 1 ～ 2mmの長石等多量 弥生時代前期
159	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c18・ 19	302 3層	(42.0)	19.3 以上	—	10%	外 N2/ 黒 10YR3/1 黒褐内 10YR2/1 黒 10YR4/2 灰黄褐	2条突帯 D2 類 端部下扁平な突帯 外面スス	反転復元 1 ～ 5mmの長石等多量 搬入品？ 弥生時代前期
160	図 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c18	302 3層	(31.0)	11.3 以上	—	口縁部 10%	外 10YR6/2 灰黄褐 内 10YR4/1 褐灰	2条突帯 D2 類 瀬戸タイプ	反転復元 1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期
161	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR5/3 にぶい黄橙	D 類 瀬戸タイプ 外面スス	1 ～ 3mmの砂粒中量 弥生時代前期
162	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d14	302 3層	—	—	—	—	外 2.5Y3/1 黒褐 内 10YR8/2 灰白	D 類 瀬戸タイプ？ 突帯幅広い 外面スス	1 ～ 3mmの砂粒中量 弥生時代前期
163	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	D 類 瀬戸タイプ 外面スス	1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期
164	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 内 10YR7/3 にぶい黄橙	D 類 瀬戸タイプ？ 外面スス	1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期
165	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11e13	302 3層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 内 10YR4/2 灰黄褐	D 類 瀬戸タイプ？ 突帯は肥厚する程度 外面スス	1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期
166	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d18	302 3層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 10YR6/3 にぶい黄橙 内 10YR6/3 にぶい黄橙	D 類 瀬戸タイプ？ 突帯は幅広い 外面スス	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
167	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	—	—	—	—	外 10YR6/3 にぶい黄橙 10YR4/2 灰黄褐 内 N3/ 暗灰	D 類 瀬戸タイプ	1mm前後の長石等多量 弥生時代前期
168	図 20 図版 19	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d20	302 3層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 内 7.5YR4/2 灰褐	D 類 垂下する断面三角形の突帯 外面スス	1 ～ 3mmの長石等多量 搬入品か 弥生時代前期
169	図 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c17	302 3層	—	—	—	—	外 N3/ 暗灰 内 10YR6/2 灰黄褐	D 類 瀬戸タイプ？ 端部下扁平な突帯 外面スス	1 ～ 2mmの砂粒中量 弥生時代前期
170	図 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c18	302 3層	—	—	—	—	外 10YR6/3 にぶい黄橙 内 10YR5/2 灰黄褐	D 類 瀬戸タイプ	1 ～ 2mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
171	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c17	302 3層	(35.0)	15.9 以上	—	20%	外 10YR5/2 灰黄褐 N2/ 黒 内 10YR4/2 灰黄褐	2条突帯 D 類 端部下扁平な突帯 外面スス	反転復元 1 ～ 2mmの長石等多量 搬入品？ 弥生時代前期
172	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	(34.6)	15.7 以上	—	10% 以下	外 10YR5/2 灰黄褐 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	2条突帯 D 類 瀬戸タイプ 外面スス	反転復元 1 ～ 5mmの長石等多量 弥生時代前期
173	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	(33.0)	13.8 以上	—	10%	外 10YR7/2 にぶい黄橙 N2/ 黒 内 10YR4/1 褐灰 10YR4/2 灰黄褐	2条突帯 D 類 瀬戸タイプ 外面スス	反転復元 1mm前後の長石等中量 弥生時代前期
174	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	(33.0)	14.4 以上	—	口縁部 10%	外 N2/ 黒 内 10YR6/3 にぶい黄橙 N3/ 暗灰	2条突帯 D 類 瀬戸タイプ 外面スス	反転復元 1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期
175	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c17	302 3層	(33.0)	10.3 以上	—	口縁部 10%	外 N2/ 黒 内 10YR5/3 にぶい黄褐	2条突帯 D 類 瀬戸タイプ 粗いハケ状条痕 外面スス	反転復元 1 ～ 2mmの砂粒中量 弥生時代前期
176	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 3層	(36.0)	8.8 以上	—	口縁部 20%	外 N2/ 黒 内 10YR1.7/ 黒	D 類 瀬戸タイプ？ 外面スス	反転復元 1 ～ 5mmの長石等多量 搬入品？ 弥生時代前期
177	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d14	302 3層	(35.0)	7.7 以上	—	口縁部 10%	10YR7/2 にぶい黄橙	D 類 口縁部強く外反 大型壺？	反転復元 1 ～ 5mmの砂粒中量 弥生時代前期
178	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	—	4.9 以上	—	体部 10%	外 N1.5/ 黒 内 10YR3/1 ～ 2/ 1 暗 灰～黒	2条突帯 D 字キザミ 体部上半ハケ状の条痕 外面スス	反転復元 1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期
179	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 3層	—	10.0 以上	—	体部 10% 以下	外 10YR7/2 にぶい黄橙 N3/ 暗灰 内 10YR5/3 に ぶい黄橙 N3/ 暗灰	2条突帯 V 字キザミ 外面スス	反転復元 1 ～ 3mmの砂粒多量 弥生時代前期

土器一覧表（6）

報告書番号	図・図版番号	種類 器種	調査区 地区	遺構 層位	口径 cm	高さ cm	底径 cm	残存率	色 調	形態・技法	備 考
180	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c19	302 3層	—	10.3 以上	—	体部 10%	外 N2/ 黒 内 N3/ 暗灰	2 条突帯 D 字キザミ 外面スス	反転復元 1 ～ 3mm の砂粒多量 外面スス付着 弥生時代前期
181	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 3層	—	13.5 以上	—	体部 10%	外 10YR7/2 にお黄橙 N2/ 黒 内 10YR4/2 灰黄褐 N2/ 黒	2 条突帯 V 字キザミ 外面スス	反転復元 1mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期
182	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d14	302 3層	—	—	—	—	外 10YR5/3 にお黄褐 内 10YR4/1 褐灰	2 条突帯胴部 胴部 2 条の突帯 先割れの工具で D 字キザミ 外面 ハケ	長石多量に含む 角閃石？ 搬入 品 弥生時代前期
183	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c20	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 2.5Y4/1	2 条突帯胴部 D・V 字キザミ 胴部下ハケ 外面スス	1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前 期
184	図 21	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 3層	—	—	—	—	外 N3/ 暗灰 内 10YR5/3 にお黄橙・ 10YR3/1 黒褐	2 条突帯胴部 D 字キザミ 外面 スス	1 ～ 3mm の砂粒多量 弥生時代前 期
185	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 10YR8/2 灰白 内 10YR8/2 灰白	2 条突帯胴部 D 字キザミ 外面 スス	1 ～ 3mm の砂粒多量 弥生時代前 期
186	図 21	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d14	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 N3/ 暗灰	2 条突帯胴部 D 字キザミ 外面 スス	1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前 期
187	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c20	302 3層	—	—	—	—	外 10YR7/2 にお黄褐 内 10YR3/1 黒褐	2 条突帯胴部 O 字キザミ (押圧) 外面スス	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前 期
188	図 21 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a22	302 3層	—	—	—	—	外 N3/ 暗灰～ N2/ 黒 内 10YR6/3 にお黄橙	2 条突帯胴部 D 字キザミ 外面 スス	1 ～ 3mm の砂粒中量 弥生時代前 期
189	図 21	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d14	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR6/4 にお黄橙・ 10YR3/2 黒褐	2 条突帯胴部 先割れ工具による D 字キザミ 外面スス	1 ～ 3mm の長石等多量 弥生時代 前期
190	図 22	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c18	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 10YR8/2 灰白 内 10YR8/2 灰白	2 条突帯胴部 V 字キザミ 外面 スス	1mm までの砂粒多量 弥生時代前 期
191	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c20	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 10YR7/2 にお黄橙 内 N2/ 黒 10YR6/2 灰黄褐	2 条突帯胴部 D 字キザミ 外面 スス	1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前 期
192	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c15	302 2層	—	—	—	—	外 10YR5/2 灰黄褐 内 10YR4/1 褐灰	2 条突帯胴部 キザミなし	1 ～ 2mm の長石等多量 弥生時代 前期
193	図 22	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 3層	—	—	—	—	外 2.5Y5/1 黄灰 N4/ 灰 内 2.5Y4/1 黄灰	2 条突帯胴部 縦長 D 字キザミ 外面スス	1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前 期
194	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 3層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 N4/ 灰	2 条突帯胴部 D 字キザミ 外面 スス	1 ～ 3mm の砂粒多量 弥生時代前 期
195	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a22	302 3層	—	—	—	—	外 5Y4/1 灰 内 N3/ 暗灰	2 条突帯胴部 V 字キザミ 外面 スス	1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前 期
196	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a22	302 3層	—	—	—	—	2.5Y3/1 黒褐	2 条突帯胴部 突帯は薄く粘土を 貼付 キザミなし	1 ～ 5mm の砂粒多量 弥生時代前 期
197	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a22	302 3層	(19.0)	6.6 以上	—	口縁部 10% 以下	外 7.5YR4/1 褐灰 N2/ 黒 内 N3/ 暗灰	1 条突帯 B 類 断面半円状の突 帯 D 字キザミ 外面スス	反転復元 1 ～ 3mm の長石等中量 弥生時代前期
198	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a21	302 3層	(12.0)	3.0 以上	—	口縁部 10%	外 N 1.5/ 黒 内 7.5YR4/1 褐灰	1 条突帯 D 類 带状の低い突帯 外面スス	反転復元 1mm までの砂粒中量 弥生時代前期
199	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b18	302 3層	—	—	—	口縁部 10%	外 N2/ 黒 10YR6/1 褐灰 内 10YR5/1 褐灰	1 条突帯 D 類 垂下する扁平な 突帯 外面スス	反転復元 1mm 前後の砂粒多量 弥生時代前期
200	図 22	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b21	302 3層	(18.0)	6.7 以上	—	口縁部 15%	外 7.5YR6/4 にお黄 N2/ 黒 内 7.5YR6/4 にお黄	1 条突帯 D 類 突帯は肥厚する 程度 外面スス	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
201	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	18.6	5.0 以上	—	10% 以下	外 N2/ 黒 内 7.5YR5/2 灰褐	1 条突帯 D 類 垂下する扁平な 突帯 外面スス	反転復元 1 ～ 3mm の砂粒多量 弥生時代前期
202	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 3層	(32.0)	7.1 以上	—	口縁部 10% 以下	外 N2/ 黒 内 10YR3/1 黒褐	口縁部外反 端部は丸く突帯は無 頸部付近断面三角形の突帯 外面 スス	反転復元 1mm 程度の長石等中量 搬入品 弥生時代前期
203	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c17	302 3層	(24.0)	2.9 以上	—	口縁部 10% 以下	外 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	口縁部強く外反 外端面 O 字キ ザミ 端部外面突帯無 外面スス	反転復元 1mm までの砂粒多量 弥生時代前期
204	図 22 図版 20	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	(24.0)	3.2 以上	—	口縁部 10%	外 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	口縁部強く外反 口縁端部外方に 面 外面スス	反転復元 1mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期
205	図 22	突帯文土器 鉢	3-3 F11c19	302 3層	(15.0)	8.1 以上	—	口縁部 20%	外 10YR4/1 褐灰 N2/ 黒 内 10YR4/1 褐灰	体部から口縁部内湾 端部丸く 外面ハケ状工具による条痕 外面 スス	反転復元 1mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期
206	図 22	突帯文土器 鉢	3-3 F11b22	302 3層	(15.0)	6.0 以上	—	口縁部 15%	外 10YR5/2 灰黄褐 N2/ 黒 内 10YR7/4 にお黄橙	口縁部内湾ぎみに外傾 端部尖り 気味 外面スス	反転復元 1 ～ 2mm の砂粒多量 弥生時代前期
207	図 22 図版 20	突帯文土器 壺	3-3 F11b18	302 3層	(14.4)	17.8 以上	—	口頸部 30%	外 10YR5/2 灰黄褐 10YR3/1 黒褐 内 10YR3/2 黒褐	頸部から口縁部やや外傾 端部外 に垂下する断面三角形の突帯 D 字キザミ 頸部ヘラミカキ状条 痕 体部下から上へのヘラケズリ	反転復元 1mm 前後の砂粒中量 弥生時代前期
208	図 22 図版 20	突帯文土器 壺	3-1 F11c16	302 3層	(15.0)	7.2 以上	—	口縁部 25%	外 N2/ 黒 内 10YR3/1 黒褐	頸部直立気味 口縁部外反 端部 外面に垂下する断面三角形の突帯 口縁端部 V 字・突帯上 D 字キザ ミ 外面条痕・スス	反転復元 1mm 前後の長石等多量 搬入品？ 弥生時代前期
209	図 22 図版 20	突帯文土器 壺	3-3 F11a20	302 3層	(10.4)	12.2 以上	—	口縁部 95%	外 10YR5/2 灰黄褐 内 10YR5/2 灰黄褐 N2/ 黒	口縁部はぼ直立 端部外面断面三 角形の無キザミ突帯 体部外面条 痕 (ヘラケズリ)	反転復元 1 ～ 5mm 大の長石・片 岩中量 搬入品 弥生時代前期
210	図 22 図版 20	突帯文土器 壺	3-3 F11a20	302 3層	(13.2)	5.8 以上	—	口縁部 25%	外 10YR8/1 灰白 内 7.5YR7/3 にお黄	頸部から口縁部かけて外反 口縁 端部外面扁平な突帯 端部・突帯 上に V 字キザミ	反転復元 1 ～ 3mm の砂粒多量 弥生時代前期
211	図 22	突帯文土器 壺	3-1 F11b18	302 3層	(13.5)	4.7 以上	—	口縁部 20%	外 10YR5/2 灰黄褐 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	口頸部やや外傾 端部下断面三角 形の突帯 突帯上先割れの工具に よる D 字キザミ	反転復元 1 ～ 10mm の長石・片 岩等含む 搬入品 弥生時代前期
212	図 22 図版 20	突帯文土器 壺	3-3 F11d15	302 3層	(14.0)	4.6 以上	—	口縁部 15%	5YR6/6 橙	口縁部強く外反 端部下扁平な突 帯 突帯上 D 字キザミ 粉痕？	反転復元 1 ～ 3mm の長石・片岩 等多量 弥生時代前期
213	図 22	突帯文土器 壺	3-3 F11a20	302 3層	(14.0)	2.6 以上	—	口縁部 15%	5YR7/6 橙	口縁部強く外反 端部下扁平な突 帯 突帯上 D 字キザミ	反転復元 1 ～ 2mm の長石等多量 弥生時代前期

土器一覧表（7）

報告 番号	図・ 図版 番号	種類 器種	調査区 地区	遺構 層位	口径 cm	高さ cm	底径 cm	残存率	色 調	形態・技法	備 考
214	図 22	突帯文土器 壺	3-1 F11b17	302 3層	(13.4)	5.6 以上	—	口縁部 10%	7.5YR5/2 灰褐	口頸部外反 端部外面幅広く扁平な突帯 突帯上キザミ 頸部外面条痕	反転復元 1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期
215	図 22	突帯文土器 壺	3-3 F11d16	302 3層	(13.0)	6.0 以上	—	口縁部 50%	外 10YR5/2 灰黄褐 内 10YR4/2 灰黄褐	口縁部強く外反 端部より下がった位置に突帯 口縁端部・突帯上V字キザミ 頸部雙卷	反転復元 2 ～ 3mmの砂粒中量 弥生時代前期
216	図 22 図版 20	突帯文土器 壺	3-1 F11b18	302 3層	(14.0)	6.7 以上	—	口縁部 25%	外 5YR4/2 灰褐 N2/ 黒 内 10YR4/2 灰黄褐	頸部直立気味 口縁部外反 端部外面に幅広い突帯 突帯上を3段に分割したのちタテ方向のD字キザミ	反転復元 1 ～ 3mmの長石等中量 角閃石・金雲母多量 搬入品 弥生時代前期
217	図 22 図版 20	突帯文土器 壺	3-3 F11d19	302 3層	(9.6)	3.2 以上	—	口縁部 15%	10YR6/2 灰黄褐	端部下を肥厚させ、その下に断面三角形の突帯を付し、2段突帯を成形 突帯上V字キザミ	反転復元 1 ～ 2mmの長石等多量 弥生時代前期
218	図 22	突帯文土器 壺	3-3 F11a21	302 3層	(14.4)	7.7 以上	—	口縁部 10%	7.5YR7/4 におい橙 10YR6/2 灰黄褐	口頸部やや外傾 口縁端部付近で外反 端部下肥厚 外面板状工具ナデ	反転復元 1 ～ 2mmの長石等多量 搬入品 弥生時代前期
219	図 22	突帯文土器 壺	3-3 F11d14	302 3層	(12.0)	3.0 以上	—	口縁部 15%	10YR7/3 におい黄橙	口縁部強く外反 端部下扁平な突帯 キザミなし	反転復元 1 ～ 3mmの長石等多量 弥生時代前期
220	図 22 図版 20	突帯文土器 壺	3-1 F11c16	302 3層	(9.0)	3.8 以上	—	口縁部 20%	外 10YR6/3 におい黄橙 内 10YR4/1 褐灰	体部から頸部にかけて内傾 口縁部外反 端部外面に幅広い突帯	反転復元 1 ～ 3mmの砂粒中量 弥生時代前期
221	図 22 図版 21	条痕文土器 壺	3-3 F11a19	302 3層	(13.0)	3.4 以上	—	口縁部 15%	外 10YR4/2 灰黄褐 内 10YR4/2 灰黄褐	口縁部外傾 端部丸い 外面条痕のち幅広の沈線	反転復元 1 ～ 2mmの長石等多量 金雲母含む 搬入品 弥生時代前期
222	図 22 図版 21	条痕文土器 壺	3-3 F11c20	302 3層ほか	(13.7)	10.8 以上	—	口縁部 10%以下	外 N3/2 黒褐 内 10YR3/1 黒褐	口縁部緩やかに外反 頸部断面三角形の突帯 口縁部から頸部にかけて沈線 10数条	反転復元 1mmまでの長石等中量 搬入品 弥生時代前期
223	図 22 図版 21	条痕文土器 甕?	3-3 F11d14	302 3層	—	—	—	—	外 10YR3/1 黒褐 内 10YR2/1 黒	二又工具による羽状条痕	1 ～ 3mmの長石等多量 搬入品 弥生時代前期 榎王～水神平式
224	図 22 図版 21	条痕文土器 壺	3-3 F11d16	302 3層	—	—	—	—	外 10YR4/2 灰黄褐 10YR2/1 黒 内 10YR3/2 黒褐	二又工具による条痕	1 ～ 3mmの長石等多量 金雲母含む 搬入品 弥生時代前期 榎王～水神平式
225	図 22 図版 21	条痕文土器 壺	3-3 F11d18	302 3層	—	—	—	—	外 10YR4/2 灰黄褐 内 10YR4/2 灰黄褐 N3/ 暗灰	二又工具による条痕	1mm前後の長石等多量 搬入品 屋よ時代前期 榎王～水神平式
226	図 22 図版 21	条痕文土器 壺	3-3 F11c16 d15	302 3層	—	5.9 以上	—	—	外 N3/ 暗灰 内 N2/ 黒	肩部D字キザミを施した貼付突帯2条 突帯を区切るこぶ状突起 突起上キザミ 外面突帯上ハケ・突帯下条痕	反転復元 1mm前後の長石等多量 搬入品 弥生時代前期
227	図 22 図版 21	条痕文土器 ? 壺	3-3 F11d17	302 3層	—	10.7 以上	—	10% 以下	10YR4/1 褐灰	肩部D字キザミを施した貼付突帯	反転復元 1 ～ 4mmの砂粒中量 弥生時代前期 在地胎土?
228	図 23 図版 21	突帯文土器	3-3 F11b18	302 3層	—	4.3 以上	7.7	底部 95%	外 10YR4/1 褐灰 内 N3/ 暗灰	平底 外面ヘラケズリ	1 ～ 3mmの長石・片岩多量 搬入品 弥生時代前期
229	図 23	突帯文土器	3-3 F11c21	302 3層	—	3.2 以上	5.5	底部 80%	外 10YR6/2 灰黄褐 N3/ 暗灰 内 N2/ 黒	平底 外面ケズリ	反転復元 1 ～ 3mmの砂粒多量 弥生時代前期
230	図 23 図版 21	突帯文土器	3-1 F11c17	302 3層	—	4.6 以上	6.4	底部 100%	外 7.5YR5/2 灰褐 内 7.5YR4/1 褐灰	平底 底部中央やや窪む 外面強いナデ・外底部は回転を利用したナデ(ケズリ)	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
231	図 23 図版 21	弥生土器 甕?	3-3 F11d16	302 3層	—	4.0 以上	6.3	底部 100%	外 10YR7/2 におい黄橙 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	内外面ナデ	1 ～ 5mmの砂粒多量 弥生時代前期
232	図 23	突帯文土器	3-3 F11a20	302 3層	—	3.1 以上	5.7	底部 100%	外 10YR3/1 黒褐 10YR7/2 におい黄橙 内 10YR3/1 黒褐	平底 外面ハケ状の条痕	一部反転復元 1 ～ 2mmの砂粒中量 弥生時代前期
233	図 23	突帯文土器	3-3 F11a20	302 3層	—	2.7 以上	(6.8)	底部 80%	外 N2/ 黒(スス) 10YR4/2 灰黄褐 内 10YR4/1 褐灰	平底	反転復元 1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
234	図 23	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 3層	—	4.9 以上	6.8	底部 40%	外 2.5Y3/1 黒褐 内 10YR4/2 灰黄褐 N2/2	底部丸みを帯びる 体部外面ヘラケズリ	反転復元 1 ～ 2mmの長石等多量 金雲母含む 搬入品 弥生時代前期
235	図 23	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b18	302 3層	—	5.2 以上	2.8	底部 100%	外 10YR8/3 浅黄橙 内 10YR3/1 黒褐	尖底	反転復元 1mm前後の長石等多量 弥生時代前期
236	図 23 図版 21	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 3層	—	5.6 以上	2.4	底部 100%	外 10YR7/2 におい黄橙 内 10YR6/2 灰黄褐 N2/2	尖底	一部反転復元 1 ～ 3mmの砂粒多量 弥生時代前期
237	図 23 図版 21	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b17	302 3層	—	9.8 以上	2.8	底部 100%	外 10YR7/2 におい黄橙 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	尖底 外面タテ方向ケズリ(条痕) 外面スス	一部反転復元 1mmまでの砂粒中量 弥生時代前期
238	図 23 図版 21	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c16	302 3層	—	7.7 以上	3.2	底部 100%	外 10YR4/1 褐灰 N3/ 暗灰 内 N3/ 暗灰	尖底 外面タテ方向ミガキ(ナデ)	一部反転復元 1 ～ 3mmの砂粒中量 弥生時代前期
239	図 23	弥生土器	3-3 F11e15	302 3層	—	9.5 以上	(6.0)	底部 30%	外 10 Y R 5/2 灰黄褐 10 Y R 4/1 褐灰 内 N 3/ 暗灰	平底 外面全体ハケ	反転復元 1 ～ 3mmの長石等中量 搬入品? 弥生時代前期
240	図 23 図版 21	弥生土器 壺蓋	3-3 F11d17	302 2層	(13.0)	2.2 以上	—	10%	外 N2/ 黒 内 10YR6/2 灰黄褐	円盤状 天井部中央円穴 外面ヘラミガキ黒色物塗布	反転復元 1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期
241	図 23 図版 21	弥生土器 壺	3-3 F11c15	302 2層	(9.8)	9.9 以上	—	口縁部 45%	外 10YR7/3 におい黄橙 内 10YR6/3 におい黄橙	口縁部ほぼ直線的に外傾 端部丸い 口頸部境断面三角形に削出突帯	反転復元 1 ～ 3mmの砂粒多量 弥生時代前期中段階
242	図 23 図版 21	弥生土器 壺	3-3 F11c17	302 サブトレ	(14.2)	5.0 以上	—	口縁部 20%	外 5YR4/1 褐灰 内 7.5YR5/2 灰褐	口縁部短く外反 端部は丸い 端部下紐穴 口頸部境は2条の沈線 内外面ヘラミガキ 外面黒色物塗布	反転復元 1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期中段階
243	図 23 図版 21	弥生土器 壺	3-3 F11c18・ a20	302 2層ほか	14.0	4.9 以上	—	口縁部 20%	外 7.5YR3/1 黒褐 内 10YR6/3 におい黄橙	口縁部ゆるやかに外反 端部丸い 口頸部境幅広い沈線 外面ハケの ちヘラミガキのち黒色物塗布 内 面ヘラミガキ	反転復元 1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期中段階
244	図 23	弥生土器 壺	3-1 F11c15	302 2層	(18.0)	2.8 以上	—	口縁部 10%	外 7.5YR5/2 灰褐 7.5 Y R 3/1 黒褐 内 7.5 Y R 5/2 灰褐	口縁部短く外反 端部外方に面 内外面ヘラミガキ	反転復元 1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期中段階
245	図 23 図版 21	弥生土器 壺	3-3 F11a19	302 2層	(22.8)	8.4 以上	—	口縁部 30%	外 7.5YR3/1 黒褐 内 7.5YR4/1 褐灰	口縁部強く長く外反 外端面有軸 羽状文 頸部貼付突帯3条以上 突帯上押圧キザミ 内外面ヘラミ ガキ	反転復元 1 ～ 3mmの長石等多量 搬入品 弥生時代前期新段階
246	図 23 図版 21	弥生時代 壺	3-3 F11b21	第2 サ ブトレ	(28.0)	2.3 以上	—	口縁部 10%	10YR7/3 におい黄橙	口縁部は強く開く 端部は丸い 外面ハケ	反転復元 1 ～ 2mmの砂粒多量 弥生時代前期新段階

土器一覧表（8）

報告書番号	図・図版番号	種類器種	調査区地区	遺構層位	口径cm	高さcm	底径cm	残存率	色 調	形態・技法	備 考
247	図 23 図版 21	弥生土器 壺	3-3 F11c17	302 2' 層	—	—	—	—	外 10YR7/2 におい黄橙 内 10YR5/1 褐灰	頸部境界 沈線間刺突（竹管）文	1～2mmの砂粒多量 弥生時代前期中段階
248	図 23	弥生土器 壺	3-3 F11d15	302 2 層	—	8.5 以上	—	頸部境界 10%	外 10YR3/1 黒褐 内 10YR2/1 黒	頸部境界沈線 4 条以上 外面ハケ調整部分的にヘラミガキ	反転復元 1mm前後の砂粒中量 弥生時代前期中段階
249	図 23	弥生土器 壺	3-3 F11a20	302 2' 層 (肩上)	—	4.3 以上	—	頸部 10% 以下	外 7.5YR5/2 灰褐 内 7.5YR6/2 灰褐	頸部境界段 段下沈線 3 条 外面ハケのちヘラミガキ	反転復元 1mm前後の長石中量 弥生時代前期中段階
250	図 23 図版 21	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a21	302 2' 層	(29.0)	8.9 以上	—	口頸部 15%	外 10YR4/2 灰黄褐 10YR8/3 灰白 内 10YR3/1 黒褐	2 条突帯 A 類 口縁端部より下がった位置に断面三角形の突帯 V 字キザミ	反転復元 1mm前後の長石等多量 搬入品？ 弥生時代前期
251	図 23 図版 21	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c15	302 2 層	(36.0)	22.8 以上	—	10%	外 10YR6/3 におい黄橙 N2/ 黒 内 10YR3/1 黒褐	2 条突帯 A 類 端部下垂下する断面三角形の突帯 D 字キザミ 体部径は口径を凌駕 外面ヘラ先による条痕・スス	反転復元 1～3mmの長石等中量 弥生時代前期
252	図 23 図版 21	突帯文土器 深鉢	3-3 F11b17	302 2 層	(28.0)	6.0 以上	—	口縁部 10%	10YR5/3 におい黄褐 N2/ 黒	B 類 端部下部低い断面三角形の突帯 押圧状キザミ 外面スス付着	反転復元 1～5mmの砂粒多量 弥生時代前期
253	図 23	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 2 層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 10YR3/1 黒褐 内 10YR3/2 黒褐	A 類 瀬戸タイプ V 字キザミ 突帯下円穴 外面スス	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
254	図 23	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c15	302 2 層	—	—	—	—	外 10YR6/2 灰黄褐 内 10YR7/2 におい黄橙	A 類 瀬戸タイプ？ V 字キザミ 外面スス	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
255	図 23	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c15	302 2 層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 10YR4/1 褐灰 内 10YR6/2 灰黄褐	A 類 瀬戸タイプ V 字キザミ 外面スス	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
256	図 23	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a19	302 1 層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 7.5YR4/2 灰褐	A 類 口縁部肥厚 V 字キザミ 外面スス	1mm前後の砂粒・クサリ礫 雲母中量 弥生時代前期
257	図 23	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b18	302 2 層	—	—	—	—	10YR3/1 黒褐	B 類 端部下断面三角形の突帯 V 字キザミ	1～2mmの長石等少量 金雲母有 搬入品 弥生時代前期
258	図 23	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a21	302 2' 層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 2.5Y4/1 黄灰 内 10YR7/2 におい黄橙	B 類 口縁部 2 条の突帯 D 字キザミ 外面スス	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
259	図 23	突帯文土器 深鉢	3-1 F11b18	302 2 層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 7.5YR4/2 灰褐 N2/ 黒	B 類 端部下扁平な突帯 V 字キザミ 外面スス	1mm前後の長石等中量 搬入品 弥生時代前期
260	図 23 図版 21	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 2' 層	—	—	—	—	外 10YR3/1 黒褐 内 10YR4/2 灰黄褐 N2/ 黒	B 類 口縁部肥厚 D・V 字キザミ	1～2mmの長石等多量 搬入品 弥生時代前期
261	図 23	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 2' 層 (肩上)	—	—	—	—	外 N3/ 暗灰 内 10YR7/2 におい黄橙	C 類 瀬戸タイプ 突帯下線刻	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
262	図 23 図版 21	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a20	302 2' 層	—	—	—	—	外 N 2/ 黒 内 10YR7/3 におい黄橙	C 類 端部下扁平で幅広の突帯 外面スス	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
263	図 24	突帯文土器 深鉢	3-1 F11c15	302 2 層	(36.0)	5.2 以上	—	口縁部 10% 以下	外 10YR7/3 灰におい黄橙 内 10YR4/2 灰黄褐	A 類 瀬戸タイプ 口縁端部 D 字・突帯上縦長 D 字キザミ	反転復元 1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
264	図 24 図版 21	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c14	302 2' 層	(38.0)	10.5 以上	—	口縁部 10% 以下	外 10YR5/2 灰黄褐 10YR3/1 黒褐 内 N3/ 暗灰	A 類 口縁下垂下する断面三角形の突帯 V 字キザミ 体部外面縦維状原体による条痕	反転復元 1～3mmの砂粒中量 弥生時代前期
265	図 24 図版 21	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a21	302 2' 層	(18.8)	10.1 以上	—	10%	N1.5/ 黒	B 類 頸部はぼ直立 口縁部わずかに外傾 瀬戸タイプ？ V 字キザミ 外面ケズリ（条痕） 外面スス	反転復元 1～3mmの砂粒多量 弥生時代前期
266	図 24 図版 21	突帯文土器 壺	3-3 F11a19	302 1 層	(17.6)	6.2 以上	—	口縁部 10% 以下	外 10YR6/3 におい黄橙 内 10YR6/2 灰黄褐	B 類 端部下扁平な突帯 V 字キザミ スス付着なく壺の可能性も	反転復元 1～3mmの長石・片岩等多量 搬入品 弥生時代前期
267	図 24	突帯文土器 深鉢	3-3 F11c16	302 2' 層	—	—	—	—	外 N2/ 黒 内 10YR6/2 灰黄褐	2 条突帯胴部 上下 2 段に区画線状の細いキザミ 外面スス	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
268	図 24 図版 21	突帯文土器 壺	3-3 F11d17	302 2 層	(14.0)	3.4 以上	—	口縁部 10%	外 10YR7/2 におい黄橙 内 10YR6/2 灰黄褐	口縁部はぼ直立 端部外断面三角形の突帯 突帯上 D 字キザミ 内外面貝殻状の条痕	反転復元 1～2mmの砂粒多量 弥生時代前期
269	図 24 図版 21	突帯文土器 壺	3-3 F11a21	302 2 層	(6.1)	5.6 以上	—	口縁部 20%	外 10YR5/2 灰黄褐 N2/ 黒 内 10YR5/2 灰黄褐	口頸部はぼ直立 端部外やや垂下する突帯 突帯上 V 字キザミ	反転復元 1～2mmの砂粒中量 弥生時代前期
270	図 24 図版 21	突帯文土器 壺	3-1 F11b18	302 2 層	(9.4)	4.2 以上	—	口縁部 15%	10YR6/3 におい黄橙	頸部直立 端部外突帯 突帯上 D 字キザミ 頸部外面ハケ	反転復元 1～2mmの砂粒中量 弥生時代前期
271	図 24 図版 21	突帯文土器 壺	3-3 F11a21	302 2 層	—	—	—	—	外 10YR5/3 におい黄褐 内 10YR5/4 におい黄褐	胴部中位にキザミ 2 列	1～3mmの長石等多量に含む 弥生時代前期
272	図 24	突帯文土器 深鉢	3-3 F11d16	302 2 層	—	5.7 以上	3.7	底部 50%	外 N2/ 黒 10YR7/2 におい黄橙 内 10YR3/1 黒褐	尖底	1～3mmの砂粒多量 弥生時代
273	図 24	突帯文土器 深鉢	3-3 F11a22	302 2 層	—	3.9 以上	1.9	底部 100%	10YR7/3 におい黄橙	尖底	反転復元 1mm前後の長石等多量 弥生時代前期
274	図 24 図版 21	条痕文土器 深鉢？	3-3 F11e18	302 1 層	—	—	—	—	10YR4/2 灰黄褐	細かい横方向の条痕	1mm前後の長石等多量 金雲母含む 搬入品
275	図 24 図版 21	浮線文系 壺	3-3 F11c16	302 2 層	(22.0)	3.9 以上	—	口頸部 10% 以下	外 N2/ 黒 内 N3/ 暗灰	口縁部内傾 口縁部工字文 頸部キザミ目突帯 内外面丁寧なヘラミガキ	反転復元 1mm前後の長石等多量 搬入品（北陸） 弥生時代前期
276	図 25 図版 22	弥生土器 壺	3-3 F11d17	緑灰細砂 シルト	(16.0)	6.3 以上	—	口縁部 15%	外 5YR4/1 褐灰 内 10YR6/2 灰黄褐	口縁の端部付近強く外反し、端部にキザミ 口頸部境強くヨコナデして成形した削出突帯 内外面ヘラミガキ 外面黒色物塗布	反転復元 1～3mmの砂粒多量 弥生時代前期中段階
277	図 25 図版 22	弥生土器 壺	3-3 F11a21	302	—	—	—	—	—	体部 2 種の二又工具による縦方向区画線 直線文・波状文	1mm前後の長石等多量 搬入品 弥生時代中期
278	図 25 図版 22	弥生土器 壺	3-3 F12a1	313 B-3 層	(20.0)	5.0 以上	—	口縁部 30%	7.5YR7/4 におい橙	口縁部は外反・端部は外方に面 外面ヘラミガキ	反転復元 1mm前後の砂粒少量 弥生時代後期
279	図 25 図版 22	弥生土器 高杯	3-3 E11y24	313 B-3 層	(18.6)	5.3 以上	—	口縁部 20%	10YR7/3 におい黄橙	口縁部は短く外傾 端部は斜め上方に面 内外面ヘラミガキ	反転復元 1mm前後の砂粒少量 弥生時代後期
280	図 25	弥生土器 高杯	3-3 F11b22	313 B-3 層	—	10.4 以上	—	—	10YR6/2 灰黄褐	脚柱部 2 段・5 方向の円穴	一部反転復元 1～3mmの長石等少量 弥生時代後期
281	図 25	弥生土器 高杯	3-3 E11y23	313 B-3 層	(18.7)	5.4 以上	—	脚柱部 100%	10YR7/4 におい黄橙	脚柱から裾部にかけて外湾気味に開く 裾部の 4 方向に円穴	一部反転復元 1mm前後の赤色砂粒等多量 庄内併行期

土器一覧表（9）

報告書番号	図・図版番号	種類 器種	調査区 地区	遺構 層位	口径 cm	高さ cm	底径 cm	残存率	色 調	形態・技法	備 考
282	図 25	弥生土器 高杯	3-3 F11a23	313 B-3 層	—	8.4 以上	—	50%	10YR7/4 におい黄橙	裾部は内湾気味に開く 円穴 坏部は碗形か	一部反転復元 胎土緻密 庄内併行期
283	図 25 図版 22	土師器 高杯	3-3 F11a23	313 B-3 層	17.4	5.2 以上	—	杯部 50%	外 10YR8/3 浅黄橙 内 10YR7/4 におい黄橙	口縁部はわずかに屈曲して外傾 端部は尖り気味	反転復元 胎土良 古墳時代前期
284	図 25 図版 22	土師器 高杯	3-3 F11a23	313 B-3 層	—	6.9 以上	裾部径 11.4	脚部 80%	2.5Y7/2 灰黄	脚柱部内面ラセン巻き上げ・シボリ、ヘラケズリ	反転復元 1mm前後の砂粒中量 古墳時代前期
285	図 25 図版 22	土師器 高杯	3-3 F11a23	313 B-3 層	—	8.3 以上	裾部径 10.4	脚部 90%	2.5Y6/1 黄灰	脚柱部長く裾部強く外反 脚柱部内面シボリ痕 外面粗い面取り	1～3mmの砂粒多量 古墳時代前期
286	図 25	土師器 鉢	3-3 F11a23	313 B-3 層	(14.0)	5.3 以上	—	口縁部 50%	10YR6/3 におい黄橙	口縁部短く屈曲 端部尖り気味 体部内外面ヘラミガキ	反転復元 胎土密 古墳時代前期
287	図 25 図版 22	須恵器 杯蓋	3-3 E11y24	313 B-3 層	15.2	4.4	—	90%	N4.5/ 灰	口縁部・天井部の境は比較的光明瞭 口縁部は内傾する段を有す	1～3mmの砂粒少量 古墳時代後期
288	図 25 図版 22	須恵器 杯蓋	3-3 E11y24	313 B-3 層	12.8	3.3	—	65%	N5/ 灰	口縁部は丸い天井部から内湾気味に続く 天井部との境は不明瞭 端部は丸い	1～5mmの長石等少量 古墳時代後期
289	図 25 図版 22	須恵器 杯身	3-3 E11y24	313 B-3 層	12.8	4.3	—	95%	10YR6/2 灰黄褐	受部は横方向に開く 口縁部は内傾・端部は尖り気味	1～3mmの長石等少量 古墳時代後期
290	図 25 図版 22	須恵器 杯身	3-3 E11y24	313 B-3 層	11.0	3.8	—	100%	N6/ 灰	受部は短く上方に折れる 口縁部は短く内傾・端部は尖る	1mm前後の長石等少量 古墳時代後期
291	図 25 図版 22	須恵器 杯身	3-3 E11y24	313 B-3 層	11.2	3.7	—	95%	N5/ 灰	受部は短く上方に折れる 口縁部は短く内傾・端部は尖り気味	1～3mmの長石等少量 古墳時代後期
292	図 25	弥生土器 壺	3-3 F11e20	313 A-2 層	(14.0)	4.4 以上	—	口縁部 20%	7.5YR7/2 明褐灰	口縁部短く外反 口頸部境は1条の沈線 内外面ヘラミガキ	反転復元 1mm前後の長石等多量 弥生時代前期中段階
293	図 25	弥生土器 壺	3-3 F11a22	313 B-1 層	—	4.1 以上	6.6	底部 95%	外 2.5Y7/3 浅黄 内 5Y3/1 オリーブ黒	平底	一部反転復元 胎土密
294	図 25	弥生土器 甕	3-3 E11y21	313 B-2 層	—	2.7 以上	4.8	底部 100%	7.5YR5/2 灰褐	外端部わずかに外方に拡張 外底面ヘラケズリ	一部反転復元 1～3mm長石・石英等多量 弥生時代
295	図 25	弥生土器 高杯	3-3 E11y23	313 B-1 層	(18.6)	3.9	—	口縁部 15%	外 7.5YR7/2 明褐灰 内 7.5YR7/3 におい橙	口縁部は短く外上方へ立ち上がる 端部は丸い 内外面ヘラミガキ	反転復元 1mm前後の長石等少量 弥生時代後期
296	図 25	弥生土器 高杯	3-3 E11y21	313 B-2 層	—	3.9 以上	—	脚柱部 80%	10YR8/2 灰白	脚柱部はハの字に開く 3方向に円穴 外面ヘラミガキ	一部反転復元 1mm前後の赤色砂粒等少量 弥生時代後期
297	図 25	弥生土器 高杯	3-3 E11y23	313 B-2 層	—	4.2 以上	—	脚柱部 100%	7.5YR8/3 浅黄橙	脚柱部はハの字に開く 脚柱部は棒状のものに粘土を巻きつけて成形	反転復元 1mmまでの微砂粒多量 弥生時代後期末
298	図 25 図版 22	土師器 高杯	3-3 F11a22	313 B-1 層	—	6.8 以上	裾部径 13.4	脚部 80%	10YR6/3 におい黄橙	脚柱部外面面取り・内面ラセン巻き上げ・シボリ	1mm前後の砂粒多量 古墳時代前期
299	図 25 図版 22	須恵器 杯身	3-3 E11x25	313 B-1 層	13.6	5.0	—	85%	N6/ 灰	受部は横方向に短く開く 口縁部は長く内傾・端部わずかに内傾する段をもつ	1mm前後の長石等少量 古墳時代後期
300	図 25 図版 22	須恵器 杯身	3-3 E11y23・ 24	313 B-1・2 層	12.6	4.35	—	80%	N5/ 灰	受部は横方向に短く開く 口縁部は長く内傾・端部は丸い	外底面ヘラ記号 1～3mmの長石等少量 古墳時代後期
301	図 25 図版 22	須恵器 杯身	3-3 E11y24	313 B-1 層	11.7	3.8	—	95%	N5/ 灰	受部は横方向に開く 口縁部は短く内傾・端部は尖り気味	1mm前後の長石等多量 古墳時代後期
302	図 25 図版 22	須恵器 杯身	3-3 F11f16	313 A-2 層	13.3	3.4	—	100%	外 N6/ 灰 内 N5/ 灰	体部は浅い 受部は横方向に開く 口縁部は強く内傾 端部は丸い	外面自然釉 1～3mmの長石等少量 古墳時代後期
303	図 25 図版 23	須恵器 杯身	3-3 F11f16	313 A-2 層	12.3	3.8	—	98%	N6/ 灰	受部は横上方に開く 口縁部は短く上方に立ち上がる 端部は尖り気味	φ～2mmの長石等中量 古墳時代後期
304	図 25	土師器 甕	3-3 F11e17	313 A-2 層	(14.4)	4.8 以上	—	口縁部 25%	10YR5/2 灰黄褐	口縁部強く外反 端部外方に面外面スス付着	反転復元 1mm前後の長石等中量 搬入品 古墳時代前期
305	図 25 図版 23	土師器 甕	3-3 E11y25	313 B-1 層	(26.1)	5.9 以上	—	口縁部 10%	外 7.5YR5/2 灰褐 内 10YR3/1 (黒褐)	口縁端部は上方へ拡張 外面縦方向ハケ 内面口縁横ハケ・体部ヘラケズリ	反転復元 胎土密 古墳時代
306	図 25 図版 23	土師器 甕	3-3 F11a21・ 22	313 B-1 層	(18.4)	5.0 以上	—	口縁部 25%	10YR5/3 におい黄褐	口縁部くの字に屈曲 端部上方に摘み上げ・外方に面 口縁部内面・体部外面ハケ調整	反転復元 1mm前後の長石等中量 古墳時代
307	図 25	土師器 高杯	3-3 F11b22	313 B-1 層	—	4.8 以上	—	脚柱部 100%	2.5Y7/3 浅黄	内外面回転ナデ	反転復元 1～2mm前後の片岩・クサリ礫少量 古墳時代
308	図 25	須恵器 杯蓋	3-3 E11y24・ a24	313 B-1 層	13.8	1.6	—	25%	10YR6/1 褐灰	平坦な天井部に擬宝珠様の扁平なつまみ 口縁部は短く下方に折れ	一部反転復元 1mm前後の長石等少量 奈良時代
309	図 25	須恵器 壺	3-3 F11f15	313 A-2 層	7.6	6.2 以上	—	口頸部 90%	N6/ 灰	頸部は長く口縁部は横方向に開く 端部は上下に拡張・外方に面	反転復元 胎土緻密 奈良時代
310	図 25	須恵器 壺？	3-3 F11d18	313 A 層	—	2.3 以上	7.2	高台部 20%	外 2.5YR5/1 赤灰 ない 5Y3/1 オリーブ黒		反転復元 胎土密 奈良時代
311	図 25 図版 23	土師器 鍋？	3-3 E11y23	313 B-1 層	(34.0)	5.1 以上	—	口縁部 10%	外 7.5YR6/3 におい褐 内 7.5YR6/4 におい橙・ N3/ 灰	口縁部は強く外反・口縁部上方へわずかに拡張・体部最大径は頸部付近	反転復元
312	図 25 図版 23	土師器 甕	3-3 E12y1	313 B-2 層	(13.0)	7.0 以上	—	底部 10%	外 7.5YR4/1 褐灰 内 7.5YR6/2 灰褐	口縁部くの字に屈曲 端部内外にわずかに拡張 体部外面縦ハケ 内面横ハケ	反転復元 1mm前後の長石等多量
313	図 25 図版 23	条痕文土器 壺	3-1 F11w13	—	—	—	—	—	10YR8/1 灰白	頸部横方向条痕のち波状文	1mmまでの長石等多量 水神平式 搬入品 弥生時代前期新段階
314	図 25 図版 23	浮線文土器？ 深鉢	3-1	地山直上	—	—	—	—	外 5Y5/1 灰 内 N2/ 黒	口縁部外傾 端部下2条の沈線	搬入品
315	図 25 図版 23	須恵器 杯蓋	3-3 E11y24	東側溝	(13.0)	4.2	—	85%	5B5/1 青灰	口縁部は丸い天井部から内湾気味に続く 端部は丸い	1～4mmの長石等中量 古墳時代
316	図 25	須恵器 杯身	3-3 E11y23	東側溝	(8.9)	4.3 以上	—	20%	N7.5/ 灰白	口縁部は短く内傾	反転復元 微砂粒多くざっくりしている 飛鳥時代
317	図 26	弥生土器 甕	3-2 F11a11	第6層	(16.6)	2.0 以上	—	口縁部 15%	外 5YR6/4 におい橙 内 7.5YR7/4 におい橙	短く外反する口縁の端部を上下に拡張 やや窪む外端面に爪形文	反転復元 1～3mmまでの砂粒少量 弥生時代
318	図 26	弥生土器 甕	3-2 F11a11	第6層	—	4.2 以上	(6.6)	底部 30%	外 7.5YR7/4 におい橙・N4 灰 内 2.5YR6/6 橙	外面平行タタキ 内面ナデ	反転復元 1～2mmまの長石・石英等多量 弥生時代

土器一覧表 (10)

報告書番号	図・図版番号	種類器種	調査区地区	遺構層位	口径cm	高さcm	底径cm	残存率	色 調	形態・技法	備 考
319	図 26	須恵器杯身	3-2 E11w8		(13.2)	2.5以上	－	15%	2.5Y6/1 黄灰	体部は浅い 口縁部は短く内傾・端部は尖り気味	反転復元 1mmまでの長石等少量古墳時代
320	図 26	須恵器杯身	3-2 E11v8		(12.2)	2.6以上	－	口縁部15%	N5/ 灰	受部横方向に伸びる 口縁部は短く内傾・端部は尖り気味	反転復元 1mmまでの砂粒少量古墳時代
321	図 26 図版 23	須恵器はそう	3-2 E11v9		－	11.4以上	体部径9.8	口縁以外100%	N5/1 灰	体部中位凹線間に櫛刺突文・下半ヘラケズリ 頸部斜線文下に凹線間の櫛刺突	1mmまでの長石等少量 古墳時代
322	図 26 図版 23	突帯文土器深鉢	4-1 E11k20	第7層	－	－	－	－	10YR7/3 におい黄橙	C 類 瀬戸タイプ	1～3mmの砂粒多量 弥生時代前期
323	図 26 図版 23	突帯文土器深鉢	4-1 E11i18	第7層	－	－	－	－	外 10YR6/2 灰黄褐 内 10YR7/2 におい黄橙	A 類 瀬戸タイプ V 字キザミ	1mm前後の砂粒多量 弥生時代前期
324	図 26 図版 23	突帯文土器深鉢	4-1 E11q15	第7層	－	－	－	－	外 10YR6/2 灰黄褐 内 10YR7/2 におい黄橙	C 類 瀬戸タイプ V 字キザミ	1～2mmの砂粒多量 弥生時代前期
325	図 26	弥生土器甕	4-1 E11s15	第6層	－	2.9以上	5.4	底部100%	10YR7/3 におい黄橙	底部外方に拡張 やや上げ底	胎土良
326	図 26 図版 23	弥生土器壺	4-1 E11o16	第6層	(18.4)	3.4以上	－	口縁部20%	10YR8/2 灰白	口縁部強く外傾 端部外方に面	反転復元 胎土密 弥生時代後期
327	図 26 図版 23	弥生土器高杯	4-1 E11s15	第6層	－	6.9以上	－	脚柱部80%	7.5YR7/4 におい橙	外面タテ方向ヘラミガキ 内面回転を利用したヘラケズリ	1mm前後の砂粒少量 弥生時代後期
328	図 26	須恵器杯	4-1 E11i20	第4層	(11.1)	3.3	(7.6)	30%	5Y5/1 灰	平底・回転ヘラケズリのちナデ 口縁部は内湾して立ち上がる 端部は丸い	反転復元 胎土密 古代
329	図 26 図版 23	須恵器壺	4-1 E11p18	第4層	－	3.2以上	(8.8)	高台部35%	外 N5/ 灰 2.5Y6/1 黄灰 内 N6/ 灰	高台は低くハの字に開き、下面で接する	反転復元 胎土長石の微砂粒多い奈良時代
330	図 26 図版 23	瓦器碗	4-1 E11k20	第4層	15.6	5.3	5.6	75%	N3/ 灰	高台は台形状・内側で接する 体部外面ユビオサエのちヘラミガキ 内面ヘラミガキ不規則	胎土密 12 世紀
331	図 26 図版 23	施釉陶器天目碗	4-1	北側側溝第3層	(11.6)	6.0以上	－	20%	釉 10YR1.7/1 黒露胎部 10YR8/2 灰白	口縁部は直立し、端部はわずかに外方向に折れる 外底部付近露胎	反転復元 胎土密 瀬戸美濃系陶器 16 世紀
332	図 26 図版 23	施釉陶器天目碗	4-1	機械掘削第2層	(12.6)	5.2以上	－	10%	釉 5YR4/3 におい赤褐露胎部 10YR8/2 灰白	器壁厚い 外底部付近露胎	反転復元 近世
333	図 26 図版 23	弥生土器甕	4-2 D12y7	第6層	(11.6)	8.1以上	－	後頸部20%	7.5YR7/4 におい橙	口縁部は外傾して立ち上がる 端部は丸い 体部外面平行タタキ	反転復元 0.5mmまでの微砂粒多い 弥生時代後期末
334	図 26 図版 23	弥生土器高杯	4-2 E12a5	第6層	－	5.8以上	－	脚柱部90%	10YR7/3 におい黄橙	脚柱部は裾部に向かって緩やかに開く 円穴3方向 外面タテ方向ヘラミガキ	反転復元 1～3mmの砂粒・赤色砂粒中量 弥生時代後期末
335	図 26	弥生土器蓋	4-2 D12x11	－	－	3.6以上	天井径2.3	－	10YR8/3 浅黄橙	天井部平坦 笠形	1mm前後の長石少量 弥生時代後期
336	図 26	須恵器高杯	4-2 D12y6 x8	第4層	－	3.2以上	(11.0)	裾部25%	外 N3/ 暗灰 内 N4/ 灰	裾部ラッパ状に開く 端部上下に拡張・外方に面 回転ナデ	反転復元 胎土緻密 古墳時代
337	図 26 図版 23	土鍾	4-2 D12a8	第4層	5.7	1.25～1.4	0.35～0.45	100%	10YR7/2 におい黄橙 N3/ 暗灰	管状 中央やや膨らむ	1mm前後の砂粒少量
338	図 26 図版 23	弥生土器	4-3 D12u10	第6層	－	4.5以上	4.6	脚台部100%	7.5YR7/4 におい橙 7.5YR8/2 灰白 内 5YR7/6 橙	脚台は直立 外面ユビオサエ・ナデ 体部内面板状圧痕	胎土密 弥生時代後期
339	図 26 図版 23	弥生土器高杯	4-2 D12u10	第6層	－	5.4以上	－	脚柱部100%	5YR7/4 におい橙	脚柱部は中実 裾部円穴4方向か？	反転復元 胎土密 弥生時代後期末
340	図 26 図版 23	土師器甕	4-3 D12o17	第6層	21.2	4.0以上	－	－	外 7.5YR7/3 におい橙 内 N3/ 暗灰 2.5Y6/1 黄灰	口縁部くの字に屈曲 端部やや肥厚 内面横方向ハケ	反転復元 1mm前後の長石等多量
341	図 26	土師器丸底壺	5-1 E11f15	第5・6層	(9.8)	3.8以上	－	後頸部15%	10YR8/2 灰白	口縁部はほぼ直立 端部は尖り気味	反転復元 胎土緻密 古墳時代前期
342	図 26	土師器甕	5-1 E11f15	第5・6層	(13.0)	4.0以上	－	口縁部10%	5YR7/4 におい橙	口縁部外反 端部は丸い 体部最大径は頸部付近 外面ハケ・スス付着	反転復元 1mmまでの長石・赤色砂粒少量 古墳時代
343	図 26	弥生土器壺	5-1 E11u16	第5・6層	－	2.9以上	5.0	底部90%	10YR7/3 におい黄橙	－	反転復元 2mm前後の砂粒多量 弥生時代後期末
344	図 26	土師器甕	5-1 E11o24	第4層	(25.0)	3.1以上	－	口縁部15%	外 7.5YR4/1 褐灰 内 7.5YR5/2 灰褐	口縁部は強く外傾 端部は下方にわずかに拡張・外上方に面	反転復元 1mm前後の長石・片岩等中量
345	図 26	土師器高杯	5-1 E11u16	第5・6層	－	8.6以上	－	脚柱部100%	10YR7/2 におい黄橙 N3/ 暗灰	脚柱部外面板状圧痕 ・内面粘土巻き上げ痕・シボリ痕	布留併行期
346	図 26	製塩土器	5-1 E11v22	第4層	(9.0)	3.6以上	－	口縁部15%	10YR8/2 灰白	砲弾型 口縁端部尖り気味 外面ユビオサエ	反転復元 1～2mmの長石等中量 古代
347	図 26 図版 23	土鍾	5-1 E11i10	第4層	5.9	3.1	2.5	95%	10YR8/3 浅黄橙	紡錘形 側面有溝	1mm前後の砂粒中量
348	図 26	瓦器碗	5-1 E11f17	第4層	－	1.2以上	(6.0)	高台部25%	外・内 N3/ 暗灰 胎土 2.5Y6/2 灰黄	高台ハの字に低く開く 見込み部暗文不鮮明	反転復元 1mmまでの長石少量 12～13 世紀
349	図 26 図版 23	山茶碗皿	5-1 E11r18	第4層	－	1.1以上	4.0	底部100%	2.5Y7/1 灰白	外底部回転糸切のちナデ	12～13 世紀
350	図 26	土師器盤	5-1 E11i2	第4層	－	1.6以上	13.2	高台部15%	外 7.5YR7/3 におい橙 内 7.5YR6/4 におい橙	高台ハの字に開く	0.5mm以下の長石多量 古代
351	図 26 図版 23	青磁碗	5-1	機械掘削第3層	(15.0)	3.9以上	－	口縁部10%以下	釉 10Y5/2 オリーブ灰 胎土 N6/ 灰	内面劃花文	反転復元 14 世紀
352	図 26	須恵器杯蓋	5-2 E12b13	第5層	(12.5)	3.4	－	15%	N5/ 灰	天井部は平坦気味 天井部と口縁部の境は不明瞭 口縁端部は丸い	反転復元 1mm前後の長石少量 6 世紀
353	図 26	須恵器杯身	5-2 E12d13	第4層	(12.0)	3.3以上	－	20%	外 N3/ 暗灰 内 2.5Y5/2 暗灰黄	受部は横方向に開く 口縁部は直立・端部は尖り気味	反転復元 胎土密 焼成不良・軟質 6 世紀
354	図 26	須恵器杯身	5-2 E12c14 d15	第4層	(11.8)	3.9	－	40%	N5/ 灰	受部は横方向に開く 口縁部は内傾し、端部は丸い	反転復元 1mmまでの長石等少量 6 世紀
355	図 26	須恵器杯身	5-2 E12e13	木片集中部	－	1.5以上	(10.0)	高台部30%	2.5Y6/2 灰黄	底部端の高台は幅広く、下面で接する	反転復元 胎土密 焼成やや不良・軟質 奈良時代

石器一覧表（1）

報告書 番号	図 版 番号	器種	調査区	遺構 層位	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重さ g	石材	残存率	備 考
356	図 27 図版 24	尖頭器？	1		6.6	4.0	0.95	20.7	頁岩	98%	一部欠損
357	図 27 図版 24	磨製石斧	2		4.6 以上	3.8	1.0	28.2 以上	頁岩	50%	基部・刃部欠損 半折 刃部打製で再利用か？
358	図 27 図版 24	磨製石斧？	2 E11r9		4.8 以上	3.8 以上	1.3 以上	33.5 以上	頁岩	30%？	基部・刃部欠損 測辺つぶれ痕
359	図 27 図版 24	削器	2 E11r10		6.3	4.3	0.65	21.0	頁岩	100%	
360	図 27 図版 24	打製石斧？	2 E11r10		8.8	4.1	1.8	64.2	頁岩	100%	周囲直接打法で成形 階段状剥離 一部自然面
361	図 27 図版 24	打製石斧	2 E11s9	遺構 203	10.7	6.8	1.3	88.5	頁岩	100%	刃部つぶれ痕あり 測辺直接打法・階段状剥離 一部自然面
362	図 27 図版 24	打製石斧	2 E11s10		6.9	6.4	1.4	67.4	頁岩	60%	刃部つぶれ痕あり 測辺直接打法・階段状剥離 一部自然面 半折
363	図 27 図版 24	楔形石器	E11q10		6.0	5.8	1.7	86.2	頁岩	100%	方形 4 周階段状剥離・つぶれ痕 一部自然面
364	図 27 図版 24	楔形石器	E11q10		6.5	6.2	1.5	76.3	頁岩	100%	方形 階段状剥離つぶれ痕 片面ほとんどが自然面
365	図 27	楔形石器？	2 E11s9	面精査	9.5	4.8	1.4	66.7	頁岩	100%	階段状剥離 つぶれ痕 使用痕？ 一部自然面
366	図 27	楔形石器	2 E11r9		7.9	4.6	1.2	36.9	頁岩	100%	対応する長辺に階段状剥離・つぶれ痕
367	図 27 図版 24	刃器	2 東側溝		6.0	2.4	0.7	12.7	頁岩	100%	横長 丁寧な調整痕 擦痕あり
368	図 27 図版 24	打製石斧	3-2	機械掘削時	7.1 以上	5.4	1.6	62.2 以上	頁岩	50%	測辺直接打法・階段状剥離 刃部つぶれ痕 斜め半折 表裏両面に使用痕 一部自然面
369	図 28 図版 24	石鏃	3-3 F11e18	302 第1サブ トレ	4.2 以上	2.1	0.6	4.7 以上	頁岩	80%？	基部欠損 長身
370	図 28 図版 24	石鏃	3-3 F11b20	302 3 層	2.2 以上	1.5 以上	0.3	0.8 以上	サヌカイト 金山産	50%？	欠損
371	図 28 図版 24	石鏃	3-3 F11d19	302 3 層	2.2 以上	1.6	0.3	0.7 以上	サヌカイト 金山産	80%	凹基 先端付近欠損 先端部菱形を呈するか？
372	図 28 図版 24	石鏃	3-3 F11c19	302 3 層	2.35	1.9	0.5	2.2 以上	頁岩	80%	平基 先端部欠損
373	図 28 図版 24	石鏃	3-1	排土	3.0	1.9	0.35	1.6 以上	頁岩	100%	凹基
374	図 28 図版 24	石包丁	3-3	302 1 層	12.8 以上	3.8	0.85	60.6 以上	頁岩	95%	穿孔 2（両面から） 表裏面とも左右両端に敲打痕 刃部の鋸歯状に刃毀れ（再利用の可能性も） 円礫から成形か
375	図 28 図版 24	石包丁	3-1 E11x16		5.5 以上	4.9 以上	0.8	28.8 以上	頁岩	25%？	両端欠損 穿孔 1（両面から）以上 剥片から成形か？
376	図 28 図版 24	石包丁	3-3 F11b23	313 下層	13.4	4.8	0.6	58.0 以上	頁岩	98%	穿孔 2（両面から） 剥片から成形
377	図 28 図版 24	磨製石斧	3-1 F11b18	302 2・3 層	10.3	3.3	1.45	80.3	頁岩	100%	片刃 円礫から成形
378	図 28 図版 24	磨製石斧	3-3 F11d15	302 3 層	6.9	2.3	1.05	24.7	頁岩	100%	片側面取り 片刃 円礫から成形
379	図 28 図版 24	磨製石斧	3-1 F11b17	302 3 層	4.8	2.3	0.85	13.4	頁岩	90%	両側面取 刃部は片面を割り欠いたのち研ぎ出す片刃 円礫から成形
380	図 28 図版 24	磨製石斧	3-3 F11d19・ 20	302 2・3 層	5.9	2.7	0.7	13.8 以上	頁岩	98%	両側面取り 円礫を縦に半裁して刃部を研ぎ出す片刃 円礫から成形 斜めに半折（接合）
381	図 28 図版 24	磨製石斧	3-3 F11c18	302 2 層	4.2 以上	2.6	1.1	18.0 以上	頁岩	50%	刃部は両面から研ぎ出す両刃 円礫から成形 半切
382	図 28 図版 24	磨製石斧	3-1 F11c15	302 2 層	3.8 以上	2.65 以上	0.9	11.4 以上	頁岩	50%	刃部は片面を割り欠いたのち研ぎ出す片刃 円礫から成形 半折
383	図 28 図版 24	磨製石斧	3-3 F11d19	302 3 層	6.5 以上	3.1	1.1 以上	26.0 以上	頁岩	60%	刃部は片面を割り欠いたのち研ぎ出す片刃 円礫から成形 刃部側・基部側斜めに剥離欠損
384	図 28	磨製石斧	3-1 F11c17	302 3 層	6.8 以上	3.4 以上	0.6 以上	16.3 以上	頁岩	20%？	基部・刃部欠損 縦半裁 円礫から成形 側面に調整痕・削器として再利用か
385	図 28	磨製石斧	3-3 F11a19	302 3 層	5.7 以上	3.3 以上	0.8 以上	19.2 以上	頁岩	25%？	刃部の一部・基部欠損 半切・縦半裁 円礫から成形
386	図 28	磨製石斧	3-3 F11 b 19	302 3 層	2.9 以上	2.9 以上	0.7	5.1 以上	頁岩	20%？	刃部は片面を割り欠いたのち研ぎ出す片刃 円礫から成形 斜め半折
387	図 28	磨製石斧	3-3 F11d17	302 2 層	4.6 以上	3.0 以上	0.7 以上	8.0 以上	頁岩	20%	刃部は片面を割り欠いたのち研ぎ出す片刃か 円礫から成形 縦に半裁
388	図 28	磨製石斧	3-3 F11b19	302 3 層	4.7 以上	3.1 以上	0.7 以上	13.8 以上	頁岩	20%	円礫から成形 基部・刃部剥離欠損 縦半裁
389	図 28 図版 24	磨製石斧	3-3 F11d16	302 3 層	7.1 以上	2.8	1.3	38.8	頁岩	80%	片端を打ち欠いて刃部を成形 円礫から成形 刃部一部欠損・剥離
390	図 28 図版 24	磨製石斧	3-1 F11b17	302 3 層	6.8 以上	3.4 以上	1.1 以上	30.9 以上	頁岩	70%？	両側・基部側面取 刃部剥離欠損 破損後も再利用か
391	図 28 図版 24	磨製石斧	3-1 F11b17	302 3 層	5.2 以上	3.7	1.3	40.0 以上	頁岩	50%	中位～基部欠損 側面から衝撃で半折 刃部片減り 縦弁か 円礫から成形
392	図 28 図版 24	磨製石斧	3-1 F11c15	302 2 層	5.5 以上	4.1	1.2	40.1	頁岩	60%	中位～基部欠損 側面から衝撃で半折 刃部片減り 縦弁か 円礫から成形 擦痕
393	図 28 図版 24	磨製石斧	3-3 F11c16	302 3 層	6.5	4.1	1.5	42.1 以上	頁岩	？	基部・刃部欠損 楔形石器？
394	図 28 図版 24	磨製石斧	3-3 F11a22	302 3 層	4.8	4.5	0.6 以上	12.5 以上	頁岩	？	扁平 縦半裁・剥離
395	図 28 図版 24	磨製石斧	3-3 F11a19	302 1 層	6.6 以上	3.3	1.4	30.1 以上	頁岩	70%	刃部・基部欠損 剥離 両側一部面取 円礫から成形
396	図 28 図版 24	磨製石斧	3-1 F11b17	302 3 層	6.8 以上	3.2	1.2	34.2 以上	頁岩	80%	基部・刃部剥離欠損 円礫から成形
397	図 28 図版 24	打製石斧	3-3 F11c21	302 3 層	5.4 以上	3.7	1.3	25.6 以上	頁岩	50%	両極分割技法 半折 一部自然面
398	図 28 図版 24	磨製石斧	3-3 F11d21	302 3 層	9.5 以上	4.6	1.7	90.0	頁岩	80%	刃部剥離欠損
399	図 28 図版 24	磨製石斧？	3-3 F11c19	緑灰細砂 シルト	11.9	4.8	1.5	130.6	頁岩	100%	刃部を片方から調整 磨製石斧の未成品

石器一覧表（2）

報告書 番号	図 版 番号	器種	調査区	遺構 層位	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重さ g	石材	残存率	備 考
400	図 28 図版 24	一部磨製石 斧	3-3 F11e16	302 3層	7.5	5.3	1.7	73.5 以上	頁岩	95%	一部自然面 研磨痕顕著 基部側に使用痕顕著 刃部側に打撃痕 楔として利用？
401	図 28 図版 24	打製石斧	3-3 F11e14	302 3層	8.8	5.7	1.7	91.6	頁岩	100%	一部自然面 刃部付近両面に使用痕
402	図 28 図版 24	打製石斧	3-3 F11c17	302 2層	8.7	4.4	1.8	77.5	頁岩	100%	片面全体使用痕顕著
403	図 28 図版 24	打製石斧	3-3 F11c20	302 3層	8.3	5.3	1.1	56.5	頁岩	100% ?	刃部一部欠損？ 使用痕顕著
404	図 28 図版 24	打製石斧	3-3 F11d16	302 3層	8.4	5.2	2.1	91.4	頁岩	100% ?	刃部側に打撃痕 基部付近に使用痕 楔として利用？
405	図 28 図版 24	打製石斧	3-1	302 排土	9.3	4.6	1.3	59.7	頁岩	100% ?	刃部一部破損？ 刃部側片面使用痕顕著
406	図 28 図版 24	打製石斧	3-3 F11e16	302 3層	9.4	5.7	1.7	94.8	頁岩	100%	刃部側両面に使用痕
407	図 28 図版 24	打製石斧	3-3 F11a13	302 北側溝	8.0	5.5	1.4	57.6	頁岩	100%	刃部側両面に使用痕
408	図 28 図版 25	打製石斧	3-1 F11c16	302 2層	10.8	5.8	1.9	120.5	頁岩	100% ?	自然面
409	図 28 図版 25	打製石斧	3-3 F11d14	302 2層	10.6	4.4	2.2	119.4	頁岩	100%	片面自然面多い 基部付近折り 基部端潰れ痕 楔として利用？
410	図 28 図版 25	打製石斧	3-3 F11a20	302 1層	10.2 以上	8.2	2.2	186.2 以上	頁岩	40%	基部欠損 半折 割れ口やや斜め
411	図 28 図版 25	打製石斧	3-3 F11c20	302 3層	9.8	8.9	2.0	184.4	頁岩	50%	半折
412	図 28 図版 25	打製石斧	3-3 F11a20	302 2'層	7.6 以上	7.6	1.5	100.8	頁岩	50%	半折 刃部付近両面使用痕顕著
413	図 28	打製石斧	3-3	313	7.5 以上	6.7	1.0	70.2 以上	頁岩	50%	剥離半折 使用痕顕著
414	図 28 図版 25	打製石斧	3-3 F11c18	302 3層	9.5	6.7	2.1	161.9 以上	頁岩	50%	半折
415	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11c16	302 3層	27.0	11.3	3.6	1004.6	頁岩	100%	両面に使用痕 片面の使用痕が顕著で基部付近まで至る
416	図 29 図版 25	打製石斧	3-1 F11c16	302 2層	20.5	8.7	2.6	438.1	頁岩	100%	自然面 未使用
417	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11a20	302 3層	22.3	13.8	1.5	571.5	頁岩	100%	未使用
418	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11a20	302 2'層	11.5 以上	6.5 以上	1.9	159.1 以上	頁岩	50%	中位～刃部欠損 斜め半折 片面基部まで使用痕
419	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11a23	302 青色細砂	9.7 以上	7.8 以上	1.8	129.4 以上	頁岩	50%	中位～刃部欠損 半折
420	図 29 図版 25	打製石斧	3-1 F11c15	302 3層	10.7	7.0	1.7	112.0 以上	頁岩	90%	自然面 片面使用痕基部まで 刃部階段状剥離 楔として使用した可能性も
421	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11a20	302 3層	7.6 以上	5.4 以上	1.1	42.3 以上	頁岩	?	基部付近で折れる 斜めの面
422	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11a21	302 2層	7.2 以上	4.1 以上	1.5	41.3 以上	頁岩	?	基部付近で折れる 斜めの面
423	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11a22	302 3層	5.1 以上	3.9 以上	1.4 以上	25.7 以上	頁岩	?	基部付近で折れる 真直の面
424	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11d15	302 2層	5.7 以上	4.2 以上	1.3	40.3 以上	頁岩	?	基部付近で折れる 斜めの面
425	図 29 図版 25	打製石斧	3-1 F11b18	302 側溝	6.5 以上	4.7 以上	3.1 以上	104.0 以上	頁岩	?	基部付近で折れ 割れ口真直な面
426	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11a21	302 2'層	8.4	7.7	2.1	10.5 以上	頁岩	?	基部・刃部折れる 割れ口真直な面 楔の可能性も
427	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11a19	302 3層	7.1 以上	4.3	1.2	52.6 以上	頁岩	80%	刃部折 真直な面
428	図 29 図版 25	打製石斧	3-3 F11d14	302 2層	6.5 以上	5.6 以上	1.3	54.4 以上	頁岩	50%	刃部・基部欠損
429	図 29 図版 25	楔形石器	3-3 F11b21	302 3層	7.9	7.4	4.3	306.1	頁岩	100% ?	相対する 2 辺に潰れ痕顕著 2 辺裁断面 石核？
430	図 29 図版 25	楔形石器？	3-1 F11b18	302 4層	7.8	7.2	2.7	154.5	頁岩	?	台形状 2 辺に潰れ痕 1 辺裁断面 打製石斧？
431	図 29 図版 25	楔形石器	3-3 F11a19	302 3層	7.9	6.7	2.1	118.2	頁岩	100%	台形状 2 辺に階段状剥離
432	図 29 図版 25	楔形石器	3-3 F11a20	302 2'層	5.8	5.5	2.4	90.8	頁岩	100%	台形状 2 辺に階段状剥離・潰れ痕 1 辺裁断面 1 辺自然面
433	図 29 図版 25	楔形石器？	3-1 F11c16	302 3層	10.3	6.1	2.4	162.2	頁岩	100% ?	長方形 使用痕顕著 磨製石斧からの転用？
434	図 29 図版 25	楔形石器	3-3 F11c18	302 3層	9.1	6.1	1.8	128.7	頁岩	100%	長方形 3 辺に階段状剥離 1 辺刃部・磨減痕
435	図 29 図版 25	楔形石器	3-3 F11c18	302 3層	9.3	5.2	1.6	98.2	頁岩	100%	長方形 4 辺に階段状剥離・潰れ痕 磨減痕？
436	図 29 図版 25	楔形石器	3-3 E11y22	313 B-2層	6.8	5.2	2.0	100.1	頁岩	100% ?	長方形 3 辺に階段状剥離・潰れ痕 1 辺裁断面 磨減痕？
437	図 30 図版 25	楔形石器	3-3 F11a19	302 3層	9.3	6.3	1.5	101.8	頁岩	100%	長方形 3 辺に階段状剥離 打製石斧？
438	図 30 図版 25	楔形石器	3-3 F11b18	302 3層	7.3	6.1	1.4	89.9	頁岩	100%	長方形 3 辺に階段状剥離・潰れ痕 1 辺自然面
439	図 30 図版 25	楔形石器	3-3 F11a19	302 3層	6.3	6.0	1.7	87.7	頁岩	100%	長方形 4 辺に階段状剥離・潰れ痕 磨減痕？
440	図 30 図版 25	楔形石器	3-3 F11d16	302 3層	6.9	5.8	1.4	73.6	頁岩	100%	長方形 4 辺に階段状剥離・潰れ痕
441	図 30 図版 25	楔形石器	3-3 F11d16	302 3層	7.1	5.8	1.3	66.3	頁岩	100%	長方形 4 辺に階段状剥離・潰れ痕 磨減痕？
442	図 30 図版 25	楔形石器	3-3 F11d18	緑灰細砂 シルト	9.2	6.4	1.5	85.3	頁岩	100% ?	長方形 階段状剥離・潰れ痕 磨減痕？ 打製石斧基部？
443	図 30 図版 25	楔形石器	3-3 F11a20	302 3層	6.9	5.2	1.65	73.2	頁岩	100% ?	3 辺に階段状剥離・潰れ痕 1 辺裁断面 打製石斧刃部？
444	図 30 図版 25	楔形石器	3-3 F11a21	302 3層	7.3	5.8	1.7	71.4	頁岩	?	3 辺に階段状剥離 潰れ痕 磨減痕 打製石斧基部？

石器一覧表（3）

報告書 番号	図 版 番号	器種	調査区	遺構 層位	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重さ g	石材	残存率	備 考
445	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11b21	302 2層	6.3	6.1	1.4	51.5	頁岩	100%	台形 4 辺に階段状剥離
446	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11a22	302 3層	5.5	4.8	1.7	57.3	頁岩	100%	台形 相対する 2 辺に階段状剥離 1 辺潰れ 痕 1 辺裁断面
447	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11c19	302 3層	6.9	5.1	1.1	51.0	頁岩	100% ?	長方形 長辺の 2 辺に階段状剥離
448	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11c20	302 3層	6.5	5.2	1.2	57.4	頁岩	100%	長方形 4 辺に階段状剥離 自然面
449	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11a20	302 3層	8.0	5.6	1.2	61.8	頁岩	100%	長方形 長辺にの 2 辺に階段状剥離 1 辺自 然面 1 辺裁断面
450	図 30 図版 26	楔形石器	3-1 F11c16	302 3層	7.2	5.1	1.0	44.9	頁岩	100%	3 辺に階段状剥離 磨減痕
451	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11b18	302 3層	6.4	4.6	1.4	42.0	頁岩	100%	長辺の 2 辺に階段状剥離
452	図 30 図版 26	楔形石器	3-1 F11c16	302 3層	6.6	4.8	1.3	41.1	頁岩	100%	3 辺に階段状剥離
453	図 30 図版 26	楔形石器	3-1 F11c17	302 3層	6.5	4.7	1.3	42.7	頁岩	100%	2 辺に階段状剥離 1 辺裁断面
454	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11c21	302 3層	6.2	5.1	1.0	41.4	頁岩	100%	3 辺に階段状剥離 1 辺自然面
455	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11b22	302 3層	6.3	5.1	1.0	37.6	頁岩	100%	4 辺に階段状剥離
456	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11c15	302 2層	6.6	6.3	1.3	57.7	頁岩	100%	4 辺に階段状剥離
457	図 30 図版 26	楔形石器 ?	3-3 F11d19	302 3層	6.0	4.8	1.0	28.1	頁岩	100%	台形 4 辺に潰れ痕・調整痕 削器
458	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11d19	302 3層	6.7	6.2	0.9	42.5	頁岩	100%	台形 2 辺に階段状剥離・潰れ痕
459	図 30 図版 26	楔形石器 ?	3-3 F11d20	302 3層	6.2	5.9	0.9	45.7	頁岩	100%	3 辺に階段状剥離 1 辺調整痕 ? 磨減痕 削 器
460	図 30 図版 26	楔形石器	3-1 F11c16	302 3層	6.2	4.7	0.9	26.8	頁岩	100%	3 辺に階段状剥離
461	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11e15	302 3層	7.3	4.9	1.3	45.1	頁岩	100%	
462	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11d15	302 3層	8.9	4.8	1.0	47.6	頁岩	100%	4 周に階段状剥離
463	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11d16	302 3層	8.8	4.9	1.3	63.2	頁岩	100%	4 周に階段状剥離
464	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11c16	302 3層	6.4	4.6	0.8	26.1	頁岩	100%	3 辺に階段状剥離
465	図 30 図版 26	楔形石器	3-3 F11b18	302 3層	6.0	4.7	1.0	41.9	頁岩	100%	3 辺に階段状剥離 1 辺裁断面
466	図 30 図版 26	楔形石器 ?	3-3 F11b20	302 2層	6.9	4.6	0.8	31.8	頁岩	100%	長方形 4 辺に階段状剥離・調整痕
467	図 30 図版 26	削器・刃器	3-3 F11c16	302 3層	7.8	4.5	0.8	32.9	頁岩	100% ?	長方形 4 辺に調整痕
468	図 30 図版 26	削器・刃器	3-1 F11b17	302 3層	6.4	3.8	1.15	35.7	頁岩	100%	長方形 4 周に潰れ痕・調整痕
469	図 30	削器・刃器	3-3 F11d20	302 3層	5.8	4.7	1.5	48.8	頁岩	100%	長方形
470	図 30	削器・刃器	3-3 F11b18	302 3層	7.1	3.9	0.9	27.2	頁岩	100%	4 周に潰れ痕・調整痕
471	図 30	削器・刃器	3-3 F11b18	302 3層	5.0	4.6	0.8	23.9	頁岩	100%	方形 2 辺調整痕 1 辺階段状剥離 1 辺裁断 面
472	図 30 図版 26	削器・刃器	3-3 F11b20	302 3層	8.3	4.1	0.8	28.1	サヌカイト	100%	長方形 1 辺潰れ痕・調整痕
473	図 30 図版 26	削器・刃器	3-3 F11b19	302 3層	9.4	4.3	0.9	30.8	頁岩	100%	長方形 長辺の 1 辺刃部・1 辺階段状剥離・ 潰れ痕
474	図 30 図版 26	削器・刃器	3-1 F11b17	302 2層	11.5	4.5	0.9	59.3	頁岩	100%	長方形 長辺の 1 辺刃部・1 辺階段状剥離・ 潰れ痕 磨減痕
475	図 30 図版 26	削器・刃器	3-3 F11e14	302 3層	9.4	4.8	0.5	25.6	頁岩	100%	長方形 4 周に潰れ痕・調整痕調整痕
476	図 30 図版 26	削器・刃器	3-3 F11d14	302 3層	7.9	3.8	0.6	17.7	頁岩	100%	
477	図 30 図版 26	削器・刃器	3-1 F11c15	302 1層	7.9	4.1	0.7	24.0	頁岩	100%	
478	図 30 図版 26	削器・刃器	3-1 F11b17	302 3層	8.2	3.9	0.6	18.0	頁岩	100%	磨減痕 擦痕
479	図 30 図版 26	削器・刃器	3-1 F11c17	302 2層	8.75	3.4	0.7	22.8	頁岩	100%	長辺の両側に調整痕
480	図 30	削器・刃器	3-3 F11c19	302 2層	9.8	3.4	0.95	31.5	頁岩	100%	4 周に調整痕 磨減痕
481	図 30	削器・刃器	3-3 F11a20	302 3層	8.2	3.6	0.7	16.9	頁岩	100%	長辺の両側に調整痕
482	図 30	削器・刃器	3-1 F11c16	302 3層	6.9	3.4	0.6	14.9	頁岩	100%	台形 長辺に刃部 対辺に階段状剥離
483	図 30	削器・刃器	3-3 F11d19	302 3層	7.1	3.3	0.8	18.4	頁岩	100%	台形 長辺に刃部 対辺に階段状剥離
484	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11b19	302 3層	6.1 以上	5.0	0.6	16.0 以上	頁岩	50% ?	打製石包丁片 ?
485	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11b17	302 3層	6.4 以上	4.5	0.9	25.4 以上	頁岩	50% ?	打製石包丁片 ?
486	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11b18	302 3層	6.0 以上	4.0	0.7	22.1 以上	頁岩	50% ?	打製石包丁片 ?
487	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11a20	302 3層	6.6	3.8	0.6	17.0	頁岩	100% ?	
488	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11b19	302 2層	5.4	4.2	0.6	11.5	頁岩	100% ?	
489	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11d14	302 3層	5.1	4.2	0.8	12.3	頁岩	100%	

石器一覧表（４）

報告書 番号	図 版 番号	器種	調査区	遺構 層位	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重さ g	石材	残存率	備 考
490	図 31	削器・刃器	3-3 F11d21	302 3層	6.5	2.9	0.8	20.8	頁岩	100%	長方形 短辺両側に刃部？
491	図 31	削器・刃器	3-3 F11a20	302 1層	5.7	3.7	1.0	22.5	頁岩	100%？	
492	図 31 図版 26	削器・刃器	3-1 F11c16	302 3層	5.6	3.2	0.5	10.8	頁岩	100%	
493	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11a22	302 3層	5.9	3.8	0.9	19.0	頁岩	100%	
494	図 31 図版 26	削器・刃器	3-1 F11b17	302 3層	4.3	3.7	0.7	14.1	頁岩	100%	
495	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11c18	302 3層	5.4	3.8	0.8	22.1	頁岩	100%	磨滅痕
496	図 31 図版 26	削器・刃器	3-1 F11d18	302 3層	5.1 以上	4.9	1.1	30.7	頁岩	50%？	
497	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11c19	302 3層	5.9	5.3	1.0	30.5	頁岩	100	
498	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11c19	302 3層	5.1	4.6	0.9	20.5	頁岩	100%	
499	図 31 図版 26	削器・刃器	3-1 F11c16	302 3層	4.6 以上	4.4	0.9	15.1	頁岩	？	
500	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11a20	302 3層	4.4 以上	3.8	0.85	18.3 以上	頁岩	50%？	円礫を半裁して刃部・測辺を調整 磨滅痕 加工弁？
501	図 31 図版 26	削器・刃器	3-1 F11b17	302 3層	5.9	3.3	0.9	21.1	サヌカイト	100%？	
502	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11d14	302 2層	5.4	3.6	0.7	15.7	頁岩	100%	磨滅痕 擦痕
503	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11b19	302 3層	5.0	3.4	0.9	20.6	頁岩	100%	擦痕
504	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11c20	302 3層	7.0	3.3	1.0	26.2	頁岩	100%	
505	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11a19	302 3層	7.1	3.4	0.9	24.1	頁岩	100%	
506	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11d19	302 3層	5.3	2.5	1.2	19.5	頁岩	100%	
507	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11c18	302 1層	4.1	3.1	0.8	11.8	頁岩	100%	
508	図 31	削器・刃器	3-3 F11c16	302 3層	4.3	2.4	0.45	6.3	頁岩	100%？	
509	図 31	削器・刃器	3-3 F11a20	302 3層	3.8	2.9	0.4	6.1	頁岩	100%	
510	図 31	削器・刃器	3-3 F11c16	302 3層	4.2	2.8	1.0	10.7	頁岩	100%	
511	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11c18	302 3層	5.4	2.3	0.65	9.2	頁岩	100%	長方形 4周を丁寧調整 小刀
512	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11e15	302 3層	5.9	2.1	0.4	6.6	頁岩	100%	長方形 4周を丁寧調整 小刀
513	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11a19	302 3層	7.5	2.6	0.55	14.0	頁岩	100%	長方形 4周を丁寧調整 小刀
514	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11e13	302 3層	11.5	11.1 以上？	1.4	158.6 以上	頁岩	70%？	打製石斧？ 側辺に調整痕 片面自然面
515	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11c14	302 3層	12.0	5.4	1.0	69.1	頁岩	100%	長辺の両側に刃部 片面自然面
516	図 31 図版 26	削器・刃器	3-3 F11d15	302 2層	10.1	6.4	1.3	71.1	頁岩	100%	自然面
517	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11d16	302 3層	11.7	6.9	1.2	83.0	頁岩	100%	自然面
518	図 31 図版 27	削器・刃器	3-1 F11b18	302 2層	8.6	6.1	0.8	46.9	頁岩	100%	自然面
519	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11b19	302 3層	8.4	5.2	0.7	33.3	頁岩	100%	自然面
520	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11b19	302 3層	8.3	7.5	1.1	77.9	頁岩	100%	自然面
521	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 E11y25	B-313 3層	7.0	5.3	1.6	49.3	頁岩	100%	自然面
522	図 31 図版 27	削器・刃器	3-1 F11b17	302 サブトレ	8.5	5.0	0.9	35.6	頁岩	100%	自然面
523	図 31 図版 27	削器・刃器	3-1 E11y19		11.5	7.2	0.9	76.3	サヌカイト	100%	
524	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11q22	302 3層	9.5	6.4 以上	0.7	53.1 以上	頁岩	60%？	
525	図 31 図版 27	削器・刃器	3-1 F11c16	302 3層	7.6	5.9	0.6	30.7	頁岩	100%	
526	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11a20	302 3層	7.9	5.8	1.1	48.3	頁岩	100%？	
527	図 31 図版 27	削器・刃器	3-1 F11c15	302 2層	8.4	5.4	0.8	32.4	頁岩	100%	
528	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11a22	302 3層	8.2	6.1	0.8	34.8	頁岩	100%？	擦痕
529	図 31 図版 27	削器・刃器	3-1 E11w15	灰色粘土	8.6	7.0	0.7	53.9	頁岩	100%	
530	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11c16	302 3層	7.0	5.2	0.7	35.5	頁岩	100%	
531	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11b21	302 3層	9.2	7.4	0.9	69.1	頁岩	100%	
532	図 31 図版 27	削器・刃器	3-1 F11b17	302 3層	10.1	6.5	1.1	76.9	頁岩	100%	
533	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11a22	302 3層	7.8	5.6	1.0	34.3	頁岩	100%	
534	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11d17	302 2層	6.3	5.6	0.7	20.8	頁岩	100%	

石器一覧表（5）

報告書 番号	図 版 番号	器種	調査区	遺構 層位	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重さ g	石材	残存率	備 考
535	図 31 図版 27	削器・刃器	3-3 F11a19	302 3層	6.5	5.4	0.8	26.6	頁岩	100%	
536	図 31	削器・刃器	3-1 F11b17	302 サブトレ	5.9	4.9	0.6	23.5	頁岩	100% ?	両極剥片から成形 ?
537	図 31 図版 27	石匙	3-3 F11a20	302 2層	7.7	4.4	0.8	25.7	頁岩	100%	長軸方向片側に摘み 長辺両側に刃部
538	図 31 図版 27	石匙	3-3 F11a20	302 2層	8.1	4.4	0.9	36.8	頁岩	100%	長軸方向片側に摘み 長辺・短辺の片側に刃部 自然面
539	図 31 図版 27	石匙 ?	3-1 F11b18	302 3層	5.5	2.2	0.4	6.3	頁岩	100%	長軸方向片側に摘み 刃部が内湾するように決れる
540	図 32 図版 27	石核	3-1 F11b17	302 3層	10.3	9.3	3.5	377.7	頁岩	100%	直接打法で剥片を剥離
541	図 32 図版 27	石核	3-3 F11b23	302 3層	6.3	5.4	2.8	113.2	頁岩	100%	直接打法で剥片を剥離 削器にも利用か
542	図 32 図版 27	石核	3-3 F11c16	302 3層	8.1	7.0	2.4	146.1	頁岩	100%	直接打法で剥片を剥離
543	図 32 図版 27	石核	3-3 F11c18	302 3層	9.5	7.9	3.3	213.2	頁岩	100%	直接打法で剥片を剥離 ?
544	図 32	両極剥片	3-3 F11f14	302 3層	6.8 以上	4.0	1.4	54.3	頁岩	100%	磨製石斧未成品 ?
545	図 32	石核	3-3 F11b20	302 3層	10.4	8.2	2.6	293.5	頁岩	100%	両極打法 + 直接打法 片面自然面・敲打痕残る
546	図 33 図版 27	敲石	3-3 F11c22	302 3層	6.7	6.5	6.5	418.58	頁岩	100% ?	細かい敲打痕 ハンマー
547	図 33 図版 27	石錘	3-1 F11a19	302 1層	8.1	7.0	5.7	444.5	砂岩	100%	有溝石錘
548	図 33 図版 27	敲石	3-3 F11d15	302 3層	10.0	9.4	4.3	535.3	砂岩	100% ?	両面中央付近敲打痕 周縁全体敲打による欠け ?
549	図 33 図版 27	敲石	3-3 F11b18	302 3層	10.2	8.5	5.4	577.4	砂岩	100%	両面中央付近敲打により円く凹む 周縁の一部に敲打痕 被熱 ?
550	図 33 図版 27	敲石	3-1 F11c16	302 3層	14.6	11.5	5.0	1302.6 以上	砂岩	98%	両面中央付近敲打により凹む 周縁に敲打痕 破損後も使用か
551	図 33 図版 27	敲石	3-3 F11c19	302 3層	15.8	10.7	4.7	1256.0	砂岩	100%	両面中央付近敲打により凹む 周縁の一部に敲打痕
552	図 33 図版 27	敲石	3-3 F11b18	302 3層	11.5	9.8	4.2	692.6	砂岩	100%	両面中央付近敲打により凹む 周縁に強い敲打痕
553	図 33 図版 27	敲石	3-1 F11c17	302 3層	12.9	10.8	4.4	876.6	砂岩	100%	両面中央付近敲打により円く凹む 周縁に敲打痕
554	図 33 図版 27	敲石	3-3 F11a19	302 3層	17.5	11.6	6.1	1785.6	砂岩	100%	片面中央敲打により円く凹む 片面全体的に敲打痕 周縁の一部に敲打痕
555	図 33 図版 27	敲石	3-1 F11b18	302 3層	16.5	11.0	6.6	1722.4	砂岩	100%	両面中央付近に敲打痕 周縁の一部に敲打痕
556	図 33 図版 27	敲石	3-3 F11b18	302 3層	14.8	12.4	5.5	1454.9	砂岩	100%	片面中央敲打により円く凹む 片面中央付近に敲打痕 周縁の一部に敲打痕
557	図 33 図版 27	敲石	3-3 F11b18	302 3層	13.1	10.5	4.7	992.8	砂岩	100%	両面全体的に敲打痕 周縁の一部に敲打痕
558	図 33 図版 27	敲石	3-3 F11c18	302 3層	15.5	10.8	5.0	1379.3	砂岩	100%	両面中央付近敲打により円く凹む・磨面 周縁に敲打痕
559	図 33 図版 27	敲石	3-3 F11b18	302 3層	15.1	10.0	5.0	1121.1	砂岩	100%	片面敲打痕・打裂痕 片面中央付近敲打痕 周縁敲打痕・磨面 ?
560	図 33 図版 27	敲石	3-1 F11b17	302 3層	14.3	11.7	4.8	1302.6	砂岩	100%	両面全体が敲打により凹む 周縁に敲打痕
561	図 33	敲石	3-3 F11b19	302 3層	13.5	10.7	5.2	1086.7	砂岩	100%	両面中央付近敲打により円く凹む 周縁の一部に敲打痕
562	図 33	敲石	3-1 F11c16	302 3層	15.3	11.6	4.7	1327.0	砂岩	100%	両面・周縁の敲打痕
563	図 33	敲石	3-3 F11e15	302 3層	15.0	12.9	6.1	1683.1	砂岩	100%	両面強い敲打による線状の打裂痕 周縁の一部敲打痕
564	図 34 図版 28	敲石	3-3 F11b18	302 3層	12.5	12.3	6.5	1270.6 以上	砂岩	80%	片面中央部が敲打により凹む 片面広い範囲に強い敲打
565	図 34 図版 28	敲石	3-3 F11c19	302 3層	14.9	11.0	5.1	1233.8	砂岩	100%	両面全体に敲打痕 周縁に敲打痕
566	図 34 図版 28	敲石	3-3 F11a20	302 3層	14.5	10.3	5.0	1090.2	砂岩	100%	片面線状の打裂痕 片面は全体が凹む 周縁敲打痕
567	図 34	敲石	3-3 F11d17	302 3層	15.7	10.7	5.9	1412.7	砂岩	100%	両面全体に敲打痕 ほぼ周縁全体に敲打痕
568	図 34 図版 28	敲石	3-3 F11d17	302 3層	19.3	15.0	9.2	3160.0	砂岩	100%	両面強い敲打により深く凹む 周縁に粗い磨面 ?
569	図 34 図版 28	敲石	3-3 F11a20	302 3層	19.9	11.4	6.8	2320.0	砂岩	100%	両面全体に敲打痕 周縁の一部に敲打痕
570	図 34 図版 28	敲石	3-3 E11y23	B-313 3層	22.6	9.0	5.9	1789.7	砂岩	100%	片面に敲打痕・磨面 片面 2 箇所に集中して敲打痕 周縁敲打痕顕著
571	図 34	台石	3-3 F11b18	302 3層	27.8	24.4	6.1	6080.0	砂岩	?	両面敲打・磨面
572	図 34	台石	3-3 F11b21	313 上層	19.5	15.1	5.3	2740.0	砂岩	?	片面敲打等により深く凹む
573	図 34 図版 28	台石	3-3 F11b21	302 3層	37.3	27.1 以上	7.0	7080.0	砂岩	?	片面敲打痕・磨面 片面敲打痕 ? 側面線状のキズ
574	図 34	台石	3-3 F11b20	302 3層	31.8	26.5	9.5	11300.0	砂岩	?	片面敲打痕・磨面 片面敲打痕 ?
575	図 35 図版 28	台石	3-3 F11y24	B-313 2層	34.4	16.5	7.9	8820.0	砂岩	?	片面敲打痕・打裂痕 片面磨面
576	図 35	台石	3-3 F11d18	302 3層	23.7 以上	19.1	10.2	6500.0	砂岩	80% ?	表裏に敲打痕
577	図 35	台石	3-3 F11d15	302 3層	42.8	16.6	13.3	15060.0	砂岩	100%	1 面は磨面 他の 3 面も使用か ?
578	図 35	台石	3-1 F11c16	302 3層	34.5	24.9 以上	11.1	11040.0	砂岩	80% ?	表裏中央付近に敲打痕
579	図 35 図版 28	石棒	3-3 F11b18	302 3層	24.6 以上	5.6	5.1	1423.5 以上	結晶片岩	?	基部側欠損 頭部は丁寧につくり出され、先端に向かって段をなして窄まる 頭部付近の断面は扁平

石器一覧表（6）

報告書 番号	図 版 番号	器種	調査区	遺構 層位	最大長 cm	最大幅 cm	最大厚 cm	重さ g	石材	残存率	備 考
580	図 35 図版 28	石棒	3-3 F11a20	302 3層	12.6 以上	7.6	4.7	585.4 以上	結晶片岩	?	両側欠損 被熱痕
581	図 35 図版 28	石棒	3-1 F11c15	302 3層	21.1 以上	4.5	2.0 以上	322.8 以上	結晶片岩	?	頭部欠損 基部側縦に半裁
582	図 35 図版 28	石棒	3-3 F11	302 3層ほか	35.2 以上	7.2	6.2	2500.0 以上	結晶片岩	?	頭部欠損 細かく輪切り状に分断 被熱痕
583	図 35 図版 28	石棒	3-3 F11b22	302 2層	23.5 以上	3.1	2.2	306.9 以上	結晶片岩	?	両端欠損 両端近く？に線刻を巡らす 表裏に敲打痕
584	図 36 図版 28	石鏃	4-1 E11t15	側溝	3.5 以上	2.1 以上	0.5	4.2 以上	頁岩	80% ?	基部欠損
585	図 36 図版 28	磨製石斧？	4-1 E11s15		5.4 以上	3.1	0.9	20.2 以上	頁岩	?	基部側欠 刃部に潰れ痕 円礫に打製で刃部を成形して使用した可能性も
586	図 36 図版 28	打製石斧	4-1 E11r17		6.6 以上	7.1	0.9	51.4 以上	頁岩	50% ?	基部側欠 中位で剥離するように欠け 自然面残る
587	図 36	楔形石器	4-1 E11r14		8.5	5.0	1.3	67.9	頁岩	100%	3辺に階段状剥離・潰れ痕 打製石斧？
588	図 36	削器？	4-3 D12w14	西側溝	6.9 以上	5.0 以上	1.3	55.5 以上	頁岩	?	破損した側辺以外は調整痕あり 打製石斧？
589	図 36 図版 28	削器	4-1 E11s15		5.6	5.5	0.7	27.5	頁岩	100%	片側自然面 2辺を刃部として使用
590	図 36 図版 28	削器・刃器	4-1 E11n19		9.8	3.6	0.7	24.6	頁岩	100%	刃部の対辺は階段状剥離 使用痕（擦痕・磨滅痕）あり
591	図 36 図版 28	砥石	4-1 E11o6		5.6 以上	3.9	3.9	176.4 以上	砂岩	?	4面使用
592	図 36 図版 28	石鏃	5-1 E11t16	5・6層	3.0 以上	2.3	0.4	2.4 以上	サスカイト？	60% ?	先端部欠損 凸基式有茎
593	図 36	不明石製品	5-1 E11t17	5・6層	3.6	2.8	0.5	4.1	頁岩	100%	石鏃？
594	図 36	不明石製品	5-1 E11s17	5・6層	4.3	3.1	0.5	9.2	頁岩	100%	
595	図 36 図版 28	石包丁	5-1 E11y19	第6層	14.7	5.3	1.25	121.1	頁岩	100%	穿孔1 自然面多い 未成品？
596	図 36 図版 28	楔形石器	5-1 E11t19	6層	7.6	4.9	1.8	71.6	頁岩	100%	長方形 長辺に階段状剥離・潰れ痕
597	図 36	削器	5-1 E11u19	6層	4.3	2.9	0.65	7.9	頁岩	100% ?	
598	図 36 図版 28	楔形石器	5-1 E11s17	6層	7.6	6.4	1.9	80.0	頁岩	100%	台形 4辺に階段状剥離辺 擦痕あり
599	図 36 図版 28	砥石	5-2 E12h12	4層	17.6 以上	6.6	5.6	724.3 以上	砂岩	?	4面使用 線状のキズあり
600	図 36 図版 28	砥石	5-2 E12f11	4層	15.9	9.2	4.7	901.8 以上	砂岩	?	4面使用 敲打痕・線状のキズあり

木製品一覧表（1）

報告書No	登録番号	種類	器種	製品段階	樹種同定番号	樹種	木取り	観察所見	調査区	地区	遺構	層位	長さ	幅	高さ	厚さ
604	w62	工具	斧膝柄		WKY62	サカキ	芯持丸木（分枝部）	装着部破損。	3-3	F11 f14	302	3層	40.4	11.9以上		3.8
605	w136	工具	斧直柄		WKY136	モチノキ属	割材削出	頭部表面と軸端部が欠ける。	3-3	F11 d17	302	3層	48.9以上	7.1		10.1
606	w85	工具	斧直柄		WKY85	イチイガシ?	みかん割り削出	放射径残存径 6.5cm。柄部欠損。	3-3	F11 d16	302	3層	29.0以上	7.5		10.0
607	w86	工具	斧直柄		WKY86	アカガシ亜属	みかん割り削出	放射径残存径 6.5cm 復原径 8.5cm。柄部欠損。	3-3	F11 c18	302	3層	36.0以上	6.2		7.0
608	w544	工具	斧直柄		WKY385	モチノキ属	半割	頭部のみ破片。	3-1	F11 c17	302	3層	7.0以上	4.7以上		6.8以上
609	w182	工具	模状木製品		WKY182	マキ属	半割	使用痕なし。	3-3	F11 c18	302	3層	35.3	8.3		4.4以下
610	w16	農具	平鍬（曲柄平鍬身）		WKY16	イスノキ	板目	小型。軸頭あり。	3-3	F11 a21	302	3層	34.7	8.0		2.4
611	w1	農具	平鍬（曲柄平鍬身）		WKY1	イスノキ	板目	中型か。柄に緊縛用の軸頭あり。刃部欠損あり。	3-3	F11 c16	302	3層	36.7	9.3		2.9
612	w4	農具	平鍬（曲柄平鍬身）		WKY4	イスノキ	板目	中型。軸頭あり。刃部 50%欠損。	3-3	F11 c17	302	3層	39以上	10以上		2.4
613	w15	農具	平鍬（曲柄平鍬身）		WKY15	イスノキ	板目	中型。軸頭あり。刃部破損。刃縁使用痕顕著。	3-3	F11 c18	302	3層	44.0	10.0		1.5
614	w12	農具	平鍬（曲柄平鍬身）		WKY12	イスノキ	板目	中型。軸頭あり。仕上げ丁寧。	3-1	F11 c16	302	3層	44.4	10.6		1.9
615	w13	農具	平鍬（曲柄平鍬身）		WKY13	イスノキ	板目	中型。軸頭、軸中央に筋あり。前面粗割状態に近い。	3-3	F11 b20	302	3層	44.6	9.8		2.8
616	w8	農具	平鍬（曲柄平鍬身）		WKY8	イスノキ	板目	中型、羽子板形。軸頭あり。刃縁へ幅広くなる。	3-3	F11 a20	302	3層	44.1	9.1		1.6
617	w6	農具	平鍬（曲柄平鍬身）		WKY6	イスノキ	板目	中型か。軸頭あり。刃部割れ、短く、使用痕顕著。	3-3	F11 b20	302	3層	39.8	9.4		1.8
618	w305	農具	平鍬（曲柄平鍬身）		WKY215	イスノキ	板目	中型か。軸部欠損。使用痕顕著。	3-1	F11 c17	302	3層	19.8以上	10.2		2.8
619	w14	農具	平鍬（曲柄狭鍬身?）		WKY14	イスノキ	板目	小型、細長形。軸頭なし。やや腐食。刃縁使用痕顕著。	3-3	F11 c14	302	3層	36.5	7.8		2.3
620	w105	農具	平鍬（曲柄狭鍬身?）		WKY105	イスノキ	板目	中型、細長形。軸部・刃部に欠損あり。	3-3	F11	302	3層	41.9	8.3		2.5
621	w563	農具	平鍬（曲柄狭鍬身?）		WKY403	イスノキ	板目	中型。細長形。先端使用痕顕著。軸部欠損。	3-3	F11 b18	302	3層	29.8以上	6.6		2.3
622	w17	農具	平鍬（曲柄狭鍬身?）		WKY17	イスノキ	板目	中型、細長形。前面腐食。軸部薄く、装着面不平坦。	3-1	F11 b17	302	3層	45.9	6.2		2.0
623	w7	農具	平鍬（曲柄狭鍬身?）		WKY7	イスノキ	板目	大型か、細長形。軸部欠損。後面に筋あり。前面粗割り状態。	3-3	F11 c16	302	3層	44.0	8.5		2.2
624	w3	農具	平鍬（曲柄狭鍬身?）		WKY93	イスノキ	板目	大型、細長形。軸頭なし。加工痕顕著。	3-3	F11 c16	302	3層	60.5	7.5		3.0
625	w10	農具	平鍬（曲柄狭鍬身?）		WKY10	イスノキ	板目	中型、羽子板細長形。樹皮残る。軸頭なく、細い。	3-1	F11 c16	302	3層	48.6	8.6		2.2
626	w41	農具	平鍬?（鋤身?）		WKY41	イスノキ	板目	中型。形状いびつ。軸頭削り落す。加工痕顕著。	3-3	F11 e16	302	3層	35.2	8.9	3.4	2.5
627	w9	農具	平鍬?（鋤身?）		WKY9	イスノキ	板目	中型。形状いびつ。軸部曲り、欠損。両面加工痕顕著。	3-1	F11 c16	302	3層	35.6	8.2	3.8	1.8
628	w18	農具	平鍬?（鋤身?）		WKY18	イスノキ	板目	中型。形状いびつ。軸部曲り、欠損。前面粗割り状態。	3-3	F11 c20	302	3層	41.8	11.3	3.4	2.6
629	w3	農具	平鍬（曲柄狭鍬身?）	残材	WKY3	イスノキ	板目	中型。樹皮部分。強度なし。軸頭なし。刃部欠損あり。	3-1	F11 c16	302	3層	44.4	9.5		1.9
630	w21	農具	平鍬?（鋤身?）	残材	WKY21	イスノキ	板目	小型、薄形。強度なし。後面腐食。刃部に瘤あり。	3-3	F11 a26	302	3層	34.3	8.8	3.0	0.8
631	w5	農具	平鍬（曲柄平鍬身?）		WKY5	イスノキ	板目	大型。軸部幅広、軸頭なし。	3-1	F11 b18	302	3層	50.1	10.8		1.7
632	w11	農具	平鍬（曲柄平鍬身?）		WKY11	イスノキ	板目	大型。軸部幅広。前面粗割り後、刃縁のみ加工。	3-3	F11 b19	302	3層	53.3	10.5		3.4
633	w22	農具	平鍬（曲柄平鍬身?）		WKY22	イスノキ	板目	大型。軸部短い。後面粗割り後、縁のみ加工。	3-3	F11 b18	302	3層	55.9	13.0		2.8
634	w302	農具	平鍬（曲柄平鍬身?）	未成品	WKY214	イスノキ	板目	大型。軸部幅広。粗割り状態。厚手。	3-1	F11 b18	側溝		52.1	15.0		4.5
635	w2	農具	平鍬（曲柄平鍬身?）	未成品?	WKY2	イスノキ	板目	中型。軸頭あり。装着面不平坦。肩なし。	3-3	F11 c19	302	3層	44.0	9.0		2.9
636	w19	農具	平鍬（曲柄平鍬身?）	未成品	WKY19	イスノキ	板目	小型。軸頭なし。装着面不平坦。肩なし。	3-1	F11 b17	302	3層	39.1	8.0		2.6
637	w159	農具	平鍬（曲柄平鍬身?）	未成品	WKY159	イスノキ	板目	大型。背面に筋 4本あり。原材より若干薄くなる。	3-3	F11 d13	302	3層	87.9	13.6		2.2
638	w79	農具	平鍬（曲柄平鍬身?）	原材	WKY79	イスノキ	板目	中型の原材。刃材で筋あり。前面・側面粗割り段階。	3-3	F11 d15	302	3層	59.2	10.7		2.6
639	w104	農具	平鍬（曲柄平鍬身?）	原材	WKY104	イスノキ	板目	中型の原材。切断しかけの痕跡あり。刃材の板材。	3-3	F11 d16	302	3層	53.4	10.3		2.6
640	w78	農具	平鍬（曲柄平鍬身?）	原材	WKY78	イスノキ	板目	中型の原材。刃材の板材、分枝部残る。	3-3	F11 d15	302	3層	50.4	12.5		3.8~6.3
641	w130	農具	広鍬（直柄平鍬身）		WKY130	イチイガシ	柁目	放射径残存径 12,3cm 製品復元径 19,5cm。薄手。	3-3	F11 c18	302	3層	34.8	12.8以上	2.9以上	0.8
642	w126	農具	広鍬（直柄平鍬身）		WKY126	イチイガシ	柁目	放射径 19,2cm。薄手。	3-3	F11 e14	302	3層	11.5以上	19.2	3.9以上	0.7
643	w135	農具	広鍬（直柄平鍬身）		WKY135	イチイガシ?	柁目	放射径 9,2cm。薄手の破片。	3-3	F11	302	3層	32.6	9.3以上		0.9
644	w127	農具	広鍬（直柄平鍬身）		WKY127	イチイガシ	柁目	舟形突起部分の破片。	3-3	F11 e14	302	3層	11.1以上	6.5以上	3.1以上	
645	w69	農具	広鍬（直柄平鍬身）		WKY69	イチイガシ	板目	板目材の広鍬。舟形突起やや短い。やや厚手。	3-3	F11 c19	302	3層	13.6以上	8.7以上	3.8	1.9
646	w89	農具	広鍬（直柄平鍬身）	未成品	WKY89	イチイガシ?	板目	板目取りの鍬の製作途中品。	3-3	F11 d14	302	3層	39.9	20.5	6.1	2.1
647	w183	農具	広鍬（直柄平鍬身）	未成品	WKY183	イチイガシ	板目	樹皮付きの広鍬未成品。加工痕明瞭。	3-1	f11 c16	302	3層	61.0	30.3	12.1	7.2
648	w178	農具	広鍬（直柄平鍬身）	原材	WKY178	アカガシ亜属	板目	樹皮付の板目材。放射径 9,7cm。	3-3	F11 c19	302	3層	43.0	25.7		10.6
649	w88	農具	泥除		WKY88	クスノキ	板目	補修孔あり。	3-3	F11 c18	302	3層	21.0以上	32.0	3.8	1.0
650	w87	農具	泥除		WKY87	クスノキ	板目	補修孔あり。装着痕あり。	3-3	F11 d17	302	3層	28.4以上	37.0	7.9	0.9
651	w201	農具	泥除		WKY185	クスノキ	板目	補修孔あり。容器の可能性あり。	3-1	F11 c16	302	3層	29.0以上	11.0以上		1.0
652	w129	農具	泥除?	未成品?	WKY129	クスノキ	板目	横鍬・有孔板材の可能性あり。	3-3	F11 f14	302	3層	28.6	18.0以上		3.7
653	w132	農具	刈払具		WKY132	アカガシ亜属	半割削出	放射径 5cm。先端欠失。	3-3	F11 c17	302	3層	107.4以上	9.5	4.6	1.6
654	w94	農具	刈払具		WKY94	アカガシ亜属	板目	刈払具の先端部破片。	3-3	F11 c17	302	3層	21.3以上	6.0	2.7	1.3
655	w70	農具	棒状材（刈払具?）	原材?	WKY70	ユズリハ属	芯持丸木	樹皮付。刈払具の材と推定。	41336	F11 c19	302	3層	83.2	7.3	6.4	
656	w124	農具	棒状材（柄?）		WKY124	クワ属	芯無削出	一端は臍状、一端は丸める。	3-3	F11 d16	302	3層	81.3	φ 2.0~2.8		
657	w49	農具	竪杵		WKY49	ツバキ属	芯持削出	節帯をもつ。	3-3	F11 c22	302	3層	31.5以上	φ 6.4		
658	w146	農具	竪杵		WKY146	ツバキ属	芯持丸木	現状では断面楕円形。	3-3	F11 e19	302	3層	61.3以上	φ 6.5~9.7		
659	w45	紡織具	布送具		WKY358	サカキ	柁目	凸状の（経巻具）布送具。線刻あり。	3-3	F11 c18	302	3層	39.7以上	6.0以上		1.3
660	w133	狩猟具	弓		WKY133	イヌガヤ	割材削出	樹皮巻き、漆塗り。弓弭・棒槌状の加工あり。	3-3	F11 b19	302	3層	125.1	φ 2.6		
661	w53	狩猟具	弓		WKY53	イヌガヤ	芯持削出	針葉樹樹皮製の紐を巻き、黒漆で固着する。	3-3	F11 d14	302	3層	26.6以上	φ 1.9~2.3		
662	w52	狩猟具	弓		WKY52	イヌガヤ	芯持削出	針葉樹樹皮製の紐を巻き、黒漆で固着する。	3-3	F11 b19	302	3層	20.7以上	φ 1.6~2.1		
663	w95	狩猟具	弓		WKY95	イヌガヤ	芯持丸木	針葉樹樹皮製の紐を巻き、黒漆で固着する。	3-3	F11 d19	302	3層	30.6以上	φ 1.8		
664	w56	狩猟具	弓		WKY56	イヌガヤ	芯持削出	漆塗り。樹皮巻き痕、弓弭・棒槌状の加工あり。	3-3	F11 e15	302	3層	45.8以上	φ 2.4		
665	w55	狩猟具	弓		WKY55	イヌガヤ	芯持削出	樹皮巻き、漆塗り。弓弭・棒槌状の加工あり。	3-3	F11 c16	302	3層	31.5以上	φ 2.5		
666	w50	狩猟具	弓		WKY50	イヌガヤ	芯持削出	弓材の樹皮残存。弓弭・棒槌状の加工あり。	3-3	F11 b19	302	3層	57.6以上	φ 2.2		
667	w81	狩猟具	弓		WKY81	イヌガヤ	芯持削出	弓弭状の加工あり。	3-3	F11 d16	302	3層	37.5以上	φ 1.5		
668	w54	食事具	縦杓子柄?		WKY54	マキ属	板目	樹皮残存。縦杓子の柄か。頭部線刻で装飾。	3-3	F11 b20	302	3層	28.4以上	4.2以上		1.5
669	w68	食事具	縦杓子柄?		WKY68	マキ属	板目	668と同様の製品。頭部線刻なし。やや細長い。	3-3	F11 c19	302	3層	32.2以上	2.4以上		1.8

木製品一覧表（2）

報告書No	登録番号	種類	器種	製品段階	樹種同定番号	樹種	木取り	観察所見	調査区	地区	遺構	層位	長さ	幅	高さ	厚さ
670	w180	食事具	縦杓子柄?		WKY180	マキ属	板目	668・669と同様の柄か。	3-3	F11 b17	302	3層	22.8以上	3.0		1.4
671	w60	食事具	横杓子		WKY60	クスノキ	割材	柄は口縁部より下に水平に付ける。	3-3	F11 c18	302	3層	29.1	9.6以上	7.5	1.1
672	w80	食事具	横杓子	未成品	WKY80	クスノキ	芯持横木取り	舟形容器に短い柄を付けた形状。	3-3	F11 b19	302	3層	25.2	10.2	7.7	3.9
673	w59	食事具	匙	未成品?	WKY59	クスノキ	割材	スプーン形の匙。調整痕が粗い。	3-1	F11 c16	302	3層	26.4	5.9	4.5	2.2
674	w117	食事具	匙	未成品?	WKY117	クスノキ	割材横木取り	レンゲ形の匙。身の窪みが小さい。	3-3	F11 c16	302	3層	19.4	6.5	3.1	2.3
675	w38	容器	舟形容器		WKY38	クスノキ	芯持横木取り	小型。薄手。	3-3	F11 c19	302	3層	10.4	5.2	3.5	0.7
676	w36	容器	舟形容器		WKY36	クスノキ	横木取り	小型。薄手。	3-3	F11 c15	302	3層	12.6	6.2以上	4.2	0.8
677	w110	容器	舟形容器		WKY110	クスノキ	横木取り	中型か。薄手で表面平滑。	3-3	F11 c18	302	3層	15.4	8.1	4.3	0.5
678	w47	容器	舟形容器		WKY47	クスノキ	横木取り	中型。薄手で表面平滑。	3-3	F11 c22	302	3層	19.2	7.2以上	9.0	0.7
679	w32	容器	舟形容器		WKY32	クスノキ	芯持横木取り	中型、比較的薄手で平滑。	3-3	F11 c17	302	3層	18.4	7.9以上	6.1	1.9
680	w35	容器	舟形容器		WKY35	クスノキ	横木取り	芯付近を使用。比較的薄手で平滑。	3-3	F11 c14	302	3層	19.2	8.0	5.6以上	1.0以上
681	w27	容器	舟形容器		WKY27	クスノキ	横木取り	中型。薄手で表面平滑。	3-1	F11 c16	302	3層	18.5以上	10.2以上	4.5以上	1.3
682	w24	容器	舟形容器		WKY24	クスノキ	横木取り	中型。比較的薄手で平滑。	3-1	F11 c15	302	3層	19.0以上	9.9以上	4.6	1.6
683	w58	容器	舟形容器		WKY58	クスノキ	芯持横木取り	中型。薄手で平滑。匙の可能性もあり。	3-1	F11 c17	302	3層	21.3以上	12.2以上	7.0以上	1.1
684	w31	容器	舟形容器	補修品	WKY31	クスノキ	横木取り	中型。薄手で平滑。割れを紐で補修。	3-3	F11 b20	302	3層	25.5	10.5	3.8以上	1.0
685	w61	容器	舟形容器		WKY61	クスノキ	横木取り	大型。比較的薄手。樹皮付。	3-3	F11 b18	302	3層	33.2	10.6以上	9.8以上	1.6
686	w34	容器	舟形容器	未成品	WKY34	クスノキ	芯持横木取り	中型。厚手で加工痕顕著。	3-3	F11 b20	302	3層	19.8	8.7以上	8.6	2.5
687	w23	容器	舟形容器	未成品	WKY23	クスノキ	横木取り	中型か。厚手で加工痕顕著。匙の可能性あり。	3-3	F11 b18	302	3層	21.6	8.4	5.7	2.1
688	w25	容器	舟形容器	未成品	WKY25	クスノキ	横木取り	中型。厚手。	3-1	F11 c16	302	3層	20.8以上	11.3以上	4.0以上	2.5
689	w39	容器	舟形容器	未成品	WKY39	クスノキ	芯持横木取り	大型。厚手で加工痕顕著。木の皺が残る。	3-3	F11 b19	302	3層	37.2	11.6	12.4	4.5
690	w33	容器	舟形容器	未成品	WKY33	クスノキ	芯持横木取り	中型。厚手で加工痕顕著。木の皺が残る。	3-3	F11 c14	302	3層	17.8	7.4	9.5	6.5
691	w29	容器	舟形容器	未成品	WKY29	クスノキ	芯持横木取り	中型。厚手で加工痕顕著。	3-3	F11 c19	302	3層	20.4	9.7	8.6	4.7
692	w30	容器	舟形容器	未成品	WKY30	クスノキ	芯持横木取り	中型。厚手で加工痕顕著。	3-1	F11 b17	302	3層	21.2	7.9	7.1	5.0
693	w28	容器	舟形容器	未成品	WKY28	クスノキ	横木取り	中型。粗割り段階。	3-3	F11 c16	302	3層	21.4	7.9	4.5	3.5
694	w26	容器	舟形容器	未成品	WKY26	クスノキ	横木取り	中型。粗割り段階。	3-3	F11 b19	302	3層	21.1	9.6	5.0	3.8
695	w37	容器	舟形容器	未成品	WKY37	クスノキ	芯持横木取り	大型。粗割り段階。木の屈曲部で、皺が残る。	3-3	F11 d16	302	3層	29.5	11.1	13.1	8.6
696	w40	容器	舟形容器	未成品	WKY40	クスノキ	芯持横木取り	大型。粗割り段階。木の皺が残る。	3-3	F11 e16	302	3層	29.5	13.4	8.7	8.0
697	w44	容器	舟形容器	原材	WKY44	クスノキ	芯持横木取り	中型の原材。樹皮付。	3-3	F11 d14	302	3層	21.3	φ 10.8		
698	w82	容器	舟形容器	原材	WKY82	クスノキ	芯持横木取り	中型の原材。樹皮剥離痕あり。	3-3	F11 e19	302	3層	24.2	φ 10.8	12.8	
699	w43	容器	舟形容器	原材	WKY43	クスノキ	芯持横木取り	大型の原材か。樹皮付。木の屈曲部。	3-3	F11 d16	302	3層	26.5	φ 11.1	17.6	
700	w42	容器	舟形容器	原材	WKY42	クスノキ	芯持横木取り	中型の原材。樹皮付。	3-3	F11 b18	302	3層	25.1	φ 10.1	12.7	
701	w177	容器	舟形容器	原材	WKY177	クスノキ	芯持横木取り	大型の原材。樹皮剥離痕あり。	3-3	F11 e11	302	3層	37.6	φ 12.7	13.6	
702	w83	容器	鉢		WKY83	クスノキ	芯持横木取り	口縁部直下及び底辺に沈線あり。	3-3	F11 d15	302	3層	φ 25.6		9.8	1.0
703	w98	容器	鉢?	原材?	WKY98	クスノキ	節部	容器原材の可能性あり。こぶの部位を利用。	3-3	F11 a20	302	3層	20.0		24.0	12.0以上
704	w96	容器	高台付鉢?		WKY96	クスノキ	横木取り	深い鉢の口縁部か。705と同一個体の可能性あり。	3-3	F11 c17	302	3層	φ 50.0		21.8以上	2.0
705	w120	容器	高台付鉢		WKY120	クスノキ	横木取り	高台付き鉢の底部。	3-3	F11 c19	302	3層	φ 25.4以上	高台径15.0	8.4以上	2.0
706	w97	容器	高台付鉢?	原材	WKY97	クスノキ	節部	高台付き鉢の原材か。こぶの部位を利用。	3-3	F11 a20	302	3層	φ 28.5以上		10.3以上	3.0
707	w100	容器	有孔浅鉢		WKY100	クスノキ	横木取り	調査時に底部に孔確認。表面一部炭化。	3-3	F11 c18	302	3層	28.3	22.9	6.3	1.4
708	w131	容器	有孔浅鉢?		WKY131	クスノキ	横木取り	底部の孔の有無は不明。	3-3	F11 d16	302	3層	34.3	17.7以上	8.8	1.0
709	w109	容器	有孔浅鉢?		WKY109	クスノキ	横木取り	底部の孔の有無は不明。一部に焦げあり。	3-3	F11 c18	302	3層	38.1	22.7以上	10.9	2.0
710	w77	容器	有孔浅鉢?	未成品	WKY77	クスノキ	横木取り	外面加工痕顕著。内面はほぼ未加工。	3-3	F11 d16	302	3層	37.6	30.6	12.0	7.8
711	w101	容器	大皿		WKY101	クスノキ	横木取り	皿状容器としては小型。木取りは泥除けと共通。	3-3	F11 c18	302	3層	35.2	26.1以上	5.3	1.3
712	w102	容器	大皿		WKY102	クスノキ	横木取り	内面に製作時の擦痕が顕著に残る。	3-3	F11 c13	302	3層	47.4	43.1	7.4	1.6
713	w90	容器	大皿		WKY90	クスノキ	横木取り	口縁部近くがやや厚手。	3-1	F11 c16	302	3層	53.3	25.5以上	8.1	11.9
714	w99	容器	大皿		WKY99	クスノキ	横木取り	長軸方向の外面中央に節、両端に加工痕残る。	3-3	F11 d17	302	3層	59.1	25.3以上	11.9以上	2.1
715	w108	容器	大皿		WKY108	クスノキ	横木取り	腐食による摩耗が顕著。	3-3	F11 b19	302	3層	38.2以上	21.2以上	9.9以上	2.0
716	w128	容器	大皿		WKY128	クスノキ	横木取り	底部片。やや厚手。	3-3	F11 c17	302	3層	24.8以上	23.2以上	9.4以上	1.8
717	w206	容器	大皿		WKY190	クスノキ	横木取り	口縁部片。	3-3	F11 c17	302	3層	28.0以上	11.0以上		2.0
718	w119	容器	大皿		WKY119	クスノキ	横木取り	3片を接合。円形孔は新しい釘孔の可能性あり。	3-3	F11 c20	302	3層	60.2以上	33.8以上	7.2以上	1.2
719	w147	容器	大皿	未成品	WKY147	クスノキ	横木取り	皿状容器の未成品か。厚手で粗割り段階。	3-3	F11 b21	302	3層	52.5以上	51.6以上	8.6以上	4.0以下
720	w168	容器	大皿	未成品	WKY168	クスノキ	横木取り	皿状容器の未成品か。厚手の粗割り段階。	3-3	F11 c19	302	3層	67.0以上	49.0以上	9.8以上	5.0
721	w144	建築部材	梯子		WKY144	クワ属	芯持丸木	ステップ3段分あり。裏面上端に段差、下端に黑色処理。	3-3	F11 d17	302	3層	176.6以上	11.0		5.0～8.8
722	w158	建築部材	柱材?		WKY158	マキ属	芯持丸木	直径14cm。一端黑色処理。	3-3	F11 c22	302	3層	44.4以上	φ 14.1		
723	w63	建築部材	有頭棒		WKY63	ヒノキ	芯持丸木削出	球形の頭部をもつ有頭棒	3-3	F11 c19	302	3層	24.1以上	φ 6.4		
724	w173	建築部材	有頭棒?		WKY173	マキ属	芯持丸木	やや尖った有頭棒	3-3	F11 d21	302	3層	31.5以上	φ 2.4		
725	w106	建築部材	有頭棒?		WKY106	マキ属	芯持丸木	一方に挟りをもつ。断面楕円形。農具の柄の可能性あり。	3-3	F11 c19	302	3層	50.0以上	φ 3.0～4.0		
726	w166	建築部材	棒		WKY166	マキ属	芯持丸木	樹皮付。両端が細くなる。	3-3	F11	302	3層	131.2以上	2.7		
727	w495	建築部材	棒		WKY349	マキ属	芯持丸木	一端を丸くおさめる。	3-3	F11 d21	302	3層	31.0以上	φ 3.6		
728	w140	建築部材	棒		WKY140	マキ属	芯持丸木	一端に浅い挟り、他端を削る。	3-3	F11 d18	302	3層	146.4	φ 4.4～6.2		
729	w51	建築部材	棒		WKY51	マキ属	芯持丸木	一端を丸くおさめる。	3-3	F11 c19	302	3層	58.8以上	φ 2.7		
730	w138	建築部材	構造部材		WKY138	マキ属	芯持丸木	上端を方臍状に、下端を杭状に加工する。	3-3	F11 b23	302	3層	143.4	φ 4.8～5.4		
731	w139	建築部材	棒		WKY139	マキ属	芯持丸木	樹皮付。一端をおおよそ丸くおさめる。	3-3	F11 c17	302	3層	130.6以上	φ 4.2～5.4		
732	w156	建築部材	構造部材		WKY156	マキ属	芯持丸木	やや浅い挟りを2か所もつ。	3-3	F11 f15	302	3層	85.8以上	φ 4.7		
733	w175	建築部材	棒		WKY175	マキ属	芯持丸木	一端をまるくおさめる。樹皮剥離痕あり。	3-3	F11 d16	302	3層	77.8以上	φ 4.8～5.4		
734	w151	建築部材	棒		WKY151	マキ属	芯持丸木	樹皮付。両端をやや丸くおさめる。	3-3	F11 e14	302	3層	145.0	φ 5.3～7.6		
735	w75	建築部材	有頭棒		WKY75	マキ属	芯持丸木	端面炭化。	3-3	F11 b20	302	3層	49.4以上	φ 6.5～8.1		

木製品一覧表（3）

報告書No	登録番号	種類	器種	製品段階	樹種同定番号	樹種	木取り	観察所見	調査区	地区	遺構	層位	長さ	幅	高さ	厚さ
736	w174	建築部材	棒		WKY174	マキ属	芯持丸木	樹皮付。	3-3	F11 b19	302	3層	110.2以上	φ 9.0		
737	w172	建築部材	棒		WKY172	マキ属	芯持丸木	一端を削り調整し、まるめる。	3-3	F11 d16	302	3層	223.2以上	φ 6.6		
738	w170	建築部材	棒		WKY170	マキ属	芯持丸木	一端をやや尖らせる。	3-3	F11 e14	302	3層	200.4以上	φ 4.1 ~ 5.2		
739	w163	建築部材	棒		WKY163	マキ属	芯持丸木	樹皮付。	3-3	F11 b19	302	3層	198.0	φ 2.7 ~ 3.7		
740	w161	建築部材	建築部材？		WKY161	マキ属	芯持丸木	両端の細い棒状製品。	3-3	F11 b18 ~ d18	302	3層	229.8	φ 8.4		
741	w171	建築部材	建築部材？		WKY171	イヌガヤ	芯持丸木	中央屈曲、両端真っすぐ。	3-3	F11 c21	302	3層	197.6	φ 5.2 ~ 8.8		
742	w46	農具？	柄？		WKY46	イスノキ	割材削出	小型有頭棒状。断面円形。	3-3	F11 c18	302	3層	20.3以上	φ 1.7		
743	w73	農具？	木錘状製品		WKY73	マキ属	芯持丸木	端部破断面、未調整。	3-3	F11 c19	302	3層	22.5	φ 5.9 ~ 7.9		
744	w72	農具？	木錘状製品？		WKY72	マキ属	芯持丸木	建築部材の頭部片の可能性あり。	3-3	F11 e16	302	3層	15.1	φ 5.8		
745	w84	農具？	木錘状製品？		WKY84	クスノキ	芯持丸木	腐食のため、判然としない。	3-3	F11 c22	302	3層	19.3	7.3		3.6
746	w524	不明	棒状製品		WKY373	クワ属	割材	両端の一方がやや突出する。659の近くで出土。	3-3	F11 c18	302	3層	36.5以上	4.5		4.5
747	w134	狩猟具？	矢？		WKY134	サカキ	芯持丸木	細い真っすぐな棒状。紐を巻きつける。	3-3	F11 c19	302	3層	41.0以上	φ 1.3		
748	w209	不明	杵残材？		WKY193	ツバキ属	芯持丸木	竪杵製作時の残材か。	3-3	F11 d16	302	3層	9.3	φ 7.3		
749	w179	不明	指輪状製品		WKY179	針葉樹樹皮	(包埋)	弓を巻く樹皮と類似する。	3-3	F11 c19	302	3層	2.9	2.1	1.0	0.4
750	w57	楽器？	琴？	未成品	WKY57	スギ	板目	板作りの琴の未成品か。表面調整粗い。	3-3	F11 b20	302	3層	40.4	13.0		1.5
751	w76	不明	炬状製品		WKY76	クスノキ	板目	刃物痕あり。一部黒色化。	3-3	F11 c21	302	3層	43.4	18.5		1.4
752	w169	建築部材？	建築部材？		WKY169	ヒノキ	割材	腐食進み、当初形状か判然としない。	3-3	F11 b22	302	3層	69.7以上	8.5		4.9
753	w123	材	丸太材	－	WKY123	マキ属	芯持丸木	樹皮付。両端切断痕顕著。	3-3	F11 b15	302	3層	24.4	φ 7.4 ~ 8.1		
754	w107	材	丸太材	－	WKY107	マキ属	芯持丸木	樹皮付。	3-1	F11 c15	302	3層	32.0以上	φ 6.7		
755	w122	材	丸太材	－	WKY122	マキ属	芯持丸木	樹皮剥離痕有り。	3-3	F11 c15	302	3層	37.1	φ 5.2 ~ 6.7		
756	w143	材	丸太材	－	WKY143	マキ属	芯持丸木	樹皮付。	3-3	F11 e15	302	3層	43.8	φ 9.7 ~ 10.7		
757	w181	材	割材	－	WKY181	アカガシ亜属	みかん割り削出	放射径 7.1cm。樹皮残存。	3-3	F11 b21	302	3層	62.8	8.2		7.6以下
758	w162	材	半裁材	－	WKY162	マキ属	半割	753 ~ 756の半裁品。樹皮剥離痕あり。	3-3	F11 c20	302	3層	50.8	15.2		9.2
759	w141	材	半裁材	－	WKY141	ヒサカキ	半割	水分を含む脆弱な状態。	3-3	F11 c16	302	3層	64.9	13.1		5.4
760	w149	材	半裁材	－	WKY149	サカキ	半割	半裁後、若干形状整える。	3-3	F11 d16	302	3層	88.8	11.8		5.4
761	w153	材	半裁材	－	WKY153	タイミンタナバケ	芯持割材	剥離した樹皮残存。節あり。	3-3	F11 d19	302	3層	68.4	9.7		5.4
762	w125	材	半裁材	－	WKY125	アカガシ亜属	半割	比較的短い半裁材。	3-3	F11 d16	302	3層	32.7	12.4		5.0
763	w121	材	板材	－	WKY121	ムクロジ	柾目	片面が黒色処理。	3-3	F11 b19	302	3層	42.5以上	10.6		1.8
764	w103	材	板材	－	WKY103	スギ	板目	礎板の可能性あり	3-3	F11 b20	302	3層	26.3	18.3		3.7
765	w115	材	板材	－	WKY115	スギ	板目	長さ不明。下端部は円孔の可能性あり。	3-3	F11 c22	302	3層	53.8以上	11.4		2.0
766	w152	材	板材	－	WKY152	スギ	板目	長さ不明。くさび痕あり。	3-3	F11 b18	302	3層	123.6以上	11.4		2.0
767	w92	材	有孔板材	－	WKY92	スギ	柾目	柾目の板材。縦に2孔あり。調整痕あり。	3-1	F11 c17	302	3層	33.7以上	11.0		2.2
768	w48	材	有孔板材	－	WKY48	スギ	板目	横に2孔あり。幅 11cm。	3-3	F11 e13	302	3層	31.4以上	11.3		1.7
769	w164	材	有孔板材	－	WKY164	スギ	板目	縦に3孔あり。幅 13cm。	3-3	F11 d17	302	3層	44.4以上	12.8		2.1
770	w74	材	有孔板材	－	WKY74	スギ	追柾目	追い柾目の板材。1孔あり。多少、割材に近い。	3-3	F11 b19	302	3層	47.3	7.3		2.7
771	w157	材	有孔板材	－	WKY157	スギ	板目	縦・横に3孔あり。幅 13cm。	3-3	F11 b20	302	3層	64.0	13.0		2.5
772	w165	材	有孔板材	－	WKY165	スギ	板目	縦・横に3孔あり。幅 11cm。	3-3	F11 d17	302	3層	56.2以上	11.4		2.0
773	w71	材？	板材？	－	WKY71	クスノキ	板目	中央が溝状に腐食する。板材を取った残材か。	3-3	F11 d19	302	3層	34.0	16.5		6.1
774	w534	材？	板材？	－	WKY381	クスノキ	板目	板状に面取りされる。形状不明。	3-3	F11 c18	302	3層	34.4以上	21.6		6.5
775	w142	材？	板材？	－	WKY142	スタジイ	板目	不自然に割られた木。放射径 14.0cm。薪にする可能性もあり。	3-3	F11 c22	302	3層	23.8以上	22.0		4.8 ~ 10.0
776	w137	材	板材	－	WKY137	ヒノキ	板目	片面黒色処理。	3-3	F11 b21	302	2層	154.6以上	7.6		1.0
777	w65	不明	楕円形板状製品		WKY65	スギ	板目	外面炭化。	3-1	F11 b18	302	2層	12.4	8.3		1.8
778	w20	農具	平鍬(曲柄狭鍬身?)		WKY20	イスノキ	板目	中型、細長形。腐食。遺構 302からの浮き上がりか。	3-3	F11 b23	313	2層	39.5	7.5		1.8
779	w113	農具	広鍬(直柄広鍬身)		WKY113	イチイガシ	柾目	放射径残存径 9.8cm。	3-3	F11 d20	313	A-2層	23.0以上	11.8以上	4.7	0.5
780	w226	農具	広鍬(直柄広鍬身)？		WKY210	イチイガシ？	追柾目	放射径残存径 14cm。破片。	3-3	F11 b23	313	中層	12.0以上	15.0	1.0	
781	w112	食事具	杓子		WKY112	クスノキ	割材横木取り	身から斜め上方へ柄が伸びる。	3-3	F11 d19	313	A-2層	48.5	10.0以上	8.9	2.2
782	w114	食事具	杓子？	未成品	WKY114	クスノキ	芯持削出	身の斜め上方へ柄が伸びる。ヒョウタンを模したものか。	3-3	F11 b23	313	3層	32.8	5.0	6.9	
783	w451	食事具	小型臼		WKY314	クスノキ	芯持ち丸木	破片資料。	3-3	F11 b23	313	下層	φ 35.2以上		20.0以上	4.5以上
784	w111	容器	容器(四脚合子身)		WKY111	クワ属	横木取り	細孔突起2か所あり。精製品。蓋は出土していない。	3-3	F11 b23	313	3層	24.3	15.0	11.3	1.5
785	w91	容器	方形盤		WKY91	スギ	板目	底部平坦。口縁部長辺が突出する。	3-3	F11 a23	313	B-3層	28.5	14.2	4.3	1.2
786	w148	容器	鉢		WKY148	クスノキ	横木取り	こぶを利用。底部平坦。底か蓋か不明な板を伴う。	3-3	F11 a22	313	B-3層	28.8		15.0	2.0
787	w116	材	板材		WKY116	スギ	板目	方形の板で上下が薄くなる。組物の一部か。	3-3	E11 y24	313	B-2層	21.1	7.1		1.7
788	w154	建築部材	構造部材		WKY154	マキ属	芯持丸木	受部をもつ棒の先端。	3-3	F11 c22	313	3層	22.6以上	φ 5.8 ~ 6.2		
789	w643	材	板材		WKY481	スギ	板目	幅 15cm、厚さ 2.1cm。一部炭化か。	3-3	F11 e18	313	A-2層	31.5以上	15.3		2.1
790	w150	材	板材		WKY150	クスノキ	板目	板材を取った残材か。楔痕あり。	3-3	F11 e16	313	A-2層	45.1	29.8		2.4以下
791	w376	材	板材		WKY261	ヒノキ	板目	幅 7.5cm、厚さ 2.7cm。一端炭化。	3-3	F11 q25	313	B-3層	56.0以上	7.5		2.7
792	w176	農具	木槌？		WKY176	クスノキ	板目	遺構 313の肩部に埋まって出土した。	3-3	F11 c19	313 ^{313の層}	4層	179.0	27.8	11.8	5.0以下
793	w160	建築部材	棒		WKY160	マキ属	芯持丸木	両端を丸くおさめる。	3-3	E12 y1	313	B-3層	128.4			φ 2.8 ~ 4.2
794	w145	材	丸太材	－	WKY145	マキ属	芯持丸木	節が突出して残る。比較的長い丸太材。	3-3	F11 c22	313	上層	61.7	φ 9.9		
795	w167	建築部材	建築部材？		WKY167	イヌガヤ	芯持ち丸木	断面楕円形で短い。加工痕が明瞭。	3-3	F11 e15	313	底	80.9			φ 9.0 ~ 11.9
796	w155	材	丸太材	－	WKY155	ヤマビワ	芯持丸木	切断直前状態の丸太材。加工痕が明瞭。	3-3	F11 c22	313	上層	205.6			φ 9.7 ~ 16.0
797	w64	建築部材	有頭棒		WKY64	アワブキ	芯持丸木	加工痕明瞭。	5-1	E12 m1		4層	13.9以上	φ 4.1		
798	w66	不明	柄		WKY66	スギ	板目	形状の整った柄。	5-2	E12 g9		4層	20.5	4.0		2.2
799	w67	容器	曲物		WKY67	ヒノキ	板目	曲物の薄手の円盤。刃物痕あり。	5-1	E11 o25		4層	φ 20.8			1.0
－	w118	容器	容器	残材	WKY118	クスノキ	横木取り	容器製作中の残材か	3-3	F11 d16	302	3層	18.7	10.8	6.0	4.7
－	w184	その他	蔓片	－	WKY184	ツツラフジ？	(包埋)	ツツラフジとみられる蔓。土器の頸部に巻く。	3-3	F11 d16	302	3層	－			

* w 1 ~ 184 について保存処理実施。規格は単位cm。

木製品片・木片の樹種一覧表（１）

樹種同定No	樹種	木取り	登録番号	内容	調査区	地区	遺構	層位
WKY185	クスノキ	板目	w201	泥除け		→報告書掲載資料	651	
WKY186	クスノキ	板目	w202	容器片？	3-3	F11 e14	302	3層
WKY187	クスノキ	板目	w203	容器片？	3-3	F11 e16	302	3層
WKY188	クスノキ	横木取り	w204	容器片	3-3	F11 b19	302	3層
WKY189	クスノキ	横木取り	w205	容器片	3-3	F11 c17	302	3層
WKY190	クスノキ	横木取り	w206	容器片		→報告書掲載資料	717	
WKY191	クスノキ	横木取り	w207	容器片	3-3	F11 d18	302	3層
WKY192	クスノキ	横木取り	w208	容器片	3-3	F11 d19	302	3層
WKY193	ツバキ属	芯持丸木	w209	有頭棒片		→報告書掲載資料	748	
WKY194	クスノキ	横木取り	w210	舟形容器片	3-3	F11 b20	302	3層
WKY195	クスノキ	横木取り	w211	舟形容器片	3-3	F11 a21	302	3層
WKY196	クスノキ	割材削出	w212	舟形容器片	3-3	F11 c16	302	3層
WKY197	ヒノキ	割材	w213	割材	3-1	F11 c16	302	3層
WKY198	ツブラジイ	芯持丸木	w214	柄	3-3	F11 c18	302	3層
WKY199	イスノキ	板目	w215	平鋸原材料か	3-3	F11 c16	302	3層
WKY200	マキ属	芯持丸木	w216	構造部材	3-3	F11 c18	302	3層
WKY201	スギ	追柵目	w217	板材（部分炭化）	3-3	F11 c17	302	3層
WKY202	イスノキ	半割	w218	平鋸原材料か	3-3	F11 q23	313	B-3層
WKY203	マキ属	板目	w219	半裁材（樹皮付）	3-3	F11 b23	302	3層
WKY204	イスノキ	半割	w220	平鋸原材料か	3-3	F11 d14	302	3層
WKY205	マキ属	芯持丸木	w221	有頭棒	3-3	F11 d16	302	3層
WKY206	イスノキ	板目	w222	平鋸原材料か	3-3	F11 c19	302	3層
WKY207	イチイガシ	割材	w223	平鋸片か	3-1	F11 c16	302	3層
WKY208	ヒノキ	柵目	w224	板材	3-1	F11 c16	302	3層
WKY209	モチノキ属	割材	w225	割材	3-1	F11 c17	302	3層
WKY210	イチイガシ？	追柵目	w226	広鋸か		→報告書掲載資料	780	
WKY211	クスノキ	横木取り	w227	容器片	3-3	F11 c19	302	3層
WKY212	クスノキ	横木取り	w228	舟形容器片	3-3	F11 a20	302	3層
WKY213	クスノキ	板目	w229	板材	3-3	F11 d17	302	3層
WKY214	イスノキ	板目	w302	平鋸原材料		→報告書掲載資料	634	
WKY215	イスノキ	板目	w305	平鋸		→報告書掲載資料	618	
WKY216	ニワトコ	芯持丸木	w306	自然木（枝）	3-1	f11 c15	302	2層
WKY217	マキ属	芯持丸木	w307	自然木（枝）	3-1	F11 a19	302	1層
WKY218	クスノキ	横木取り	w308	舟形容器片	3-1	F11 b17	302	2層
WKY219	マキ属	板目	w309	棒（燃えさし）	3-1	F11 b18	302	2層
WKY220	スギ	板目	w310	板材	3-1	F11 c16	302	2層
WKY221	ヒノキ	板目	w311	板材（燃えさし）	3-1	F11 c16	302	2層
WKY222	スギ	柵目	w312	板材	3-1	F11 c15	302	2層
WKY223	アカガシ亜属	割材	w312	半裁材	3-1	F11 c15	302	2層
WKY224	アカガシ亜属	芯持丸木	w312	自然木（樹皮付）	3-1	F11 c15	302	2層
WKY225	クスノキ	割材	w315	棒（燃えさし）	3-1	F11 c17	302	2層
WKY226	マキ属	板目	w317	板材	3-1	F11 b17	302	3層
WKY227	アカガシ亜属	芯持丸木	w319	棒（樹皮付）	3-1	F11 b17	302	2層
WKY228	マキ属	芯持丸木	w320	自然木（枝）	3-1	F11 b18	302	2層
WKY229	スギ	板目	w322	板材	3-1	F11 c16	302	2層
WKY230	マキ属	半割削出	w326	弓片か	3-1	F11 c15	302	3層
WKY231	ヒノキ科	樹皮	w327	樹皮	3-1	F11 c16	302	② 3層
WKY232	モチノキ属	割材	w328	丸太材	3-1	F11 c17	302	3層
WKY233	マキ属	芯持丸木	w328	自然木（又状）	3-1	F11 c17	302	3層
WKY234	クスノキ	板目	w329	容器片か	3-1	F11 b17	302	3層
WKY235	ホルトノキ属	芯持丸木	w329	自然木（斧材？）	3-1	F11 b17	302	3層
WKY236	モチノキ属	芯持丸木	w331	自然木	3-1	F11 c17	302	3層
WKY237	クスノキ	板目	w332	板材	3-1	F11 b18	302	3層
WKY238	—	板目	w336	板材	3-1	F11 c16	302	3層
WKY239	マキ属	割材	w337	材	3-1	F11 c16	302	3層
WKY240	クスノキ	横木取り	w338	舟形容器片か	3-1	F11 c15	302	3層
WKY241	アカメガシワ	芯持丸木	w330	柄か（樹皮付）	3	F11	302	3層
WKY242	イチイガシ	割材	w342	容器材か	3-1	F11 c16	302	3層
WKY243	クスノキ	横木取り	w343	舟形容器片	3-1	F11 c17	302	3層
WKY244	クスノキ	板目	w344	材	3-1	F11 c16	302	3層
WKY245	アカガシ亜属	芯持丸木	w348	自然木（樹皮付）	3-1	F11 c16	302	3層
WKY246	スギ	板目	w349	板材	5-2	E12 g9		4層
WKY247	マツ属椎葉束亜属	芯持丸木	w354	自然木	5-1	E11 a18		6層
WKY248	ヒノキ	柵目	w356	削りくず	3-3	F11 q22	313	B-1層
WKY249	ツブラジイ	板目	w357	辺材	3-3	F11 b18	302	2層
WKY250	マツ属椎葉束亜属	割材	w359	棒（燃えさし）	3-3	E11 x24	313	B-1層
WKY251	ヒノキ	柵目	w361	板状製品片	3-3	F11 d21	313	A層
WKY252	スギ	板目	w362	板材	3-3	F11 a20	302	1層
WKY253	スギ	板目	w363	板材	3-3	F11 a19	302	1層
WKY254	マキ属	芯持丸木	w369	丸太材（樹皮付）	3-3	F11 d16		
WKY255	クワ属	板目	w370	半裁材	3-3	F11 d17	302	1層
WKY256	スギ	板目	w371	板材	3-3	F11 e19	313	A-2層
WKY257	ツブラジイ	板目	w371	板材	3-3	F11 e19	313	A-2層
WKY258	モチノキ属	半割	w372	半裁材	3-3	F11 d13	302	3層
WKY259	ヒノキ	板目	w375	板材	3-3	F12 q1	313	B-3層
WKY260	クスノキ	板目	w375	板残材	3-3	F12 q1	313	B-3層
WKY261	ヒノキ	板目	w376	板材		→報告書掲載資料	791	
WKY262	クスノキ	板目	w376	板残材	3-3	F11 g25	313	B-3層
WKY263	スギ	板目	w378	板材	3-3	F11 c17	302	3層
WKY264	ヒノキ	板目	w388	棒（燃えさし）	3-3	F11 d17	302	3層
WKY265	竹笹類	—	w392	自然木（篠）	3-3	F11 c16	302	3層

樹種同定No	樹種	木取り	登録番号	内容	調査区	地区	遺構	層位
WKY266	マキ属	芯持丸木	w394	自然木（燃えさし）	3-3	F11 d15	302	3層
WKY267	クスノキ	横木取り	w394	舟形容器片	3-3	F11 d15	302	3層
WKY268	アカガシ亜属	半割	w394	半裁材	3-3	F11 d15	302	3層
WKY269	マキ属	割材	w396	棒	3-3	F11 b19	302	3層
WKY270	クスノキ	横木取り	w397	船形容器片	3-3	F11 b18	302	3層
WKY271	マキ属	芯持丸木	w401	棒	3-3	F11 a22	302	2層
WKY272	スギ	板目	w403	板材	3-3	F11 d17	302	3層
WKY273	マキ属	芯持丸木	w404	自然木（樹皮付）	3-3	F11 q21	302	3層
WKY274	クスノキ	板目	w405	板材	3-3	F11 q21	302	3層
WKY275	スギ	板目	w406	棒	3-3	F11 b19	302	3層
WKY276	スギ	割材	w407	棒	3-3	F11 b22	313	
WKY277	クスノキ	横木取り	w408	容器片か	3-3	F11 b20	302	3層
WKY278	スギ	板目	w409	板材（一部炭化）	3-3	F11 c17	302	3層
WKY279	スギ	板目	w410	板材	3-3	F11 c18	302	3層
WKY280	スギ	板目	w413	板材	3-3	F11 c15	302	3層
WKY281	アカガシ亜属	半割	w414	半裁材	3-3	F11 e15	302	3層
WKY282	フカンギル/コシカケ	—	w415	サルノコシカケ類	3-3	F11 q22	302	3層
WKY283	イスノキ	板目	w417	板材	3-3	F11 a19	302	3層
WKY284	クスノキ	横木取り	w418	容器片	3-3	F11 b20	302	3層
WKY285	マキ属	芯持丸木	w421	丸太材（樹皮付）	3-3	F11 d16	302	3層
WKY286	ヒノキ科樹皮	樹皮	w422	樹皮	3-3	F11 a20	302	3層
WKY287	クワ属	割材	w424	割材（半面炭化）	3-3	F11 d21	302	3層
WKY288	マキ属	板目	w426	板材（一部炭化）	3-3	F11 c21	302	3層
WKY289	ヒノキ	板目	w427	板材	3-3	F11 c22	313	3層
WKY290	クスノキ科	板目	w428	半裁材	3-3	F11 d20	302	3層
WKY291	ヒノキ	割材	w429	割材	3-3	F11 c20	302	3層
WKY292	マキ属	芯持丸木	w430	丸太材	3-3	F11 c21	302	3層
WKY293	スギ	追柵目	w430	板材	3-3	F11 c21	302	3層
WKY294	スギ	芯持丸木	w432	板材（樹皮付）	3-3	F11 c18	302	3層
WKY295	クスノキ	横木取り	w434	容器片	3-3	F11 d15	302	3層
WKY296	マキ属	芯持丸木	w435	棒	3-3	F11 b19	302	3層
WKY297	スギ	板目	w436	板材	3-3	F11 a20	302	3層
WKY298	クスノキ科	芯持丸木	w437	自然木	3-3	F11 b23	313	下層
WKY299	クスノキ科	芯持丸木	w438	自然木	3-3	F11 b23	313	下層
WKY300	アカガシ亜属	柵目	w439	板材	3-3	F11 c20	302	3層
WKY301	クスノキ	板目	w440	板材	3-3	F11 c19	302	3層
WKY302	イチイガシ	柵目	w441	板材	3-3	F11 d19	302	3層
WKY303	マキ属	芯持丸木	w442	有頭棒	3-3	F11 d20	302	3層
WKY304	クスノキ	板目	w443	容器片か	3-3	F11 b19	302	3層
WKY305	ヒノキ	板目	w444	板材	3-3	F11 b20	302	3層
WKY306	マキ属	板目	w445	残材（樹皮付）	3-3	F11 b21	302	3層
WKY307	クスノキ	板目	w445	板状製品片	3-3	F11 b21	302	3層
WKY308	ヒノキ	板目	w446	板材	3-3	F11 d17	302	3層
WKY309	イチイガシ	柵目	w447	広鋸片か	3-3	F11 c21	302	3層
WKY310	クスノキ	板目	w447	板材	3-3	F11 c21	302	3層
WKY311	マキ属	芯持丸木	w448	棒（樹皮付）	3-3	F11 d19	302	3層
WKY312	イチイガシ	柵目	w449	農具片	3-3	F11 d19	302	3層
WKY313	マキ属	芯持丸木	w450	有頭棒か	3-3	F11 c19	302	3層
WKY314	クスノキ	芯持丸木	w451	小型臼か	→報告書掲載資料 783			
WKY315	スギ	板目	w452	板材	3-3	F11 c21	302	3層
WKY316	マキ属	芯持丸木	w453	棒（端部炭化）	3-3	F11 b22	313	下層
WKY317	クスノキ	樹皮	w454	樹皮	3-3	F11 c14	302	3層
WKY318	クスノキ	横木取り	w455	舟形容器片	3-3	F11 a20	302	3層
WKY319	スギ	板目	w456	板材	3-3	F11 c17	302	3層
WKY320	クスノキ	割材	w457	容器片か	3-3	F11 q21	302	3層
WKY321	クスノキ	樹皮	w458	樹皮	3-3	F11c19	302	3層
WKY322	スギ	板目	w459	板材	3-3	F11d19	302	3層
WKY323	アカガシ亜属	芯持丸木	w460	自然木	3-3	F11c19	302	3層
WKY324	クスノキ	樹皮	w461	樹皮	3-3	F11c18	302	3層
WKY325	スギ	板目	w462	板材	3-3	F11 c22	313	下層
WKY326	マキ属	芯持丸木	w465	棒	3-3	F11 c20	302	3層
WKY327	リンボク	割材	w467	板材	3-3	F11 d17	302	3層
WKY328	クスノキ	板目	w468	泥除片か（補修孔有）	3-3	F11 f14	302	3層
WKY329	クスノキ	板目	w469	板材	3-3	F11 f14	302	3層
WKY330	クリ	板目	w471	半裁材	3-3	F11 e16	302	3層
WKY331	クスノキ	板目	w472	板材（樹皮付）	3-3	F11 d19	302	3層
WKY332	クスノキ	板目	w473	板材（一部炭化）	3-3	F11 d19	302	3層
WKY333	マキ属	板目	w474	板材（樹皮付）	3-3	F11 b20	302	3層
WKY334	クスノキ	瘤の部位	w475	自然木（瘤）	3-3	F11 a20	302	3層
WKY335	イスノキ	瘤の部位	w477	自然木（瘤）	3-3	F11 d13	302	3層
WKY336	クスノキ	板目	w478	板材	3-3	F11 d14	302	3層
WKY337	クスノキ	板目	w479	残材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY338	針葉樹	樹皮	w480	樟皮	3-3	F11 d16	302	3層
WKY339	スギ	割材	w481	有頭棒？	3-3	F11 d17	302	3層
WKY340	スギ	板目	w482	板材	3-3	F11 e14	302	3層
WKY341	スダジイ	板目	w484	板材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY342	クスノキ	板目	w485	板材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY343	—	瘤の部位	w486	自然木（瘤）	3-3	F11 c17	302	3層
WKY344	マキ属	割材	w488	残材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY345	ムクノキ	板目	w490	残材（一部炭化）	3-3	F11 d16	302	3層
WKY346	クスノキ	割材	w491	割材	3-3	F11 c19	302	3層

木製品片・木片の樹種一覧表（2）

樹種同定No	樹種	木取り	登録番号	内容	調査区	地区	遺構	層位
WKY347	クスノキ	板目	w492	割材	3-3	F11 c19	302	3層
WKY348	ヒノキ	板目	w493	板材	3-3	F11 q20	302	3層
WKY349	マキ属	芯持丸木	w495	棒	→報告書掲載資料 727			
WKY350	マキ属	芯持丸木	w495	小枝（樹皮付）	3-3	F11 d21	302	3層
WKY351	アカメガシワ	芯持丸木	w498	棒（一部炭化）	3-3	F11 c19	302	3層
WKY352	クスノキ	板目	w501	舟形容器残材か？	3-3	F11 q21	302	2層
WKY353	クスノキ	板目	w502	板材	3-3	F11 c21	302	3層
WKY354	ヒノキ	板目	w503	板材（一部炭化）	3-3	F11 b21	302	3層
WKY355	クスノキ	半割	w504	半裁断	3-3	F11 q20	302	3層
WKY356	アカガシ亜属	板目	w505	板目材残材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY357	クスノキ科	瘤の部位	w506	自然木（瘤）	3-3	F11 c18	302	3層
WKY358	クスノキ	横木取り	w507	容器片	3-1	F11 c16	302	3層
WKY359	リンボク	芯持丸木	w509	自然木（樹皮付・枝）	3-3	F11 d17	302	3層
WKY360	クスノキ	瘤の部位	w510	自然木（瘤）	3-3	F11 b21	302	3層
WKY361	クスノキ	横木取り	w511	舟形容器片か	3-3	F11 d14	302	3層
WKY362	クスノキ	板目	w512	容器片か	3-3	F11 q20	302	3層
WKY363	クスノキ	板目	w514	板材（一部炭化）	3-3	F11 d16	302	3層
WKY364	スギ	板目	w514	板材	3-3	F11 d16	302	3層？
WKY365	クスノキ	芯持丸木	w515	丸太材か（一部炭化）	3-3	F11 a21	302	3層
WKY366	マキ属	芯持丸木	w516	弓材か	3-3	F11 c20	302	3層
WKY367	マキ属	芯持丸木	w516	弓材か	3-3	F11 c20	302	3層
WKY368	マキ属	割材削出	w516	弓材か	3-3	F11 c20	302	3層
WKY369	ヒノキ	板目	w517	板材	3-3	F11 c18	302	3層
WKY370	マキ属	芯持丸木	w518	棒（又部含む）	3-3	F11 d19	302	3層
WKY371	スギ	板目	w519	板材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY372	クスノキ	板目	w520	板材	3-3	F11 c20	302	3層
WKY373	クワ属	割材	w524	棒状製品	→報告書掲載資料 746			
WKY374	スダジイ	割材	w525	割材	3-3	F11 c22	302	3層
WKY375	マキ属	板目	w526	残材（樹皮付）	3-3	F11 d16	302	3層
WKY376	マキ属	割材	w527	角材（一部炭化）	3-3	F11 d19	302	3層
WKY377	スギ	割材削出	w528	棒	3-3	F11 e15	302	3層
WKY378	マキ属	板目	w529	板材	3-3	F11 e17	302	3層
WKY379	マキ属	芯持削出	w531	弓材か	3-3	F11 c19	302	3層
WKY380	クスノキ	横木取り	w532	舟形容器片か	3-3	F11 d19	302	3層
WKY381	クスノキ	板目	w534	板材	→報告書掲載資料 774			
WKY382	クスノキ科	割材	w535	割材	3-3	F11 c22	302	3層
WKY383	マキ属	半割	w540	半裁材（炭化）	3-1	F11 c17	302	3層
WKY384	マキ属	板目	w542	材（樹皮付）	3-1	F11 c16	302	3層
WKY385	モチノキ属	半割	w544	斧首柄片	→報告書掲載資料 608			
WKY386	イスノキ	板目	w544	平鍛片か	3-1	F11 e17	302	3層
WKY387	クスノキ	芯持丸木	w546	自然木屈曲部	3-3	F11 c20	302	3層
WKY388	クワ属	板目	w547	板材	3-3	F11 c20	302	3層
WKY389	スギ	板目	w548	板材	3-3	F11 c20	302	3層
WKY390	タイミンタチバナ	半割	w548	半裁材	3-3	F11 c20	302	3層
WKY391	マキ属	芯持丸木	w549	自然木屈曲部	3-3	F11 d15	302	3層
WKY392	ツブラジイ	芯持丸木	w550	自然木屈曲部	3-3	F11 d17	302	3層
WKY393	マキ属	板目	w550	残材（一部炭化・樹皮付）	3-3	F11 d17	302	3層
WKY394	クスノキ	板目	w551	板材	3-3	F11 c19	302	3層
WKY395	ヒサカキ	芯持丸木	w551	自然木（枝・樹皮付）	3-3	F11 c19	302	3層
WKY396	スギ	板目	w556	板材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY397	スギ	板目	w557	板材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY398	ヒノキ	板目	w558	有頭棒（一部炭化）	3-3	F11 d16	302	3層
WKY399	クスノキ	芯持丸木	w559	丸太材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY400	クスノキ	横木取り	w560	舟形容器片	3-3	F11 c16	302	3層
WKY401	クスノキ	横木取り	w561	容器片	3-3	F11 c16	302	3層
WKY402	スギ	桁目	w562	板材	3-3	F11 a20	302	3層
WKY403	イスノキ	板目	w563	平鍛	→報告書掲載資料 621			
WKY404	タイミンタチバナ	みかん割	w564	割材	3-3	F11 b20	302	3層
WKY405	スギ	板目	w565	板材	3-3	F11 b21	302	3層
WKY406	マキ属	芯持丸木	w566	自然木（樹皮付）	3-3	F11 c20	302	3層
WKY407	クスノキ	板目	w567	残材	3-3	F11 c16	302	3層
WKY408	モチノキ属	みかん割	w568	割材（樹皮付）	3-3	F11 c17	302	3層
WKY409	スギ	板目	w571	板材	3-3	F11 d17	302	2層
WKY410	スギ	追桁目	w572	板材	3-3	F11 c15	302	3層
WKY411	クスノキ	芯持丸木	w573	自然木	3-3	F11 b22	302	3層
WKY412	イスノキ	板目	w574	棒（炭化）	3-3	F11 a19	302	3層
WKY413	マキ属	芯持丸木	w575	自然木（屈曲部）	3-3	F11 b22	302	3層
WKY414	ヒノキ	板目	w576	板材（炭化）	3-3	F11 c18	302	3層
WKY415	マキ属	芯持丸木	w577	自然木（樹皮付）	3-3	F11 d19	302	3層
WKY416	マキ属	割材	w578	割材（分枝部）	3-3	F11 c21	302	3層
WKY417	マキ属	芯持丸木	w579	自然木（樹皮付）	3-3	F11 e15	302	3層
WKY418	イスノキ	板目	w580	板材	3-3	F11 d15	302	3層
WKY419	マキ属	芯持丸木	w581	建築部材？	3-3	F11 d16	302	3層
WKY420	マキ属	芯持丸木	w582	丸太材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY421	マキ属	芯持丸木	w583	自然木（樹皮付）	3-3	F11	302	3層
WKY422	アカガシ亜属	芯持丸木	w584	自然木（樹皮付）	3-3	F11 f15	302	3層
WKY423	イヌガヤ	芯持丸木	w585	杭状部材	3-3	F11 e17	302	3層
WKY424	イスノキ	板目	w586	板材	3-3	F11 q23	313	B-3層
WKY425	マキ属	芯持丸木	w587	自然木（樹皮付）	3-3	F11 b19	302	3層
WKY426	スギ	割材	w588	割材	3-3	F11 b20	302	3層
WKY427	ヒノキ	板目	w589	板材	3-3	F11 d16	302	3層

樹種同定No	樹種	木取り	登録番号	内容	調査区	地区	遺構	層位
WKY428	マキ属	芯持丸木	w590	有頭棒				
WKY429	スギ	板目	w591	板材	3-3	F11 d18	302	3層
WKY430	スダジイ	芯持丸木	w592	丸太材（樹皮付）	3-3	F11 b19	302	3層
WKY431	マキ属	半割	w593	半裁材（樹皮付）	3-3	F11 c20	302	3層
WKY432	ヒノキ	半割	w594	半裁材	3-3	F11 c18	302	3層
WKY433	マキ属	芯持丸木	w595	丸太材	3-3	F11 c17	302	3層
WKY434	ヒノキ	板目	w596	板材	3-3	F11	302	3層
WKY435	マキ属	芯持丸木	w597	有頭棒	3-3	F11 d18	302	3層
WKY436	マキ属	芯持丸木	w598	丸太材	3-3	F11 c18	302	3層
WKY437	マキ属	芯持丸木	w599	丸太材（一部炭化）	3-3	F11 c22	302	3層
WKY438	マキ属	芯持丸木	w600	丸太材	3-3	F11 a21	302	3層
WKY439	スギ	追桁目	w601	板材	3-3	F11 c19	302	3層
WKY440	ヒノキ	割材削出	w602	尖棒（炭化）	3-3	F11 c18	302	3層
WKY441	マキ属	芯持丸木	w603	丸太材	3-3	F11 d18	302	3層
WKY442	マキ属	芯持丸木	w604	丸太材（樹皮付）	3-3	F11 c18	302	3層
WKY443	マキ属	割材	w605	材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY444	マキ属	芯持丸木	w606	自然木（樹皮付）	3-3	F11 b20	302	3層
WKY445	マキ属	芯持丸木	w607	弓か	3-3	F11 a19	302	3層
WKY446	ヒノキ	板目	w608	板材	3-3	F11 c21	302	3層
WKY447	クスノキ	割材	w609	割材	3-3	F11 c18	302	3層
WKY448	スギ	追桁目	w610	板材	3-3	F11 b20	302	3層
WKY449	イスノキ	板目	w611	板材（炭化）	3-3	F11 c19	302	3層
WKY450	マキ属	芯持丸木	w612	尖棒	3-3	F11 b21	302	3層
WKY451	ヒノキ	板目	w613	板材	3-3	F11 f14	313	A-3層
WKY452	マキ属	芯持丸木	w614	丸太	3-3	F11 d19	302	3層
WKY453	クスノキ	割材	w615	材（節あり）	3-3	F11 c18	302	3層
WKY454	クリ	半割	w616	半裁材（樹皮付）	3-3	F11 e17	302	3層
WKY455	マキ属	芯持丸木	w617	丸太材	3-3	F11 b19	302	3層
WKY456	マキ属	芯持丸木	w618	建築部材か	3-3	F11 b19	302	3層
WKY457	イヌガヤ	芯持丸木	w619	丸太材	3-3	F11 b23	302	3層
WKY458	ツガ属	割材	w620	割材	3-3	F11 e14	302	3層
WKY459	スギ	割材	w621	割材	3-3	F11 e14	302	3層
WKY460	スギ	割材	w622	割材	3-3	F11 e14	302	3層
WKY461	スギ	割材	w623	割材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY462	マキ属	芯持丸木	w624	丸太（樹皮付）	3-3	F11 d16	302	3層
WKY463	スギ	板目	w625	板材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY464	スギ	板目	w626	板材	3-3	F11 b19	302	3層
WKY465	クスノキ	板目	w627	板材（樹皮付）	3-3	F11 d17		自然土層
WKY466	マキ属	芯持丸木	w628	自然木	3-3	F11 d19	302	3層
WKY467	マキ属	芯持丸木	w629	杭状部材（樹皮付）	3-3	F11 d16	302	3層
WKY468	ヒノキ	割材	w630	建築材？	3-3	F11 d18	302	3層
WKY469	ヒノキ	割材	w631	割材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY470	マキ属	芯持丸木	w632	丸太材（炭化）	3-3	F11 c17	302	3層
WKY471	クスノキ	板目	w633	板材	3-3	F11 d18	302	3層
WKY472	クスノキ科	芯持丸木	w634	丸太材（先端に切断痕）	3-3	F11 b21	302	3層
WKY473	クリ	芯持丸木	w635	自然木	3-3	F11 c18	302	3層
WKY474	マキ属	板目	w636	板材	3-3	F11	302	3層
WKY475	マキ属	芯持丸木	w637	丸太材	3-3	F11 b23	302	3層
WKY476	マキ属	芯持丸木	w638	丸太材（樹皮付）	3-3	F11 q21	302	3層
WKY477	クスノキ	割材	w639	割材（炭化）	3-3	F11 b18	302	3層
WKY478	マキ属	芯持丸木	w640	丸太材（樹皮付、加工痕有り）	3-3	F11	302	3層
WKY479	ヒノキ	半割	w641	柱材？	3-3	F11 f17	313	A2層
WKY480	ヒノキ	芯持丸木	w642	丸太材（加工痕有り）	3-3	F11 c22	313	上層
WKY481	スギ	板目	w643	板材	→実測図掲載資料 789			
WKY482	ヒノキ	板目	w644	板材	3-3	E11 y25		3-3層
WKY483	クリ	半割	w645	半裁材（一部炭化）	3-3	F11 c17	302	割付サクレ
WKY484	カラスザンショウ	割材	w646	割材（炭化）	3-3	F11 a20	302	3層
WKY485	マキ属	芯持丸木	w647	丸太材	3-3	F11 a20	302	3層
WKY486	クスノキ科	割材	w648	割材（炭化）	3-3	F11 b21	302	3層
WKY487	アセビ	芯持丸木	w649	丸太材	3-3	F11 b23	302	3層
WKY488	センダン	割材	w650	割材	3-3	F11 d16	302	3層
WKY489	－	－	w651	新材混入？	3-3	－	302	排土
WKY490	アカメガシワ	芯持丸木	w652	自然木	3-3	F11 d15	302	3層
WKY491	スダジイ	芯持丸木	w653	自然木（分枝部）	3-3	F11 b19	302	3層
WKY492	キハダ	半割	w654	半裁材	3-3	F11 c19	302	3層
WKY493	クスノキ科	割材	w655	割材（分枝部）	3-3	F11 b19	302	3層
WKY494	イスノキ	半割	w656	半裁材	3-3	F11 b19	302	3層
WKY495	アカガシ亜属	芯持丸木	w657	丸太材（樹皮付）	3-3	F11 d15	302	3層
WKY496	針葉樹	樹皮	w658	樹皮巻	3-3	F11 d15	302	3層
WKY497	針葉樹	樹皮	w659	樹皮巻	3-3	F11 a20	302	3層
WKY498	クスノキ	横木取り	w660	舟形容器片	3-3	F11 a21	302	3層
WKY499	コナギサノコシカケ	－	w661	サルノコシカケ類	3-3	F11 d19	302	3層
WKY606	ヒノキ	－	サンプル104	材か	3-3	F11	302	3層
WKY676	コナギサノコシカケ	－	サンプル179	サルノコシカケ類	3-3	F11	302	3層
WKY701	マキ属	割材	サンプル208	割材	3-3	F11	302	3層
WKY702	マキ属	割材	サンプル209	割材	3-3	F11	302	3層
WKY704	クスノキ	自然木	サンプル211	自然木	3-3	F11	313	
WKY706	モチノキ属	割材	サンプル213	割材	3-3	F11	302	3層

自然木サンプル一覧表

樹種同定No WKY	サンプル 番号	樹種	長径	短径
WKY505	1	イチイガシ	半(7.5)	—
WKY506	2	クワ属	8.0	6.0
WKY507	3	アカガシ亜属	11.5	6.0
WKY508	4	マキ属	3.5	3.0
WKY509	5	アカガシ亜属	10.0	9.0
WKY510	6	スダジイ	5.0	3.5
WKY511	7	ツブラジイ	14.0	10.0
WKY512	8	クワ属	6.5	5.0
WKY513	9	ヒサカキ	7.0	6.0
WKY514	10	クワ属	半(8.0)	—
WKY515	11	アカガシ亜属	27.0	半(10.0)
WKY516	12	アカガシ亜属	径不明	—
WKY517	13	ツブラジイ	20.0	19.0
WKY518	14	ツブラジイ	半(17.5)	半(14.0)
WKY519	15	スダジイ	半(11.0)	—
WKY520	16	マキ属	4.5	4.0
WKY521	17	リンボク	9.5	5.0
WKY522	18	クスノキ	7.5	7.0
WKY523	19	アカガシ亜属	4.5	4.0
WKY524	20	ヒサカキ	9.0	7.5
WKY525	22	スダジイ	18.0	10.5
WKY526	23	ツブラジイ	6.0	4.5
WKY527	24	ツブラジイ	28.5	半(11.5)
WKY528	25	スダジイ	半(19.5)	—
WKY529	26	アカガシ亜属	25.5	25.0
WKY530	27	ツブラジイ	半(15.0)	—
WKY531	28	ツブラジイ	22.5	16.5
WKY532	29	ツブラジイ	27.0	26.5
WKY533	30	マキ属	19.5	19.0
WKY534	31	スダジイ	半(14.5)	半(12.0)
WKY535	32	ツブラジイ	14.0	半(5.5)
WKY536	33	アカガシ亜属	22.0	18.5
WKY537	34	ツブラジイ	15.5	15.5
WKY538	35	マキ属	11.0	9.0
WKY539	36	アカガシ亜属	12.0	11.0
WKY540	37	マキ属	15.0	12.0
WKY541	38	マキ属	7.5	6.0
WKY542	39	マキ属	8.0	7.0
WKY543	40	アカガシ亜属	15.5	14.5
WKY544	41	モチノキ属	8.5	6.0
WKY545	42	アカガシ亜属	10.0	9.5
WKY546	43	スダジイ	13.5	10.5
WKY547	44	アカガシ亜属	9.0	8.5
WKY548	45	アカガシ亜属	9.5	9.0
WKY549	46	ツブラジイ	半(8.5)	半(5.0)
WKY550	47	リンボク	7.5	4.5
WKY551	48	ツブラジイ	20.0	16.5
WKY552	49	ツブラジイ	6.0	4.5
WKY553	50	アカガシ亜属	7.5	6.5
WKY554	51	ツブラジイ	4.5	4.0
WKY555	52	サカキ	6.0	3.0
WKY556	53	マキ属	12.5	9.5
WKY557	54	アカガシ亜属	3.5	3.0
WKY558	55	ヒサカキ	11.5	9.5
WKY559	56	ホルトノキ属	14.5	12.5
WKY560	57	クスノキ	10.0	9.0
WKY561	59	アカガシ亜属	16.0	11.0
WKY562	60	マキ属	11.0	9.0
WKY563	61	マキ属	7.5	5.5
WKY564	62	マキ属	半(7.0)	—
WKY565	63	スダジイ	6.5	3.5
WKY566	64	ツブラジイ	8.5	7.5
WKY567	65	ツブラジイ	12.5	12.0
WKY568	66	イチイガシ	20.0	半(10.0)
WKY569	67	クワ属	7.0	7.0
WKY570	68	クスノキ	14.0	11.5
WKY571	69	アカガシ亜属	半(6.5)	半(6.0)
WKY572	70	エゴノキ属	6.0	4.5
WKY573	71	スダジイ	(8.5)	(4.5)

樹種同定No WKY	サンプル 番号	樹種	長径	短径
WKY574	72	アカガシ亜属	14.5	13.0
WKY575	73	ツブラジイ	11.5	8.0
WKY576	74	モチノキ属	8.0	6.0
WKY577	75	マキ属	3.5	3.5
WKY578	76	ツブラジイ	17.5	13.5
WKY579	77	アカガシ亜属	9.5	9.0
WKY580	78	スダジイ	6.5	3.0
WKY581	79	マキ属	3.0	3.0
WKY582	80	スダジイ	15.0	7.0
WKY583	81	マキ属	20.0	半(10.0)
WKY584	82	アカガシ亜属	7.0	5.5
WKY585	83	マキ属	3.5	3.0
WKY586	84	クマデ属イヌシデ節	7.5	半(3.0)
WKY587	85	ツブラジイ	7.5	6.5
WKY588	86	スダジイ	7.5	6.5
WKY589	87	アカガシ亜属	7.0	6.5
WKY590	88	—	—	—
WKY591	89	マキ属	12.5	—
WKY592	90	モチノキ属	8.0	半(3.5)
WKY593	91	マキ属	半(6.0)	—
WKY594	92	クワ属	6.0	4.0
WKY595	93	マキ属	(12.0)	—
WKY596	94	—	径不明	—
WKY597	95	—	6.0	3.5
WKY598	96	イヌガヤ	2.0	2.0
WKY599	97	ツブラジイ	6.0	5.0
WKY600	98	クリ	2.5	2.0
WKY601	99	クリ	12.0	半(4.5)
WKY602	100	アカガシ亜属	22.0	半(8.5)
WKY603	101	タイミンチバナ	3.5	2.0
WKY604	102	マキ属	8.0	6.5
WKY605	103	クスノキ	7.5	7.0
WKY606	104	→木製品片・木片の樹種一覧表へ		
WKY607	105	アカガシ亜属	5.5	4.0
WKY608	106	エゴノキ属	5.5	5.0
WKY609	107	アカガシ亜属	半6.0	半4.0
WKY610	108	ツブラジイ	6.0	5.5
WKY611	109	スダジイ	4.5	4.0
WKY612	110	マキ属	径不明	—
WKY613	112	マキ属	3.0	2.5
WKY614	113	マキ属	半3.5	5.5
WKY615	114	マキ属	半6.0	半(5.5)
WKY616	115	マキ属	4.0	4.0
WKY617	116	マキ属	半3.5	半3.5
WKY618	117	ヒサカキ	5.0	4.5
WKY619	118	タラノキ	5.5	2.5
WKY620	119	マキ属	5.5	5.0
WKY621	120	—	5.0	4.0
WKY622	121	ツブラジイ	半5.5	半5.0
WKY623	122	スダジイ	半12.0	—
WKY624	123	ツブラジイ	18.0	16.0
WKY625	124	クスノキ	9.5	8.0
WKY626	125	スダジイ	半6.5	半6.5
WKY627	126	スダジイ	15.0	10.0
WKY628	127	アカガシ亜属	8.0	半4.5
WKY629	128	アカガシ亜属	8.0	6.0
WKY630	129	クスノキ	11.0	9.5
WKY631	130	ツブラジイ	径不明	—
WKY632	131	ツブラジイ	半6.0	半3.5
WKY633	132	ツブラジイ	11.5	8.0
WKY634	133	モチノキ属	11.0	8.5
WKY635	135	マキ属	径不明	—
WKY636	136	マキ属	5.5	4.5
WKY637	137	マキ属	3.5	3.5
WKY638	138	マキ属	4.0	3.5
WKY639	139	アカガシ亜属	7.0	7.0
WKY640	140	スダジイ	半22.0	半17.5
WKY641	141	ツブラジイ	9.0	7.0
WKY642	143	スダジイ	8.5	半3.5

樹種同定No WKY	サンプル 番号	樹種	長径	短径
WKY643	144	アカガシ亜属	13.5	13.5
WKY644	145	ツブラジイ	半7.5	半6.0
WKY645	146	クスノキ	9.0	9.0
WKY646	147	ツブラジイ	17.5	16.0
WKY647	148	ツブラジイ	径不明	—
WKY648	150	イスノキ	半17.0	—
WKY649	152	クスノキ	9.5	半4.5
WKY650	153	マキ属	7.5	7.0
WKY651	154	草本植物 A	1.0	1.0
WKY652	155	イスビワ	1.5	1.0
WKY653	156	リンボク	7.0	2.0
WKY654	157	アカガシ亜属	3.5	3.0
WKY655	158	マキ属	3.0	2.0
WKY656	159	ツブラジイ	7.5	7.0
WKY657	160	カキノキ属	4.5	3.0
WKY658	161	アカガシ亜属	1.0	1.0
WKY659	162	ウツギ属	2.0	1.5
WKY660	163	マキ属	1.0	0.5
WKY661	164	アカガシ亜属	2.0	2.0
WKY662	165	アカガシ亜属	1.5	1.5
WKY663	166	マキ属	8.5	7.0
WKY664	167	クワ属	径不明	—
WKY665	168	アカガシ亜属	3.0	2.5
WKY666	169	マキ属	3.5	3.0
WKY667	170	ツバキ属	4.0	3.0
WKY668	171	クスノキ	11.0	10.5
WKY669	172	アカガシ亜属	12.0	10.0
WKY670	173	カキノキ属	7.0	5.0
WKY671	174	アカガシ亜属	5.5	4.5
WKY672	175	アカガシ亜属	8.5	5.0
WKY673	176	ツブラジイ	7.0	—
WKY674	177	ムクノキ	8.5	—
WKY675	178	ツブラジイ	12.0	半6.5
WKY676	179	→木製品片・木片の樹種一覧表へ		
WKY677	180	ツブラジイ	13.5	12.5
WKY678	181	ツブラジイ	半(9.0)	—
WKY679	182	マキ属	8.5	6.5
WKY680	185	スダジイ	19.0	15.5
WKY681	186	クスノキ	8.5	8.0
WKY682	187	ツブラジイ	22.5	16.0
WKY683	188	スダジイ	半19.5	—
WKY684	189	マキ属	1.5	1.5
WKY685	190	クスノキ	15.0	12.5
WKY686	191	アカガシ亜属	7.5	6.5
WKY687	192	スダジイ	17.0	13.5
WKY688	193	ツブラジイ	10.5	9.5
WKY689	194	スダジイ	26.5	半12.0
WKY690	195	ツブラジイ	19.0	18.0
WKY691	196	スダジイ	37.0	22.0
WKY692	198	モチノキ属	21.0	18.0
WKY693	199	マキ属	4.0	3.0
WKY694	200	ツブラジイ	29.5	22.0
WKY695	201	マキ属	17.0	11.0
WKY696	202	マキ属	24.0	25.0
WKY697	204	クスノキ	40.0	31.0
WKY698	205	ツブラジイ	半5.0	9.0
WKY699	206	マキ属	3.5	3.5
WKY700	207	ツブラジイ	7.5	6.5
WKY701	208	→木製品片・木片の樹種一覧表へ		
WKY702	209	→木製品片・木片の樹種一覧表へ		
WKY703	210	カキノキ属	4.5	4.0
WKY704	211	→木製品片・木片の樹種一覧表へ		
WKY705	212	アカガシ亜属	5.5	5.0
WKY706	213	→木製品片・木片の樹種一覧表へ		
WKY707	214	アカガシ亜属	3.5	2.0
WKY708	215	アカガシ亜属	8.5	8.5

*すべて遺構 302 の 3層出土

付章 立野遺跡出土木材の樹種同定

能城修一（森林総合研究所木材特性研究領域）

佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ）

村上由美子（京都大学総合博物館）

小林和貴（東北大学植物園）

1. はじめに

和歌山県西牟婁郡すさみ町の立野遺跡から出土した弥生時代前期の木製品類 444 点と自然木 238 点の樹種、古墳時代の鉄 1 点と自然木 1 点を報告する。立野遺跡は周参見川が形成した平野に立地し、弥生時代前期の流路から土器や石器、種実とともに木製品類と自然木が見いだされた。

2. 試料と方法

樹種同定は、木取りを観察した後、遺物から直接、片刃カミソリをもちいて横断面、接線断面、放射断面の切片を切り取り、それをガムクロラル（抱水クロラル 50g、アラビアゴム粉末 40g、グリセリン 20ml、蒸留水 50ml の混合物）で封入しておこなった。各プレパラートには WKY-1 ～ ANT-1760 の番号を付して標本番号とした。標本は、森林総合研究所に保管されている。

3. 結果

同定の結果、針葉樹 7 分類群と広葉樹 34 分類群、蔓植物 1 分類群、双子葉草本 1 分類群、竹笹類 1 分類群が認められた（表 1）。

1. マキ属 *Podocarpus* マキ科 図 1：1a, 1c（枝・幹材，WKY-75）

樹脂道を欠き年輪内に樹脂細胞が散在する針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やか。樹脂細胞の水平壁は薄く平滑。分野壁孔は中型のトウヒ型で 1 分野に 2 個。

2. イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight ex Forbes) K.Koch イヌガヤ科 図 1：2a, 2c（枝・幹材，WKY-423）

樹脂道を欠き年輪内に樹脂細胞が散在する針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やか。樹脂細胞の水平壁は厚く結節状。仮道管にはらせん肥厚がある。分野壁孔は小型のトウヒ型で 1 分野に 2 ～ 3 個。

3. ツガ属 *Tsuga* マツ科 図 1：3b, 3c（枝・幹材，WKY-458）

樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急。放射組織には放射仮道管があり、柔細胞には単壁孔が著しい。分野壁孔はごく小型のヒノキ型で 1 分野に 2 ～ 3 個。

4. マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon* マツ科 図 1：4c（枝・幹材，WKY-250）

樹脂道をもつ針葉樹材。放射仮道管の上下壁は重鋸歯を持つ。分野壁孔は大型の窓状。

5. スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don スギ科 図 1：5a, 5c（枝・幹材，WKY-272）

樹脂道を欠く針葉樹材。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材は多い。早材の終わりが